

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・ 語彙力をつける。</li> <li>・ 一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に講義形式で行う。</li> <li>・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・ Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>読んだ内容を要約できる。</li> <li>段落分けして書ける。</li> <li>経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。</li> <li>授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。</li> <li>Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</li> <li>作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</li> <li>提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ol>
----	---

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。</li> <li>・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。



科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02131a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP7 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。  *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。  *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。  以下、ZOOM の ID です。  ミーティング ID: 878 9048 5750 パスワード: 179500  SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com
----	--

	H. 323 で参加 162. 255. 37. 11 (米国西部) 162. 255. 36. 11 (米国東部) 115. 114. 131. 7 (インドのムンバイ) 115. 114. 115. 7 (インド)
--	---

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合はZOOMで授業する。 Zoom ミーティングに参加する <a href="https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09">https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09</a>  ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成(残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習(文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング <a href="https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09">https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09</a>  ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500</p> <p>SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、課題の提出物 (30%)、活動 (30%) 等授業時の参加度により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---



科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ N: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。          具体的には、自分の意見を明確に表明できるようになること、相手の意見を受信し、検討できるようになることを目的とします。          また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。          ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。          ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。          ・自分</p>			
到達目標	<p>まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。          問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。          自分の意見を発信するだけでなく、他者の意見を受信、検討することができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策についてディスカッションを行う。          学生はディスカッションへの積極的参加が求められる。また、毎回の授業にはディスカッションの振り返りシートを作成してもらう。          教員は適宜フィードバックを行う。</p>			
科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
	2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
	12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)
	13	口頭発表・ディスカッション	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	14	口頭発表・ディスカッション	発表資料の修正	発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
	15	授業の振り返り	振り返り 授業内で扱ったテーマで印象深かったことをテーマにディスカッションを行	自分の発表の反省

			う。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	試験は発表形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。  授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
----------	---------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>読んだ内容を要約できる。</li> <li>段落分けして書ける。</li> <li>経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。</li> <li>授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。</li> <li>Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)
----------	------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業外の質問等には、メールで対応する。</li> <li>進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</li> <li>作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</li> <li>提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ol>
----	---

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の研究室等	11号館11階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。



科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2				
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する <a href="https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09">https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09</a>  ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																														
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																														
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																														
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。</p> <p>*オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。</p> <p>Zoom ミーティング <a href="https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09">https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09</a>  ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500</p> <p>SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com</p>
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)
----------	--------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。  授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪——ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪——街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まささが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺——高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪——子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。																			



科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (100%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりが無い。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った</p>
---------	--

到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <p>「・「被害者」概念について説明できる</p> <p>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</p> <p>・犯罪被害者の支援制度について理解できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>・新型コロナ変異株の流行により、第1回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。</p> <p>↓</p> <p>※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの2021年10月28日（木）～</p> <p>・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。</p> <p>・成績評価は従来通り、teams上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。</p> <p>・課題は対面講義が終了した後に、teams上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動</p>
----------	--

科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・「加害者」の法的責任</li> <li>・「加害者」と「犯罪者」</li> <li>・「被害者」の意義</li> <li>・「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の入手</li> <li>事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・DV被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害届と告訴・告発の効果</li> <li>・加害者との示談交渉</li> <li>・マスコミ対策</li> <li>・検察審査会</li> <li>・検察審査員</li> <li>・審査申立手続</li> <li>・検察審査会と被害者</li> <li>・起訴議決制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者による裁判傍聴と参加</li> <li>・被害者による記録の閲覧と謄写</li> <li>・被害者における心情陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> <li>・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> <li>事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）</li> </ul>
11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間）</li> </ul>

				事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。</li> <li>・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。</li> <li>・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。</li> <li>・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。</li> <li>・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自ブリ</li> </ul>																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているように異なる、また異なっているように似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて講義を進める。具体的なイメージをつかむために、関連する映画作品を鑑賞することも予定している。  【シラバス更新にもなうお知らせ】(2021.04.16) ・講義は、①Teamsを通じたりアルタイム配信(後日視聴も可能)、②Moodleを通じたレジュメ・課題等の配信、という2つの手段を適宜組み合わせさせていただきます。 ・授業形態の変更にもなう計画調整によって、授業の進行スケジュールにも変更が生じます。あらかじめご了承ください。
科目学習の効果(資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想(2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
9	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化(2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
12	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権(2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題(2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)

	15	映画作品に見る現代韓国	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民 [編著]	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	<p>提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。</p> <p>【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・基本的に変更はありません。定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価(100%)を実施します。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)</p>			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化するとされています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。																																																																		
到達目標	(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること (2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること (3) AI を活用したビジネスプランを発売し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションができること																																																																		
授業方法と留意点	情報処理室を使用した対面授業です。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Web Folder の「AI ビジネス創造実習」クラスにアップロードします。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、AI の構築環境の準備</td> <td>シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (1)</td> <td>AI の歴史、AI の仕組み、最新動向</td> <td>配布資料の指定頁の予復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>AI の基本原理と最新動向 (2)</td> <td>最新動向の調査、アイデア出し</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>AI を作るための準備 (1)</td> <td>データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>AI を作るための準備 (2)</td> <td>データの整備</td> <td>データの整備、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>AI の作り方</td> <td>CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>AI の使い方</td> <td>画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>AI の評価方法</td> <td>画像認識 AI モデルの評価、再学習</td> <td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>AI によるビジネスプランの考案</td> <td>作成した AI の相互評価、グループ分け</td> <td>学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (2)</td> <td>グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方</td> <td>グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (3)</td> <td>ビジネスプランと AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書作成、AI の作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (4)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の作成</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>AI によるビジネスプランの考案 (5)</td> <td>ビジネスプランの推敲、AI の評価</td> <td>ビジネスプランの文書修正、AI の評価</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループによる発表、相互評価</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>これまでのまとめ</td> <td>授業内容の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習	2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習	3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し	6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し	10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案	11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成	12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化	13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価	14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り	15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習																																																																
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習																																																																
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し																																																																
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し																																																																
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案																																																																
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成																																																																
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化																																																																
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価																																																																
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り																																																																
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り																																																																
関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましいでしょう。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人工知能が変える仕事の未来</td> <td>野村 直之</td> <td>日本経済新聞</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人工知能は人間を超えるか</td> <td>松尾 豊</td> <td>角川</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞	2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞																																																																
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価します。期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点します。																																																																		
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができる世の中になっています。この授業をとおして、そのことを大いに実感してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 塚田研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年度	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人々の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけでなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	--

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます	事前学習: 地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます (4時間) 事後学習: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)



			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%			
学生への メッセージ	社会福祉に関するさまざまな知識、視点を踏まえて、みなさん自身に考えていただく機会になればと考えています。			
担当者の 研究室等	7号館3階（上野山研究室）			
備考				

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科:R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実に則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指し</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における確かな判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。</li> <li>・教材・課題提供型遠隔授業を、行います。</li> <li>・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。</li> <li>・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。</li> </ul> <p>・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認

			す。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回は引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	講義総括・レポート課題の解説	レポート課題の解説と参考資料も提示します	レポート期限は厳守ください
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業の参加姿勢 20% 理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：80%（レポート内容・実施時期は今後確定しますが、講義終了後のレポートを重視します）			
学生への メッセージ	実務経験をベースととし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。 半年の授業には是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	質問等は、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります yayoidai8603@gmail.com この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	暗号資産とデリバティブ	科目名 (英文)	Cryptocurrency and Derivatives
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>社会生活様式の激変から、ICT活用による距離と時間を短縮する社会システムが構築されつつある。その状況下において、通貨流通システムも新たな手法への導入が進んでいる。本講座は工学と経済学の融合科目として、暗号資産（仮想通貨）の汎用性の仕組みと課題、および金融ビジネスで普及が進むデリバティブ取引の基本的仕組みについて学ぶ。</p> <p>【留意点】投機を目的とした仮想通貨の投機手法を学ぶ授業ではありません。</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関での経営企画、金融商品研究業務</li> <li>ベンチャー投資財団での投資業務担</li> </ul>
到達目標	<p>時代の変遷に則した新たな金融手法、および決済手段の仕組みを学び、金融に係る様々なリスクの知識を得て、自ら将来の資産形成に向けた金融資産の多様性を理解する。また近い将来発行が予測されている「デジタル通貨」の活用とリスク対応についての理解度を高める。</p>
授業方法と留意点	<p>オンライン授業を実施します。</p> <p>毎回の授業に係る資料等はTeamsの「日付」のチャンネル内のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。</p> <p>毎回、授業内容に関するアンケート（設問）を提示します。当日の24時までに提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>これから社会人および消費生活者として必要な暗号資産の活用理解、およびデリバティブ金融商品のリスク、構造を理解した上での活用方法について会得する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 決済手段とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 電子マネーの概念と暗号資産（仮想通貨）との比較	<事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	暗号技術の概要	暗号資産の種類と暗号技術 アンケート設問による授業内容の再確認。	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	ビットコイン	ビットコイン型仮想通貨とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	ブロックチェーン	ブロックチェーンとブルーフ・オブ・ワーク法の概念 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	暗号資産をめぐる課題	議論体系と法律との関係 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	暗号資産の事件簿	暗号資産と国際破綻 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
7	デリバティブを知る	リスクヘッジと金融工学の世界。 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
8	デリバティブ理論とは	デリバティブ理論の基本的な考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
9	投資とキャッシュフロー	キャッシュフロー現在価値の考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
10	株式のキャッシュフロー	株式のキャッシュフローモデルの考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
11	オプション取引	オプションとランダムウォークの基本的考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
12	ブラック＝ショールズモデル	投資手法の機械的考え方であるブラック＝ショールズモデルの仕組み アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
13	リスク管理	デリバティブリスクへの対応とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後> 授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
14	投資戦略	イールドカーブの作り方 アンケート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。

			認	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
	15	総論	暗号資産、デリバティブ取引の将来性と課題整理。	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート設問に対する回答内容。なお回答は正解/不正解を問うものではありません。自身の考えを述べるとともにその結論に至った理由も記載すること (評価割合: 50%) ②期末レポート (評価割合: 50%)			
学生への メッセージ	今後、身近な決済手段として利用が促進されるものであるからこそ、構造およびリスクについてしっかりと理解してもらいたい。 なお、投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 7階 林研究室			
備考	投機 (ギャンブル) 目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			

科目名	学びのデザイン論	科目名 (英文)	Designing Learning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 梅原 聡
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	体験型学習やサービスマーケティング、PBLではもちろんのこと、授業内でのグループワークやペアワークなど、他者と共に学ぶ機会は今後ますます増えていく。本授業は、他者と関わりながら学ぶ方法を体系的に学ぶことを目的とする。その際、他者の学びを助ける環境の作り手となる視点や、ピア・サポートの視点を取り入れる。 本授業を通して、他者との関わりに苦手意識を持つ学生や、グループワーク等の経験が少ない学生が、他者やグループワークを自分なりにバックアップできるようになることを目指す。
---------	--

到達目標	1. 学びの現場での「私」の姿を捉え、再形成を試みることができる 2. 他者、及びグループとの関係の中における学びの深め方に気づくことができる 3. 体験型学習での学びの深め方に気づくことができる 4. 大学での学び、及び体験型学習での学びへの関心が高まる
------	---

授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる。演習は、テーマに応じて個人ワーク/ペアワーク/グループワークを用い、適宜ディスカッションやプレゼンテーションの時間を設ける。各テーマのねらいは、以下の通りである。 【私】: 学ぶ「私」の姿を捉える 【私とあなた】: 他者との関わりの中で学習を深める方法を知る 【私とあなたたち】: グループの中で学習を深める方法を知る 【私たちと社会】: 体験型学習の中で学習を深める方法を知る 【再び、私】: 学ぶ「私」の姿を探す 受講生の細かな心情変化や、興味関心を大切
----------	--

科目学習の効果 (資格)	・主に「他の学生等との関わりの中で学ぶ姿勢」の認識・再形成を通じて、他の科目(体験型学習やPBL等)で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・他者と支え合いながら共に学ぶ視点や力の獲得を通じて、グループ(学習共同体)への関わりの中で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・グループワーク等を用いる学習手法への動機付けを通じて、他の科目履修(体験型学習やPBL等)への積極的な履修意欲・態度の形成が期待できる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	【私】1: オリエンテーション/「私」と学び	「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)
2	【私】2: 学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
3	【私とあなた】1: 自己表現/コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
4	【私とあなた】2: 他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
5	【私とあなた】3: 他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
6	【私とあなたたち】1: 心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
7	【私とあなたたち】2: 他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
8	【私とあなたたち】3: 他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
9	【私とあなたたち】4: 他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)	
10	【私たちと社会】1: プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法/プロジェクトデザインに触れる	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー	

				ションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
11	【私たちと社会】2:プロジェクトラーニング(1):チームビルディング	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働意欲が高まる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
12	【私たちと社会】3:プロジェクトラーニング(2):発散	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの発散過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
13	【私たちと社会】4:プロジェクトラーニング(3):収束	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの収束過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
14	【私たちと社会】5:プロジェクトラーニング(4):成果まとめ	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働成果をまとめる過程を体感する		<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
15	【再び、私】:まとめ/「私」と学び	授業での経験から「私」と学びの関係を探る		<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
関連科目	これまで学んできたこと、これから学ぶこと、すべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来</td> <td>上田 信行, 中原 淳</td> <td>三省堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション</td> <td>安齋勇樹, 塩瀬隆之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>対話型ファシリテーションの手ほどき</td> <td>中田豊一</td> <td>ムラのミライ</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂	2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安齋勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社	3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂																	
2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安齋勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社																	
3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ																	
評価方法(基準)	授業で提示する小課題 60%, レポート課題 40%																			
学生へのメッセージ	本学では、様々な体験型学習が用意されています。本科目では、そうした科目を受講するための基本的な姿勢を身に付けていただきたいと思っています。特に他の学生を支えながら、共に学び進んでいく、そのような姿をイメージしています。“人見知り”だと思っている方、グループワークがどこか苦手だと思っている方にこそ、ぜひ受講していただきたいと思っています。他の学生との関わりやグループワーク等への不安を取り除き、楽しみながら取り組めるように進めていくので、気軽に受講して下さい。																			
担当者の研究室等	吉田:7号館3階																			
備考	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。 詳しい授業方法・評価方法等については、第1回の授業時に説明する。 授業の進行に伴い、シラバスの組み替えや変更を行う場合がある。																			

科目名	SDG s で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s	科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、



	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館 7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	当面はリモート形式で実施しますが、状況により変更の可能性はあります。 初回の授業で、Teamsの会議にて授業の受講方法についてアナウンスしますので、受講希望者は必ず参加してください。 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいっている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度と課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。
----	--

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り

**到達目標**  
 この講義の到達目標は以下の通りである。  
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる  
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている  
 (3) インターネットや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

**授業方法と留意点**  
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ (履修者のみがアクセス可能) を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。また、本科目では【履修学生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C科 伊藤教授、S科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 CEI 寺内准教授	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
12	社会の動きを見るデータ	経済社会データベース (学術データ) の便利な使い方	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
14	普段の SNS 利用から法則を見つける	ノート PC によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) C科 伊藤教授、CEI 石井教授、S科 牧野准教授、S科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～ e-learning 教材 (受講者のみ利用可能)	三谷慶一郎

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進展度(アンケート) 5%、学修ノート 5%、以上を総合して60%以上を合格とする。なお、無断欠席が20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1号館3階 伊藤教授室、11号館7階 久保准教授室、牧野准教授室、11号館10階 寺内准教授室、11号館8階 橋本講師室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室、7号館5階 石井教授室			
備考				

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。</p> <p>授業方法の変更など、重要な連絡事項は Teams を通じて行うため、かならず内容を確認してください。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>
	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学のなかにある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学のなかにある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>
	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとはなにかについて予習をしておくこと(事前：0.5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)</li> </ul>
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul>
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>
関連科目	キャリアデザインII、インターンシップ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) ※現在7号館工事中のため、11号館11階が仮研究室となります。			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDG</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)</li> </ul>
	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)</li> </ul>
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> </ul>
	5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)</li> </ul>
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)</li> </ul>
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)</li> </ul>
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)</li> </ul>
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)</li> </ul>
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)</li> </ul>
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)</li> </ul>
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(1.5時間)</li> </ul>
	14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)</li> </ul>
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)</li> </ul>	

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。			



科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読したうえで課題に取り組む必要があるため、積極的な態度で受講すること。 授業方法の変更など、重要な連絡はTeamsを通じて行うため、かならず内容を確認してください。 また、初回の参加学生数を踏まえ、所属学科別の開講に変更します。</p>																																																																		
科目学習の 効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ようこそ、摂南大学へ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さあ始めよう！大学生活を</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂南大学</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学のなかにある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己効力感を高めよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SDGsについて考えよう グループ課題の設定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会は君を待っている</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会の仕組み①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会の仕組み②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分づくり①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分づくり②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スケジューリング術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビブリオバトル①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・グループごとのプレゼンテーション</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のおさらい</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学のなかにある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)</li> </ul>	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul>	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとはなにか？なぜ必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>																																																																
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>																																																																
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学のなかにある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学のなかにある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>																																																																
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>																																																																
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとはなにかについて予習しておくこと(事前：0.5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>																																																																
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：1時間)</li> </ul>																																																																
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul>																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>																																																																
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>																																																																
関連科目	キャリアデザインII、インターンシップ																																																																		
教科書																																																																			

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) ※7号館が工事中のため、現在は11号館11階にあります																
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。																

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDG</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修：各受講科目のノートを整理すること(3時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間)</li> <li>・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> <li>・事後学修：大学生活の目標を再度考えること(2時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループワークに必要なことを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修：グループで課題に取り組むこと(3時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：社会で求められる人材について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修：社会で求められる能力について考えること(3時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：GDPについて調べること(1時間)</li> <li>・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：税金について調べること(1時間)</li> <li>・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間)</li> <li>・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：大学へ入学した目的をを考えると(2時間)</li> <li>・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)</li> </ul>
11	スケジュールリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：社会人基礎力を調べること(1時間)</li> <li>・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えると(3時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間)</li> <li>・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間)</li> <li>・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間)</li> <li>・事後学修：発表グループの良かった点、改善点を</li> </ul>

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	まとめること（1時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間）</li> <li>・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）</li> </ul>																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）																			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。																			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TCA1446a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 (10月まで講義はWeb (Teams) によるリアルタイム講義) 11月5日より対面授業で実施。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュームを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	毎回の授業レポートなどは Teams より提出（対面授業移行後も同様）

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修: 仕事とは何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にはをする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する、(400字以上)
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: 弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える。 ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）(50%)、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			



科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。  学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリー作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリーを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリーを作成する
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY">https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY</a> ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk">https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk</a>
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw">https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw</a>
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ">https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ</a>
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 <a href="https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf">https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf</a>
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備  事後: 第 1 回レポート
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1: 目標 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。)

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&amp;ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations">https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&amp;ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations</a> Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&amp;ab_channel=Cauz.jp">https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&amp;ab_channel=Cauz.jp</a> , London's rubbish problem : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&amp;ab_channel=BBCLondon">https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&amp;ab_channel=BBCLondon</a>
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE">https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfcFE</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c">https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c</a>
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&amp;t=436s">https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&amp;t=436s</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc">https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc</a> 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート		事前：SDGs1-17 の復習

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
 ・理解度確認クイズ (個人：10%)  
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)  
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)  
 ・成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%)  
 ・振り返りシート (個人：10%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%)  
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ  
 この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の研究室等  
 大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)

備考  
 この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。  学生は対面授業かオンライン授業を選択して
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリー作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリーを作成する
3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前: CHAP 3 を学び、ABD サマリーを作成する
4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY">https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY</a> ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk">https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk</a>
5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw">https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw</a>
6	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ">https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ</a>
7	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 <a href="https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf">https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf</a>
8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリーを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1: ポスターの準備  事後: 第 1 回レポート
11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1: 目標 2 (2.4.2.c) を学び、ABD サマリーを作成する 事前 2: 食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。)

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&amp;ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations">https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&amp;ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations</a> Introduction t
12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&amp;ab_channel=Cauz.jp">https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&amp;ab_channel=Cauz.jp</a> , London's rubbish problem : <a href="https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&amp;ab_channel=BBCLondon">https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&amp;ab_channel=BBCLondon</a>
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標：8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfCFE">https://www.youtube.com/watch?v=IZJ5FYtfCFE</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c">https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c</a>
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&amp;t=436s">https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&amp;t=436s</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc">https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc</a> 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート		事前：SDGs1-17 の復習

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
 ・理解度確認クイズ (個人：10%)  
 ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%)  
 ・取組み姿勢 (チーム：20%)  
 ・成果発表・プレゼンテーション2回 (チーム：20%)  
 ・振り返りシート (個人：10%)、レポート2回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%)  
 ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ  
 この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。

担当者の研究室等  
 大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)

備考  
 この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持つ
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを涵養する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長 C科 伊藤教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	都市計画とまちづくり C科 熊谷教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W科 野長瀬教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S科 久保准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R科 稲地准教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W科 野村教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J科 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L科 古矢講師	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C科 伊藤教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各回の事後レポート
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	1号館3階 伊藤教授室、1号館4階 熊谷教授室、11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
---------	--

到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
------	--

授業方法と留意点	<p>講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。なお、講義は対面講義とTeamsによるリアルタイム講義の同時進行で行う。各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式固定する必要はない）。対面講義で受講する場合は初回の教室で、Teamsで受講する場合は 9pwmqp6 からクラスに入り、講義日のチャンネルから受講すること。また、対面とウェブのそれぞれの人数の状況を確認してからチーム分けを実施する。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。
--------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の進め方</li> <li>なぜチームが必要なのかを知る</li> <li>チームビルディングとは何かを理解する</li> </ul>	<p>事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
2	グループ分けを自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ分け</li> <li>自己紹介ワーク</li> </ul>	<p>事前学習：自己紹介の内容を考えること（2時間）</p> <p>事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2時間）</p>
3	チームビルディングの理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームビルディングの理論を学ぶ</li> </ul>	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
4	チームビルディング体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンセンサスゲーム</li> <li>チームの10箇条</li> </ul>	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2時間）</p>
5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	<p>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2時間）</p> <p>事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返る（2時間）</p>
6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ</li> <li>メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける</li> </ul>	<p>事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2時間）</p> <p>事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2時間）</p>
7	話し合う技術①	<ul style="list-style-type: none"> <li>GDに関する知識を学ぶ</li> </ul>	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
8	話し合う技術②	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ</li> </ul>	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3時間）
9	組織で学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームを機能させるために必要な要素を学ぶ</li> </ul>	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
10	情報の読み取りと活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで改善計画を考える</li> </ul>	事後学習：講義資料を熟読すること（2時間）
11	1チームで課題解決に挑む	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームでニッポンの課題の解決策を考える</li> </ul>	<p>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2時間）</p> <p>事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2時間）</p>
12	チームで企画する	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する</li> </ul>	<p>事前学習：摂南大学PBLプロジェクトについて調べること（2時間）</p> <p>事後学習：チームでワークに取り組むこと（5時間）</p>
13	チームでワークに取り組む①	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで地域創生のワークに取り組む</li> </ul>	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）
14	チームでワークに取り組む②	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで地域創生のワークに取り組む</li> </ul>	<p>事後学習：チームで発表をする準備をすること（3時間）</p> <p>事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2時間）</p>
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	<p>事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1時間）</p> <p>事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）、期末レポートを作成すること（4時間）</p>

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目</li> <li>キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論</li> </ul>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1cE科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。  なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間)
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間)
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間)
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間)
7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間)
11	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デートDVについて現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: 一つの課題を発見し、その解決策の提案についてまとめ、レポートを作成すること (2時間)
13	ダイバーシティマネジメント	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシ



		ト①		ティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) およびグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、日本語および簡単な英語でアウトプットできるようになることを目指す。 この授業は、GC と GCED に「ついて」の授業である
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グローバル・シチズンシップ」および「グローバル・シチズンシップ教育」が現在の国際社会においてどのように定義づけられているか、なぜそうした概念や教育活動が必要とされるようになったのかを説明できる。</li> <li>背景にある国境を越えた社会課題について、具体例をいくつか挙げながら説明できる。</li> <li>事前に準備をすれば、上記の説明を日本語だけでなく、平易な英語を用いて行うことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。教員からの一方の方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。</li> <li>教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行うが、GC 副専攻の海外実習や EMI (Eng</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検、国連英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション (1)	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
2	イントロダクション (2)	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
3	イントロダクション (3)	「グローバル・シチズンシップ」の概念について、テキスト概観	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
4	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (1)	市民性 (citizenship)、主権者教育 (citizenship education)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
5	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (2)	人権 (human rights)、世界人権宣言 (Universal Declaration of Human Rights, 1948)、SDGs、政治弾圧 (repression)、難民 (refugees, asylum seekers)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
6	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利 (3)	政治的権利 (political rights)、参政権 (suffrage, voting rights)、反植民地主義運動 (anti-colonial movements)、アイデンティティ政治 (identity politics)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
7	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (1)	経済的権利 (economic rights)、労働問題 (labor issues)、公正かつ平等な賃金 (fair and equal wages)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
8	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (2)	児童労働 (child labor)、人身売買 (human trafficking)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
9	グローバル・シチズンシップと経済的権利 (3)	企業利益 (corporate interests)、オフショアリング (offshoring)、アウトソーシング (outsourcing)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
10	グローバル・シチズンシップと文化 (1)	グローバル化 (globalization)、均質化 (homogenization)、文化的権利 (cultural rights)、多様性 (diversity)、ハイブリディティ (hybridity)、摩擦 (conflict)、ナショナリズム (nationalism)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
11	グローバル・シチズンシップと文化 (2)	日本における外国人労働者 (foreign workers)、技能実習生 (technical intern trainees)、難民 (refugees)、留学生 (international students)、日本語教育、多文化共生 (multicultural symbiosis)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
12	グローバル・シチズンシップと文化 (3)	多様性 (diversity)、多文化主義 (multiculturalism)、普遍的人権 (universal human rights)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
13	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (1)	問題解決への事例 (1) 西アフリカ半乾燥地での砂漠化とその対処法 関連するキーワード: 砂漠化 (desertification)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty alleviation)、異常気象/極端気象 (extreme weather)、水不足 (water scarcity)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
14	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー (2)	問題解決への事例 (2) 東アフリカ山間地域における人々の暮らしの向上と生態系保全の両立 関連するキーワード: 森林破壊 (deforestation)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

			alleviation )、生物多様性 (biodiversity)	
	15	総括	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻、今年度より本格始動します。価値ある学びの場を一緒につくりましょう。			
担当者の研究室等	2号館2階グローバル教育センター			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる</li> <li>さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる</li> <li>身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる</li> </ul>
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。</li> <li>取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。</li> </ul> <p>・本科目は2021年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておくことが必要である。</p> <p>・その他、履修にあたって不明</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
	2	グローバルとローカルのつながり (1) 消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う
	3	グローバルとローカルのつながり (2) 消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	4	グローバルとローカルのつながり (3) 消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	5	グローバルとローカルのつながり (4) 日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う
	6	グローバルとローカルのつながり (5) 日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う
	7	グローバルとローカルのつながり (6) 日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う
	8	グローバルとローカルのつながり (7) 日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う
	9	グローバルとローカルのつながり (8) 日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う
	10	グローバルとローカルのつながり (9) 日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	11	グローバルとローカルのつながり (10) SDGs	SDGs と身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う
	12	グローバルとローカルのつながり (11) SDGs	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う
	13	グローバルとローカルのつながり (12) SDGs	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う
	14	プレゼンテーション (1)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う
	15	プレゼンテーション (2)	1回~13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目 グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価) プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)			
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have le
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
	2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
	5	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of equality
	6	War and peace Invited speaker (date might change)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of historical events related to war
	7	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	8	Midterm exam: group presentations	Group presentations	
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global environmental issues
	13	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local culture
	14	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of foreign cultures
	15	Final exam - group presentations	Group presentations	

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Midterm group presentation: 20% Final group presentation: 20%			
学生への メッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.  We will be working with three groups of students in the United States to learn together on topics related to global citizenship. Please be prepared to work ha			
担当者の 研究室等	2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）			
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。  学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート(2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート



		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム: 20%)</li> <li>・中間発表・まとめ (チーム: 20%)</li> <li>・レポート 4回 (個人: 20%)</li> <li>・振り返りシート (個人: 15%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人: 15%)</li> <li>・事前学習シート (個人: 5%)</li> <li>・授業資料の管理 (個人: 5%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 石井三恵 (7号館 5F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺内睦博 (11号館 10F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スポ振)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。  学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート(2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム: 20%)</li> <li>・中間発表・まとめ (チーム: 20%)</li> <li>・レポート 4回 (個人: 20%)</li> <li>・振り返りシート (個人: 15%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人: 15%)</li> <li>・事前学習シート (個人: 5%)</li> <li>・授業資料の管理 (個人: 5%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺内睦博 (11号館 10F), 古矢篤史 (7号館 4F), 羅鵬飛 (経済)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1, AC科・AB科・AF科・AE科: OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。  学生は対面授業かオンライン授業を選
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 第1回レポート 事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる (3時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、図書館、ネットで調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる (1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 第2回レポート 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 第3回レポート (2時間以上)
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク 「教養とは何か？」	事後学習: 第4回レポート

		事後アンケート	(2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム: 20%)</li> <li>・中間発表・まとめ (チーム: 20%)</li> <li>・レポート 4回 (個人: 20%)</li> <li>・振り返りシート (個人: 15%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人: 15%)</li> <li>・事前学習シート (個人: 5%)</li> <li>・授業資料の管理 (個人: 5%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 譲 (1号館 3F), 久保貞也 (11号館 7F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業の7回目まではオンラインで実施する。7回目の時点で8回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p.48-79を読み、事前学習シート(①不明な用語を調べる、②重要箇所を抜き出す)を作成する。(2時間程度)
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.80-108を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.109-146を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	教養としての社会の課題を知る:中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート(要約)を作成する。 第1回レポート
6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
10	教養としての社会の課題を知る:中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) 第2回レポート
11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子様</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基 (編)</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢／ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%)</li> <li>・ポスター発表 (チーム：20%)</li> <li>・レポート 3回 (個人：30%)、・振り返りシート (個人：10%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> <li>・事前学習シート (個人：10%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F)、寺内 睦博 (11号館 10F)、石井 三恵 (7号館 5F)、上野 山裕士 (7号館 3F)、水野 武 (7号館 3F)、友枝 恭子 (5号館 1F)、瀧 (スポ振)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業の7回目まではオンラインで実施する。7回目の時点で8回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p.48-79を読み、事前学習シート(①不明な用語を調べる、②重要箇所を抜き出す)を作成する。(2時間程度)
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.80-108を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書p.109-146を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
5	教養としての社会の課題を知る:中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート(要約)を作成する。 第1回レポート
6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
10	教養としての社会の課題を知る:中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度) 第2回レポート
11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)



			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3	コロナ後の世界	大野和基 (編)	文春新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢／ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%)</li> <li>・ポスター発表 (チーム：20%)</li> <li>・レポート 3回 (個人：30%)、・振り返りシート (個人：10%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> <li>・事前学習シート (個人：10%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤 謙 (1号館 3F)、寺内 睦博 (11号館 10F)、石井 三恵 (7号館 5F)、上野山 裕士 (7号館 3F)、水野 武 (7号館 3F)、友枝 恭子 (5号館 1F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

**到達目標**  
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。  
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

**授業方法と留意点**  
 ※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。  
 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

**関連科目**  
 コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)

**学生へのメッセージ**  
 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

**到達目標**  
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。  
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

**授業方法と留意点**  
 ※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。  
 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

**関連科目** コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)** 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)

**学生へのメッセージ** 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

**担当者の研究室等** 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 履修者数が多いため、2クラスに分かれて受講していただきます。まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。Teamsに登録するためのチームコードは寺内: ne1jps0、山岡: 4z6o0s1となっています。間違えないよう気をつけてください。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと(目安: 30分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2時間)
	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安: 30分)・smartSPIの実施(目安: 30分)
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	履修者数が多いため、2クラスに分かれて受講していただきます。 まずはポータル通知に記載されている自らの担当教員を確認し、担当教員のTeamsに登録してください。 Teamsに登録するためのチームコードは寺内: ne1jps0、山岡: 4z6o0s1となっています。間違えないよう気をつけてください。
----	---

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

**到達目標**  
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。  
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

**授業方法と留意点**  
 11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。  
 ※授業は対面で進みますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

**関連科目**  
 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15%  
 その他授業態度などで加減します。

**学生へのメッセージ**  
 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

**授業概要・目的**  
 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

**到達目標**  
 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。  
 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

**授業方法と留意点**  
 11月4日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。  
 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

**関連科目**  
 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15%  
 その他授業態度などで加減します。

**学生へのメッセージ**  
 数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 教育イノベーションセンター

**備考**

科目名	病理学総論	科目名 (英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	病理学とは、病気の原因とその成り立ちを知る学問です。看護師の知識として必要な多くの病気に関して、その原因や成り立ちを学ぶことにより、病気の本質を知ることが目的とします。
到達目標	病気に伴い体の中でどのような変化がおきているのかを理解できる。 主要な病気に関しては、その原因と成り立ちについて説明できる。
授業方法と留意点	対面を基本として、場合により遠隔授業をおこないます。 毎回、前回の授業内容の小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	病気を正しく認識することにより、より適切な看護を行うことが出来る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病理とは 細胞組織の損傷と修復	病気とはなにか。病気により細胞が障害された時、細胞はどのように変化するか。そして、どのように正常に戻るのか。	該当する項目について教科書をもとに予習を行うこと
2	免疫 感染症	細菌やウイルス感染による障害とそれに対抗する防御機構	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	循環障害 代謝障害	循環障害や代謝障害による細胞や臓器の変化	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	老化 先天異常	老化や先天異常による細胞や臓器の変化	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	腫瘍	腫瘍とはなにか。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	循環器系の疾患	心臓や血管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	血液・造血器系の疾患	血液やリンパ系の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	呼吸器系の疾患	肺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	消化器系の疾患	胃や腸管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	肝臓膵臓の疾患	肝臓、胆嚢、膵臓 (外分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	泌尿器系の疾患 生殖器系の疾患	腎臓、卵巣、子宮、前立腺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	内分泌系の疾患	副腎、甲状腺、膵臓 (内分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	脳・神経系の疾患	脳、脊髄の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	骨関節系の疾患 筋肉系の疾患	骨、関節、筋肉の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	感覚器系の疾患 皮膚の疾患	目、鼻、耳、皮膚の主な病気の原因となりたち	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病理学 疾患の成り立ちと回復の促進 1	大橋 健一	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末テスト 50%、毎回の小テスト 50%で評価します。

学生へのメッセージ 病気は正常から逸脱した状態です。人体の正常な解剖と生理を理解したうえで、この講義を受講することにより、病理の理解が一層深まります。

担当者の研究室等 薬学部 病理学研究室 6号館3階

備考



科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真穂, 小西 元美, 小西 麗子, 小森 浩二, 竹内 健治, 三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬)処方せんを用いた注射剤等の医薬品調整や(模擬)患者に対する薬の説明を実践する中で、そのために必要な医薬品や衛生管理の専門知識を理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を担える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務(技能)を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識(「薬が効くとはどういうことか」など)を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義(7もしくは8号館にて実施)と演習(6号館にて実施)を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果(資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・医薬品管理 医薬品管理の重要性を理解する	講義(小森)
2	処方せん・薬袋の読み方 処方せん・薬袋の読み方を理解する	講義(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
3	処方鑑査 代表的な処方箋の処方意図を理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
4	医薬品の廃棄について 医療廃棄物の種類とその処理方法について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
5	生化学的知見から見た薬① 糖・脂質代謝と関連する検査や治療薬について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
6	生化学的知見から見た薬② 核酸代謝と関連する検査や抗がん剤について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
7	栄養素を含む医薬品 エネルギー代謝について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
8	注射剤調製の基本 注射剤調剤(混注)の基本を理解する 注射剤調製の基本的な手技を実践する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
9	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/消毒剤調製の実践 前半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/消毒剤調製の実践 後半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
11	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 前半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 後半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
13	検査薬の原理① 医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小西元美)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
14	検査薬の原理②	遠隔授業(リアルタイム)で実施	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度

		医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)について理解する	(小西元美)	復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する(発表会)	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
関連科目	薬理学総論、薬物治療学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち-臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	3			
評価方法(基準)	受講態度70%(発表内容を含む)および成果物30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。			
学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。 授業担当者は臨床経験を有した教員4名に加え、生化学や分析化学などの専門領域から医薬品を教育できる教員2名の計6名が指導します。			
担当者の研究室等	1号館2階 薬学教育センター 統合薬学分野(小西元美) 1号館4階 実践薬学分野(小森浩二・小西麗子) 1号館5階 生物系薬学分野(竹内健治) 6号館3階 医療薬学研究室(菊田真穂・三田村しのぶ)			
備考	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡する。			

科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真穂, 小西 元美, 小西 麗子, 小森 浩二, 竹内 健治, 三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬)処方せんを用いた注射剤等の医薬品調整や(模擬)患者に対する薬の説明を実践する中で、そのために必要な医薬品や衛生管理の専門知識を理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を担える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務(技能)を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識(「薬が効くとはどういうことか」など)を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義(7もしくは8号館にて実施)と演習(6号館にて実施)を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果(資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・医薬品管理 医薬品管理の重要性を理解する	講義(小森)
2	処方せん・薬袋の読み方 処方せん・薬袋の読み方を理解する	講義(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
3	処方鑑査 代表的な処方箋の処方意図を理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
4	医薬品の廃棄について 医療廃棄物の種類とその処理方法について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小森)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
5	生化学的知見から見た薬① 糖・脂質代謝と関連する検査や治療薬について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
6	生化学的知見から見た薬② 核酸代謝と関連する検査や抗がん剤について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
7	栄養素を含む医薬品 エネルギー代謝について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(竹内)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
8	注射剤調製の基本 注射剤調剤(混注)の基本を理解する 注射剤調製の基本的な手技を実践する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
9	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/消毒剤調製の実践 前半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
10	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/消毒剤調製の実践 後半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
11	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 前半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 後半	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
13	検査薬の原理① 医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)について理解する	遠隔授業(リアルタイム)で実施(小西元美)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
14	検査薬の原理②	遠隔授業(リアルタイム)で実施	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度

		医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)について理解する	(小西元美)	復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
	15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する(発表会)	遠隔授業(リアルタイム)で実施(菊田・小森・小西麗子・三田村)	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間程度
関連科目	薬理学総論、薬物治療学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち-臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	3			
評価方法(基準)	受講態度70%(発表内容を含む)および成果物30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。			
学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。 授業担当者は臨床経験を有した教員4名に加え、生化学や分析化学などの専門領域から医薬品を教育できる教員2名の計6名が指導します。			
担当者の研究室等	1号館2階 薬学教育センター 統合薬学分野(小西元美) 1号館4階 実践薬学分野(小森浩二・小西麗子) 1号館5階 生物系薬学分野(竹内健治) 6号館3階 医療薬学研究室(菊田真穂・三田村しのぶ)			
備考	講義前の予習(教科書を読む) : 1時間×15回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1時間×15回 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡する。			

科目名	カウンセリング論	科目名 (英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 幸平
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2011a0		

授業概要・目的	対人援助職が臨床現場で求められる能力は多岐に渡り、その中に「コミュニケーションの技術」が含まれます。臨床現場で生じるコミュニケーションは日常で用いられるコミュニケーションとは異なるものであり、専門的な知識と訓練及び経験を必要とします。カウンセリング論では、臨床心理学の理論と実践内容を学習することでコミュニケーションの技術を獲得することを目標とする講義です。担当講師は、医療現場（主として緩和ケア領域）で活動している現役の臨床心理士・公認心理師です。講師の実際のケースを紹介することで治療的コミュニケーションを
到達目標	本授業を通して、受容・共感といった対人援助職に必要な職業的姿勢に加え、臨床場面におけるコミュニケーションの技術を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業は集中講義の形式を採り、講義に加え、グループワーク（※1）などの演習を中心に授業を進めます。その性質上、遅刻や欠席はグループワークの進行を困難にするため、やむを得ない場合を除き原則として遅刻・欠席は認めません。授業日の最後の時間に、毎回レポートを課します。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求める。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談すること。授業日の最初の講義で質疑応答の時間を設けます。学生は前回の講義やグループワークで疑問に感じたことなど
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	カウンセリング総論①	ロールプレイ① 看護とカウンセリングの相連 カウンセリング総論	講義内容の理解を深めましょう。積極的にグループワークに参加しましょう。
2	カウンセリング総論②	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	講義内容の理解を深めましょう。
3	カウンセリングの技法①	質問の性質と効用 信頼関係構築の技法	講義内容の理解を深めましょう。
4	カウンセリングの技法②	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。
5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
6	振り返り	質疑応答 ロールプレイ③（復習）	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう（1時間）。
7	カウンセリングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性 治療方針としてのアセスメント	講義内容の理解を深めましょう。
8	カウンセリングの技法③	“問題志向”と“解決志向” 患者のリソースを探る質問法	講義内容の理解を深めましょう。
9	カウンセリングの技法④	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。
10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
11	振り返り	質疑応答 ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう（1時間）。
12	カウンセリングにおける治療者の留意点	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	講義内容の理解を深めましょう。
13	カウンセリングの技法⑤	能動的介入技法 変化を促す介入	講義内容の理解を深めましょう。
14	カウンセリングの技法⑥	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。
15	症例提示③	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。

関連科目	臨床心理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	レポート 70%、授業への積極的な関与 30% ※集中講義形式のため、3日とも当日レポートを課します。 ※グループワークを重視するため、積極性も評価の対象とします。
----------	--

学生へのメッセージ	この授業では、講義はもちろんのこと、ロールプレイなどの実践形式の演習を中心に進めていきます。実際に臨床場面に出てその場で患者さんに接する際に役立つコミュニケーション能力を学習してもらおうことが重要と考えているためです。楽しみながら、実際のカウンセリングの内容を学習していきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。
----	-------------------------------

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	松本 葉子, 泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△,		
科目ナンバリング	NDN2024a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する職業である。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。</p> <p><b>【授業目的】</b> 医療・保健に関連する諸制度や法令を修得し、看護職としての法的責任や義務について医療や看護事故の事例などをもとに理解し、看護職としての在り方を考えることを目指す。</p> <p>看護職としての臨床および教育についての実務経験に基づいて教育を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。</li> <li>・母子保健に関する法令について、人々の健康の維持・増進にかかわる制度と法令の関係を説明することができる。</li> <li>・医療従事者に問われる3種類の法律上の責任について理解することができる。</li> <li>・医療事故の事例をもとに看護職の責任と義務、および、看護職としての在り方について自分の考えを示すことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義形式を中心とする。各授業回の開始時に資料を配布するが、教科書も併用する。最終回には学習した知識を活用して、事例をもとにグループディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	看護職に必要な法的知識を学び、過去の事故事例から看護の責任や義務を考察することによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	医療法と医療提供の理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供の理念</li> <li>・医療法での規定</li> <li>・医療職の責務</li> <li>・医療提供体制</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
3	看護をめぐる法 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法の目的</li> <li>・保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、義務、業務、試験について</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
4	看護をめぐる法 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法に基づく罰則、特定行為研修など</li> <li>・看護師等の人材確保の促進に関する法律</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
5	母子の健康に関する法律 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健法</li> <li>・母体保護法</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
6	母子の健康に関する法律 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働基準法</li> <li>・育児・介護休業法</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
7	看護師の法的責任 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的責任の種類</li> <li>・医療事故と医療過誤</li> </ul>	事前：事例をよく読んでおく。 事後：事例の考察を振り返る。
8	看護師の法的責任 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故における看護師の義務と責任について (事例学習)</li> <li>・事例をもとにグループディスカッション</li> </ul>	事前：事例をよく読んでおく。 事後：グループワークでの検討内容をもとに、医療事故における看護師の責任、義務などについて考察し、看護師のあるべき姿について自己の考えをまとめる。 医療事故における看護師の義務と責任についてレポートを作成し、提出する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論、看護学全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 第2版	平林勝政、小林知世、和泉澤千恵	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 定期試験および課題レポートによって評価する。

(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験：85%</li> <li>・課題レポート：15%</li> </ul>
学生へのメッセージ	法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることにもつながります。法的な知識を自分の力に変えて活動できるように学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室28
備考	

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】



				授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
15	フィジカルアセスメントと 看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程の プロセスにつなげるために必要な考え 方や理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席するこ と（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。

関連科目

基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘルスアセスメント	横山美樹 石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）  
筆記試験（50%）、実技試験または小テスト（20%）、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程（20%）、授業への参加状況（10%）  
原則全ての授業及び演習に出席していること。  
※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生へのメッセージ  
「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。

担当者の研究室等  
7号館3階 研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、研究室3（山居）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）

備考  
技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。  
提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】

				授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
15	フィジカルアセスメントと 看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程の プロセスにつなげるために必要な考え 方や理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席するこ と（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。

関連科目

基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘルスアセスメント	横山美樹 石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）  
筆記試験（50%）、実技試験または小テスト（20%）、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程（20%）、授業への参加状況（10%）  
原則全ての授業及び演習に出席していること。  
※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生へのメッセージ  
「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。

担当者の研究室等  
7号館3階 研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、研究室3（山居）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）

備考  
技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。  
提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、実践的な看護過程の展開と看護技術についての教育を行う。
到達目標	授業および演習を通し、看護過程の展開方法を理解できる。 1) 看護過程の基本的な知識について理解する。 2) 事例の対象者について情報の整理、情報の分析と統合、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価を行うことができる。 3) 看護実践時の記録の記載方法を理解できる。 4) 看護過程における看護者と倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で看護過程の理論を学び、講義室または基礎看護演習室において演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。初回授業の方法については、Teams にてアナウンスを行う。 看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護過程とは	【講義】 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
2	看護過程のステップ①	【講義】 ・事例課題の情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
3	看護過程のステップ②	【講義】 ・事例課題の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
4	看護過程のステップ③	【講義・演習】 ・看護計画の実施と評価 ・事例紹介	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
5	看護記録・看護過程の演習①	【講義・演習】 ・看護記録とは ・看護記録の種類 ・グループワーク	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
6	看護過程の演習②	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
7	看護過程の演習③	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
8	看護過程の演習④	【演習】 グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
9	看護過程の演習⑤	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
10	看護過程の演習⑥	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
11	看護過程の演習⑦	【演習】 グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
12	看護過程の演習⑧	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。個人面談を行う	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2 時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2 時間)
13	看護過程の演習⑨	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2 時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2 時間)
14	看護過程の演習⑩	【演習】	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を

			グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)																
	15	看護過程の演習⑩ まとめ	【演習】グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表し、グループ案を振り返り、評価・修正を行う。	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)																
関連科目	フィジカルアセスメントおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践</td> <td>秋葉公子 江崎フサ子 (他)</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実践に役立つ看護過程と看護診断</td> <td>三上れつ</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ	2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヘンダーソン看護論と看護実践への応用</td> <td>金子道子</td> <td>照林社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験 40%、課題 (グループ課題・個人課題) 50%、授業参加態度 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。																			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目が取得できない場合、基礎看護学実習Ⅱの課題も達成できません。本科目の課題を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室1 (北村、舟木)、共同研究室3 (今井)																			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示する。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出すること。 提出した課題については、必要に応じて授業内でフィードバックします。																			

科目名	看護管理学	科目名 (英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	撫養 真紀子, 神谷 美紀子, 安田 照美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3031a0		

授業概要・目的	看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報、経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的で効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。 授業では、組織における看護管理の実
到達目標	1. 看護に関する制度・政策から病院などの組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。 2. 看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。 3. 医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。 4. 看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。
授業方法と留意点	授業形式は講義中心であるが、時間内に質疑応答を設ける。遠隔となった場合は、事前に配布した資料を手元におき、ノートをしながら画面共有で、パワーポイントで作成した説明資料を用いて、説明を行う。双方向の確保として、遠隔の機能で反応や発言を求めたり、少人数でのグループ討議も取り入れ学びを深める。進め方は教科書の利用とプリントを配布する。※事前に必ず指定の教科書を準備すること。  事前・事後学習課題の欄に、各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。テキストページ
科目学習の効果 (資格)	看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。 より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。 看護師国家試験受験のための必須科目でもある。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護サービスと経済のしくみ</li> <li>看護サービスマネジメント</li> <li>人的資源の確保と開発</li> <li>労務管理</li> </ul>	事前学習: 本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。
2	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理とは、ディスカッション</li> <li>看護管理の基盤となる知識</li> <li>看護管理のプロセス</li> </ul>	事前課題: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する (教科書 p28-62)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく (1 時間)。 事後課題: 講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する (1 時間)。
3	看護活動ととりまく法律・制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理に関する法律</li> <li>保健医療福祉政策と最近の動向</li> <li>看護と専門機関・職能団体</li> </ul>	事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する (教科書 p198-220)。特に、保健師助産師看護師法を調べておく。 事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する (1 時間)。
4	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人になる</li> <li>看護の教育体系</li> <li>看護職としてのキャリア</li> </ul>	事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する (教科書 p168-186)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる (1 時間)。 事後学習: 自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する (1 時間)。
5	看護の質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理と倫理</li> <li>医療安全</li> <li>医療・看護の質と評価</li> </ul>	事前課題: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する (教科書 p 110-136)。医療安全については授業の冒頭で質問をする。 事後課題: 臨地実習で実践していた医療安全を想起し学びを整理する (1 時間)。
6	看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルフマネジメント</li> <li>人とかかわるためのスキル</li> <li>集団に働きかけるスキル</li> <li>グループワーク、ディスカッション</li> </ul>	事前学習: 教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する (教科書 p138-165)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる (1 時間)。 事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。授業終了後に示す課題についてレポートを作成する (1 時間)。
7	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院・医療機関の組織と機能</li> <li>医療事故と安全管理</li> <li>災害対応</li> <li>病院機能評価</li> </ul>	事前学習: 本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。 事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する (1 時間)。
8	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理のスキル</li> <li>組織の理解</li> <li>看護と経営</li> <li>看護活動ととりまく法律・制度</li> </ul>	事前学習: 臨地実習で学修した管理について振り返っておく。 事後学習: 本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する (1 時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナース・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版	吉田千文他	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	最終の課題レポートおよび授業での小課題やグループワークの内容を総合して評価する。 最終の課題レポート 70%、小課題・グループワーク 30%			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではありません。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、メンバーシップ・リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待します。			
担当者の 研究室等				
備考	質問等があれば、メールアドレス (makiko_muya@enas.u-hyogo.ac.jp) に連絡をしてください。 オフィスアワーは授業実施後です。 授業内で課された課題については、次の講義内においてフィードバックを行います。			

科目名	成人看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2034a0		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ター
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向	・授業前に第1章「成人看護学の概念と構成」、第2章「成人看護学の特性」を読んでおく。 (1時間) 特に第1章2,3, 第2章1,3を読んでおくこと。授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
2	成人期にある対象の健康保健・医療・福祉における動向と課題	・成人期における健康、健康レベルにおける枠組み ・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。	・授業前に第3章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第5章「健康レベルにおける枠組み」を読んでおくこと。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	・侵襲に対する生体反応 ・急性期にある対象の特徴 ・急性期にある対象の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に第5章「健康レベルにおける枠組み」、第6章3「ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論」、4「生体侵襲理論」を読んでおくこと。(1時間)授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)	
4	成人期にある人の理解	・アクティブラーニング 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、説明できる。	・授業前に第2回講義後に提出した課題及び今までの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。(1時間) 授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)	
5	急性期にある対象の理解①	・アクティブラーニング ・がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
6	急性期にある対象の理解②	・アクティブラーニング ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明(発表)し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
7	成人看護における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	・アクティブラーニング 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、教科書の症例検討シートを参考にしながら事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・急性期にある対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア	・授業前に教科書第4章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業前に教科書第7「成人におけるヘルスアセスメント」、第8章「看護過程の展開」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。	
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴について ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 (グループワークを含む)	・授業前に教科書第5章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第5章4「健康再構築への支援を必要としている対象」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。	
10	慢性的な経過をたどる健康	・セルフケア理論の理解と活用	・授業前に教科書第6章5「セルフケア論」を読ん	



		障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)		<p>でしておくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論 (1)	<p>・アンドラゴジー理論の理解と活用</p> <p>・自己効力理論の理解と活用、患者支援教育の理解</p>	<p>・授業前に第VI章10「アンドラゴジー」、6「自己効力理論」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	12	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (1)	<p>・リハビリテーションの概念の理解</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (2)	<p>・リハビリテーションを必要とする対象の理解 (障害受容) と看護の役割</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	<p>・がんとともに生きる対象の理解 (全人的苦痛をもつ患者の理解) と特徴的な看護</p> <p>・がん医療における緩和ケア</p>	<p>・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	<p>・ターミナル期の定義</p> <p>・ターミナル期にある対象の特徴 (心理過程の理解) と必要な援助</p>	<p>・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること。またレポート課題を行う (2時間)。</p>																
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習 (急性)・(慢性)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論 (第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア</td> <td>田村 恵子</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ	2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社	3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ																	
2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア</td> <td>明石恵子、益田美津美</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>がん看護学</td> <td>大西和子、飯野京子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																	
2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社																	
3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ																	
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験 (50%)、レポート課題 (40%)、グループワークの参加状況 (10%) を総合して総合的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学に関する基礎となる知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。																			
担当者の研究室等	稲垣 (研究室 26)、森谷 (研究室 29)																			
備考																				

科目名	成人病態看護論	科目名 (英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 松本 葉子, 森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○		
科目ナンバリング	NDN2035a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過・増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その</p>
---------	--

到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。</li> <li>2. 各機能障害および症状がもたらす対象者やその家族への影響を理解する。</li> <li>3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（視聴覚教材等）を用いて演習を行う。</li> <li>・出席は出欠管理システムおよび提出物で確認します。</li> <li>・レポートは、提出期限までに提出のない場合には、減点対象とします。</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果（資格）	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護 1	「運動麻痺」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 7 脳・神経の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
2	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護 2	「意識障害」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 7 脳・神経の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
3	循環機能障害のある患者の看護 1	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 2 循環器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
4	循環機能障害のある患者の看護 2	循環機能障害患者のある患者のアセスメントと看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 4 呼吸器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
5	呼吸機能障害のある患者の看護 1	「呼吸困難」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 4 呼吸器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
6	呼吸機能障害のある患者の看護 2	「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 2 循環器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
7	消化機能障害のある患者の看護 1	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 1 消化器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
8	消化機能障害のある患者の看護 2	消化機能障害のある患者のアセスメントと看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol. 1 消化器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版	高木永子監修	学研
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ
2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ	
3	病気がみえる Vol. 4 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ	

評価方法	レポート課題（100％）により評価する。
------	----------------------

(基準)	
学生への メッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室26 (稲垣)
備考	

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下 裕子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】</p> <p>健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。また、急性期にある対象の事例を取り上げ、看護過程を展開する能力を身につけることができる。</p> <p>集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <p>1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。</p> <p>2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。</p> <p>3. 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。</p> <p>4. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い</p>
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って、講義およびグループワーク、ディスカッション等を組み合わせた授業を行います。教科書を利用し、適宜プリントを配布するので持参してください。課題については、授業内にフィードバックを行う時間を設けます。質問は、授業時間内および、授業時間外でも適宜受けつけます。</p>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習 (成人看護学実習 I) において、看護援助を実践するための基盤となる。</li> <li>・看護師国家試験の出題範囲である。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	周手術期にある対象の特徴と理解①麻酔	麻酔法、手術室環境、麻酔の基礎知識と麻酔時の看護	【事前】教科書1の第3章、第8章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
2	周手術期にある対象の特徴と理解②一手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応、炎症、創傷治癒	【事前】教科書1の序章、第1章、第4章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
3	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症、循環器合併症、イレウス予防のための看護	【事前】教科書1の第9章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく (1時間)。
4	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染、縫合不全 (創傷管理・ドレーン管理含む)、術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書1の第1章C～E、第9章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
5	周手術期にある対象の特徴と理解③一術前患者	情報収集とアセスメント、術前オリエンテーション、術前日～術当日の看護	【事前】教科書1の第7章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
6	周手術期にある対象の特徴と理解④一術後患者	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント、早期離床、疼痛管理、自己管理に向けた援助	【事前】教科書1の第9章を読むこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
7	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①+看護過程の展開①	手術を受ける対象に対する看護と看護過程の展開 (胃切除術)	【事前】教科書2のVII (胃切除術) を参考にしながら、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴 (切除部位、再建方法)などをまとめておくこと (1時間) 【事後】看護記録の提出 (1時間)
8	手術を受ける対象に対する看護過程の展開②	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
9	手術を受ける対象に対する看護過程の展開③	事例をもとに看護過程を展開する一カルテからの情報収集+アセスメント	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
10	手術を受ける対象に対する看護過程の展開④	事例をもとに看護過程を展開する一関連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
11	手術を受ける対象に対する看護過程の展開⑤	事例をもとに看護過程を展開する一関連図・看護問題リスト	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
12	周手術期におけるチーム医療	周手術期におけるチーム医療と看護師の役割	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく (1時間) 【事後】資料の内容を復習しておく (1時間)。
13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術・開心術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII (肺切除術・冠動脈バイパス術) を参考にしながら、開胸術・開心術を受ける疾患、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと (1時間) 【事後】資料の内容を復習しておく (1時間)。
14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進	開頭術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII (脳動脈クリッピング術) を参考にしながら、開頭術を受けるクモ膜下出血の原

		進のための看護援助③		因と誘因、症状と発生機序、術式の特徴などをまとめておくこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習をしておく（1時間）。																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工関節置換術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII（両側人工膝関節置換術）を参考にして関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式特徴などをまとめておくこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習をしておく（1時間）。																
関連科目	成人看護学概論 成人病態看護論 人体の構造と機能 I～IV 病理学総論 疾病治療論 I・II 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 臨床外科看護総論</td> <td>矢永勝彦 他編</td> <td>医学書院（目安価格：税抜き2,800円）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周手術期</td> <td>井上智子 編</td> <td>照林社（目安価格：税抜き3,200円）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）																	
2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 周手術期看護論（第3版）</td> <td>雄西智恵美 他編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学2 周手術期看護</td> <td>明石恵子 編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社																	
3																				
評価方法（基準）	課題の達成状況（100%）で評価する。原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席届を提出の上、配布資料や課題の指示を受けること（履修要項参照）。																			
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対応を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です。																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室30（竹下）																			
備考	授業は、「成人看護学援助論Ⅲ」と連動させながら行います。したがってスケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。																			

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象者のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。担当教員の臨床経験に基づいて、慢性的な健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持</p>
到達目標	<p>1. セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の特徴と課題を、倫理的側面を含めて説明できる。</p> <p>2. 対象と家族の生活をセルフケアの視点でアセスメントし、増悪因子を踏まえた、主体的な生活習慣の修正に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。</p> <p>3. 対象とその家族にとっての病や障がいの受け止めや治療への意思決定、および、生活への影響を説明できる。また、これらを踏まえた上で、対象と家族の、その人らしい生活に向けた看護援助を理解できる。さらに、これに関連</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は講義を中心とし、ディスカッションやグループワークを含む。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックする。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバック</p>
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	セルフケアを促進するための看護援助 (1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助 (2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護 2)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
3	セルフケアを促進するための看護援助 (3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
4	セルフケアを促進するための看護援助 (4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護 2)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
5	セルフケアを促進するための看護援助 (5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護 1) 糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。 レポートを課す (1時間)。</p>
6	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (1)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 1) 難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す (1時間)。</p>
7	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護 2) 生活の再構築の過程を支える看護	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す (1時間)。</p>
8	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (3)	膠原病 (関節リウマチ) によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
9	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 (4)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護 2)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと (1時間)。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること (1時間)。</p>
12	ストレスコーピングを促進するための看護援助 (3)	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護 1)	<p><b>【事前学習】</b> 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと (1時間)。</p>

				【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
	13	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護2）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでもおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
	14	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護1）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでもおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
	15	ストレスコーピングを促進するための看護援助（6）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護2）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでもおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版</td> <td>鈴木久美 他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学3 慢性期看護</td> <td>黒江ゆり子 他</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社																	
3																				
評価方法（基準）	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験（90%）およびレポート（10%）の内容を総合して評価する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学実習Ⅱにつながる基本的な内容ですので、しっかり学習しましょう。成人看護学援助論Ⅲと連動していますので、具体的な進め方は別途説明します。																			
担当者の研究室等備考	研究室 29 森谷																			

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	科目名 (英文)	Adult Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 長沢 美和子, 松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題を取り上げて、対象者の身体・心理・社会的特徴を学習する。これらを踏まえて、それぞれの健康問題のある対象に対する看護の方向性および具体的な看護援助方法について学習する。 担当教員の臨床経験に基づいて、健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p>〔目的〕 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画、展開できる基礎的能</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術侵襲により身体的・精神的状態に急激な変化をきたしやすい急性期にある対象の観察とモニタリングの方法を計画しアセスメントすることができる。</li> <li>2. 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和するための看護援助方法について計画および評価ができる。</li> <li>3. 急性期にある対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護援助方法について計画および評価ができる。</li> <li>4. 慢性的な健康問題のある対象の看護に必要な看護技術を理解したうえで、患者のセルフケアを促進する援助を説明できる。</li> <li>5. 慢性的な健康問題のある対象</li> </ol>
授業方法と留意点	本科目は看護過程や看護技術の学習など演習を中心に行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、シミュレーションなどを含む。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	成人看護学実習Ⅰ、Ⅱで実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	手術を受ける対象への看護過程の展開	・看護過程の展開は、「成人看護学援助論Ⅰ」と連動させて行う。 ・看護問題の明確化、優先順位決定、計画立案を行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出 (1時間)
2	手術を受ける対象への看護過程の展開	・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出 (1時間)
3	手術を受ける対象への看護技術①	・術前看護 (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
4	手術を受ける対象への看護技術②	・手術室からの帰室準備、吸引、心電図モニター他 (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
5	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
6	手術を受ける対象への看護技術④	・術直後の全身状態の観察とモニタリング (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
7	手術を受ける対象への看護技術⑤	・早期離床と日常生活援助 (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
8	手術を受ける対象への看護技術⑥	・早期離床と日常生活援助 (技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出 (1時間)
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程1)	情報の整理・解釈・分析 1) (グループワークを含む)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程2)	情報の整理・解釈・分析 2) (グループワークを含む)	事後課題：完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析) 提出 (1時間)
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程3)	関連図、統合・看護問題の明確化 (グループワークを含む)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(2時間) 事後課題：完成させた課題 (関連図、統合・看護問題の明確化) を提出する。(1時間)
12	慢性的な健康問題のある対象への看護過程4)	看護計画の立案 (グループワークを含む)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(1時間) 事後課題：完成させた課題 (看護計画) を提出する。(1時間)
13	慢性的な健康問題のある対象への看護過程5)	看護過程成果の共有 (グループワークを含む)	事後課題：完成させた全ての課題を提出する。(1時間)
14	慢性的な健康問題のある対象への看護技術1)	セルフマネジメント (フットケア) を必要とする患者への援助 (技術演習)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間) 事後課題：演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。(1時間)
15	慢性的な健康問題のある対象への看護技術2)	継続的な療養法の習得に向けた教育的支援 (技術演習)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する (1時間) 事後課題：実施を振り返りレポートを提出する。(1時間)

関連科目	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			



	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	本科目では原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。急性 50%、慢性 50%を合わせて 100%について、授業の中で課したレポート、事前学習、その他の課題の取り組み状況から評価する。			
学生への メッセージ	本授業では、成人看護学実習に向けた看護過程や看護技術についての基本的な内容を学習します。成人看護学援助論 I、II と連動して進めます。具体的には別途説明します。			
担当者の 研究室等 備考	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷			

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。																																																																		
到達目標	【実習目標】 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的																																																																		
授業方法と留意点	【実習方法】 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	必要に応じて適宜紹介する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習期間出席した上で、実習内容 (実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																																																																		
学生への メッセージ	対象の経過は急性に短期間に変わるので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																																																																		
担当者の 研究室等	竹下 (研究室30)																																																																		
備考																																																																			

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b>          臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。          本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p><b>【目的】</b>          慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>5) 対象とその家族が直面</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法</li> <li>1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>4) 原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>6) 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ、成人病態看護論、疾病・治療Ⅰ～Ⅳ等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考	研究室29 森谷																																																																		

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2043a0		

授業概要・目的	<p>1年時から履修した老年看護学概論と老年看護学援助論Ⅰの知識と老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの体験を合わせて、高齢者への看護実践方法を学びます。毎回の授業時にグループワークなどの演習で援助方法の視点を検討し、看護技術演習での実践を目指します。さらに、実践後の評価から高齢者の看護において重要と考える内容を自分自身の課題と合わせて振り返ります。</p> <p><b>【目的】</b>  1. 加齢に伴う身体的変化や心理的变化についての知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について理解する。  2. 高齢者によくみ</p>
到達目標	1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。 2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。 3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。
授業方法と留意点	基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。演習では、高齢者への看護実践にむけた主体的な学習を行っていきます。自己学習や事前・事後学習の成果物はポートフォリオとしてまとめますので、なくさないように管理してください。演習では看護実践方法を検討していきます。また、各講義や演習時に課題を課すレポートも評価の対象とな
科目学習の効果 (資格)	臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。看護師国家試験にも必須の学習内容です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老年看護における看護過程の展開と健康段階に応じた高齢者看護	<b>【講義・演習】</b> 老年看護における看護過程の展開の考え方と様々な健康段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	<b>【事前】</b> テキスト第7章 (P314~344) を読み、治療を必要とする高齢者の看護の要点をまとめておく (一時間) <b>【事後】</b> 手術を受ける高齢者に必要な看護の要点をまとめる
	2	疾患をもつ高齢者の看護 (1: 筋骨格系疾患)	<b>【講義・演習】</b> 大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症等、高齢者に多い筋骨格系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	<b>【事前】</b> 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間) <b>【事後】</b> 大腿骨頸部骨折の看護についての要点をまとめる (一時間)
	3	疾患をもつ高齢者の看護 (2: 脳神経系疾患)	<b>【講義・演習】</b> 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	<b>【事前】</b> 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間) <b>【事後】</b> リハビリ期の高齢者に必要な看護について要点をまとめる (一時間)
	4	疾患をもつ高齢者の看護 (3: 呼吸器・循環器・内分泌疾患)	<b>【講義・演習】</b> COPD、虚血性心疾患、糖尿病等高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	<b>【事前】</b> 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく (一時間) <b>【事後】</b> 在宅療養を行う高齢者の看護について要点をまとめる (一時間)
	5	看護過程の展開 (3: 退院支援)	<b>【講義・演習】</b> 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	<b>【事前】</b> 高齢者を支える家族の世帯構成の特徴や日本の課題を見直してまとめておく (一時間) <b>【事後】</b> 看護過程の事例に必要な退院支援を考える (一時間)
	6	看護過程の展開 (4: 病態のアセスメント)	<b>【講義・演習】</b> 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	<b>【事前】</b> 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (一時間) <b>【事後】</b> 授業後に不足する内容を記載する (一時間)
	7	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	<b>【講義・演習】</b> 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。	<b>【事前】</b> 記録用紙に沿って、事例の生活機能の分析をおこなって記入する (一時間) <b>【事後】</b> 授業後に不足する内容を記載する (一時間)
	8	看護過程の展開 (5: 生活機能のアセスメント)	<b>【講義・演習】</b> 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説し、グループで検討します。	<b>【事前】</b> 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する (一時間) <b>【事後】</b> 授業後に不足する内容を記載し次回提出する (一時間)
	9	看護過程の展開 (6: 看護の方向性)	<b>【講義・演習】</b> 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	<b>【事前】</b> 記録用紙に沿って全体像をまとめる <b>【事後】</b> 授業後に不足する内容を記載する (一時間)

	10	看護過程の展開 (7:看護計画立案)	【演習】 看護計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	11	看護過程の展開 (8:援助計画立案)	【演習】 看護計画から援助計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	12	エンド・オブ・ライフケア	【講義・演習】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	【事前】 テキスト第8章(P348~357)を読んでおく(一時間) 【事後】 高齢者の意思決定についての自己の考えをまとめレポートする(一時間)
	13	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討します。	【事前】 所定の用紙に看護計画を立案する 【事後】 看護計画の修正する
	14	看護過程の展開 (9:看護技術演習)	【演習】 演習での対象理解を踏まえた個別的な看護計画の立案と援助方法を検討し、実際に行います。	【事前】 援助場면을想定し、バイタルサイン測定練習を行う 【事後】 援助場면을振り返り、評価を行う
	15	看護過程の展開 (10:評価)	【講義・演習】 高齢者の看護の評価のポイントを学び、安全安楽、もてる力の視点でグループで振り返る	【事前】 配布資料を事前に読む 【事後】 看護の評価から自己の学びと今後の課題についてまとめる

関連科目 老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学	北川公子	医学書院
2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
3			

評価方法 (基準) 定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)より総合的に評価します。体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。

学生へのメッセージ 疾患をもつ対象者の看護については老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。  
授業担当の小川宣子は、病院での内科系病棟での15年間の実務経験を生かして高齢者への援助方法について実践的な教育を行う。  
授業担当の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での15年間の実務経験を生かして演習での助言を行っていく。  
授業担当

担当者の研究室等 小川宣子 7号館3階研究室10  
村瀬由貴 7号館3階研究室3  
田中真佐恵 7号館3階共同研究室2

備考 看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。授業中に案内します。

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 直子, 池田 友美, 鎌田 佳奈美, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2049a0		

授業概要・目的	<p>疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患や障がいのある子どもの看護を理解する。また、子どもとその家族の最善の利益を目指し、発達段階、健康状態、子どもと家族の個性、子どもと家族の「いま・ここ」の状況を捉えた看護過程を架空事例を通して展開する。</p> <p>授業担当の教員全員が小児看護の臨床経験を有している。既修の知識・講義内容と教員の小児看護実践経験や子どもと家族との関り経験を関連付けることにより、看護実践へと繋がる知識・技術となるよう導く。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。</li> <li>2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。</li> <li>3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。</li> <li>4. さまざまな発達段階、健康状態にあり、個性を有する子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考察できる。</li> <li>5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>対面授業で行う。必要時には Teams でのリアルタイムオンライン授業に切り替える。Moodle での教材・課題提供を活用する。反転授業形式を一部採用する。主体的に講義やグループワークに参加でき、楽しく学びを得られるように、講義までに事前課題を行っておくこと。事後課題で知識を整理し、アウトプットすることと、看護過程で取り組む架空事例への看護計画に基づき技術演習を行うことで、小児看護学実習に繋がる思考力、技術力修得を目指す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>小児看護学実習の先修科目であり、看護師国家試験受験資格を得るための必須科目である。</p> <p>小児看護学実習における『子どもと家族のための最善のケア』の実践に繋がる科目である。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	さまざまな健康障害がある子どもと家族の援助	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業オリエンテーション</li> <li>②さまざまな健康障害がある子どもと家族</li> <li>③さまざまな小児看護実践/教育・研究の場</li> <li>④小児看護学実習の概要 (小児領域教員の小児看護実践体験談等・VTR 視聴)</li> <li>⑤ミニレポート「小児看護学実習に行くまでに必要となること」</li> </ol>	<p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①シラバスを確認しておく</li> <li>②教科書第5編第1章を読む</li> <li>③小児看護のコミュニケーションに関する授業動画を視聴する。 (1時間)</li> </ol>
2	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護 (意思決定を支える看護、医療的ケア)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①障がいのある子どもと家族の看護</li> <li>②子どもと家族の意思決定を支える看護</li> <li>③在宅療養に移行するための準備と地域で療養生活を支えるための医療チーム/看護師の役割 案 (動画視聴・グループワーク)</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教科書第4編第1章Ⅷ~Ⅹ、第2章Ⅳを読む</li> <li>②①のうち、特にドクターの障害受容過程はしっかりと学習しておくこと (1時間)</li> </ol> <p>【事後課題】</p> <p>レポート「障がい児の看護について」 (1時間)</p>	
3	小児看護の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小児の看護過程</li> <li>②小児看護学実習記録ガイド (個人ワーク)</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <p>小児看護学実習記録ガイドを一読しておく (1時間)</p> <p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小児の看護過程</li> <li>②小児の発達段階③乳児/幼児/学童児への看護の復習 (1時間)</li> </ol>	
4	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護 (1)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①急性期にある子どもと家族の特徴</li> <li>②急性期における子どもと家族の看護過程の展開 情報収集・関連図作成 (ネフローゼ症候群 VTR 視聴・グループワーク/個人ワーク)</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教科書第3編第4章1を読む</li> <li>②ネフローゼ症候群の病態、治療、看護について調べ、A4用紙2枚分にまとめておく (1時間)</li> </ol> <p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①確認テスト</li> <li>②小児看護学実習記録 (準備編:看護過程急性期) 記入 (2時間)</li> </ol>	
5	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護 (2)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①急性期における子どもと家族の看護過程の展開 関連図作成続き・看護計画立案 (グループワーク/個人ワーク)</li> </ol>	<p>【事後課題】</p> <p>小児看護学実習記録 (準備編:看護過程急性期) 完成 (2時間)</p>	
6	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの被災の特徴</li> <li>②心の問題をもつ子どもと家族への援助 (グループワーク/個人ワーク)</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <p>教科書第4編1章Ⅷ~Ⅹ、2章Ⅸを読む (1時間)</p> <p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①確認テスト</li> <li>②授業で分からなかった内容やさらに深く学修したいことについて調べる。(1時間)</li> </ol>	
7	終末期にある子どもと家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>①死にゆく子どもとその子どもと子どもを看取る家族への援助 (グループワーク/個人ワーク)</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <p>教科書第3編第4章Ⅴを読む (1時間)</p> <p>【事後課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①確認テスト</li> <li>②授業で分からなかった内容やさらに深く学修したいことについて調べる。(1時間)</li> </ol>	
8	周手術期における子どもと家族の看護 救急処置を要する子どもと家族の看護 (心肺蘇生法)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの手術の特徴</li> <li>②手術を受ける子どもと家族への援助</li> <li>③救急処置を要する子どもと家族の看護</li> </ol>	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教科書第3編第4章Ⅱ、第4編第1章Ⅵ、第6編第4章Ⅶを読む</li> <li>②心肺蘇生法の動画視聴</li> </ol>	

		④窒息時の対処と子どもの心肺蘇生法 (グループワーク・動画視聴)	(2時間) 【事後課題】 手術を受ける子どもと家族への援助シート (1時間)
9	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族 の看護(1)	①慢性疾患を抱えながら生活する子どもと家族の特徴 ②慢性期における子どもと家族の看護過程の展開/情報収集・関連図作成 (川崎病 VTR 視聴・グループワーク/個人ワーク)	【事前課題】 ①教科書第3編第4章Ⅲを読む ②川崎病の病態、治療、看護について調べ、A4用紙2枚分にまとめておく(1時間) 【事後課題】 ①確認テスト ②小児看護学実習記録(準備編:看護過程慢性期)記入 (2時間)
10	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族 の看護(2)	①慢性期における子どもと家族の看護過程の展開(関連図作成続き・看護計画立案) (グループワーク/個人ワーク)	【事後課題】 小児看護学実習記録(準備編:看護過程慢性期)記入 (2時間)
11	技術練習① 看護過程に関する学びの共有会①	①技術テストに向けて練習と振り返りを行う。 ②看護過程に関する学びをグループ共有する。	【事前課題】 技術練習に向けて手順作成とイメージトレーニングを行う。(1時間)
12	技術練習② 看護過程に関する学びの共有会②	②技術テストに向けて練習と振り返りを行う。 ②看護過程に関する学びをグループ共有する。	第11回と同じ
13	プレパレーションの実際	プレパレーションの実際	【事前課題】 プレパレーションの復習 (1時間)
14	【技術テスト①】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護に関する技術テスト 【プレパレーション①】	①立案した計画に基づく援助実施 ②①の振り返りと援助計画修正 ③プレパレーション課題に取り組む	【事前課題】 ①各事例のバイタルサイン測定と保清に関する援助計画完成 ②①に基づく援助実施に向けたイメージトレーニング (2時間) 【事後課題】 援助計画の追記・修正 (2時間)
15	【技術テスト②】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護に関する技術テスト 【プレパレーション②】	①立案した計画に基づく援助実施 ②①の振り返りと援助計画修正 ③プレパレーション課題に取り組む	①第14回事前・事後課題と同じ ②第1回ミニレポート「小児看護学実習に行くまでに必要となること」に記載した内容を振り返り、自己課題の達成度、小児看護学援助論Ⅱで学んだことを追記し、振り返る。(事前・事後合計4時間)

関連科目 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術	中野綾美	メディカ出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
	2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
	3			

評価方法(基準) 確認テスト・事後課題/定期テスト(70%)、急性期・慢性期の看護過程レポート(20%)、技術テスト(10%)により総合的に評価する。

学生へのメッセージ 小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。一緒に楽しく学んでいきましょう。これまでの学修状況、修得し活用できる状態にある知識量、応用力、記述力等によって、課題に要する時間が異なります。事前に取り組める内容を提示しています。既習の知識を振り返りながら、計画的に取り組ましましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 亀田(研究室23)、池田(研究室16)、鎌田(研究室17)、中山(共同研究室3)

備考 ※登校日・授業日程等は大学から感染拡大状況に応じて都度配信される情報に従ってください。  
※感染拡大/収束状況により、日程・授業内容を急遽変更することがあります。Teamsによる連絡を見逃さないようにしてください。

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田、池田、亀田、中山は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的に</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。</li> <li>2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。</li> <li>4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。</li> <li>5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ4～5人編成とし、小児病棟や保育所、学内等において2週間の実習を行う。</li> <li>2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。</li> <li>3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。</li> <li>4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。</li> <li>5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。</li> <li>6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りをし、学習を深める。</li> </ol> <p><b>【留意点】</b></p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要なとしている看護を実践して下さい。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田共同研究室5、中山共同研究室3																																																																		
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、保育所																																																																		



科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名草 みどり, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 永田 阿子, 西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2053a0		

授業概要・目的	<p>《概要》 母性看護学実習で一組の母と新生児を受け持つ時に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義、演習を通して学びます。</p> <p>《目的》 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業方法は、講義、演習です。</p> <p>課題の内容、評価方法については授業で全て説明します。</p>
科目学習の効果 (資格)	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	母性看護学の看護過程に必要な看護診断を学ぶ	<p>目標: ウェルネス看護診断について理解できる。</p> <p>内容: ウェルネス看護診断について学ぶ</p> <p>方法: 講義</p>	<p>事前学習: 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p18~29 を読む。(1時間)</p> <p>事後学習: 配付資料を読む。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p18~29</p>
2	事例による看護過程の展開-情報化の方法を学ぶ	<p>目標: ①オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習方法について理解できる。②紙媒体から事例の情報を整理できる。</p> <p>内容: 事例の情報化の方法を学び、事例の情報をS情報とO情報に分けアセスメントシートの情報欄に記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学各論 p308-354 を読む。(1時間)</p> <p>事後学習: 授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p70~74</p>
3	事例による看護過程の展開-アセスメントの方法を学ぶ	<p>目標: データベースとアセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析および統合ができる。</p> <p>内容: 記載例を参考にアセスメントの方法を学び、アセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析をアセスメント欄に記入する。全体像を記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習として、「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p75~88 を読む。(1時間) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p75~88</p>
4	事例による看護過程の展開-看護問題の明確化の方法を学ぶ	<p>目標: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題を、ウェルネス・リスク・プロブレムの判断を行いながら明確化でき、優先順位を考えられる。</p> <p>内容: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題の、ウェルネス・リスク・プロブレムの判断方法について学び、事例の看護問題をウェルネス・リスク・プロブレムに分けてプロブレムリストに記載する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学各論 p541-546 を読む。(30分) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p75~88</p>
5	母性看護技術演習(1)-妊産褥婦の看護を学ぶ	<p>目標: 妊婦健診の根拠と方法がわかり安全・安楽を考慮した計測方法がわかる。根拠を理解して褥婦の子宮復古の観察方法がわかる。乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気の方法がわかる。産婦の看護の方法がわかる。</p> <p>内容: 妊婦の計測(レオポルドの測定法、子宮底と腹囲の測定、児心音の聴取)、褥婦の観察(子宮底の測定) 乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気産婦の看護の方法について学ぶ。</p> <p>方法: 演習</p>	<p>事前学習として、配付資料を読み、「乳房のはり」について調べた内容を配付資料に記入する。母性看護学各論 p328~329 (1時間)</p> <p>事後学習として、演習内容の課題シートを仕上げて指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>母性看護学各論 p98~103, p342~346</p>
6	母性看護技術演習(2)-妊産褥婦の看護を学ぶ	5回目と同内容	5回目と同内容
7	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	<p>目標: 優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。</p> <p>内容: 看護目標の表現方法等について学び、看護目標と看護計画を立案する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習として、母性看護学各論 p541~546 を読む。(30分) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p86~88</p>
8	事例による看護過程の展開-看護計画の立案方法を学ぶ	<p>目標: グループで優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、</p>	第7回と同内容

			看護計画を立案できる。 内容：個人の看護計画を持ち寄り、グループでよりよい看護計画を立案する。 方法：演習（グループ）																	
	9	事例による看護過程の展開－看護計画の立案方法を学ぶ	第8回と同内容	第7回と同内容																
	10	母性看護技術演習（3）－新生児の看護を学ぶ	目標：根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴および寝床環境の整備の方法がわかる。 内容：新生児の観察と沐浴、寝床環境の整備を学ぶ。 方法：演習	事前学習として、新生児の観察の留意点、沐浴の留意点について配付資料に記入する。指定した新生児観察と沐浴の動画を視聴し、手技を覚える。(1時間) 事後学習は、新生児の観察と沐浴の手技の根拠を配付資料に記入し、指定日時に提出する。(1時間)																
	11	母性看護技術演習（4）－新生児の看護を学ぶ	10回目と同内容	10回目と同内容																
	12	事例による看護過程の展開－看護の実施－ －看護の評価と修正－	目標：立案した計画を実践できる 内容：グループで考え、教員から指導を受けた看護計画をロールプレイングで実施する 方法：演習（グループ） 目標：看護の評価と修正について考える。 内容：発表した看護計画をグループで評価する。 方法：演習（グループ）	事前学習として看護計画の一部をロールプレイングで練習する。(1時間) 事後学習として発表場面を評価し指定日時に提出する。(1時間)																
	13	退院支援と継続看護、1か月までの実際を学ぶ	目標：退院指導と産褥1か月までの支援の実際について理解できる。 内容：臨地実習施設で行われている退院指導や産褥1か月までの支援と、社会資源として枚方市の取り組みについて紹介する。 方法：講義	事前学習として、母性看護学各論p351～354を読む。(30分) 事後学習として、地域の母子に対する継続看護と、産褥1か月までの支援についてまとめ、指定日時に提出する。(1時間)																
	14	正常を逸脱した事例の看護－帝王切開術後の看護の方法を知る	目標：術後の母体に生じる変化についてその機序と看護の方法を知ることができる。 内容：帝王切開の適応や術式を振り返り、手術によって生じる身体機能の変化や母体に与える影響を学ぶ。 方法：講義と演習（個人・グループ）	事前：帝王切開術について母性看護学援助論Ⅰの資料および教科書1（第7章I-⑤、K-①）を一読して読む。周手術期に関する教科書を受講時に持参できるよう準備する。 事後：配布する課題を完成させる。(各1時間)																
	15	正常を逸脱した事例の看護－帝王切開術後の看護の方法を考える	目標：術後の心身の変化に伴い生じやすい看護問題を見出し、看護計画の立案・修正ができる。 内容：一般的な帝王切開術後の観察点やアセスメントの視点（方法や基準値、分析に必要な根拠）を整理し、計画として完成させる。 方法：演習（グループ）	事前：課題を完成させ提出する。看護計画立案・修正に使用する周手術期の資料・文献を収集し、演習時に持参できるよう準備する。 事後：課題を完成させ、提出する。(各1時間)																
関連科目	既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは非常に関連しています。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院																	
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる母性看護技術</td> <td>小沢ひとみ編</td> <td>インターメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気がみえる10巻 産科</td> <td>医療情報科学研究所</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程</td> <td>太田操編著</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディア	2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア	3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディア																	
2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア																	
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版																	
評価方法（基準）	課題の進行・提出状況、課題の完成度を見て総合的に評価します。評価比重は授業時間内に説明します。																			
学生へのメッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習を想定した実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら楽しい実習になるように、この科目の学修を頑張りましょう。																			
担当者の研究室等	母性看護学教員の研究室は7号館3階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 名草みどり（研究室13）、飯田恵子、永田阿子（共同研究室5）、西頭知子（研究室14）、但馬まり子（研究室20）、泉川孝子（研究室15）、井田歩美（研究室12）																			
備考																				

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 但馬 まり子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	<p>概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。</li> <li>2. 周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。</li> <li>3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。</li> <li>4. 母性看護における自己の看護観を育むことができる。</li> <li>5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な</li> </ol>																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院	2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院																																																																
2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td>井上裕美他監修</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R 著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他著</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R 著	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他著	メディカ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア																																																																
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R 著	医学書院																																																																
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他著	メディカ出版																																																																
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。																																																																		
学生への メッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親 (パートナー)、新生児からも学べることも多い実習になるでしょう。																																																																		
担当者の 研究室等	泉川 (研究室 15)、井田 (研究室 12)、西頭 (研究室 14)、名草 (研究室 13)、但馬 (研究室 20)、飯田、永田 (共同研究室 5)																																																																		
備考	実習場所 市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、JCHO 大阪病院、八尾市立病院、済生会野江病院等																																																																		

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子, 眞野 祥子, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2057a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、精神疾患と治療等の基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。それらの基礎知識を活用しながらペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と必要な看護援助方法を理解する。</p> <p>また地域で生活する精神障害者への支援体制について学ぶ。</p> <p>さらにゲストスピーカー（当事者）の語りにより、当事者の思い等を理解したうえで看護援助方法を考える。</p> <p>本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経験を踏まえて精神看護学に関する実践的</p>
到達目標	<p>各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。</p> <p>ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。</p> <p>地域における精神保健福祉活動が理解できる。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>看護師国家試験受験資格のための必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴 (1)	統合失調症 (者) の理解と看護	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
2	疾患による看護の特徴 (2)	気分障害 (者) の理解と看護	事前:「第7章Ⅱ-C・D (P289~300)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-C・D (P289~300)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
3	疾患による看護の特徴 (3)	神経症性障害 (者) の理解と看護	事前:「第7章Ⅲ-C (P324~329)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅲ-C (P324~329)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
4	疾患による看護の特徴 (4)	パーソナリティ障害・摂食障害 (者) の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-N (P134~137)」「第7章Ⅲ-D (P329~333)」を読んでください (1時間)。 事後:「第3章Ⅱ-N (P134~137)」「第7章Ⅲ-D (P329~333)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
5	疾患による看護の特徴 (5)	アルコール依存および薬物依存 (者) の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-L (P121~127)」「第7章Ⅱ-E (P300~306)」を読んでください (1時間)。 事後:「第3章Ⅱ-L (P121~127)」「第7章Ⅱ-E (P300~306)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
6	疾患による看護の特徴 (6)	身体合併症をもつ対象の看護	事前:「第7章Ⅳ (P333~350)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅳ (P333~350)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
7	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前:「第8章 (P351~421)」を読んでください (1時間)。 事後:「第8章 (P351~421)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
8	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前:「第6章 (P221~252)」を読んでください (1時間)。 事後:「第6章 (P221~252)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
9	事例演習 (1)	情報収集と整理①	事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
10	事例演習 (2)	情報収集と整理②	事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
11	事例演習 (3)	アセスメント①	事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
12	事例演習 (4)	アセスメント②	事前:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第6章 (P221~252)」「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
13	事例演習 (5)	問題点の整理	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。

	14	事例演習 (6)	看護計画立案 評価・修正	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
	15	ゲストスピーカー (当事者) の理解	ゲストスピーカー (当事者) の語り	事前:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」を読んでください (1時間)。 事後:「第7章Ⅱ-A (P270~284)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生 (編集)	メヂカルフレンド社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神疾患にかかわる人が最初に読む本	西井重超	照林社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	合否は定期試験 (80%)、ワークシートおよび演習時の課題 (20%) を総合して評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室18 (山本智)、研究室19 (眞野)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。			

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名 (英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 田中 結華, 安田 香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2061a0		

授業概要・目的	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。 講義でCOPDを発症している事例で看護展開をデモンストレーションする。グループ学習では、3事例(脳梗塞後遺症のある事例、ALSを発症し人工呼吸を装着している事例、肝臓がんの終末期の事例)のうち1事例を看護展開していく。また、チームアプローチの一手段としてサービス担当者会議をロールプレイングして多職種連携の重要性を学ぶ。 主担の教員は、保健
到達目標	1. 在宅における看護過程の展開を理解できる 1) 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 2) 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 3) 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 4) 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) 5) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 6) 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 2. 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で
授業方法と留意点	この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。 ・事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください。課題については、moodleに提出する方法をとり、moodleを用いてフィードバックしていきます。初回の授業時に課題ファイルを渡しますので授業時には必ず持参してください。 ・家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 ・グループワークが多くなります。グループで出てきた意見と教員のコメントをよく聞いて学びを深めていく授業展開になり
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他の看護学領域実習に必要な「知識・技術・態度」を身につけることができる。看護師国家試験受験のために単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義:2コマ続き 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	事前:看護過程の構成要素について復讐をしておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(3時間)
2	同上	同上 次回から検討する事例と担当教員について発表する。	同上
3	演習: 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
4	演習: 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化続き	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
5	演習:2コマ続き 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
6	演習: 同上	同上	中間発表に向けて、グループ学生同士のディスカッションをしておくこと(30分)
7	演習: 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容について実演へ向けて準備する。	事後:実演へ向けて、グループ内でディスカッションおよびシミュレーションをしておく(2時間) 援助計画については、頭に入れておく グループの援助計画を担当教員に提出
8	演習:2コマ続き 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を実演し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを実演する(40分)。	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(1時間)
9	同上	同上	同上
10	演習: 実演内容と評価の準備	実演の評価を行う。 資料をパワーポイントで作成する。	事後:グループ発表へ向けてグループ学生間でディスカッションをしておく(1時間) 指示された期日に発表資料を担当教員に1部提出 他のグループの発表資料に目を通し質問できるよ

				うにしておく(1時間)
	11	演習: 実演内容と評価	担当教員ごとのグループ内で意見を交換する	事後:1回~11回までの看護過程の展開の一連の流れについて整理する(1時間) ジェノグラム・エコマップについて復習しておく(1時間) 提示した課題を行う(1時間)
	12	演習: チームアプローチの実際	同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について検討する。	事前在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を復習しておく(30分) 事後:本日の内容を整理する(1時間)
	13	演習:2コマ続き サービス担当者会議の準備	社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	事前:サービス担当者会議について復習する(30分) 事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出
	14	演習: サービス担当者会議の実際	関係職種になり切り、サービス担当者会議を実演する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出 提示した在宅看護実践のまとめの要点について、1回~14回で学んだ事と教科書等を参考にまとめる(2時間)
	15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	事前:在宅看護実践に対して自分なりの意見を持って参加する。 事後:指示された期日に最終レポート課題に沿って作成し、今までの課題を綴じた個人ファイルとともに提出する(4時間)
関連科目	家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 「在宅看護論」	河原加代子	医学書院
	2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」	臺有桂	MCメディカ出版
	3	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ
	2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen
	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版
評価方法(基準)	授業ごとの課題提出50%、演習への参加姿勢(ピア評価)20%、演習を終えての課題レポート30%の配分で評価を行う			
学生へのメッセージ	グループ学習は、個人の事前・事後学習を通しての参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケア力が発揮されるような支援方法について学習しましょう。			
担当者の研究室等	山本十三代 7号館 3階 第5研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 安田香 7号館 3階 共同研究室1			
備考	演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。			

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 富永 真己, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p>&lt;授業概要&gt; 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p>&lt;実習目的&gt; 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の役割と方法を述べることができる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。</li> <li>4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。</li> <li>5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <p>訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学臨床実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。</li> <li>2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。</li> <li>3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。</li> <li>4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。</li> <li>5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱを基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	2.3年次に用いた教科書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜、紹介する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																																																																		
備考	体調管理に留意すること。																																																																		



科目名	看護倫理	科目名 (英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3064a0		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。担当責任者である鎌田は、臨床で看護師としての6年の実践経験をもとに、具体的な事例に対する倫理原則や理論を用いたアプローチ方法および、倫理的な姿勢について教授する。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	臨地実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。臨地実習で経験した1事例を選択し、倫理課題の整理とアプローチ方法に基づきグループでディスカッションを行い、倫理的な姿勢や態度を養う。各グループで検討した内容についてプレゼンテーションを行い、学びを共有する。本授業は原則対面授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護倫理の基礎	倫理とは 倫理原則 看護における倫理 意思決定のプロセス	事前：基礎看護学概論で学習した看護倫理にかかる概念について、復習をしておく。(1時間) 事後：実習での倫理課題の場面を再構成する(1時間)
2	倫理課題へのアプローチ	倫理原則に基づくアプローチ法について 倫理原則に基づく倫理カンファレンスについて	事前：個々の事例の整理(1時間) 事後：事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
3	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前：個々の事例の整理(1時間) 事後：事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
4	事例検討	成人および老年事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのプロダクト作成(1時間)
5	事例検討	妊産褥婦および小児事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
6	事例検討	地域・在宅および精神事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前：事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
7	子ども虐待と倫理	多視点から子ども虐待の現状を理解し、看護を考える	事前：子ども虐待の現状について(1時間) 事後：グループワークのまとめ資料作成(1時間)
8	子ども虐待に対する看護者の役割 臨時試験	子ども虐待に対する看護者としての在り方、姿勢を考える	事前：子ども虐待に対する看護者の役割について(1時間) 事後：全授業の振り返り(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 20%、臨時試験 80%
-----------	-----------------

学生へのメッセージ	臨地実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 鎌田研究室17
----------	---------------

備考	・実習で経験した事例をもとに倫理的な視点から振り返り、グループディスカッションを通じて事例を検討を行う。
----	--

科目名	看護教育学	科目名 (英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	佐久間 夕美子, 撫養 真紀子, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3065a0		

授業概要・目的  
看護学教育における教育制度とその歴史の変遷について理解を深め、教育方法や教育評価等に関する基礎的知識を得る。また、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、倫理性的の涵養、教育環境づくりなど、継続教育の重要性をふまえた知識や理論・方法論を学修する。科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU病棟、外来等、看護師として約10年間勤務した経験を活かし、臨床実践も踏まえた看護教育に関する教育を行う。

- 到達目標
1. 看護教育学とは何か、関連する概念について述べることができる。
  2. 看護教育制度の歴史の変遷について説明することができる。
  3. 看護教育制度の現状と課題について自己の考えを述べるができる。
  4. 看護学教育の基盤となる主要な理論、概念について理解することができる。
  5. 看護教育におけるカリキュラムとその評価について理解することができる。
  6. 臨地実習における教育と学習、その位置づけについて理解することができる。
  7. 看護学教育の授業設計、評価について理解することができる。
  8. 今後の

授業方法と留意点  
教科書及び配布資料を中心として授業を進める。最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また、具体的な教育場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。また、教育者と学習者への関わり方、倫理的配慮についてグループワークまたはディスカッションを通して学びを共有する。

科目学習の効果 (資格)  
これまで自身が受けてきた看護基礎教育全般に関わる科目です。現在、自身が学んでいる看護学教育の歴史、学習に関する理論・方法、評価など、基礎的な知識を身につけます。看護基礎教育におけるカリキュラムや臨地実習について、教育者が何を考え、何を大切にしているのかを客観的に知り、学びに変えてゆくことは大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護教育学とは何か	・看護教育学とは何か、関連する概念について ・看護教育課程について	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
2	看護教育制度と歴史の変遷	・看護教育制度と歴史の変遷 ・看護教育制度の現状	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
3	看護教育の基盤①	看護教育の基盤となる理論・概念	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
4	看護教育の基盤②	学習理論と学習方法	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
5	看護教育におけるカリキュラム	カリキュラム開発・デザイン、評価	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
6	臨地実習における教育と学習	臨地実習における教育の理論的背景と位置づけ	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
7	看護教育における授業設計・評価	授業設計と教育評価	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間程度)
8	まとめ	これまでの講義をふまえ、今後の看護教育の在り方や自己の学習姿勢についてまとめる。	事前課題：教科書の該当部分を読んでおくこと。(1時間程度) 事後課題：これまでの学びをまとめ、課題レポートを作成する。(2時間程度)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目  
看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレッグ美鈴/池西悦子	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための教育学	中井 俊樹 / 小林 忠資	医学書院
2				
3				

評価方法 (基準)	筆記試験 (60%)、課題レポート、プレゼンテーション、授業態度等 (40%) 原則、全講義を出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生への メッセージ	これまで自身が受けてきた教育の理論的背景や教育者の意図を俯瞰的にとらえることは、自身に向き合うだけでなく、人として成長することにもつながります。この科目で得た基礎的知識は、これから看護基礎教育を終え、継続教育や卒後教育を受けてゆくなかで、看護専門職としてのよりよい学びや成長の一助になると考えます。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)
備考	

科目名	国際看護学	科目名 (英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己, 西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3066a0		

授業概要・目的	世界の人々の健康問題について理解を深め、国際看護活動の現状と課題及び意義について学び、看護を行う上で見つけておきたい国際的な視野を養う。海外での看護活動をめざす学生だけでなく、日本の看護現場でも必要な異文化の理解とグローバル化、国際化の中で求められる国際看護や国際協力のあり方に関する自分の意見を持てるようにする。
到達目標	(1) グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について説明できる。 (2) 日本社会が多文化共生を目指すうえで、異文化・多文化における看護の実際と課題について説明できる。 (3) グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について説明できる。 (4) 世界の人々の健康問題と国際協力における看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	日本社会が多文化共生を目指すうえで、医療・保健・看護の分野においても異文化・多文化の理解は必要不可欠で、看護専門職としての支援について幅広く考えることができる。また、将来の活躍の場の可能性を広く捉えることができる。将来的に国家試験での出題も予測されるため、試験対策としての知識習得ともなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	国際看護学のオリエンテーション、グローバル・ヘルスとグローバル看護	公衆衛生看護学オリエンテーション(カリキュラム上の位置づけについて)、グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について学ぶ。	事前: テキストを読んでくる(テキストP2~23)と同時に、関係する資料を調べ読み予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	2	異文化・多文化と看護1	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際について学ぶ。	事前: テキストP26~52を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	3	異文化・多文化と看護2	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際と課題について事例を通じて学ぶ。	事前: テキストP33-65を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	4	グローバル看護における社会制度と看護実践、情報の利用	グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について、事例を通じて学ぶ。	事前: テキストP65~93を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	5	国際協力と看護 -青年海外協力隊の活動-	国際協力の仕組みと国際看護活動の現状と課題、看護の役割について学ぶ。	事前: 教科書P128~141を読み、分からない言葉を調べる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	6	異文化理解とコミュニケーション	異文化の疑似体験を通して、言葉や価値観が異なる人同士が分かり合うために必要な態度やスキルについて学ぶ。	事前: 事前配布資料を読む(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、ミニレポートをまとめる(1時間)。
	7	開発途上国における子どもの健康	開発途上国の子どもの健康問題について学ぶ。	事前: 教科書P115-117を読む。開発途上国における子どもの健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する(1時間)。
	8	開発途上国における女性の健康	開発途上国の女性の健康問題について学ぶ。	事前: 教科書P62-64を読む。開発途上国における女性の健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する(1時間)。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

関連科目	公衆衛生学、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際看護学: グローバル・ナーシングに向けての展開	南裕子監修, 新川加奈子, 大野夏代, 神原咲子	中山書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	・本科目は、海外で看護実践者として実務経験を有する教員に加え、海外の在留邦人や国内の外国人の研究経験を有する教員が担当します。授業ではそれらの経験を踏まえ事例などの紹介を積極的に取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	富永真己 7号館3階研究室7 西頭知子 7号館3階研究室14
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	海外医療セミナー	科目名 (英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等により、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場・講義での学習を通して、日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。																																																																		
到達目標	1. 日本と海外の看護・保健・医療の違いについて正しく理解する。 2. 日本と海外の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる医療者としての態度を身に付けることができる。 2. 日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について述べることができる。																																																																		
授業方法と留意点	2021年度は不開講です。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	-																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-	2	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	6	-	-	-	7	-	-	-	8	-	-	-	9	-	-	-	10	-	-	-	11	-	-	-	12	-	-	-	13	-	-	-	14	-	-	-	15	-	-	-
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-																																																																
2	-	-	-																																																																
3	-	-	-																																																																
4	-	-	-																																																																
5	-	-	-																																																																
6	-	-	-																																																																
7	-	-	-																																																																
8	-	-	-																																																																
9	-	-	-																																																																
10	-	-	-																																																																
11	-	-	-																																																																
12	-	-	-																																																																
13	-	-	-																																																																
14	-	-	-																																																																
15	-	-	-																																																																
関連科目	国際看護学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	事前学習、海外研修、報告会																																																																		
学生へのメッセージ	事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。 海外研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものができるよう自ら働きかけること。 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階研究室16 (池田研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	災害看護論	科目名 (英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 稲垣 美紀, 西上 あゆみ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2068a0		

授業概要・目的	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要である。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。
到達目標	1) 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解することができる 2) 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明することができる 3) 災害サイクルに応じた看護活動を説明することができる 4) 災害がもたらす人々へのこころの影響とそのケアについて説明することができる 5) 個人の備えを含め、看護師としての具体的な備えを理解することができる
授業方法と留意点	本講義では教科書・資料を用いて行います。新聞、テレビ等のマスメディアで取り上げられている災害看護に関する問題について情報収集しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	災害急性期の看護	1) 災害医療システム 2) 初動期の医療救護活動 3) トリアージ 4) 災害訓練	事前:教科書の3章、4章、7章、8章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
3	災害中・長期の看護 こころのケア	1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題 3) 被災者の心理 4) 災害時のストレス反応やPTSD 5) 被災者のメンタルケア	事前:教科書の6章、7章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
4	要援護者へのケア	1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	事前:教科書の5章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
5	災害への備え	1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	事前:教科書のコラムに目を通し、備えについて考えておく 事後:授業の振り返り (各30分)
6	救援活動(国内・国際)	1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動 4) 救護者へのケア	事前:教科書の10章を読んでおく 事後:授業の振り返り (各30分)
7	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習:興味のある対象者の災害看護について学習し、まとめる。(各1時間)
8	災害時の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討し、発表する	事前・事後学習:学習した内容を提出する。(各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論を含む看護科目
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3): 災害看護	酒井明子	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	災害看護学・国際看護学、	西上あゆみ・神崎初美	放送大学教育振興会
2	災害看護	三澤寿美・太田晴美	学研	
3	避難所・仮設住宅の看護ケア	黒田裕子・神崎初美	日本看護協会出版会	

評価方法 (基準)	授業への参加状況、レポート、テストで評価する
学生へのメッセージ	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	看護研究 I	科目名 (英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 青野 美里, 足立 安正, 飯田 恵子, 池田 友美, 泉川 孝子, 井田 歩美, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 今井 秀人, 小川 宣子, 鎌田 佳奈美, 神谷 美紀子, 亀田 直子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 富永 真己, 中山 祐一, 長沢 美和子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子, 舟木 友美, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 村瀬 由貴, 森谷 利香, 安田 香, 山居 輝美, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP7△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データは何をどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究計画の立案に向けて研究の基本的事項を講義形式で身につける。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究のイメージが具体的に描けるようになる。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を認識できるようになる。
授業方法と留意点	講義(前半 10 コマ)とゼミ(後半 5 コマ)を組み合わせで行う。4/22 以降は、対面、ハイフレックス、Teams または Moodle で行う。指示に従うこと。
科目学習の効果 (資格)	研究の具体的なプロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p1-10, p37-41) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	2	研究テーマを決める	概念図を描く	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p12-18) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	3	研究の倫理	研究の倫理の歴史と科学的姿勢	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p31-36) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	4	文献の検索方法	主な文献検索ソフトの使い方と演習	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p44-5) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	5	量的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p130-132 を読む) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	6	量的研究 (2)	文献の読み方、論文の書き方	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p52-59, p133-138) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	7	量的研究 (3)	質問票のつくり方	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p72-78) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	8	質的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p84-90, p130-13) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	9	質的研究 (2)	インタビューガイドとデータ分析	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p90-102) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	10	研究計画書の書き方	概略と演習	・ 予習をすること (教科書の該当箇所 p19-30) (30 分) ・ わからない点をまとめておくこと (30 分)
	11	領域別ゼミ形式授業 1	各領域による	各領域による
	12	領域別ゼミ形式授業 2	各領域による	各領域による
	13	領域別ゼミ形式授業 3	各領域による	各領域による
	14	領域別ゼミ形式授業 4	各領域による	各領域による
15	領域別ゼミ形式授業 5	各領域による	各領域による	

関連科目 疫学、統計の基礎

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽しくなる看護研究	上野栄一ほか	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ ・ 授業では、最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。



担当者の 研究室等	7号館3階24、各領域
備考	

科目名	総合看護学演習	科目名 (英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 足立 安正, 池田 友美, 小堀 栄子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 田中 結華, 西頭 知子, 村瀬 由貴, 山口 太郎, 山本 智津子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN4071a0		

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。担当教員の経験に基づき、以下の内容を教授する。
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、対面または遠隔での講義および演習形式で実施する。各教員の指示に従うこと。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家資格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	2	基礎看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	3	成人看護学 (急性) および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	4	成人看護学 (慢性) および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	5	老年看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	6	小児看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	7	母性看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	8	精神看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	9	在宅看護学および関連する人体の構造・病理学・疾病	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	10	地域看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	11	公衆衛生学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	12	医療福祉	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	13			
	14			
	15			

関連科目	全専門基礎科目、全専門科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー
	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石束佳子	照林社
	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA

評価方法 (基準)	定期試験および臨時試験、課題等で評価する。
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	各担当教員の研究室
----------	-----------

備考	講師の都合により、上記授業順序はこの限りではありません。
----	------------------------------

科目名	周産期医学	科目名 (英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋, 河田 興, 齊藤 三佳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3073a0		

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生 (NCPR) を習得する。
授業方法と留意点	産科：集中講義の形での授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるように、知識ならびに手技・手法を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	事前課題：自分の出生の聞き取り (1時間) 事後：講義の復習 (1時間)
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候	事前：なし 事後：講義の復習
3	妊娠による母体の変化と異常-1	妊娠による母体の変化と異常 (初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胞状奇胎) 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
4	新生児蘇生	新生児蘇生について、演習含む	事前：なし 事後：講義の復習
5	新生児の疾患-1	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など	事前：なし 事後：講義の復習
6	妊娠による母体の変化と異常-2	妊娠による母体の変化と異常 (中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症) 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
7	分娩の生理と異常-1	分娩の生理と異常 (分娩の三要素とそれらの異常、対処方法...胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
8	分娩の生理と異常-2	分娩の生理と異常 (産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
9	新生児疾患-2	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など	事前：なし 事後：講義の復習
10	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について。	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
11	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応 (低出生体重児・早産児を含む)	事前：なし 事後：講義の復習
12	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1 (子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血) 実技：縫合実習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
13	妊娠合併症	妊娠合併症 (妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
14	合併症妊娠	合併症妊娠 (感染症:HIV, HTLV, GBS, クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
15	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)

関連科目 助産学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト2015改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社
3	新生児学入門第4版	仁志田 博司	医学書院

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 産科：事前課題の提出 (10%)、授業への参加 (10%)、および試験 (80%)  
新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。

学生への 産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今

メッセージ	までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりとって講義に参加してください。 新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践していくために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	助産学概論	科目名 (英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	助産の歴史および母子保健の変遷を学び、助産の概念と意義、助産師の役割と専門性を学ぶ。また、助産ケアの基盤となる考え方を学び、国際的な共通水準をもつ助産師業務や活動のあり方を学ぶことで、助産師としてのアイデンティティの確立をスタートさせる。 本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。
到達目標	1. 助産の概念と関連する理論について理解できる。 2. 助産の歴史と文化について理解できる。 3. 助産師教育の変遷と専門職業人としての責務を果たすための卒後教育制度について理解できる。 4. 母子保健の動向と諸制度について理解できる。 5. 助産に関連する倫理について理解できる。 6. リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。 7. 助産師の行う研究の意義について理解できる。
授業方法と留意点	講義を聴くことを契機とし、自己の探求心に気づき、積極的に学びを深化させるよう努力してください。 講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の自身の助産師としてのアイデンティティの確立に影響を及ぼす科目です。 さらに、助産師国家試験受験資格取得にかかわる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産と概念	助産の定義と意義について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 2~27) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、現在の助産師に求められている役割を考える。(前後、各1時間)
2	助産に関係する概念と理論	対象を理解するための理論、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 28~33) を読んでくる。(0.5時間) 事後学習課題：講義内容を整理し、自分の言葉で理論の説明ができるようにまとめる。(1.5時間)
3	助産師の歴史と文化	古代から昭和時代の助産の変遷、諸外国の助産の変遷および文化における助産(妊娠・出産・育児)について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分 (p. 130~159) を読んでくる。 事後課題：講義内容を整理し、助産師とはどのような職種なのか、現代社会における課題にどう貢献する役割をもつのかを考える。(前後、各1時間)
4	助産師教育	助産師教育の変遷と卒後教育について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 162~172) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としての責務を果たすための自己の卒後教育プランを考える。(前後、各1時間)
5	助産と法律	助産師の定義と業務・責務について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 36~52) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、法律については、正確に記憶するよう努める。(前後、各1時間)
6	日本と諸外国の母子保健(1)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 98~128) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、21世紀における新たな課題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
7	日本と諸外国の母子保健(2)	日本と諸外国の母子保健の歴史と現状と母子保健の動向と諸制度について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 98~128) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、21世紀における新たな課題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
8	助産に関連する倫理(1)	生殖補助医療、人工妊娠中絶、減数手術について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 88~96) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としてかわる倫理的問題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
9	助産に関連する倫理(2)	出生前診断、着床前診断について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分 (p. 88~96) を読んでくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、助産師としてかわる倫理的問題について、自己の考えをまとめる。(前後、各1時間)
10	リプロダクティブヘルスケア(1)	リプロダクティブヘルスケアとはなにかを学ぶ。	事前課題：リプロダクティブヘルスケアとは何かを調べて、まとめてくる。 事後学習課題：講義内容を整理し、リプロダクティブヘルスを達成するためのケアについて考える。(前後、各1時間)
11	リプロダクティブヘルスケア(2)	プレコンセプションケア、DV防止、妊娠期からの虐待予防などについて学ぶ。	事前学習：プレコンセプションケア、DV防止、妊娠期からの虐待予防について調べてくる。 事後課題：グループワークのテーマについて調べ、資料を収集する。

				(前後、各1時間)																
	12	グループワーク	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについてグループワーク、発表準備をする。	事前課題：グループワークのテーマについてまとめる。(1.5時間) 事後学習課題：グループワークした内容を発表するための準備(発表資料、発表原稿 PowerPoint の作成)を行う。(2時間)																
	13	グループワークの発表	助産に関連した倫理とリプロダクティブヘルスケアについての発表およびディスカッションを行う。	事前課題：配布された発表資料を読み、質疑を考える。 事後学習課題発表・質疑応答を整理する。(前後、各1時間)																
	14	助産と研究(1)	助産学における研究について、エビデンスに基づく実践の重要性を学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分(p.62~85)を読む。 事後学習課題：講義内容を整理し、興味のあるテーマを抽出する。(前後、各1時間)																
	15	助産と研究(2)	助産学における研究について、エビデンスに基づく実践の重要性を学ぶ。	事前課題：テーマに沿った文献を1論文準備する。 事後学習課題：講義内容を整理し、準備した文献をクリティークする。(前後、各1時間)																
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論	我部山キヨ子編	医学書院	2	助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕	我部山キヨ子編	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座1基礎助産学〔1〕助産学概論	我部山キヨ子編	医学書院																	
2	助産学講座2基礎助産学〔2〕母子の基礎科学〔第5版〕	我部山キヨ子編	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	テーマレポート30%、発表資料の作成と準備および発表会への参加度20%、試験50%																			
学生へのメッセージ	この科目は、助産師を目指す皆さんが最初に学ぶ第一歩めの科目になります。母子を取り巻く社会や性と生殖に関する課題の変化とともに助産師のあり方も拡大・複雑化しています。助産師としてのアイデンティティの確立に向け、興味関心をもち積極的に取り組まれることを期待しています。																			
担当者の研究室等	井田(研究室12)																			
備考																				

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3075a0		

授業概要・目的	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。また、流産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリスク妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。
到達目標	本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。 1. 妊娠期の助産診断の特徴について理解できる。 2. 妊娠期の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化について理解できる。 3. 正常および異常妊婦の妊娠経過と適応過程についてアセスメントし、助産診断できる。 4. 助産診断に基づき、必要な助産計画を立案できる。 5. 妊婦の家族も含めた支援について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って、講義とグループワークにて進める。グループワークでは、指定教科書や配布資料以外にも活用できる資料を見つけて利用すること。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	妊娠期における助産診断の特徴を学ぶ	事前：教科書 1 (P2-40) と授業資料を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
2	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (1)	妊娠による母体の生理的変化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前：教科書 1 (P42-47、P68-77) と授業資料を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
3	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (2)	妊娠による母体の生理的変化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前：教科書 1 (P42-47、P68-77) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
4	妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期の心理状態と妊婦・夫婦・家族にとっての社会的変化およびそれらに対する妊婦の適応状態を把握するためのアセスメントについて学ぶ。	事前：教科書 1・2 (1. P80-96、2. 28-56) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
5	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前：教科書 1 (P174-209) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
6	妊娠期の助産過程の展開 (1)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(経過診断)	事前：教科書 1 (P5-7、P160-173) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。
7	妊娠期の助産過程の展開 (2)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。(健康生活診断)	事前：教科書 1 (P5-7、P160-173) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。
8	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前：教科書 1 (P210-288) を読む。(1 時間) 事後：グループで助産過程を展開する。(1 時間)
9	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前・事後：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)
10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1 時間) 事後：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1 時間)
11	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (1)	妊娠期におこる可能性のある病態について学ぶ。	事前：教科書 1 (P98-158) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
12	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 (2)	合併症を有する妊婦の妊娠経過について学ぶ。	事前：教科書 1 (P98-158) を読む。(1 時間) 事後：授業内容を整理する。(1 時間)
13	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前：教科書 1 (P290-341) を読む。(1 時間) 事後：グループで助産過程を展開する。(1 時間)
14	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前・事後：グループで助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする。(各 2 時間)
15	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで助産過程を展開し、発表資料として提出する。(1 時間) 事後：グループ討議の内容を受けて展開した助産過程を見直し、修正後最終提出する。(1 時間)

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論 I, 母性看護学援助論 II, 母性看護学実習, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学 II, 助産診断・技術学 III, 助産技術学演習 I, 助産技術学演習 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期 医学書院	我部山キヨ子 他	医学書院

	2	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院
	3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科 婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	3	今日の助産	北川真理子 他編集	南江堂
評価方法 (基準)	定期試験 70% 提出課題 30%			
学生への メッセージ	助産学実習での実践的な学びにつながるような授業を行います。助産学実習で活用できるよう、資料や自己学習ノートを整理しまとめておくとよいと思います。グループワークが円滑に進むよう、各自が役割を果たし、積極的に取り組んでください。			
担当者の 研究室等 備考	7号館3階 西頭知子(研究室14)			



科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3076a0		

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。また講義時にはCG動画を用いて、分娩のメカニズムを学習する。助産診断は分娩経過に合わせて事例を用い、思考過程に沿って助産診断を学習する。</p> <p>(目的)</p> <p>分娩期の</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる</li> <li>2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる</li> <li>3. 分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる</li> <li>4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる</li> <li>5. 助産診断に基づいて援助計画が立案できる</li> <li>6. ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる</li> </ol>
授業方法と留意点	資料、テキスト、DVD、PowerPoint を用いて授業を実施します。助産診断過程の展開は、講義終了後に課題が出ます。次回の講義までに完成させないといけません。また個人の理解度を確認するため、適宜課題の提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	正常分娩の経過についての理解 ・分娩経過の全体像 ・分娩の3要素 娩出力 産道 娩出物 (胎児及び附属物) ・分娩期における助産診断の特徴	事前課題：1週間前に分娩期の知識の復習のため課題を出します。テキスト「病気が見える」P186～215を参考に仕上げてくる(講義当日朝に提出)(1時間) 事後課題は：本日の知識の復習(課題レポート)(1時間)
2	正常分娩の経過と助産診断(1)	胎児の分娩機転 ・児頭の回旋 分娩経過の全体像 ・前駆期 ・分娩の開始 ・分娩第1期 ・分娩第2期 ・分娩第3期 ・分娩第4期	事前課題：前回の講義時に配布した課題のレポート(1時間) 事後課題：本日の知識の復習(課題レポート)(1時間)
3	正常分娩の経過と助産診断(2)	分娩期の助産診断の特徴と診断類型について ・分娩期助産診断のポイント ・分娩予測 ・母体の診断 分娩開始の診断 分娩時期の診断 分娩進行状態の診断	事前課題：なし 事後課題：診断項目に対する診断指標を完成させる。(2時間)
4	正常分娩の経過と助産診断(3)	分娩経過に伴う胎児の健康状態の診断と対処 ・胎児の診断 ・胎児の健康状態のアセスメント ・胎児附属物の診断 ・CTGモニターの判読	事前課題：「図説CTGテキスト」P2～10までを読み、理解してくる。(1時間) 事後課題は：提示されたモニター所見を判読・診断を記載し、提出する。(1時間)
5	正常分娩の経過と助産診断(4)	分娩経過に伴う産婦や家族の心理・社会的背景に関連する助産診断と援助与える影響 ・夫立ち会い分娩について ・産婦の健康生活	事前課題：助産診断技術学Ⅱ(医学書院)P34～44を読み、出された課題に対してプレゼンの準備(2時間) 事後課題：なし
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・電話連絡時 ・分娩第1期	事前課題：陣痛発来で入院時の判断について、電話での問診項目を調べてくる。(1時間) 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成(1時間)
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画立案 ・分娩第1期(極期～分娩第2期まで)	事前課題：助産過程の展開を行う(1時間) 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成(1時間)
8	分娩期の事例を用いた助産	事例を用いて助産過程を展開し、事例の	事前課題：助産過程の展開を行う(1時間)

		過程の展開 (3)	助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・分娩準備及び分娩室入室の診断 ・児娩出までの診断	事後課題：本日用いた知識確認資料の完成 (1 時間)																
	9	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	事例を用いて助産過程を展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案 ・分娩第 3 期 ・分娩第 4 期	事前課題：助産過程の展開を行う (1 時間) 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成 (1 時間)																
	10	助産診断の実践	各自与えられた事例の助産診断・助産計画を立案	事前課題：なし 事後課題：助産診断・計画を立案 (1 時間)																
	11	助産診断の実践	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。この事例を用いて分娩介助試験を実施	事前課題：事例の助産診断を完成させる (1 時間) 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う (2 時間)																
	12	分娩経過の異常と助産診断	分娩の 3 要素の異常と診断	事前課題：助産診断技術学 II (医学書院) P170～190 までを参考に課題を完成させる。(1 時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1 時間)																
	13	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応	事前課題：助産診断技術学 II (医学書院) P244～253 までを参考に課題レポートを完成させる。(1 時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1 時間)																
	14	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	身体的・心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメントと診断、支援	事前課題：助産診断技術学 II (医学書院) P192～209 まで目を通して (1 時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1 時間)																
	15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前術後のアセスメントと支援	事前課題：助産診断技術学 II (医学書院) P212～243 までを参考に課題レポートを完成させる (1 時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1 時間)																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，周産期医学，助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図説 CTG テキスト</td> <td>中井章人</td> <td>MEDICAL VIEW</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院	2	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
2	図説 CTG テキスト	中井章人	MEDICAL VIEW																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>産科診療ガイドライン—産科編 2017—</td> <td>日本産婦人科学会</td> <td>日本産婦人科学会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母体急変時の初期対応第 2 版</td> <td>日本母体救命システム普及協議会</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病気がみえる</td> <td>井上裕美他</td> <td>MEDIC MEDIA</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	産科診療ガイドライン—産科編 2017—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会	2	母体急変時の初期対応第 2 版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版	3	病気がみえる	井上裕美他	MEDIC MEDIA
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	産科診療ガイドライン—産科編 2017—	日本産婦人科学会	日本産婦人科学会																	
2	母体急変時の初期対応第 2 版	日本母体救命システム普及協議会	メディカ出版																	
3	病気がみえる	井上裕美他	MEDIC MEDIA																	
評価方法 (基準)	定期試験 60% 助産過程の展開・助産診断と助産計画の課題 30% 各回のリフレクションの記入(本日の学び) 10%																			
学生へのメッセージ	学生は講義時に提示された課題を通して知識の確認を行い、助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は指示されたところまで必ず期限内に完成させるようにしましょう。分娩期の知識が分娩介助技術を習得するうえで必要な知識となります。																			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 但馬 (研究室 20)																			
備考	講義時の資料や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。																			

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美, 名草 みどり
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3077a0		

授業概要・目的	<p>(概要)          褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。</p> <p>(目的)          産褥・新生児期の助産診断の特徴と経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。</p> <p>この科</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる。</li> <li>2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる。</li> <li>3. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる。</li> <li>4. 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	講義を聴き、各自レポート作成ののち、グループワークおよび発表、ディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	助産学実習に直接つながる科目であり、助産師国家試験受験資格取得にかかわる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産褥期の助産過程の展開	産褥期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第5版) 第11章 産褥期の助産診断を読んでくる。 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
2	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断について学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第5版) 第9章 産褥期の生理を読んでくる。 事後課題：事例の情報整理をする。 (各1時間)
3	母乳栄養確立および母子関係・家族形成過程の助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断および母乳育児を促進するための援助を学ぶ。母子関係形成・育児行動取得・家族形成に向けた援助を学ぶ。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ (p278～299)を一読してくる。 事後課題：事例のアセスメントをする。 (各1時間)
4	ハイリスク褥婦の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助として、NICU・GCUと母子関係形成への援助について学ぶ。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [3] (第5版) 第4章 E 新生児のケアを読んでくる。 事後課題：事例のアセスメントをする。 (各1時間)
5	産褥の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断を行う。	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ (第15章 ABC)を一読してくる。 事後課題：事例の助産診断を行う。 (各1時間)
6	産褥の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画を立案する。	事前課題：産褥期の心理について助産診断・技術学Ⅱ (第10章, 12章-C・F)、(第2章)を一読してくる。 事後課題：事例の助産計画を立案する。 (各1時間)
7	産褥の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案する。	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [3] (第5版) 第14章を読んでくる。 事後課題：事例の個別指導内容を立案する。 (各1時間)
8	正常新生児の助産診断	新生児の胎外生活への適応過程と生後1か月までの生理的变化について学ぶ。	事前課題：『助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期』p.8～33までを読み、配布した授業資料を整理する。 事後課題：学習した内容を整理し、次回の確認テストの準備を行う。 (各1時間)
9	新生児期の助産過程の展開	新生児期における助産診断の特徴と助産過程の展開における理論・方法について学ぶ。	事前課題：母性看護学実習で取り組んだ看護過程の展開を振り返る。 事後課題：助産過程の展開方法について振り返り、不明な点を明らかにする。 (各1時間)
10	新生児の事例を用いた助産過程の展開(1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める。	事前課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 ※情報整理・アセスメント・診断 (2時間) 事後課題：グループワークした内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間)
11	新生児の事例を用いた助産過程の展開(2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める。	事前課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 ※情報整理・アセスメント・診断 (2時間) 事後課題：グループワークした内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間)
12	新生児の事例を用いた助産過程の展開(3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める。	事前課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 ※情報整理・アセスメント・診断 (2時間) 事後課題：グループワークした内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間)

	13	新生児の事例を用いた助産過程の展開(4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める。	事前課題：各自、新生児の助産過程の展開を進める。 ※診断に基づいた個別指導案を含む助産ケア計画(2時間) 事後課題：グループワークした内容について、各自、加筆・修正を行う。(1時間)																
	14	発表とまとめ(1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題：グループごとに発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題：最終提出に向けて、加筆・修正を行う。(1時間)																
	15	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う。	事前課題：グループごとに発表資料をまとめ、発表準備を行う。(2時間) 事後課題：最終提出に向けて、加筆・修正を行う。(1時間)																
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期</td> <td>横尾京子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	横尾京子編	医学書院	2	助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院	3	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	横尾京子編	医学書院																	
2	助産学講座3基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子編	医学書院																	
3	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子編	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新生児学入門第4版</td> <td>仁志田博司著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座9地域母子保健・国際看護学</td> <td>我部山キヨ子/毛利多恵子編</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学</td> <td>我部山キヨ子編</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院	2	助産学講座9地域母子保健・国際看護学	我部山キヨ子/毛利多恵子編	医学書院	3	助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新生児学入門第4版	仁志田博司著	医学書院																	
2	助産学講座9地域母子保健・国際看護学	我部山キヨ子/毛利多恵子編	医学書院																	
3	助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山キヨ子編	医学書院																	
評価方法(基準)	課題への取り組み(各自レポート作成、グループワークおよびディスカッション参加状況、発表準備)30% 確認テスト(小テスト)20% 試験50%																			
学生へのメッセージ	産褥・新生児期における助産過程を展開して必要な助産ケアを導きだし、個別指導案の作成を行います。助産技術学演習Ⅰでの個別・集団指導の実施につながる科目となりますので、積極的に取り組まれることを期待しています。																			
担当者の研究室等	井田歩美(研究室12)、名草みどり(研究室13)																			
備考	助産過程の展開、および保健指導内容は助産学実習で活用します。																			

科目名	助産技術学演習 I	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	西頭 知子, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 永田 阿子, 名草 みどり
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3078a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 助産診断・技術学の履修内容をもとに、妊娠各期および産褥期健康教育の準備・計画・実施・評価の過程とその方法について学ぶ。</p> <p><b>【目的】</b> 健康教育について学び、妊娠期および産褥期に必要な健康教育を展開できるようになる。</p> <p>本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。</p>			
	到達目標	<p>1) 妊娠期および産褥期の健康教育の目的・目標を理解し、説明できる。 2) 健康教育に必要な教育技術を理解し、説明できる。 3) 個別・集団それぞれを対象とした健康教育の特徴や利点・欠点を踏まえ、健康教育を企画することができる。 4) 企画した健康教育をロールプレイにて実施し、評価することができる。</p>		
授業方法と留意点	演習を中心に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	健康教育とは	健康教育の目的、目標、企画の立案、健康教育を実施するために必要な知識について学ぶ。 妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 〔助産診断・技術学 I〕の事例を対象とした個別指導案を作成する	事前：教科書 1 の P158-171、83-97、100-111 を読む。(1 時間) 事後：①講義科目「助産診断・技術学 I」の教科書 1 (助産学講座 6 [妊娠期]) の P210-288 を読む。②個別指導案を作成する。(1 時間)
	2	妊娠期の健康教育：個別指導 (1)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。(ロールプレイによる妊婦個別指導の実施と討議)	事前：個別指導案を完成し、提出する。(1 時間) 事後：討議内容を受け指導案の見直し・修正を行い、最終提出する。(1 時間)
	3	妊娠期の健康教育：集団指導 (1)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。(集団指導のテーマ決定、企画書の作成、実施準備)	事前：教科書 1 の P112-153 を読む。 事後：①教科書 1 の P172-183 を読む。②グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(2 時間)
	4	妊娠期の健康教育：集団指導 (2)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。(企画書の作成、実施準備)	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導の企画書を作成し、実施準備をする。(各 1 時間)
	5	妊娠期の健康教育：集団指導 (3)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。(企画書の作成、実施準備)	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導の企画書を作成し、実施準備をする。(各 1 時間)
	6	妊娠期の健康教育：集団指導 (4)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (ロールプレイによる集団指導の実施と評価)	事前：各グループで集団指導の企画書を完成させ、提出する。(1 時間) 事後：企画および実施の評価をまとめて提出する。(1 時間)
	7	産褥期の健康教育：個別指導 (1)	産褥期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価方法について学ぶ。	事前：「助産診断・技術学 I」(P317-334)を読む。(1 時間) 事後：褥婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各 1 時間)
	8	産褥期の健康教育：個別指導 (2)	産褥期の集団を対象とした健康教育の企画書を作成し、実施準備をする。	事前・事後：褥婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各 1 時間)
	9	産褥期の健康教育：個別指導 (3)	産褥期の集団を対象とした健康教育の集団指導を実施し評価をする。	事前：集団指導の企画書を完成させ、実施練習を行い指定日時に企画書を提出する(1 時間)。 事後：企画および実施の評価をまとめて指定日時に提出する(1 時間)。
	10	育児における健康教育：個別指導 (1)	産褥入院中における育児技術獲得に向けた健康教育(沐浴指導)の計画・実施・評価について学ぶ。	事前学習：沐浴指導案の作成をする。 事後課題：沐浴指導案の追加・修正を行う。(前後、各 2 時間)
	11	育児における健康教育：個別指導 (2)	産褥入院中における育児技術獲得に向けた健康教育(育児・退院指導)の計画・実施・評価について学ぶ。	事前学習：育児・退院指導案の作成をする。 事後課題：育児・退院指導案の追加・修正を行う。(是後、各 2 時間)
	12	育児における健康教育：個別指導 (3)	作成した沐浴指導案・育児退院指導案の発表(ロールプレイ)を行い、ディスカッションする。	事前学習：沐浴指導、育児・退院指導案の発表の準備をする。(2 時間) 事後学習：発表後の評価を行い、沐浴指導、育児・退院指導案を追加・修正する。(1 時間)
	13	家族計画指導 (1)	家族計画指導における基礎知識について理解し、家族計画指導案の作成の実際を学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分(基礎助産学 [3] 母子の健康科学 p.226~238, 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期 p.314~316)を読んでくる。(1 時間) 事後課題：指導案の作成を行う。(2 時間)
	14	家族計画指導 (2)	作成した指導案の発表(ロールプレイ)を行い、ディスカッションする。	事前課題：指導案発表の準備をする。(2 時間) 事後課題：指導案発表後の評価を行い、指導案を追加・修正する。(1 時間)
15	家族計画指導 (3)	作成した指導案の発表(ロールプレイ)を行い、ディスカッションする。	事前課題：指導案発表の準備をする。(2 時間) 事後課題：指導案発表後の評価を行い、指導案を追加・修正する。(1 時間)	

関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内林子他	医学書院
	2	UNICEF/ WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院
	3	助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学	我部山キヨ子他編	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂[第3版]	北川眞理子、内山和美編集	南江堂
	2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷
	3	ナーシンググラフィカ母性看護学③	荒木奈緒他	メディカ出版
評価方法 (基準)	定期試験 50% 指定された課題の提出、発表等 50%			
学生への メッセージ	助産学実習準備になる科目です。個人の自主的な学習およびグループワークによるチームワークやメンバーシップを発揮して主体的に課題に取り組んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	西頭知子(研究室14)、井田歩美(研究室12)、名草みどり(研究室13)			
備考	課題である各指導案は、助産学実習で一部活用します。			

科目名	助産技術学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子, 飯田 恵子, 永田 阿子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3079a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。 目的：妊婦健康診査、分娩介助技術および出生時の新生児ケア技術を学修する。</p> <p>授業担当者は臨床経験と周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) プロバイダーコースの認証を受け、現在もアシスタントとしてコースへの参加をしている経験を活かし、学生</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる</li> <li>2. 妊婦健診、分娩介助技術、新生児のケア技術を習得できる</li> <li>3. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる</li> </ol>
授業方法と留意点	演習を主に行う。妊婦健康診査、分娩介助、出生直後の新生児のケアに必要な知識と技術を習得するための演習を行う。分娩介助技術は練習することで上達する。授業時間内での練習には限りがあるため、自主的練習を促す。授業内での技術演習は一人一人の到達度を確認しながら行う。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験および助産学実習に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	妊婦の健康診査	妊婦健康診査に必要な技術 外診（視診、計測診、触診、聴診） 子宮底・腹囲の測定、レオポルド触診法、 胎児心音聴取、骨盤外計測	事前課題：母性看護学援助論Ⅱと助産診断技術学Ⅰの内容を復習（1時間） 事後課題：実施した技術の復習（1時間）
2	胎児発育・健康状態の診査	正常新生児のフィジカルイグザミネーション ・バイタルサイン測定 ・体重・身長、頭位、胸囲測定 ・運動神経学的状態 ・保育器の機能と使用方法	事前学習：助産診断技術学Ⅲの講義の復習（1時間） 事後課題：実施した技術の復習（1時間）
3	分娩介助技術演習（1）	・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法	事前課題：講義までに分娩経過のビデオ視聴とテキストP92～107まで目を通す。（1時間） 事後課題：課題レポートを出す（1時間）
4	分娩介助技術演習（2）	・分娩介助手順と根拠	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1時間） 事後課題：課題レポートを出す（1時間）
5	分娩介助技術演習（3）	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法デモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）
6	分娩介助技術演習（4）	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法の実践	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）
7	分娩介助技術演習（5）	デモンストレーション ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：事前課題レポートを完成させる（1時間） 事後課題：なし
8	分娩介助技術演習（6）	実践 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）
9	分娩介助技術演習（7）	その他の技術 臍帯巻絡の解除法 会陰切開時の対処法 出生直後の児のケアの実践 胎盤計測	事前課題：事前課題レポートを完成させる（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）
10	分娩介助技術演習（8）	一連の分娩介助技術のデモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）
11	分娩介助技術演習（9）	一連の流れの助産技術の実践	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する（2時間）
12	分娩介助技術演習（10）	出生直後の新生児のケア 保育器収容中の児のケア	事前課題：資料を予習（1時間） 事後課題：実施技術の振り返り
13	異常分娩時の対処（1）	以下の項目に必要な知識と実践 ・肩甲難産時の体位と介助	事前課題：資料の課題を完成させる（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）

	14	異常分娩時の対処 (2)	児心音低下時の実践 吸引分娩時の準備の実践	事前課題：資料の課題を完成させる (1時間) 事後課題：本日行った技術を練習する (1時間)																
	15	異常分娩時の対処 (3)	異常出血時の対処 シナリオを用いてシミュレーションと 討議	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げて くる。(1時間) 事後課題：トレーニング後の評価 (1時間)																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ, 助産診断・技術学Ⅲ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・ 産褥期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・ 乳幼児期</td> <td>我部山キヨ子 他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・ 産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院	2	助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ	我部山キヨ子 他	医学書院	3	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・ 乳幼児期	我部山キヨ子 他	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・ 産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
2	助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ	我部山キヨ子 他	医学書院																	
3	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児・ 乳幼児期	我部山キヨ子 他	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂第3版</td> <td>北川真理子・内山和美 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気が見える Vol110 産科第4版</td> <td>医療情報科学研究所</td> <td>MEDIC MEDIA</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂	2	病気が見える Vol110 産科第4版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂																	
2	病気が見える Vol110 産科第4版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA																	
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 50% (定期試験で6割に達しない場合、再試験となります) 分娩介助技術試験 50% (評価表を用いて採点します)																			
学生への メッセージ	分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。助産学実習では10例の分娩介助を実践しなければいけません。実習に出たときに自信を持って介助 ができるようにしっかり学内で練習しましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬 (研究室20)																			
備考	分娩介助技術は助産学実習で10例の分娩介助時に活用します。																			



科目名	助産管理論	科目名 (英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3080a0		

授業概要・目的	<p>助産管理の概要及び運用に必要な基本概念 (法的根拠やその内容、管理の原則) を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また周産期管理システム (母体搬送システム、新生児搬送等) を理解する。</p> <p>授業担当の教員は、総合病院で助産師として7年間勤務、その後、非常勤で夜間当直勤務をした経験から、助産学、助産過程の展開に実践的な教育を行います。また、木村先生は、開業助産師の立場から助産管理の実践的な教育を行います。</p>
到達目標	<p>助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。</p> <p>また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。</p>
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第1章A) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第1章B) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
3	関係法規と助産師の義務・責任について (助産と医療経済含む)	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬を学ぶ。 講師：助産院院長	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第1章C、第2章A) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関する法律について学ぶ。 助産業務ガイドラインについて理解する。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第2章B) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
5	周産期の管理システムとリスクマネジメント	周産期管理システム (NICU)、周産期搬送システム、オープンシステム、周産期の医療事故とリスクマネジメントについて学ぶ。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第3章AB) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師：アドバンス助産師と協同	事前学習：実習中の事例や課題事例について想起する (第3章AB、配布資料) 事後学習：討議内容を整理する (前後、各1時間)
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師：アドバンス助産師と協同	事前学習：実習中の事例や課題事例について想起する (配布資料) 事後学習：討議内容を整理する (前後、各1時間)
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について 講師：助産院院長	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第5章ABCD) 事後学習：講義内容を整理する (前後、各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	助産業務ガイドライン	日本助産師会	日本助産師会	
3	母子保健の主なる統計 令和2年度	公益財団法人母子衛生研究会 編集	公益財団法人母子衛生研究会	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験：70%、グループワーク・課題発表：30%
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、尊守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。
-----------	--

担当者の 研究室等	泉川（研究室 15）、木村泰恵（学外講師：木村助産院）
備考	

科目名	学校保健	科目名 (英文)	School Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 順子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3082a0		

授業概要・目的	学校保健では、子どもが自己実現を図り、生涯に割って健康・安全で活力ある生活ができるように主体的な健康づくりをめざす。そのためには、学校教育のみならず地域・家庭及び社会が連携協力しながら推進していかなければならない。学校で行われている健康の保持増進に関する基本的事項を理解するとともに学校保健の理念、健康管理、健康教育を履修する。地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につける。
到達目標	学校保健の構造とその領域及び内容を理解する。学校教育における児童・生徒の発育発達や健康課題を理解し健康管理や健康教育に関心を持ち、学校保健活動において看護の専門性に基づいた知識、技術、科学的な理論を生かした養護教諭の専門性について主体的に考えることができる。
授業方法と留意点	教科書を使用する。 事前事後の学習は必要です。
科目学習の効果 (資格)	養護教諭 2 種免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと学校保健の概念	学校保健の構造と内容	学校保健とは何か シラバスを事前に読んでおくこと。
2	子どもの発育発達	身体の発育発達、心の発達について、その概要を学ぶ	身体の発育発達、心の発達についてまとめる。
3	健康診断 子どもの健康実態と慢性疾患	学校における健康診断は学校保健の中核をなすものであり教育活動の一環であることを学ぶ。子どもの今日的健康課題を取り巻く社会環境がもたらす要因も含めて考える	学校での健康診断の項目について調べておくこと。現代の子供に多い病気と健康障害、学校での対策を調べておくこと。
4	感染症とその予防 救急処置 心の健康問題とその対応	学校における感染症・傷病について基本を学ぶ。 心の健康問題を理解し、学校全体、地域の専門機関との連携を学ぶ	子どもがかかりやすい感染症はどのようなものか調べておくこと。 心の健康問題についてまとめる。
5	性の教育 保健室	学齢期の性行動の実態と性教育の必要性について学ぶ。 保健室の機能を生かした学校保健における保健室経営の位置づけを学ぶ。	性教育と人権について調べる。
6	学校安全・危機管理 学校環境衛生	学齢期における事故や災害を理解し、学校における安全について学ぶ。 学校環境衛生基準と検査項目について理解する。 確認テストを行う	学校保健安全法の学校環境衛生基準を読んでおくこと。
7	保健教育 学校保健計画と学校保健組織活動	保健教育について理解し、保健学習は学習指導要領に示されていることを学ぶ。	近年の学習指導要領の動向について調べておくこと。
8	特別支援教育 学内・学外における連携 まとめ	特別支援教育の現状と課題について理解する。 カウンセラー、ソーシャルワーカー、その他の機関の役割と連携について学ぶ。	特別支援教育について調べておく。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 学校保健	岡本陽子他	ふくろう出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題レポート (50%) 小テスト (50%) で評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	
----	--

科目名	産業保健	科目名 (英文)	Occupational Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3083a0		

授業概要・目的	様々な産業分野で働く人々の健康にかかわる学問である産業保健について、歴史と関連法規と制度、活動について学ぶ。同時に、昨今の産業保健における課題について、事例などを通じて考察し、理解を深める。また、国内における労働衛生管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) 等の体制・制度と、人々の健康の保持・増進と疾病予防、産業保健スタッフの一員である看護職の役割と支援方法について理解する。さらに具体的な活動方法論について、事例を用いたグループワークによる演習を取り入れながら学ぶ。 産業保健師として10年
到達目標	1. 産業保健の基本理念と制度、労働と健康との関わりについて理解できる。 2. 働く人々の労働と健康について支援する看護職の活動について理解できる。 3. 国内の産業保健活動における課題について十分に理解し、授業を通じて課題について考察できる。
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	今後、さらなる活躍が期待される職域の看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 保健師・看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p448-452 を読んで、看護関係法規と関係する法律についてこれまで学んだ授業の内容と重なる部分について確認する。(事前事後各1時間)
2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p453-457 を読んで、確認し、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
3	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題1	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p458-460 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
4	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題2	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p461-463 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
5	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み1	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p465-467 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
6	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み2	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
7	看護職の役割と支援方法、具体的な活動1	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について学ぶ。さらに事例を紹介し、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
8	看護職の役割と支援方法、具体的な活動2とまとめ	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。また全体の学びを振り返り、理解を深める。	前回の授業の復習をすると同時に、教科書 p448-468 を読んで、国内の産業保健活動における課題について考察してくる。(事前事後各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版 データ更新版	荒賀直子、後閑容子 (編)	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働衛生のしおり 令和2年度版	中央労働災害防止協会	中央労働災害防止協会
	2	産業看護学	河野啓子	日本看護協会出版会
	3	公衆衛生看護学Ⅱ 学校保健・産業保健	荒木田美香子他	医歯薬出版株式会社

評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
学生への	産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行します。授業では、テキスト

メッセージ	や資料を使用しますので、毎回必ず持参してください。また社会で日々起こっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれインターネット情報だけに偏らない・頼らない習慣を持つようして下さい。
担当者の研究室等	富永真己 7号館3階研究室7
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業では座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	保健統計学	科目名 (英文)	Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3084a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康状態や疾病の分布、およびその関連要因を明らかにするために用いられる健康指標や統計手法の基本的事項について体系的に学ぶとともに、行政統計の概要と実際について学ぶ。
到達目標	t 検定、 $\chi^2$ 乗検定などの基本的な統計とその基礎事項について体系的に理解でき、その意味がわかる。 厚生統計についての理解が深まる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。Teams または Moodle によるオンライン講義とする。
科目学習の効果 (資格)	基本的な統計の意味を理解し、統計を適切に利用することができる。 厚生統計についての理解が深まり、結果の適切な解釈と利用ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計の基本	データの種類と確率分布	(事前) 教科書 p12-22, p41-47 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
2	推定	母集団の平均値と割合の推定	(事前) 教科書 p68-72 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
3	検定 (1)	パラメトリック検定 (比例尺度・間隔尺度)	(事前) 教科書 p72-90 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
4	検定 (2)	ノンパラメトリック検定 (順序尺度)	(事前) 教科書 p94-98 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
5	検定 (3)	ノンパラメトリック検定 (名義尺度)	(事前) 教科書 p102-106 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
6	相関と回帰	相関係数、散布図、回帰式	(事前) 教科書 p53-65 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
7	厚生統計の概要	国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査など	(事前) 教科書 p148-182 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30 分)
8	厚生統計の実際	厚生統計の実際について学ぶ	(事前) 前回授業の配布資料と教科書 p148-182 で予習すること (30 分) (事後) 授業内容を配布資料で復習すること (30 分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	統計の基礎
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉、鈴木研太	羊土社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厚生統計テキストブック第7版	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2			
3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	2年生で学んだ「統計の基礎」の授業内容の理解が前提で授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。
担当者の研究室等	7号館3階24
備考	提出された課題内容について授業で解説する。

科目名	公衆衛生看護学活動論 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3085a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるために、公衆衛生看護活動の基礎となる対象別・発達別公衆衛生看護活動の概要と方法について学ぶ。また、地域における公衆衛生看護管理について、看護管理の基本である組織運営管理、人事管理、予算管理、情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理について学ぶ。特に、健康危機管理に関して、健康危機管理体制と保健師の機能と役割、健康危機管理の種類に応じた活動に関して、その実例と共に学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を紹介しながら授業を進行す
到達目標	(1) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の基本理念と対象のニーズについて理解することができる。 (2) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の法制度や政策・施策について理解することができる。 (3) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の実践について理解することができる。 (4) 地域の人々の特性・ニーズに基づく新規事業立ち上げの過程を説明できる。 (5) 地方自治体における予算のしくみと獲得方法が説明できる。 (6) 個人、家族に
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションにより進行する。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健師の支援技術 1 家庭訪問	オリエンテーション 家庭訪問の目的と対象、技術 家庭訪問の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
2	保健師の支援技術 2 健康診査	健康診査の目的と対象、契機 健康診査の企画と方法	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	保健師の支援技術 3 健康相談	保健師が実施する健康相談 健康相談の進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	母子保健活動	母子保健の現状と政策・施策 母子保健活動における保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	成人保健活動 1	成人保健の現状と政策・施策 成人保健活動における保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	成人保健活動 2	健康づくりのための保健活動 生活習慣病予防のための保健事業 成人保健活動の実践	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	高齢者保健活動	高齢者保健の現状と政策・施策 高齢者保健活動における保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	障害者保健活動	障害者(児)保健の現状と政策・施策 障害者(児)保健活動の実践と保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	精神保健活動	精神保健の現状と政策・施策 精神障害者の生活特性と保健師活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	難病保健活動	難病保健の現状と政策・施策 難病保健活動と保健師の活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	感染症保健活動 歯科保健活動	感染症保険の現状と政策・施策 感染症に関わる保健師の活動 歯科保健の現状と政策・施策	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	公衆衛生看護管理 1	公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の実践と特徴 組織運営管理、人事管理、予算管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	公衆衛生看護管理 2	公衆衛生看護管理の実践と特徴 情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康危機管理 1	健康危機管理の体制整備と平常時の活動 災害発生時の保健活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康危機管理 2	健康危機としての児童虐待 地域における児童虐待対策と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験と授業で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。			
学生への メッセージ	この科目では、公衆衛生看護に関する政策や各種制度を学びます。社会の動きとも連動しますので、新聞やニュースをみるなど社会に関心を向けると、授業内容の理解が深まります。			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室			
備考				



科目名	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己, 足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3086a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるとともに、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の基本となる個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動方法と、各場面における保健師の活動内容および支援技術について学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 主要な公衆衛生看護実践技術(家庭訪問、健康相談、保健指導、健康教育等)の方法を説明することができる。 (2) 発達段階別の公衆衛生看護対象(母子・成人・高齢者)における保健活動を理解し、その支援方法の実際について説明できる。
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	新生児訪問指導 2	講義・演習 新生児訪問の実際 事例のアセスメントと訪問計画の立案	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	特定健診制度 1	講義 特定健康診査と特定保健指導について	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	特定健診制度 2	講義・演習 特定保健指導のすすめ方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	乳幼児健康診査 1	講義 乳幼児の成長・発達と保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	乳幼児健康診査 2	講義 健診の意義、問診項目と把握すべき情報、診察と保健指導のポイント	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	保健師の活動の実際	行政における保健師の働き方や公衆衛生看護活動の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	健康相談	健康相談の意味と保健師が実施する健康相談 健康相談が実施される場と進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	グループ支援・組織化	グループ支援の特徴と意義、技術 グループ支援に共通する理論 地域組織活動の考え方と種類、支援	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	健康教育 1	講義・演習 健康教育と保健師の役割 健康教育による支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	健康教育 2	演習 演習オリエンテーション 健康教育の計画立案 1	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	健康教育 3	演習 健康教育の計画立案 2	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	健康教育 4	演習 健康教育の計画立案 3	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康教育 5	演習 健康教育の発表準備	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康教育 6	演習 健康教育の実施と評価	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版 データ更新版	荒賀 直子, 後閑 容子 (編)	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代 (編)	日本看護協会出版
	2	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会 (編)	厚生労働統計協会

	3		
評価方法 (基準)	各課題提出物 80%、小テスト 20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストや資料は必ず毎回持参してください。</li> <li>・公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生学、保健福祉行政論及び家族看護学、の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。</li> <li>・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。</li> </ul>		
担当者の 研究室等	富永：7号館3階 7研究室 足立：7号館3階 22研究室		
備考			

科目名	公衆衛生看護学演習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3087a0		

授業概要・目的	科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるとともに、それに裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の対象となる個人・家族・集団に対する保健師活動について、公衆衛生看護の展開に必要な知識と技術を演習により学ぶ。保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 対象者の生活様式、行動様式、経済状況、習慣、価値観など生活や文化に配慮した支援ができる。 (2) 対象者のプライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる。 (3) 対象者がもつ問題解決能力に自らが気づくように支援ができる。 (4) 対象者の考えを尊重した支援計画の立案および指導を実施することができる。 (5) 個別支援の場において、アセスメントの確認、支援の実施、結果の把握と評価ができる。 (6) 体験した演習の結果を、目的に沿って記録できる。 (7) 演習の結果に
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児訪問指導技術 1	演習 演習オリエンテーション 新生児の観察と身体計測 1	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
2	新生児訪問指導技術 2	演習 新生児の観察と身体計測 2	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
3	新生児訪問指導技術 3	演習 新生児の観察と身体計測 3	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
4	新生児訪問指導技術 4	演習 新生児訪問指導のロールプレイ 訪問記録と評価	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
5	特定保健指導 1	講義 健康診査の結果の見方	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
6	特定保健指導 2	講義・演習 特定保健指導の実施に向けたアセス メントの実際	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
7	特定保健指導 3	演習 保健指導のロールプレイ	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)につ いて事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
8	乳幼児健康診査 1	講義 演習オリエンテーション 乳幼児健診の実際(4 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
9	乳幼児健康診査 2	演習 4 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
10	乳幼児健康診査 3	講義 乳幼児健診の実際(1 歳 6 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
11	乳幼児健康診査 4	演習 1 歳 6 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
12	乳幼児健康診査 5	講義 乳幼児健診の実際(3 歳児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
13	乳幼児健康診査 6	演習 3 歳児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
14	感染症・難病訪問指導 1	講義・演習 演習オリエンテーション 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、 症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学 や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習 し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後 で各 30 分)
15	感染症・難病訪問指導 2	演習 家庭訪問(難病/結核)計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮 症、パーキンソン病に関する基礎知識(疫学や病態、

			事例検討	症状、治療、予後など結核に関する基礎知識(疫学や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各30分)																
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp 第5版</td> <td>荒賀 直子, 後閑 容子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最新 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 第4版</td> <td>村嶋 幸代</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル	2	最新 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 第4版	村嶋 幸代	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル																	
2	最新 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 第4版	村嶋 幸代	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2020/2021</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>日本看護協会出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版</td> <td>井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	日本看護協会出版	2	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	日本看護協会出版																	
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代																		
3																				
評価方法 (基準)	各演習の課題提出物80%、実技試験20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。																			
学生への メッセージ	保健師の支援技術を演習形式で学んでいきます。集中講義で行いますので体調管理に気を付け、毎回出席できるようにしましょう。																			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室																			
備考																				

科目名	公衆衛生看護学演習Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 安正, 富永 真己, 安田 香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3088a0		

授業概要・目的	ディプロマ・ポリシーで求められる「広く多元的に情報を収集し、科学的根拠に基づき、問題を解決できる能力を身につけている。(問題解決力)」の到達に向けて、本科目では、「地域の人々の生活と健康を多角的・総合的にアセスメントする」「地域の潜在的・顕在的な健康課題を明確にする」ことを目的に、情報処理演習室を利用しながらグループ演習に取り組む。
到達目標	(1) 地域で生活する人々について、身体的・精神的・社会文化的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (2) 人々の生活の場である地域について、物理的・社会的な側面から生活と健康に関する情報を収集できる。 (3) 収集した情報を統合してアセスメントし、集団・地域の特性を明確にできる。 (4) 顕在化している健康課題を明確にできる。 (5) 潜在化している健康課題を明確にし、今後起こりうる健康課題を予測できる。
授業方法と留意点	情報処理演習室等を使用しながらグループで情報の収集やアセスメント、ディスカッションを行う。そのため、課題には主体的に取り組むとともに、グループメンバーと協調しながら進めていく必要がある。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や支援技術についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域診断の考え方と方法	講義 地域診断の目的と展開 情報収集と分析	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
2	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
3	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
4	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
5	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
6	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
7	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
8	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
9	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
10	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
11	地域の人々と環境に関する情報の収集と分析	演習 情報収集とアセスメント グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
12	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
13	地域特性の文章化	演習 情報の分析と統合 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
14	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進める。(事前・事後で各1時間)
15	地域の潜在的・顕在的な健康課題の明確化	演習 情報の分析と統合、診断 グループワーク	教科書の該当箇所を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。また、進捗状況をグループで管理し、計画的に演習を進め

					る。(事前・事後で各1時間)
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後関容子	インターメディカル	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会	
	2	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会		
	3				
評価方法 (基準)	課題の提出物(グループ) 50%、グループワーク評価(調整力・貢献度) 20%、レポート(個人) 30% 授業態度が不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。				
学生への メッセージ	保健師の支援技術の一つである地域診断を演習をとおして学んでいきます。体調管理に気をつけ、毎回出席できるようにしましょう。				
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階 7研究室 足立安正 7号館3階 22研究室 安田香 7号館3階 共同研究室1				
備考					

科目名	公衆衛生看護学実習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing Practicum I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	足立 安正, 富永 真己, 安田 香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3089a0		

授業概要・目的	地域で生活している人々に対する理解を深め、生活の場で展開される公衆衛生看護活動の実際を理解し、その展開に必要な知識・技術・態度を学ぶ。
到達目標	1. 地域の環境とそこで暮らす人々の生活・健康との関係を多角的にアセスメントし、地域の特性を考慮することができる。 2. 保健行政システムに対する理解を深め、保健所・保健センターで実施される保健事業の目的や法的根拠、展開プロセスを理解できる。 3. 保健所・保健センターの保健師の主要な業務と支援技術について、体験を通して理解できる。 4. 保健師活動の展開に必要な基本的態度を培うことができる。
授業方法と留意点	保健所・保健センターでの実習を行う。 看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習 I 要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。 事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。 グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。 保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生看護学活動論 II、公衆衛生看護学演習 I、公衆衛生看護学演習 IIをはじめとしたその他の専門科目すべてが関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3	最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 第4版	村嶋幸代	メヂカルフレンド社

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	
2			
3			

評価方法 (基準) 事前準備、実習記録、実習態度、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は減点対象となることもある。

学生へのメッセージ 臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることができる貴重な機会です。より良い学びにするためにも、自己の学習目標を明確にして実習に取り組みましょう。また、欠席することがないように、体調管理には十分に留意してください。

担当者の研究室等 富永真己 7号館 7研究室  
足立安正 7号館 22研究室

	安田香 7号館 共同研究室1
備考	



科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nursing Practicum II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	足立 安正, 富永 真己, 安田 香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN3090a0		

授業概要・目的	人間の権利や価値観、生涯発達の視点を踏まえたうえで、地域の特性と地域住民の生活を理解し、地域で生活する人々の健康課題を総合的に捉え、課題解決に向けたヘルスケアシステム構築のために必要な知識・技術・態度を習得することで、保健師に求められる基礎的能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健所・保健センターの機能と活動および保健師の活動方法を理解できる。</li> <li>2. 地域の人々の生活、文化および健康などを取り巻く環境を多角的にアセスメントすることで地域の特性を理解し、顕在化・潜在化している健康課題を見出すことができる。</li> <li>3. 地域の健康課題を解決するための支援計画を立案し、計画を実施・評価できる。</li> <li>4. 健康課題解決のための社会資源をアセスメントできる。</li> <li>5. 対象の生活や特性に応じた公衆衛生看護活動を展開できる。</li> <li>6. 公衆衛生看護管理の実践について理解できる。</li> <li>7. 主体的・継続的に学</li> </ol>
授業方法と留意点	保健所・保健センターでの実習を行う。 看護学臨地実習要綱をよく読み理解したうえで、公衆衛生看護学実習Ⅱ要綱で示している実習目的・目標を達成できるように努める。 事前学習を十分に行うとともに、自己の目標を設定するなど積極的・主体的な学習態度で実習に臨む。 グループメンバーと協調しながら実習に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	自治体で働く保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。 保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱをはじめとして、その他の専門科目すべてが関連する。
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2021年版	井伊久美子, 勝又浜子, 森永裕美子, 荒木田美香子, 坂本真理子, 村嶋幸代	日本看護協会出版
3	最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第4版	村嶋幸代	メヂカルフレンド社

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	
2			
3			

評価方法 (基準)	事前学習、実習記録・レポート、実習態度や取り組み、実習目標の達成状況を総合して評価する。なお、実習はすべて出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は減点対象となることある。
-----------	---

学生へのメッセージ	臨地実習では、大阪府下の自治体で活躍する保健師の活動の実際を自分の目で見て学習し、指導を受けることできる貴重な機会です。より良い学びにするためにも、自己の学習目標を明確にして実習に取り組みましょう。また、欠席することがないように、体調管理には十分に留意してください。
-----------	---

	さい。
担当者の 研究室等	富永真己 7号館 7研究室 足立安正 7号館 22研究室 安田香 7号館 共同研究室1
備考	

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN3304c1		

授業概要・目的	政治、経済、文化等、国家や地域を超えてグローバル化した現代社会において、健康への影響も国境を越えて広がっており、看護職の役割も今後ますます拡大していく。このような現状を踏まえ、個人の健康問題を取り巻くグローバルな視点を養い、国際的に活動するための知識とコミュニケーション力を培う。
到達目標	この授業の到達目標は、医療現場で働くにあたって必要となる語彙やスキルを学習することである。特に、身体や病気の症状についての英語表現を知り、患者と同僚に指示を伝えられるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用法の説明。 リスニングとスピーキングの活動方法の説明。	事前：シラバスを確認する (30分) 事後：次の課題 (30分)
2	病室内の施設の名前 (テキスト Chapter 1)	テキストからのリスニング 病室内の施設の名前を覚え、使えるようにする。	事前：Unit 1 のリスニング予習 (30分) 事後：病室内の施設の名前を復習 (30分)
3	バイタルサイン測定 (テキスト Chapter 2)	テキストからのリスニング バイタルサイン測定について、必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 2 のリスニング予習 (30分) 事後：どのような対応があるのかを復習 (30分)
4	痛みの程度を聞く (テキスト Chapter 3)	テキストからのリスニング 痛みの程度について必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 3 のリスニング予習 (30分) 事後：どのように痛みの程度を聞くのかを復習 (30分)
5	症状の表現 (テキスト Chapter 4)	テキストからのリスニング 症状について、必要な事柄を英語で表現する。	事前：Unit 4 のリスニング予習 (30分) 事後：症状の表現について復習 (30分)
6	体の動きの表現 (テキスト Chapter 5)	テキストからのリスニング 体の動きについて英語で表現する。	事前：Unit 5 のリスニング予習 (30分) 事後：身体部位の知識を深める (30分)
7	検査についての表現 (テキスト Chapter 6)	テキストからのリスニング 検査の際に必要な手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前：Unit 6 のリスニング予習 (30分) 事後：検査についての一般的な事柄を知る (30分)
8	中間のまとめ (テキスト Chapter 7)	テキストからのリスニング 医療英語について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 7 のリスニング予習 (30分) 事後：学んだ英語表現ができるようにする (30分)
9	日常の看護についての表現 (テキスト Chapter 8)	テキストからのリスニング 前回到続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 8 のリスニング予習 (30分) 事後：学んだ英語表現ができるようにする (30分)
10	与薬についての表現 (テキスト Chapter 9)	テキストからのリスニング 与薬に関する英語表現を知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 9 のリスニング予習 (30分) 事後：与薬についての理解を深める (30分)
11	排泄についての表現 (テキスト Chapter 10)	テキストからのリスニング 排泄に関する表現を知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 10 のリスニング予習 (30分) 事後：排泄についての理解を深める (30分)
12	慢性疾患についての表現 (テキスト Chapter 11)	テキストからのリスニング よく使われる慢性疾患の名称を知る。	事前：Unit 11 のリスニング予習 (30分) 事後：慢性疾患についての理解を深める (30分)
13	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	テキストからのリスニング 急性、緊急医療についての表現を知る。	事前：Unit 12 のリスニング予習 (30分) 事後：急性、緊急医療について理解を深める (30分)
14	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	Chapter 12 の内容を踏まえて、ディスカッション	事前：ディスカッションの準備 (30分) 事後：急性、緊急医療について理解を深める (30分)
15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの教科書確認	事前：授業で取り上げられた医療内容の復習 (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	提出課題 60% 期末課題 40%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	毎回の出席と積極的な授業参加を期待します。 グループワークやディスカッションでは間違っても構わないので、英語で意見を発信してみてください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語V	科目名 (英文)	English V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NEN3305c1		

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解 (11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	12	英文の学術論文の読み方 (1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。

				Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。 復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	13	英文の学术论文の読み方 (2)	学术论文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	14	英文の学术论文の要約作成	学术论文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	15	英文の学术论文の内容発表 と全体のまとめ	学术论文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学术论文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	耳から学ぶ楽しいナース英語	野ロジュディー, 川越栄子, 仁平雅子	講談社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学术论文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学术论文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。			
学生への メッセージ	本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでもらいますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館5階 生化学研究室 (薬学部)			
備考	事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期前半	授業担当者	足立 安正、小堀 栄子、尾花 将輝、小谷 直樹、佐野 睦夫、杉川 智
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎、DP2△、DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1336a1		

授業概要・目的	情報科学の進展は目覚ましく、看護分野においても情報機器や AI などを用いて新しい価値を作り出すことが求められている。本科目では、看護専門職者として必要なデータ分析の基礎的な技術や、厚生統計の基礎について学ぶ。様々なソフトウェアやアプリを操作・体験し、看護実践への活用について他領域の学生とのディスカッションにより検討し、開発の実現に向けたプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの収集と基本的な分析を、データの種類と分析の目的に応じ、適切に行うことができる。</li> <li>厚生統計の概要を知り、統計情報を正しく理解できる。</li> <li>課題の解決に向けて、収集した情報を整理・統合し、自らの考えとともに説明することができる。</li> <li>情報機器やソフトウェア、アプリなどを活用した看護実践について、自身の経験と既存の資料をもとに実現可能性を検討し、その結果を説明することができる。</li> <li>情報機器等を用いた看護実践の展開について、自身の考えをまとめることができる。</li> <li>領域の異なる職種立場を尊重しながら</li> </ul>
授業方法と留意点	演習とグループワークにより授業を行う。自身に必要な資料を収集し、理解を深める必要がある。授業へは主体的に取り組み、演習およびグループワークに積極的に参加することを期待します。なお、各回の【事前学習】は30分以上、【事後学習】は30分以上とする。なお、第9～15回は2日間の集中講義で実施し、初日を摂南大学(枚方キャンパス)、2日目を大阪工業大学(枚方キャンパス)で行う。なお4/22以降は Teams または Moodle によるオンライン講義を基本とするものの、変更の可能性があるので指示に従うこと。
科目学習の効果 (資格)	データの扱いや厚生統計の基本知識、および看護と IT の連携を考え、看護の可能性を広い視野で捉えることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	図表とその作成	図表で用いられるデータとそのデータ処理および目的	事前:情報リテラシーⅠで学んだエクセルの扱いについて復習しておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	2	データの収集と入力	質問票によるデータ収集とデータセットの作成	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	3	記述統計 (1)	連続変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	4	記述統計 (2)	カテゴリー変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	5	記述統計 (3)	年齢調整死亡率	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	6	記述統計 (4)	相関と回帰	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	7	統計演習 1	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前:前回までの復習をしておくこと 事後:授業で提示した課題に取り組むこと
	8	統計演習 2	講義・演習 データから集団・全体の特徴を捉える。エクセルを用いたデータ分析の実際「データの分布」	事前:前回までの復習をしておくこと 事後:授業で提示した課題に取り組むこと
	9	情報機器等の操作・体験	6月下旬(土)午前 大阪工業大学から、様々な ICT 技術の紹介やプレゼンテーションを受ける。	事前:情報科学について関心のあるテーマを調べる。事後:体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。
	10	看護教育の実際の説明	6月下旬(土)午前 大阪工業大学の学生に対して、看護教育の実際についてプレゼンテーションを行う。	事前:看護教育の実際について、プレゼンテーションの準備をする。事後:体験した情報機器の看護への活用について考え、必要な情報を収集する。
	11	看護における問題と ICT 活用の明確化 1	6月下旬(土)午後 対象事例と考えられる看護問題を説明し、ICTを活用した解決方法についてディスカッションを行う	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
	12	看護における問題と ICT 活用の明確化 2	6月下旬(土)午後 グループディスカッションを通じて得た情報を整理し、看護における問題と ICT の活用を明確化・文書化する。また、グループの目標を立て、達成するための役割分担を行う	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
	13	看護問題の解決に向けた ICT 活用のレビュー	7月中旬(土)午前 グループディスカッションにより決定した情報機器の概要を発表資料としてまとめ、作成する。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
	14	グループ発表会 1	7月中旬(土)午前 各グループで考えた看護への ICT の利活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
	15	グループ発表会 2	7月中旬(土)午後 各グループで考えた看護への ICT の利活用に関して、相互に発表、聴講、ディスカッションを行う。	事前:ディスカッションのために収集した資料を整理する。 事後:本科目で得られた学びを総括し、看護実践への展開についての自身の考えをまとめる
関連科目	情報リテラシーⅠ、統計の基礎、保健統計学、公衆衛生学			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題提出または小テスト、およびグループ発表と資料提出で評価する。																
学生への メッセージ	看護専門職者にとって数値データの扱いと厚生統計の理解は欠かせません。またこれからは他分野の人との協働もますます重要になってきます。わからないことは自分で勉強したり、質問したりして、積極的に取り組むことを期待します。																
担当者の 研究室等	小堀：7号館3階 24 研究室 足立：7号館3階 22 研究室																
備考	・提出された統計課題については授業で解説します。																



科目名	哲学	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1403a2		

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義をはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても「『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれませんが、しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p>
---------	--

到達目標	<p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる</p> <p>(2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる</p> <p>(3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>
------	---

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	現象と実在	<p>この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。</p> <p>その上で教科書の第1章「現象と実在」について学修します。</p>	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習する</p>
	2	物質は存在するか	教科書の第2章「物質は存在するか」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	3	物質の本性	教科書の第3章「物質の本性」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	4	観念論	教科書の第4章「観念論」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	5	面識による知識と記述による知識	教科書の第5章「面識による知識と記述による知識」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>

	6	帰納について	教科書の第6章「帰納について」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	7	一般的原理の知識について	教科書の第7章「一般的原理の知識について」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	8	アприオリな知識はいかにして可能か	教科書の第8章「アприオリな知識はいかにして可能か」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	9	普遍の世界	教科書の第9章「普遍の世界」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	10	普遍に関する私たちの知識	教科書の第10章「普遍に関する私たちの知識」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	11	直観的知識について	教科書の第11章「直観的知識について」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	12	真と偽	教科書の第12章「真と偽」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	13	知識、誤謬、蓋然的な見解	教科書の第13章「知識、誤謬、蓋然的な見解」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p>

				か考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)																
	14	哲学的知識の限界	教科書の第14章「哲学的知識の限界」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)																
	15	哲学の価値	教科書の第15章「哲学の価値」について学修します。 その上で、これまでの授業をふり振り返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)																
関連科目	ボランティア活動論、倫理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>哲学入門</td> <td>パートランド・ラッセル</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学入門	パートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学入門	パートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?</td> <td>森達也</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)30%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。																			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心を持ち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 1号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmormse[*]edu.setsunan.ac.jp [*]を半角の@に置き換え																			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。																			

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1404a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業形態】</b> 第1回は対面&amp;teams、第2回以降はオンデマンド配信型授業</p> <p><b>【授業概要】</b> 物語や説話、絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。作品の文化的背景についての講義・作品読解・映画など関連作品鑑賞を行います。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p><b>【授業目的】</b> ・中世のひとつとが、生命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。</p>
	<p><b>【到達目標】</b> ・中世の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。</p>

授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b> ・講義形式の授業です。 ・毎回、音声スライドを配布します。各自のペースで一次停止しながら視聴してください。 ・授業の最後に、毎回、ミニレポートを書きます。 ・ミニレポートに対しては、最終回以降に teams にフィードバックとして全体講評を掲示します。</p> <p><b>【留意点】</b> ・ミニレポートは、第2回授業で配布する指定の用紙 (Word) に追記 (上書き) していき、最終回にまとめて提出します。 ・質問は、メールで受け付けます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「生」を読む ーガイダンスー	授業の説明 講義	【事前学習】 シラバスをよく読む (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
2	「子ども」を読む (1) ーこどもとは誰かー	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
3	「子ども」を読む (2) ー語られる成長ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
4	「妊娠」を読む ー密教と胎児ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 妊娠に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
5	「出産」を読む ー出産の文化史ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 出産に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
6	「育児」を読む ー母乳の文化史ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 母乳育児に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
7	「性」を読む ー日本の性愛ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 性愛に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
8	「身体」を読む ー身体は誰のものー	講義 ミニレポート	【事前学習】 身体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
9	「老い」を読む ー老いの文化史ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 老いに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
10	「病」を読む ー描かれる病ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 病に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
11	「死」を読む ー死は誰のものー	講義 ミニレポート	【事前学習】 死に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
12	「死体」を読む ー描かれる死体ー	講義 ミニレポート	【事前学習】 死体に関する報道をチェックする (60分)

			【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	13	「死後」を読む —死後の世界—	講義 ミニレポート 【事前学習】 死後の世界について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	14	「魂」を読む —描かれる幽霊—	講義 ミニレポート 【事前学習】 幽霊について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	15	再び、「生」を読む —詩歌の世界—	講義 ミニレポート 【事前学習】 思い出深い出来事を、言葉で他者に伝えられるようにする (60分) 【事後学習】 自分の基礎となっている物語を振り返る (60分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のミニレポートの提出状況により評価します。定期試験や期末レポートはありません。</li> <li>・全14回(第2回~15回)のミニレポートのうち、6回以上未提出であれば、合格できません。</li> <li>・ミニレポートの評価基準は、以下の6つです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業(講義資料)の理解度</li> <li>②与えられた問いに答えているか</li> <li>③分量</li> <li>④その回の課題の最低条件をクリアしているか(タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等)</li> <li>⑤自分で書いているか(残念ながらコピーはバレます)</li> <li>⑥指定のレポート用紙に追記する形で記入でき</li> </ol> </li> </ul>
--------------	---

学生への メッセージ	<p>高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。 古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。 一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。</p>
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
--------------	--------------

備考	<p>質問等がある場合は、メールで対応します。 メールを送信する場合は、以下を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の学生であることを明記</li> <li>・大学のアカウントから送信(標的型攻撃メールとの区別が付かないため、プライベートアドレスから送信されたメールは開封しません)</li> <li>・曜日時限・授業名・授業回数・学生番号・氏名を明記</li> <li>・件名(件名がないと迷惑メールに振り分けられてしまいます)</li> <li>・これらの情報がそろっていないメールには、対応できない場合があります</li> </ul> <p>※授業資料に記してあるメールアドレス宛に送信してください。</p>
----	--

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01409a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法 (1)－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法 (2)－親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法 (1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法 (2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習 (教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習 (講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習 (講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	--

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	並木 州太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01411a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b>          グローバル経済、知識経済の時代である現代において、日本経済は急激かつ大幅な変化の渦中にあります。変化の過程においては、様々な経済・社会・環境問題が発生し、それらは私たちの生活とは一見無縁のようであり、密接に関わり合っています。経済学の基本的な考え方を学び、現象を理解し、対処する力を身につける事は、現代社会において役割を担う私達にとって欠かすことのできない能力です。本講義は、経済学の基本的な考え方を身につける事を目標としますが、グローバル経済や知識経済という現代経済の動向、そのもとの日本経済</p>
到達目標	<p>1. 経済学の基礎的な概念・キーワードについて理解できる。          2. それらを用いて現実のさまざまな経済・社会・環境問題を読み解く力を身につけることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>この授業は講義と教員とのディスカッションを中心に行います。授業では日本経済新聞や日経ビジネスの記事を使用しますので、書店や図書館等で入手して、気になったトピックを読む習慣をつけましょう。          この授業は原則対面で行いますが、緊急事態宣言の発出等により、遠隔授業に切り替わる可能性があります。その際の手順等については別途案内しますので、安心して受講してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済学と私達の生活の関係について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: シラバスを確認すること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
2	経済循環を学ぶ: 古典派経済学とマルクス	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
3	シュンペーターと経済発展の理論	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
4	価値と分配の理論: 価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
5	需要と供給: 需要曲線、供給曲線について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
6	ケインズ入門: 有効需要の原理とは何か	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
7	制度派経済学: 制度 (法律や慣習、罰則) を重視する経済学の系譜	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
8	地域経済と地域経済政策: 地域の経済発展を考える	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
9	戦後の日本経済史: 高度経済成長の背景	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
10	労働市場の構造変化と格差問題	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
11	政府の役割: 市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
12	人口減少と社会保障制度	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
13	ベンチャー企業や起業家の役割: 社会起業家に注目して	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
14	ポスト資本主義社会を考える: これからの私達が生きる社会	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
15	まとめ: これまでの講義の振り返り	配布するレジュメやスライド資料による講義。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分)

				事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論〈第2版〉	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、講義期間中に実施する小テスト/レポート 70%。(60%以上で合格) (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	私達の身の回りには、経済用語が溢れています。それらの用語の背景にある理論に触れ、エッセンスを持ち帰り、自らの働き方や社会との関わりを考えるヒントにしてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				



科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1501a3		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●概要:「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</li> <li>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●到達目標:1年次の自分なりに、で構いません。自分は看護学部で何を学び、そして看護師になって何がやりたいのか、何を実現させたいのか。そのためにはこれから自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。</li> <li>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。</li> <li>●いろいろな角度からテーマを出しますので、「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイントで作成したスライドを使用し、講義します。</li> <li>●医療者には、「多様性理解」が求められます。講義を通して、新たな視点、考え方を知り、異なる意見を持つ他人を受容できる自分、を目指しましょう！</li> <li>●毎回の講義終了後に、課題レポート提出があります。必ず期限までに提出下さい。</li> <li>●課題は、moodleにて掲示します。その課題を記入し、moodleにて提出して頂きます。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</li> <li>●自分自身をしっかりと理解することで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・「キャリアデザイン」概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義概要</li> <li>・講師自身のキャリア形成と、モデリング</li> <li>・キャリアの考え方</li> <li>・社会の現状とキャリアデザインの重要性</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふう動いているのか、</li> <li>・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること</li> <li>・身近な社会人のキャリア選択を調べる。その「意思決定の理由」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
2	「看護師」という職業を考える！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。</li> <li>・看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる</li> <li>・新聞、ネットメディア、専門誌等 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
3	日本の医療制度を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が将来働く医療界の知識</li> <li>・国民皆保険制度のメリット、課題</li> <li>・高齢社会と国民医療費抑制、病院が抱える課題</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が将来働く医療界の知識を得る</li> <li>・国民皆保険制度のメリット、課題を知り、看護師としてどのように社会と関わることができるのか、可能性を探る</li> <li>・国民への健康についての啓蒙活動は何ができるか</li> <li>「日本の医療費、医療制度、予防医療について」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
4	自分自身を知る①「職業人に求められる基礎力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」のうち、「20代で」身に付けたい基礎力に焦点を当てて解説。</li> <li>・自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。</li> </ul> 講義 30分、個人ワーク 15分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。</li> <li>・講師から具体的なアドバイスもしていきます。</li> <li>課題ワーク 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
5	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。</li> <li>・物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。</li> </ul> 講義 45分、個人ワーク 10分、グループ討論 15分 全体議論 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。</li> <li>・患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。</li> <li>・自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみます。</li> <li>「自己肯定感、自己効力とは何か」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
6	リーダーシップを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。</li> <li>・どうやったらそうなれるのか。皆で議論していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。</li> <li>・リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。</li> </ul>

			講義、全体議論 40 分、グループ討論 20 分、レポート 20 分	「自分が今まで関わってきたリーダーが持っていたスキルとは・・・言葉で伝えられるようにまとめておく」事前 60 分・事後 30 分																
	7	医療人のプロフェッショナルリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、看護師の使命とは何か？プロとは、どのような行動を取るのか？</li> <li>・プロとは何か？</li> <li>・プロが取る行動「プロフェッショナルリズム」について</li> <li>・自分はどんなプロを目指すのか</li> </ul> 講義、全体議論 30 分、個人ワーク 20 分、グループ討論 30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、看護師の職業使命を知り、どのような行動が求められているのかを理解します。</li> <li>・プロ意識を持った職業人は、凡人とどこが違うのか。</li> <li>・自分はどんなプロ看護師になりたいのか、考える時間にして下さい。</li> </ul> 「プロとは何か、を自分の言葉で言えるように考えてきて下さい」事前 60 分、事後 30 分																
	8	まとめ～「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。</li> </ul> 講義、全体議論 30 分、グループ討論 50 分、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。</li> <li>・ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。</li> <li>・自分の人生は自分で決められる。自己決定のクセをつけましょう。</li> </ul> 課題ワーク事前 60 分・事後 30 分																
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	特記なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	なし																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬学生のためのキャリアデザインブック</td> <td>西鶴智香</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後のレポートもしくは講義中に使用するワークシートを提出すること、を必須要件とする。</li> <li>・提出物は、70%以上の記載を義務とする。</li> </ul> ※評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師に求められる書く力・・・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。(論理的思考)(記述スキル)(ボリューム)</li> <li>・その内容は、自分の意見を持ち、様々な視点から観察し検討した内容で記入できているか、を評価します。(課題発見力)(創造性)(俯瞰力)</li> <li>・また、講義を通じて知った情報から、どのような新たな視点</li> </ul>																			
学生への メッセージ	自分の人生プランを一から描けるのは、学生時代にだけできること。 この講義を通して、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいことは何か、等を考え整理していくことで、「看護師としての、自分のキャリアビジョン」というものを、ぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。 自立したカッコイイ大人、を目指しましょう！																			
担当者の 研究室等	非常勤講師 (株式会社キャリア・ポジション 代表取締役)																			
備考	講義、その他についての問い合わせは、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。 メールアドレス chika@career-position.com																			

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCA1502a3		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を習得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を習得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法及び留意点	【授業方法】 講義を中心とし、グループワーク、発表なども取り入れて行います。 【留意点】 ・第1回目に全体のオリエンテーションを行います。 ・本授業を通して、自身のキャリアを考える機会にすること。 ・課題の提出をもってこの科目の評価とするので、期限内に提出すること。 (課題提出にMoodleを使う回があります。Teamsにて指示しますので登録して下さい。) ・グループワークでは自ら意見を発言する機会を増やし、積極的な意見交換を行うこと。 ・注意) シラバスで示した授業内容は順序が入れ替わる場
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学で学ぶということ、教務ガイダンス	摂南大学について理解を深め、看護学部生としての自覚を高める。 ・摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、医療系学生としての倫理観について学ぶ	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく、履修申請要領を読んでおく 事後学習課題：自身の履修する科目、関心ある科目のシラバスを確認する。
2	学部アセスメント	・学部アセスメントを通して、大学4年間の自己の能力の出発点について確認する。	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：今日学んだことを、確認する
3	クラス活動	担任教員・クラスの仲間と交流し、担任との面談を行う。	事前学習課題：担任教員を確認し、疑問点をまとめておく。 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える。
4	学生生活ガイダンス、国試ガイダンス	・学生委員会から、学生生活を送るためのさまざまなサポートについて説明する。 ・国家試験について理解し、4年間の学修の中で、どのように国家試験の準備を進めるかについて考えをもつ。	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える。
5	上級生との交流	上級生と少人数でトークタイムを持ち、学生生活についてアドバイスをもらう。	事前学習課題：上級生に聞いてみたいことを点数準備する。 事前学習課題：アドバイスを具体的に生かす方法を考える。
6	コロナ禍での医療現場における看護職の役割について	連携病院である星ヶ丘医療センターで実際に COVID-19 感染拡大に対応されている看護師の講義を聴講する。コロナ禍における医療現場での看護職の働きを知る	事前事後学習課題：COVID-19 感染症拡大に関連した、事前に提示する課題について調べること。 事後課題：指示した課題を行い、成果物を提出すること。
7	チームビルディング(1)薬学部生と合同授業	・チーム医療について講義を受ける。 ・チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題：チーム医療について調べてくる。 事後学習課題：授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。
8	チームビルディング(2)薬学部生と合同授業	チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題：チーム医療について調べてくる。 事後学習課題：授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。チーム医療における看護師の役割について考える。 課題を提出する。
9	患者から学ぶ医療職への期待(1)薬学部生と合同授業	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏をゲストスピーカーに迎え、テーマについて学ぶ	事前学習課題：患者の人権について調べてくる。 事後学習課題：ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる
10	患者から学ぶ医療職への期待(2)薬学部生と合同授業	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏の講義からの学びをまとめる。	事前学習課題：患者の人権について調べてくる。 事後学習課題：ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。課題を提出する。
11	チーム医療について(1)薬学部生と合同授業	いままでの合同授業を通してチーム医療について学んだ内容を薬学部生との混合グループで討議する。	事前学習課題：チーム医療について、疑問点や話し合いたい点を準備する。 事後学習課題：討議した内容の発表準備をする。
12	チーム医療について(2)薬学部生と合同授業	グループの発表内容をまとめ、発表する。	事前学習課題：発表での自分の役割を考え、協力して準備する。他者の発表にも関心をもち聞く準備をする。 事後学習課題：グループでの課題の最終プロダクト(成果物)を作成し、提出する。
13	私のキャリア I	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、	事前学習課題：日本看護協会の HP から「キラリ！看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリ

			卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める。	ストの動画を視聴する。 事後学習課題：さらに知りたいことを深めることをまとめる
	14	私のキャリアⅡ	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める。	事前学習課題：日本看護協会のHPから「キラリ！看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。 事後学習課題：さらに知りたいことを深めることをまとめる
	15	看護学生に必要な感染予防策について	看護学生に必要な感染予防策を、理解する。特に感染症の予防接種について取り扱う。自己の抗体価検査の結果の読みとり、感染予防に関する自己の計画を立てる。	事前事後学習課題：医療系学部生に必要な予防接種について調べる。 事後学習課題：自己の感染対策を実行する。
関連科目	キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	田中結華 研究室 9 鎌田佳奈美 研究室 17 亀田直子 研究室 23			
備考				

科目名	臨床医療演習 I	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 小川 宣子, 長沢 美和子, 松本 葉子, 村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2505a3		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 医療の対象となる人々に治療やケアを実践する上で必要となる専門的知識について学習し、専門的知識に基づいて対象者のニーズをアセスメントし、患者中心の援助計画を立案し、実践する。また、対象に関わる医療チームの各職種の役割と機能を理解し、専門職連携によって治療管理・ケアを実践する。</p> <p><b>【目的】</b> 対象およびその家族のニーズについて、健康レベルや生活背景を踏まえ、専門的知識に基づいたケアを立案し、模擬患者への実践ができる。模擬患者への実践や患者役の体験を通して、患者とのコミュニケーション・臨床判</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例患者が受けている治療やケアの根拠、ニーズについて説明することができる。</li> <li>2. 専門的知識を活用し、患者の意思を尊重した援助計画を立案することができる。</li> <li>3. 事例患者に関わる他職種と各職種の役割・機能、医療チームの目標を説明することができる。</li> <li>4. 生活文化に対応したエンド・オブライフ・ケアについて理解できる。</li> <li>5. 臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを理解し、対話方法を考えることができる。</li> <li>6. 多様な意思決定を理解し、自己の死生観を振り返る</li> </ol>
------	---

授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って進める。授業日程の詳細は、初回授業に配布する資料で説明する。</p> <p>授業方法は、学内演習を中心とする。演習時に必要な物品は、各授業前に周知する。演習時には、ゴーグルを持参すること。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	3年次以降の臨床実習で実際に活用できる能力を習得する科目であり、看護師国家試験内容にも関連している。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	エンドオブライフとは	【講義・演習】 ・エンドオブライフの概念について学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
2	エンドオブライフに関連する文化の理解①	【演習】 ・エンドオブライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
3	エンドオブライフに関連する文化の理解②	【演習】 ・エンドオブライフに関連する社会的背景や文化について国内外の現状を検討し、GWで共有する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
4	臨終時の看護①	【講義・演習】 ・臨終期にある対象とその家族に求められる援助やグリーフケアを学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
5	臨終時の看護②	【演習】 ・看取り時の際の対象者や家族へのかかわり、対話について学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
6	エンゼルケア	【講義】 ・エンゼルケアの実際についてのゲストスピーカーの講義より学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
7	死生観	【演習】 ・「生ききることを支える」ための意思決定への支援をGWで検討し、自己の死生観を振り返る	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
8	専門的知識の活用①	【グループ学習】 ・設定された事例患者の情報を共有し、事例患者のニーズや治療内容について理解する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
9	専門的知識の活用②	【グループ学習】 ・事例患者に生じている嚥下障害及び必要な栄養管理について理解する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
10	専門的知識の活用③	【グループ学習及びプレゼンテーション】 ・事例患者のニーズ・治療内容、嚥下障害及び必要な栄養管理について発表する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
11	ケア立案①	【グループ学習及びプレゼンテーション】 ・事例患者のニーズを満たすために必要な計画についてグループで話し合い、具体的な計画を立案する(環境・移動、栄養管理・嚥下に関する内容)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
12	ケア立案②	【グループ学習】 ・立案した計画を、指導者に相談し、計画に反映する ・患者体験に基づき、計画を修正する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)
13	援助の実施①	【演習およびプレゼンテーション】	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬患者とのコミュニケーションを図りながら、援助を実施する</li> <li>・ベッド上坐位で食事摂取の援助を実施する</li> </ul>	布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)																
	14	援助の実施②	<b>【演習及びグループ学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動麻痺のある患者が安全・安楽に移動し、食事を摂取するための援助を実施する</li> <li>・実施した結果を報告する</li> <li>・実践および患者体験により、実践上の課題について振り返り、改善策を検討する</li> </ul>	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)																
	15	援助の実施③	<b>【グループ学習およびプレゼンテーション】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後の生活に向けた患者のニーズ、生活上の問題を明確にする</li> <li>・退院に向けての医療チームの関わりについて説明する</li> </ul>	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)																
関連科目	これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフケア</td> <td>田村恵子</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>写真と動画でわかる一次救命処置：BLSー改訂第3版</td> <td>小林正直</td> <td>学研メディカル秀潤社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフケア	田村恵子	メヂカルフレンド社	2	系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学	北川公子	医学書院	3	写真と動画でわかる一次救命処置：BLSー改訂第3版	小林正直	学研メディカル秀潤社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフケア	田村恵子	メヂカルフレンド社																	
2	系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学	北川公子	医学書院																	
3	写真と動画でわかる一次救命処置：BLSー改訂第3版	小林正直	学研メディカル秀潤社																	
評価方法(基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(レポートや記録等)の達成状況：80点、および演習態度(積極性や取り組みへの姿勢等)20点により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	1・2年次に学修した内容をもとに、授業を実施します。既修科目の内容について、復習をしておいてください。																			
担当者の研究室等	第1回～第7回：7号館 3階 小川宣子 研究室(10) 第8回～第15回：7号館 3階 稲垣美紀 研究室(26)																			
備考	提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。																			

科目名	臨床医療演習Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子, 井田 歩美, 川野 常夫, 志戸岡 恵子, 宮本 征一, 矢野 浩二郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2506a3		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	講義と施設の見学を通して、人間工学、建築環境工学、機械工学の基礎を理解しやすいように解説する。施設の見学後はグループワークを行い、学生間で学びの共有ができるよう発表の時間を設ける。講義、施設見学、グループワークの一連の学習により、看護における工学の役割について理解する。授業日程は、別途スケジュールを提示します。 留意点：感染拡大状況により、施設見学は代替措置をとる場合があります。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護学における工学の理解	看護学における工学とは	事前学習：配布資料を読んでおく (30分) 事後学習：授業で考察したことを記録しておく (30分)
	2	人間工学の基礎 (1)	人間工学の定義	事前学習：人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	3	人間工学の基礎 (2)	臨床における人間工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている人間工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	4	建築環境工学の基礎 (1)	建築環境工学の定義	事前学習：建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	5	建築環境工学の基礎 (2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている建築環境工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	6	機械工学の基礎 (1)	機械工学の定義	事前学習：機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	7	機械工学の基礎 (2)	臨床における機械工学の活用について	事前学習：臨床で活用されている機械工学について調べる (30分) 事後学習：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1時間)
	8	工学の実際 (1)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (1時間) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (1時間)
	9	工学の実際 (2)	工学に実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (1時間) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (1時間)
	10	工学の実際 (3)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (1時間) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (1時間)
	11	工学の実際 (4)	工学の実際を学ぶ	事前学習：これまでの授業内容の復習 (1時間) 事後学習：施設見学で学んだことをまとめる (1時間)
	12	看護学における工学の理解 (1)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (1時間) 事後学習：発表資料作成 (1時間)
	13	看護学における工学の理解 (2)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習：発表資料作成のための情報・資料収集 (1時間) 事後学習：発表資料作成 (1時間)
	14	看護学と工学のこれから (1)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (1時間) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (1時間)
15	看護学と工学のこれから (2)	看護学と工学のこれからについて考察した内容を発表する	事前学習：発表資料作成 (1時間) 事後学習：発表資料を仕上げ提出する (1時間)	

関連科目	これまで履修した専門科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題への取り組み(ディスカッション、質問)、課題レポートや発表資料の提出内容100%により総合的に評価する。したがって、課題は指定された期日までに忘れず提出をしてください。			
学生への メッセージ	担当される先生方は、人間工学、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。担当の先生方から学んだことを基に、ICTツールを用いて学生間でのディスカッションを行い、みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 竹下(研究室30)			
備考				



科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代, 田中 真佐恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NCA2507a3		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、看護師および薬剤師との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。
到達目標	ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働したチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。 1. 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2. パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。6年前から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者の役割の広がりを体感することとなり、看護の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(1時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(1時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(2時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(1時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	同上	同上
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(2時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(1時間) ②既存の健康だよりなどの資料を集めておく(1時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	同上	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく(1時間) ②企画案に必要な項目を学習する(2時間) 事後:グループ課題を行う(1時間)
10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	同上	事後:グループ課題を行う(1時間)
11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(3)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを指定期日までに作成する(2時間)
12	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(2時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(3時間)
13	アクティブエイジング健康チェックの実践	同上	同上
14	アクティブエイジング健康チェックの実践	同上	同上
15	アクティブエイジング健康	演習形式	事後:レポートを期日までに作成し提出する(2時間)

	チェックの評価	当日の全体の状況、アンケート集計結果から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善などから健康チェックの意義・改善点について提言する	間)	
関連科目	各領域別看護学、地域看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院
	2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社
	3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会
評価方法(基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて 60%、地域活動の実践状況について 40%の評価を行う。			
学生へのメッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。領域別実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。この科目の主担当である山本十三代は、医療機関で保健師として継続看護や訪問看護を行ってきました。また、保健師養成専門学校では、健康教育、地区組織活動、地区活動といった講義・演習・実			
担当者の研究室等	山本十三代 研究室 5 田中眞佐恵 共同研究室 2			
備考	課題のフィードバックについては、毎回の授業時にグループ単位で行います。			

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎, 久家 貴寿, 吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1001a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。</li> <li>人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。</li> <li>人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。</li> <li>各器官系の時間的経過における変化を説明できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	細胞と組織 体を構成するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>人体を構成する4種類の主な元素と数種類の微量元素を挙げるができる。</li> <li>元素の原子記号を表記できる。</li> <li>核の構造と核膜、染色体、染色質(クロマチン)の機能を説明できる。</li> <li>細胞膜の構造と機能(膜を介した物質の移動)を述べるができる。</li> <li>細胞内小器官の名称と機能を説明できる。</li> <li>体細胞の分裂と生殖細胞の分裂(減数分裂)について説明できる。</li> <li>4種の主要な組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)について、その特徴を述べることができる。</li> <li>各組織が存在する人体の部位を</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	血液 物質を運搬するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>血漿と血清の違いを説明できる。</li> <li>血球と血漿の成分を挙げるができる。</li> <li>血球の名称と機能を説明できる。</li> <li>造血に関わるサイトカインを挙げるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	血液 物質を運搬するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>止血のメカニズムを説明できる。</li> <li>ABO式、Rh式の血液型について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>獲得免疫系と自然免疫系について、それぞれ説明できる。</li> <li>免疫反応を起こす細胞の特徴と機能について説明できる。</li> <li>抗体の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>感染症に対する免疫系の細胞の反応について説明できる。</li> <li>アレルギーについて説明できる。特に、IgEが関与するアレルギー(アナフィラキシー)について詳細に説明できる。</li> <li>代表的な自己免疫疾患を三つ挙げ、その発症機序を説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>心臓の位置と各部位の名称を挙げるができる。</li> <li>血液が体内を循環する経路を、心臓を中心に述べるができる。</li> <li>肺循環と体循環の特徴を説明できる。</li> <li>心臓を栄養する血管を挙げるができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の刺激伝導系の名称を説明できる。</li> <li>・心周期と心音、心電図の関係を述べることができる</li> </ul>	
8	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・心拍数と1回拍出量を調節する因子を挙げることができる。</li> <li>・動脈と静脈の血管の構造と機能を説明できる。</li> <li>・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。</li> <li>・主要な動脈と静脈の名称を述べることができる。</li> <li>・脳、門脈、胎児の循環系について説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
9	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・血圧と脈拍の定義を述べるができる。</li> <li>・血圧を調整する因子を挙げることができる。</li> <li>・体表面から脈拍に触れる部位と触れる血管名を挙げることができる。</li> <li>・リンパの静脈への流入経路が左右非対称である点を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
10	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通過する呼吸器官を挙げることができる。</li> <li>・呼吸器系の加温・加湿・清浄化(感染防御)機構を述べることができる。</li> <li>・胸腔における胸膜と肺の位置関係が説明できる。</li> <li>・肺胞の構造を述べるができる。</li> <li>・吸息に関する筋と神経を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
11	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・スパイロメーターで測定する肺気量分画の意味を説明できる。</li> <li>・肺活量、%肺活量、1秒間努力呼気容量、1秒率の臨床応用について述べるができる。</li> <li>・外呼吸、内呼吸を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
12	泌尿器系 尿をつくるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・ネフロンを構造を述べることができる。</li> <li>・糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌により尿が生成される過程を述べることができる。</li> <li>・尿に含まれる物質を挙げることができる。</li> <li>・無尿、乏尿、多尿を定義することができる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
13	泌尿器系 尿をつくるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>・排尿の機構を述べることができる。</li> <li>・尿道の構造について男性と女性の差(長さ括約筋)を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
14	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・ホルモンの定義と作用するしくみを説明できる。</li> <li>・どのようなフィードバック機構がホルモン分泌にみられるかを、例を挙げて説明できる。</li> <li>・下垂体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・松果体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・甲状腺から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
15	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・上皮小体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・副腎皮質と副腎髄質から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・ステロイド生合成の概略を説明できる。</li> <li>・卵巣と精巣から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> <li>・消化管から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。</li> </ul>	<p>授業のまとめノートを作成すること。 予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。</p>	
関連科目	人体の構造と機能Ⅱ、Ⅲ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (70%) および、小テスト (30%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。 授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験から免疫系や内分泌系について、基礎的な内容が臨床でどのように活かされるのかを考える実践的な教育を行う。			
担当者の 研究室等	久家貴寿 1号館4階 生体分子分析学研究室 山口太郎 1号館6階 薬理学研究室 吉田侑矢 1号館3階 病態医科学研究室			
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。			

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 太郎, 久家 貴寿, 吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1002a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。</li> <li>人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。</li> <li>人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。</li> <li>各器官系の時間的経過における変化を説明できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	骨格系 体を支えるしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>脊柱を構成する椎骨の名称を挙げることができる。</li> <li>椎間板の働きを説明できる。</li> <li>上肢と下肢の骨の名称を挙げることができる。</li> <li>骨盤の形の性差を述べることができる。</li> <li>3種類の関節の名称を挙げることができる。</li> <li>屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外の言葉を説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	筋系 体を動かすしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>3種類の筋組織の特徴、存在する臓器名を述べることができる。</li> <li>骨格筋の収縮に関連して、活動電位、等張性収縮、等尺性収縮を説明することができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	筋系 体を動かすしくみ②	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>神経筋接合部とアセチルコリンの作用を説明できる。</li> <li>体表面に近い主要な筋の名称を、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢について述べるることができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ①	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>中枢神経系と末梢神経系を説明できる。</li> <li>ニューロンの基本的な構造を述べることができる。</li> <li>ニューロンの活動電位が生じ、他の神経細胞へ伝導される過程を説明できる。</li> <li>神経伝達物質について述べるができる。</li> <li>体性感覚受容器の種類を挙げることができる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ②	以下を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>大脳、間脳、脳幹、小脳を区別し、各々の機能を述べることができる。</li> <li>脊髄の機能と構造を述べることができる。</li> <li>髄膜の構造を述べることができる。</li> <li>脳脊髄液の産生とその機能を説明できる。</li> <li>脊髄伝導路について説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ③	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>12の脳神経の名称を挙げ、その働きを述べることができる。</li> <li>交感神経と副交感神経の構造と機能を説明できる。</li> <li>レム睡眠、ノンレム睡眠について述べるができる。</li> <li>サーカディアンリズムを説明できる。</li> </ul>	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

	8	皮膚と膜 体や臓器を守るしくみ	以下を目標とします。 ・漿膜のある部位を挙げ、その構造と機能を説明できる。 ・粘膜と皮膚が連続している部位を挙げることができる。 ・滑膜や滑液包のある部位を挙げ、その役割を説明できる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	9	皮膚と膜	以下を目標とします。 ・表皮・真皮・皮下組織の構造を説明できる。 ・毛・爪・脂腺・汗腺が皮膚の機能にどのように関与しているかを説明できる。 ・体温の調節機構を述べるができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	10	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ①	以下を目標とします。 ・眼球の構造を述べるができる。 ・杆体と錐体の機能的な違いを説明できる。 ・屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼圧を説明できる。 ・対光反射のしくみを述べるができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	11	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ②	以下を目標とします。 ・外耳、中耳、内耳の構造と機能を述べるができる。 ・静的および動的平衡覚を説明できる。 ・嗅覚と味覚の受容器を説明できる。 ・皮膚感覚の受容器を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	12	生殖器系 子孫を残すしくみ	以下を目標とします。 ・卵巣の機能を述べるができる。 ・卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係を説明できる。 ・卵胞、黄体、卵子発生を説明できる。 ・排卵の時期を述べるができる。 ・月経周期に伴う子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび卵巣ホルモンの変化を述べるができる。 ・排卵の機序、受精と受精卵の着床を説明できる。 ・妊娠による母体の変化を述べるができる。 ・分娩の開始から終了までを3期に分けて説明できる。 ・精子の産生後、射精されるまでの経路を述べるができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	13	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ①	以下を目標とします。 ・食欲の調節機構(抑制因子と増進因子)を説明できる。 ・唾液の成分と機能を説明できる。 ・歯の構造を述べ、乳歯と永久歯の名称を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	14	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ②	以下を目標とします。 ・嚥下の機構を述べるができる。 ・胃、小腸、大腸の構造名を挙げることができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
	15	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ③	以下を目標とします。 ・消化管や付属腺から分泌される消化酵素の名称と、各々が作用する物質を説明することができる。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 定期試験 (70%) および小テスト (30%) で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

学生へのメッセージ 授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。  
授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験から骨格系や筋系について、基礎的な内容が臨床でどのように活かされる

	のかを考える実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	久家貴寿 1号館4階 生体分子分析学研究室 山口太郎 1号館6階 薬理学研究室 吉田侑矢 1号館3階 病態医科学研究室
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。



科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾中 勇祐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1003a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に生じる異常に関して、基礎的な知識を身につけます。 人体の構造と機能ⅠとⅡでは、正常な状態における人体の構造と機能について学びましたが、人体の構造と機能Ⅲでは、異常が起きた時に現れる症状や徴候について、そのそのメカニズムや検査のポイント等について学びます。 臨床で生きる知識を身につけることを目的として授業を行いますので、しっかりと予習復習を行い、授業についてきてください。
到達目標	・臨床でよく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について、その原因の理解・分類ができる。 ・それらの症状・徴候の病態生理を理解できる。 ・それらの症状・徴候の問診、検査のポイントが理解できる。 ・それらの症状・徴候の処置、治療の原則が理解できる。
授業方法と留意点	オンデマンド動画による講義を行います。 講義後は、Moodleにて演習問題を提示しますので、繰り返し問題を解き、知識の定着を図ってください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	血行障害、炎症と修復	以下を目標とします。 ・血行障害とは何かを説明できる。 ・血行障害の原因を分類できる。 ・血栓症と塞栓症の違いを説明できる。 ・梗塞とは何かを説明できる。 ・側副循環 (副循環) とは何か、例を挙げて説明できる。 ・炎症とは何かを説明できる。 ・炎症の原因を分類できる。 ・炎症と修復に関わる細胞と体液性因子について説明できる。 ・炎症と修復の経過を病理学的について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
3	免疫および免疫疾患、感染	以下を目標とします。 ・免疫の役割とは何かを説明できる。 ・免疫の働きと調節を説明できる。 ・免疫とその障害である免疫疾患を分類できる。 ・免疫疾患の成り立ちを説明できる。 ・現在行われている免疫疾患の治療の原則について説明できる。 ・感染の成立とその修復機転について説明できる。 ・感染の原因となる微生物について説明できる。 ・交叉感染を防ぐための基本 (標準予防策を含む) が説明できる。 ・感染症の治療一般 (抗菌薬を含む) について説明できる。	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。
4	変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成	以下を目標とします。 ・変性とは何かを説明できる。 ・壊死とは何かを説明できる。 ・凝固壊死と融解壊死の病態の違いを説明できる。 ・アポトーシスとは何かを説明できる。 ・萎縮とは何かを説明でき、具体例を挙げられる。 ・老化とは何かを説明できる。 ・老化に伴う主要臓器の変化について説明できる。 ・がん細胞と正常細胞の違いを説明できる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫とは	予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。

		何かを説明できる。 ・がんの自然史と進展形式について説明できる。 ・TNM分類とは何か説明できる。 ・がん治療の種	
5	先天異常、代謝異常	以下を目標とします。 ・先天異常とは何かを説明できる。 ・先天異常の原因を分類できる。 ・DNAと遺伝子と染色体の関係を説明できる。 ・染色体異常と遺伝性疾患を区別できる。 ・遺伝形式を説明できる。 ・遺伝医療の流れを説明できる。 ・先天異常の看護のポイントの説明ができる。 ・健常者の血糖調節機序の説明ができる。 ・糖尿病における血糖上昇の理由を説明できる。 ・高血糖でアシドーシスになる理由を説明できる。 ・高血糖時のいろいろな症状の発生機序を説明できる。 ・低血糖の発生機序を説明で	予習：教科書を読む（30分）。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。
6	徴候と疾患の関係、 序論－身体の不調はどう現れるか、 咳嗽・喀痰・喀血、呼吸困難、胸痛、不整脈	以下を目標とします。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の原因を理解し、その分類ができる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の病態生理が理解できる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の問診・検査のポイントがわかる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の対応や対処の原則が理解できる。 ・咳嗽・喀痰の定義・概念について述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の病因とメカニズムについて述べるができる。 ・咳嗽・喀痰を引き起こす代表的な疾患を述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の分類を述べるができる	予習：教科書を読む（30分）。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。
7	チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満、やせ	以下を目標とします。 ・チアノーゼとは何か説明できる。 ・チアノーゼの分類ができる。 ・チアノーゼを観察する部位がわかる。 ・ショックとは何かを説明できる。 ・ショックの原因を分類できる。 ・ショックの段階を説明できる。 ・ショック時の観察ポイントを説明できる。 ・ショックへの対応の流れと治療の原則が説明できる。 腹痛の分類と発生機序を説明できる。 ・体性痛と内臓痛とを鑑別できる。 ・急性腹症について説明できる。 ・腹膜刺激症状を説明できる。 ・腹痛をきたす病態で緊急に外科的手術	予習：教科書を読む（30分）。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。
8	食欲不振、嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢	以下を目標とします。 ・食欲不振とは何かを説明できる。 ・食欲を調節するしくみを説明できる。 ・食欲不振の原因を分類し、説明できる。 ・食欲不振時の観察ポイントを説明できる。 ・嚥下の各期の名称を挙げ、その説明ができる。 ・嚥下障害とは何かを説明できる。 ・嚥下障害に伴うリスクを説明できる。 ・嚥下の各期に起こりうる障害について観察項目とアセスメントを説明できる。 ・嚥下の各期の障害に対する基礎・摂食訓練を説明できる。 ・嘔気・嘔吐とは何かを説明できる。 ・嘔気・嘔吐の原因と機序を説	予習：教科書を読む（30分）。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。
9	腹部膨満、腹水、黄疸、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹	以下を目標とします。 ・腹部膨満の原因を五つ挙げることができる。 ・腹部膨満の原因となる疾患は何かを述べるができる。 ・腹部膨満を訴える患者の病歴聴取のポイントを説明できる。 ・身体診察から鼓腸、腹水、肥満を鑑別診断できる。	予習：教科書を読む（30分）。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む（1時間）。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹水貯留の原因となる疾患を説明できる。</li> <li>・腹水の性状による分類について説明できる。</li> <li>・フィジカルアセスメントでの腹水貯留所見について説明できる。</li> <li>・腹水貯留の病態生理が説明できる。</li> <li>・ビリルビン代謝について説明できる。</li> <li>・黄疸の原因と分類について説明できる。</li> </ul>	
10	皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣とてんかん	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・皮膚の掻痒の原因を分類できる。</li> <li>・掻痒を伴う主な内科疾患を説明できる。</li> <li>・掻痒の原因を診断するための主な検査を列挙できる。</li> <li>・皮膚掻痒の治療の原則を説明できる。</li> <li>・レイノー症状とは何かを説明できる。</li> <li>・レイノー症状の原因を分類できる。</li> <li>・レイノー症状の治療の原則を説明できる。</li> <li>・意識障害とは何かを説明できる。</li> <li>・意識障害の原因を分類できる。</li> <li>・意識障害の頭蓋内病変と頭蓋外病変の違いを説明できる。</li> <li>・意識障害の評価法を説明でき、意識状態を判定できる。</li> <li>・意識障</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
11	運動麻痺、運動失調、歩行障害、嘔声、めまい	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・運動麻痺の種類（筋性麻痺、末梢神経性麻痺、下位運動・上位運動ニューロン性麻痺）を説明できる。</li> <li>・片麻痺、交叉性片麻痺、対麻痺の発生機序を説明できる。</li> <li>・痙性麻痺と弛緩性麻痺の違いを説明できる。</li> <li>・痙縮と固縮の違いを説明できる。</li> <li>・運動皮質、運動前野、補足運動野の機能を簡単に説明できる。</li> <li>・徒手筋力テスト (MMT) を簡単に説明できる。</li> <li>・失行と運動失調の区別を説明できる。</li> <li>・パーキンソン病の振戦と小脳性振戦の違いを説明できる。</li> <li>・指鼻指試験を実施できる。</li> <li>・測定障</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
12	視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、嗅覚障害、しびれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・視力障害とは何かを説明できる。</li> <li>・視力障害の原因を分類できる。</li> <li>・視力障害の発症機序を説明できる。</li> <li>・視力障害時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・視力障害の治療の原則が説明できる。</li> <li>・難聴とは何かを説明できる。</li> <li>・難聴を障害部位別に分類できる。</li> <li>・程度により難聴を区分できる。</li> <li>・難聴を起こす主な原因疾患を説明できる。</li> <li>・主な聴力検査について説明できる。</li> <li>・耳鳴とは何かを説明できる。</li> <li>・耳鳴の分類ができる。</li> <li>・耳鳴を起こす主な疾患を述べることができる。</li> <li>・主</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
13	腰痛、関節症状、発熱・低体温、浮腫、脱水	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・腰痛とは何か説明できる。</li> <li>・腰痛の原因となる腰椎疾患、腰椎以外の疾患をそれぞれ説明できる。</li> <li>・腰痛の主な診断方法について説明ができる。</li> <li>・腰痛の主な治療方法の説明ができる。</li> <li>・関節痛とは何かを説明できる。</li> <li>・関節痛をきたす疾患を列挙できる。</li> <li>・関節痛の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・関節痛の治療の原則が説明できる。</li> <li>・発熱とは何かを説明できる。</li> <li>・発熱の原因を分類できる。</li> <li>・発熱の段階を説明できる。</li> <li>・発熱時の観察ポイントを説明できる。</li> <li>・発熱への対応の流れ</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、演習問題に取り組む (1時間)。</p>	
14	排尿異常、尿量異常、尿所見異常、睡眠障害、倦怠感	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下を目標とします。</li> <li>・頻尿の定義を説明できる。</li> </ul>	<p>予習：教科書を読む (30分)。 復習：講義及び教科書を基に授業ノートを作成し、</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・排尿痛を三つに分類して説明できる。</li> <li>・排出困難（排尿困難）の症状を三つ以上説明できる。</li> <li>・尿失禁を原因により六つに分類できる。</li> <li>・無尿の定義を説明できる。</li> <li>・乏尿の定義と乏尿をきたす三つ機序を説明できる。</li> <li>・多尿を生じる疾患を説明できる。</li> <li>・尿が混濁する原因を二つ説明できる。</li> <li>・尿タンパクが検出される疾患を三つに大別して説明できる。</li> <li>・尿糖陽性が意味することを説明できる。</li> <li>・血尿の原因を三つに区別して説明できる。</li> <li>・睡眠の種類につ</li> </ul>	演習問題に取り組む（1時間）。
15	まとめ	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深める。		予習：作成した講義ノートを振り返る（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを作成し、演習問題に取り組む（30時間）。
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学	山内豊明 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・サブリエイメージできる病態生理学	ナーシング・サブリエイ編集委員会編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(80%)およびMoodle上の演習問題(20%)の成績を合わせて総括評価とする。			
学生への メッセージ	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱの知識をベースとして、人体に現れる異常についての講義を行います。 ただ覚えるだけでなく、症状であれば、メカニズムから理解する等、流れを意識することで、知識の定着が早まります。 また、授業中や予習・復習中に出てきた疑問は、必ず解消しながら学習を進めてください。 質問大歓迎です。質問は、授業後に尾中を捕まえる、尾中講師室まで行く、専用フォームに投稿する等の手段で積極的にお願いします。			
担当者の 研究室等	1号館6階 薬理学研究室			
備考				

科目名	代謝栄養学	科目名 (英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1005a0		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質 (アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教材課題提供型オンライン授業あるいは動画配信型オンライン授業 (リアルタイム方式) で実施。Moodle 及び Teams、Stream の使用を予定している。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。その際は、別途、Teams 等を用いて連絡する。
科目学習の効果 (資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩やかな状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	対面による定期試験結果に基づき評価する。100点満点中60点以上で合格。再受験の学生も同様に評価する。なお、新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、Teams 等を用いて連絡する。小テストと課題 (25%)、定期試験 (75%) で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館5階生物系薬学分野生化学
----------	-----------------

備考	小テストはMoodleを使用する。
----	-------------------

科目名	病理学総論	科目名 (英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	病理学とは、病気の原因とその成り立ちを知る学問です。看護師の知識として必要な多くの病気に関して、その原因や成り立ちを学ぶことにより、病気の本質を知ることが目的とします。
到達目標	病気に伴い体の中でどのような変化がおきているのかを理解できる。 主要な病気に関しては、その原因と成り立ちについて説明できる。
授業方法と留意点	対面を基本として、場合により遠隔授業をおこないます。 毎回、前回の授業内容の小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	病気を正しく認識することにより、より適切な看護を行うことが出来る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	免疫 感染症	細菌やウイルス感染による障害とそれに対抗する防御機構	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	循環障害 代謝障害	循環障害や代謝障害による細胞や臓器の変化	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	老化 先天異常	老化や先天異常による細胞や臓器の変化	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	腫瘍	腫瘍とはなにか。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	循環器系の疾患	心臓や血管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	血液・造血器系の疾患	血液やリンパ系の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	呼吸器系の疾患	肺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	消化器系の疾患	胃や腸管の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	肝臓膵臓の疾患	肝臓、胆嚢、膵臓 (外分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	泌尿器系の疾患 生殖器系の疾患	腎臓、卵巣、子宮、前立腺の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	内分泌系の疾患	副腎、甲状腺、膵臓 (内分泌) の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	脳・神経系の疾患	脳、脊髄の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	骨関節系の疾患 筋肉系の疾患	骨、関節、筋肉の主な病気の原因となりたち	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	感覚器系の疾患 皮膚の疾患	目、鼻、耳、皮膚の主な病気の原因となりたち	・該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病理学 疾患の成り立ちと回復の促進 1	大橋 健一	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 期末テスト 50%、毎回の小テスト 50%で評価します。

学生へのメッセージ 病気は正常から逸脱した状態です。人体の正常な解剖と生理を理解したうえで、この講義を受講することにより、病理の理解が一層深まります。

担当者の研究室等 薬学部 病理学研究室 6号館3階

備考

科目名	感染と防御	科目名 (英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1007a0		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。 2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめた PDF 資料を配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書と資料の内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業
科目学習の効果 (資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生学的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	感染・感染症の機構と種類	オンライン授業により実施する。 感染はどうやって起こるのか、感染症の種類について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12-p. 43 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
3	病原体の概要と分類	オンライン授業により実施する。 病原体 (細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫・プリオン) の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 130-139, p. 242-247, p. 310-313, p. 335-338 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
4	免疫の概念	対面授業により実施する。 免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
5	免疫系のネットワーク	対面授業により実施する。 自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 46-p. 70, p. 77-82 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
6	免疫による感染防御と免疫に基づく疾患	対面授業により実施する。 ワクチン、正常な免疫系が関与する疾患、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p71-76, p. 83-p. 91 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
7	微生物の特徴・微生物検査法・滅菌と消毒	教材課題提供型オンライン授業で実施 (10/29)。 病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。 病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習: 教科書 p. 96-p. 107, p. 156-p. 162, p. 255-p. 257 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
8	感染症の予防	対面授業により実施する。 感染症予防の考え方、予防接種、感染予防対策について解説する。	事前学習: 教科書 p. 92-p. 127 の該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
9	化学療法	対面授業により実施する。 化学療法の概念、歴史と代表的な抗菌薬・抗ウイルス薬、および薬剤耐性について解説する。	事前学習: 教科書 p. 163-p. 175 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
10	代表的な細菌感染症-1	対面授業により実施する。 グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 140-p. 155, p. 176-p. 240 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
11	代表的な細菌感染症-2	対面授業により実施する。 グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 140-p. 155, p. 176-p. 240 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
12	代表的なウイルス感染症-1	対面授業により実施する。 ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 242-p. 307 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
13	代表的なウイルス感染症-	対面授業により実施する。	事前学習: 教科書 p. 242-p. 307 とプリントの該当部

		2	ウイルス感染症の例として、B型肝炎、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	分を熟読する(1時間)。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
	14	真菌の特徴と代表的な真菌感染症	対面授業により実施する。 真菌の病原性と代表的な真菌感染症について解説する。	事前学習:教科書 p.310-p.333 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
	15	原虫・蠕虫の特徴と代表的な寄生虫感染症	対面授業により実施する。 寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習:教科書 p.336-p.369 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習:重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。																
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>わかる、身につく病原体・感染・免疫</td> <td>藤本秀士</td> <td>南山堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学</td> <td>増澤俊幸</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジュアル微生物学</td> <td>小田祐</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)</td> <td>南嶋洋一</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学	増澤俊幸	羊土社	2	ビジュアル微生物学	小田祐	ヌーヴェルヒロカワ	3	系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学	増澤俊幸	羊土社																	
2	ビジュアル微生物学	小田祐	ヌーヴェルヒロカワ																	
3	系統看護学講座:微生物学:疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院																	
評価方法(基準)	観察記録(不定期に実施する小テストおよび提出物への取り組み:教員による観察、20%)、定期試験(80%)で評価する(100点満点中60点以上で合格。)																			
学生へのメッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。疑問に思ったことがあれば、レポート用紙等へ書きとめ、解決して行く姿勢が重要である。																			
担当者の研究室等	伊藤 潔 (1号館5階 生物系薬学分野(生化学))																			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが必要になります。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧めます。感染症と防御機構としての免疫は非常に奥が深い分野です。講義では、その一部を解説しますので、各自でさらに深く学習されることを期待します。																			



科目名	薬理学総論	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1008a0		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投与方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 以下の薬理学の基礎知識について説明できる。 ・薬物が作用するしくみについて ・薬物を投与した際の体内挙動 (吸収、分布、代謝、排泄) について ・薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 ・薬物の危険性について ・薬に関連した法律について (3) 以下の薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 ・自律神経に作用する薬物 ・心臓・血管系に作用する薬物 ・血液・造血器に作用する薬物 ・呼吸器系に作用する薬
授業方法と留意点	教材課題提供型オンライン授業で実施する。 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。 その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	薬理学の基礎 (2)	方法:教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。 内容:薬が作用するしくみ (受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター) について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	薬理学の基礎 (3)	方法:教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。 薬の体内挙動 (投与経路、吸収、分布、代謝、排泄) について学修する 内容:薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	自律神経に作用する薬物	方法:教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。 内容:交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	心臓・血管系に作用する薬物	方法:教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合がある。その際は、別途、teams 等を用いて連絡する。 内容:抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	血液・造血器に作用する薬物	方法:教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合	授業のまとめノートを作成すること。 予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

			がある。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学修する。	
7	呼吸器系に作用する薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
8	消化器系に作用する薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
9	腎・泌尿器系に作用する薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：利尿薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
10	感染症治療に用いられる薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：抗菌薬、抗ウイルス薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
11	炎症や痛みに対する薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：抗炎症薬、鎮痛薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
12	がん治療に用いられる薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：抗がん薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
13	外科手術に用いられる薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：全身麻酔薬、筋弛緩薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
14	中枢神経系に作用する薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。
15	感覚器疾患治療に用いられる薬物		方法：教材課題提供型オンライン授業で実施。なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、teams等を用いて連絡する。 内容：緑内障治療薬、めまい治療薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。 予習（30分）復習（1時間）を目安に学習してください。

関連科目

人体の構造と機能、薬物治療学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NICE 薬理学	荻田喜代一ほか	南江堂
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、小テスト及び課題 (20%) で評価し、100 点満点中 60 点以上で合格とする。 なお、新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、teams 等を用いて連絡する。			
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。			
担当者の 研究室等	1 号館 6 階 薬理学研究室			
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。			

科目名	薬物治療学	科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 雅幸
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1009a0		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。教員の大学病院薬剤部における実務経験を基に、医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるべく、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につけることを目的に講義を行う。		
到達目標	以下の治療薬について、作用、副作用と看護上の留意点を交えて説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓・血管系疾患治療薬</li> <li>・血液・造血器系疾患治療薬</li> <li>・消化器系疾患治療薬</li> <li>・呼吸器系疾患治療薬</li> <li>・腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬</li> <li>・ホルモン関連薬</li> <li>・代謝系疾患治療薬</li> <li>・抗炎症薬、鎮痛薬</li> <li>・免疫・アレルギー系疾患治療薬</li> <li>・骨・関節系疾患治療薬</li> <li>・抗感染症薬</li> <li>・抗がん薬</li> <li>・中枢神経系疾患治療薬</li> <li>・感覚器・皮膚系疾患治療薬</li> <li>・外科手術で用いられる薬物</li> <li>・救急の際に用いられる</li> </ul>		
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行います。講義は、ハイフレックス型授業（対面＋遠隔）にて実施します。遠隔で受講する学生にはTeamsを通じて資料を配付します。臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を合わせて提供します。事前事後学修のテスト（予習テスト・復習テスト）および講義中の確認テストを毎回の授業で実施する予定です。		
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	講義の概要 心臓・血管系疾患治療薬（1）	講義の進め方、注意事項、評価方法について説明する。心臓・血管の構造とはたらき、高血圧と治療薬、虚血性心疾患と治療薬について学修する。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	2	心臓・血管系疾患治療薬（2）	心不全と治療薬、不整脈と治療薬について学修する。ハイフレックス型授業で実施する。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	3	血液・造血器系疾患治療薬 消化器系疾患治療薬（1）	血液と造血器系、貧血と治療薬、抗血栓薬と止血薬、血液製剤、消化性潰瘍と治療薬、食欲不振・消化不良と治療薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	4	消化器系疾患治療薬（2） 呼吸器系疾患治療薬	嘔吐と治療薬、下痢・便秘と治療薬、腸疾患と治療薬、肝臓・脾臓疾患と治療薬、呼吸器系のしくみ、気管支喘息と治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸抑制と呼吸刺激薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	5	腎臓・尿路・生殖器系疾患治療薬 ホルモン関連薬（1）	腎臓の構造とはたらき、電解質平衡異常と治療薬、利尿薬、神経因性膀胱と治療薬、前立腺肥大症と治療薬、その他の泌尿器系疾患と治療薬、内分泌系について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	6	ホルモン関連薬（2）	視床下部一下垂体系と関連薬、甲状腺ホルモンと関連薬、副腎皮質ホルモンと関連薬、性ホルモンと関連薬、副甲状腺ホルモンとカルシトニンについて学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	7	代謝系疾患治療薬（1）	糖尿病と治療薬、脂質異常症と治療薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	8	代謝系疾患治療薬（2） 抗炎症薬・鎮痛薬	高尿酸血症・痛風、抗炎症薬、鎮痛薬、疼痛治療の考え方について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	9	免疫・アレルギー系疾患治療薬 骨・関節系疾患治療薬	免疫のしくみと異常、免疫異常による疾患の治療薬、免疫抑制薬、骨・カルシウム代謝、骨粗鬆症と治療薬、関節リウマチと治療薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	10	抗感染症薬（1）	感染症と病原微生物、感染症と抗菌薬治療、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、駆虫薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習してください。
	11	抗感染症薬（2） 抗がん薬（1）	消毒薬、予防接種、がんの基礎知識と治療、抗がん薬について学修する。ハイフ 指定した教科書（該当ページ）を事前に読む（30分）、予習・復習テスト（1時間）を目安に学習して

			レックス型授業を行う。	ください。
	12	抗がん薬 (2) 中枢神経系疾患治療薬 (1)	抗がん薬、中枢神経系の構造とはたらし、不眠症と治療薬、不安障害と治療薬、統合失調症と治療薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読む (30分)、予習・復習テスト (1時間) を目安に学習してください。
	13	中枢神経系疾患治療薬 (2)	気分障害と治療薬、てんかんと治療薬、パーキンソン病と治療薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読む (30分)、予習・復習テスト (1時間) を目安に学習してください。
	14	中枢神経系疾患治療薬 (3) 感覚器・皮膚系疾患治療薬 外科手術で用いられる薬物 (1)	認知症と治療薬、脳血管障害と治療薬、皮膚疾患と治療薬、眼疾患と治療薬、耳疾患と治療薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬について学修する。ハイフレックス型授業を行う。	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読む (30分)、予習・復習テスト (1時間) を目安に学習してください。
	15	外科手術で用いられる薬物 (2) 救急の際に用いられる薬物 中毒と解毒薬 漢方薬 薬物療法における看護のポイント	筋弛緩薬、造影剤および放射性医薬品、救急の際に用いられる薬物、中毒、解毒、漢方薬、薬物療法における看護のポイントについて学修する。ハイフレックス型授業を行う。	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読む (30分)、予習・復習テスト (1時間) を目安に学習してください。
関連科目	人体の構造と機能 I～IV、疾病・治療論 I、II、薬理学総論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト NiCE 薬理学	荻田喜代一 他 編	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (70%)、予習テスト+講義中テスト+復習テスト (30%) で評価し、100点満点の60点以上で合格とする。受講態度が不良の場合は、20点を限度に減点することがあります。			
学生へのメッセージ	授業担当者の田中は、関西医科大学附属病院で薬剤師として20年間勤務し、現在も非常勤職員として業務を行っている経験から、薬物治療に関する実践的な教育を行います。私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。			
担当者の研究室等	1号館 田中准教授室			
備考	予習テスト、復習テストはmoodle、講義中テストはFormsで行う予定です。 なお、新型コロナウイルス感染状況により、授業形態を再度変更する場合があります。その際は、別途、連絡します。			

科目名	疾病・治療論 I	科目名 (英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増山 理・木島 祥行
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑥, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1012a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。循環器（心血管）系と呼吸器系の構造と機能を理解し、各科日常診療の基本となる一般的な循環器疾患の予防、病因、病態 生理、症候、診断と初期対応を中心とした治療を学びます。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	呼吸器 1 呼吸器総論、解剖・生理・検査・症候	①スパイロメトリーについて説明できる。 ②肺胞におけるガス交換、血液の酸塩基平衡、動脈血ガスの検査結果を説明できる。 ③咳嗽、喘鳴などの症候と異常呼吸音（ラ音）を説明できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
3	心電図・不整脈	①主な徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ②主な上室性頻脈性不整脈（洞性頻脈、上室性期外収縮、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ③主な心室性頻脈性不整脈（心室性期外収縮、心室頻拍、多源性心室頻拍、心室細動）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。 ④不整脈の薬物療法、非薬物療法（カテーテルアブレーション、電気的除細動、ペースメーカー植え込み、植え込み型除細動器）を概説できる。 ⑤	授業前に教科書の検査（心電図）と不整脈の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
4	呼吸器 2 呼吸不全・換気異常	①呼吸不全について説明できる。 ②閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患について列挙できる。 ③過換気症候群を概説できる。 ④睡眠時無呼吸症候群を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
5	心不全	①心不全の定義と原因、病態生理を説明できる。 ②左心不全と右心不全の徴候、病態、診断と治療を説明できる。 ③急性心不全と慢性心不全の診断と薬物療法、非薬物療法を説明できる。 ④高齢者における心不全の特徴を説明できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
6	呼吸器 3 呼吸器感染症	①かぜ症候群、インフルエンザについて説明できる。 ②肺炎の主な病原体を列挙し、病態を説明できる。 ③肺結核症、肺真菌症、非結核性（非定型）抗酸菌症を概説できる。 ④誤嚥性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。 ⑤気管支拡張症と慢性気道感染症について説明できる。 ⑥COVID-19 について理解する。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
7	心臓弁膜症・心内膜炎	①主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の病因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を説明できる。 ②感染性心内膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。	授業前に教科書の心臓弁膜症・心内膜炎の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
8	呼吸器 4 免疫・アレルギー性肺疾患 慢性閉塞性肺疾患	①気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を説明できる。 ②サルコイドーシスについて説明でき	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。

			る。 ③ANCA 関連肺疾患について概説できる。	
9	虚血性心疾患（冠動脈疾患） -1		①安定労作性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ②冠攣縮性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ③急性冠症候群（不安定狭心症、非 ST 上昇型心筋梗塞及び ST 上昇型心筋梗塞）の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ④虚血性心疾患の発症予防、再発予防を説明できる。	授業前に教科書の虚血性心疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
10	呼吸器 5 間質性肺炎疾患・胸膜疾患		①間質性肺炎を説明できる。 ②胸膜炎、膿胸について説明できる。 ③自然気胸、プラ、プレブについて説明できる。④じん肺症、石綿肺、中皮腫を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
11	虚血性心疾患（冠動脈疾患） -2		①陳旧性心筋梗塞の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ②虚血性心疾患の薬物治療、非薬物療法（血行再建術（経皮的冠動脈形成術、ステント留置術、冠動脈バイパス 術）、心臓リハビリテーションを説明できる。 ③虚血性心疾患の 12 誘導心電図の特徴を説明できる。	授業前に教科書の虚血性心疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。
12	呼吸器 6 肺腫瘍		①肺癌の分類、治療について概説できる。 ②転移性肺腫瘍の診断と治療を説明できる。 ③縦隔腫瘍について概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
13	心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍		①心肥大の病態生理、リモデリング機序を説明できる。 ②特発性心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症）と二次性心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 ③急性心筋炎の病態、症候、診断、治療症候を説明できる。 ④急性心膜炎、収縮性心膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑤心タンポナーデの病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑥主な心臓腫瘍（粘液腫など）の病態、症候、診断、治療を説明できる。	授業前に教科書の心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
14	呼吸器 7 肺循環障害		①肺性心の病因、診断と治療を説明できる。 ②急性呼吸窮迫症候群（ARDS）の病因、症候と治療を説明できる。 ③肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症について説明できる。 ④肺高血圧症を概説できる。	授業前に教科書の該当章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
15	血圧異常と血管疾患		①本態性高血圧症の疫学、診断、合併症、予後、治療を説明できる。 ②二次性高血圧症の病因（内分泌性、腎血管性、薬剤性）、症候、診断、治療を説明できる。 ③各種降圧薬の作用機序、適応、禁忌、副作用を説明できる。 ④高血圧緊急症の病態と対応を説明できる。 ⑤高齢者の高血圧の特徴と治療の注意点を説明できる。 ⑥低血圧の原因疾患、病態生理、症候、診断、予後、治療を説明できる。 ⑦動脈硬化の危険因子、病態、非侵襲的検査法を説明できる。 ⑧急性大動脈解離の病態、症候、診断、治療を説明できる。 ⑨大動脈	授業前に教科書の血圧異常と血管（大動脈・末梢動脈・静脈）疾患の部分を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習（1 時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験にて評価
学生への メッセージ	看護学を学習するうえで必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。
担当者の 研究室等	
備考	



科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増山 理. 木島 祥行
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1013a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と病態、および治療法を理解することは重要です。本授業では、看護職者に必要となる様々な病態と診断、治療法を理解します。
到達目標	本科目では、主に消化器疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の、的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	血液 1 血液総論・赤血球の異常・止血機構の異常	①貧血を分類し病因を理解する。 ②止血機構の異常を概説できる。 ③血友病の病態を説明できる。 ④播種性血管内凝固を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
3	血液 2 造血器腫瘍	①白血病の分類、症候を説明できる。 ②骨髄異形成症候群を説明できる。 ③悪性リンパ腫の分類を概説できる。 ④多発性骨髄腫を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
4	食道と胃・十二指腸の疾患	①胃食道逆流症と逆流性食道炎の病態生理、症候と診断を説明できる。 ②Mallory-Weiss 症候群を概説できる。 ③胃潰瘍、十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍) の病因、症候、進行度分類、診断と治療を説明できる。 ④Helicobacter pylori 感染症の診断と治療を説明できる。 ⑤胃ポリープを概説できる。 ⑥急性胃粘膜病変の概念、診断と治療を説明できる。 ⑦急性胃腸炎、慢性胃炎を概説できる。 ⑧胃切除後症候群の病態生理を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
5	免疫・アレルギー1 免疫総論	①自然免疫と獲得免疫について概説できる。 ②液性免疫、細胞性免疫、Tリンパ球、Bリンパ球について説明できる。 ③炎症の四徴を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
6	腸・腹膜の疾患	①急性虫垂炎の症候、診断と治療を説明できる。 ②腸閉塞とイレウスの病因、症候、診断と治療を説明できる。 ③炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎・Crohn病) を概説できる。 ④痔核と痔瘻を概説できる。 ⑤機能性消化管障害 (過敏性腸症候群) を概説できる。 ⑥腸管憩室症 (大腸憩室炎と大腸憩室出血) を概説できる。 ⑦消化管ポリポスを概説できる。 ⑧腸重積症を概説できる。 ⑨感染性腸炎を概説できる。 ⑩腹膜炎を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。
7	免疫・アレルギー2 免疫の異常 (アレルギー、免疫不全、アナフィラキシーなど)	①主要な全身性アレルギー性疾患の分類と特徴を概説できる。 ②アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく (1 時間)。授業後は学んだ内容の復習すること (1 時間)。

			③HIV 感染症について概説できる。	
8	肝臓・胆道・膵臓の疾患		①A 型・B 型・C 型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。 ②急性肝炎、慢性肝炎の定義を説明できる。 ③急性肝不全の概念、診断を説明できる。 ④肝硬変の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。 ⑤胆石症の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ⑥胆嚢炎と胆管炎を概説できる。 ⑦胆嚢ポリープを概説できる。 ⑧急性・慢性膵炎（アルコール性、胆石性、特発性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
9	免疫・アレルギー3 膠原病・自己免疫疾患		①膠原病と自己免疫疾患を概説し、代表的疾患を列挙できる。 ②関節炎をきたす疾患を列挙できる。 ③膠原病に代表的疾患を列挙できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
10	内分泌総論・内分泌（甲状腺・副甲状腺・副腎・視床下部・下垂体）疾患		①各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 ②視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。 ③甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 ④副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 ⑤Cushing 病、先端巨大症、汎下垂体機能低下症、尿崩症を概説できる。 ⑥Basedow 病、慢性甲状腺炎、甲状腺機能低下症を概説できる。 ⑦Cushing 症候群、原発性アルドステロン症、副腎	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
11	腎・泌尿器疾患 1 腎泌尿器疾患総論・症状・検査		①腎・尿路系の構造と機能を理解する。 ②ネフロンにおける濾過・再吸収機構を説明できる。 ③水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
12	腎・泌尿器疾患 2 尿路結石症・腫瘍・感染症		①尿路結石の症候、治療を説明できる。 ②腎癌、精巣腫瘍、前立腺癌、膀胱癌を含む尿路上皮癌について説明できる。 ③尿路の炎症（膀胱炎等）を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
13	腎・泌尿器疾患 3 腎不全・腎代替療法		①急性腎不全（急性腎障害）、慢性腎不全（慢性腎臓病）について説明できる。 ②慢性腎臓病<CKD>重症度分類を説明できる。 ③糸球体疾患について説明できる。 ④腎性貧血・骨ミネラル代謝異常について理解する。 ⑤末期腎不全の治療（人工透析・腎移植）について理解する。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
14	糖尿病		①糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。 ②糖尿病の急性合併症を説明できる。 ③糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。 ④糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物治療）を概説できる。 ⑤低血糖症を概説できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。
15	脂質代謝異常・肥満・メタボリック症候群・尿酸代謝異常		①脂質異常症（高脂血症）の分類、病因と病態を説明できる。 ②脂質異常症（高脂血症）の予防と治療を説明できる。 ③高尿酸血症・痛風の病因と病態を説明できる。	授業前に教科書の当該章を読んでおく（1 時間）。授業後は学んだ内容の復習すること（1 時間）。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	病気がみえる 1, 3, 5, 6, 8	武藤 学ら	メディックメディア
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験にて評価
学生への メッセージ	看護学を学習する上で必要な基本的知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名 (英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	濱田 雅之、巽 千賀夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1014a0		

授業概要・目的	看護の場において、身体の構造と機能のみならず、病気が発現する原因と機構（病態）を理解することは重要です。本科目では、各種疾病の、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等「病気の診かたと対処の仕方」について学びます。将来の「共に働く職場チーム」に、的確に、患者さんの病状と時々の経過と、今注意すべき点を説明するための基礎力、建物で言えば、末永く支える土台を作ります。
到達目標	本科目では、主に運動器および脳・神経疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学的診断と対処法、治療法を学び、将来的に確度の高い看護の実践に役立ちます。
授業方法と留意点	下の欄にある授業計画に沿って授業を進めますが、授業内容の短縮、延長・拡大、または、省略が生じ得ます。 講義中心で行います。講義の時間は限られていますので、教科書をすべて網羅することは叶わず、代表的な疾患を中心に講義を行います。このため、教科書の自習は欠かせません。
科目学習の効果 (資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナルへの道を支援します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(運動器 整形外科1)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます (1時間)。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ (文字と図や写真という風景) も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します (1時間)。
2	疾病・治療論(運動器 整形外科2)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
3	疾病・治療論(運動器 整形外科3)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
4	疾病・治療論(運動器 整形外科4)	教科書：病気が見える vol. 11 運動器 整形外科 について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
5	疾病・治療論(脳・神経疾患1)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経 (脳・神経総論・症状・検査) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
6	疾病・治療論(脳・神経疾患2)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経 (脳血管障害・認知症) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
7	疾病・治療論(脳・神経疾患3)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経 (神経変性疾患・末梢神経疾患・筋疾患) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
8	疾病・治療論(脳・神経疾患4)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経 (感染症・脳腫瘍・頭部外傷) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 病理学総論、人体の構造と機能、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 試験にて100%評価します。

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名(英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN1015a0		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	小児に特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。スライドを中心に講義を行い、スライドと同等の内容が記載されている資料を配付する。講義後の事後学習に配付資料を十分活用して欲しい。疾患を解説する際に、解剖生理についての基礎的な知識が必要となるので、事前学習を十分に行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.374~401 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸器生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.439~448 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
3	小児の循環器疾患について	小児の循環器生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.450~467 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
4	小児の血液疾患・悪性新生物について	小児に多い血液疾患、悪性新生物を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.531~545 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.468~486、487~504 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
6	小児の神経疾患、染色体異常、発達障害について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常、発達障害について理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.366~372、515~530、605~610 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.558~569 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
8	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.546~557、570~578、579~587 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、小児看護学概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児看護学②健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護のための臨床病態学	浅野嘉延、吉山直樹	南山堂
2			
3			

評価方法(基準) 合否判定は定期試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。  
新型コロナウイルス感染症が流行している場合は、オンラインで試験を行う可能性あり。

学生へのメッセージ 疾病・治療論Ⅳでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。

担当者の研究室等備考

科目名	疾病・治療論V	科目名 (英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋, 井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1016a0		

授業概要・目的	<p>＜概要＞ 次世代を担う母性準備期（思春期）、母性が最も発揮する時期（成熟期）、母性継承期（更年期・老年期）にある女性特有とされる、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患（子宮筋腫、子宮がんなど）、および乳腺疾患、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。（全8回） 担当講師は産婦人科医として周産期医療、婦人科医療、女性のヘルスケアの臨床に長年携わった経験を持ち、女性特有の疾患や健康の維持について有機的な講義を展開する。</p>
到達目標	<p>1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患（月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど）、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。</p>
授業方法と留意点	<p>女性特有の疾患についての配当講義は当講義に限定されることが多い一方で、その内容は多岐にわたり、膨大な量になる。 8回の講義のみでその全てを網羅しようとする、学生の理解可能な速度を完全に超えてしまうことになる。 十分な予習復習と、講義中に眠らないで済む程度の十分な睡眠を確保して講義に臨んでいただきたい。</p>
科目学習の効果（資格）	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	月経とその異常（思春期から性成熟期の健康管理）	月経のメカニズムとその異常（月経周期異常、月経随伴症候群）について概説し、その対処の必要性について学ぶ。 また月経異常をきたす可能性のある良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症）とその治療について学ぶ。	事前学習課題：テキスト「母性看護学概論」第3章および第5章を読んでくる（1時間） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
2	婦人科疾患一般（がんの診療における一般的な方針）	がんの一般的な診断方法（細胞診、組織診、画像診断と病期の決定）と主要な治療法（手術、放射線、化学療法）の特性と選択、限界について学ぶ。	事前学習課題：事前配布資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
3	婦人科疾患各論（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌について）	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌についてそれぞれの具体的な診断と治療について学ぶ。	事前学習課題：事前に配布する資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
4	乳腺疾患各論（乳癌について） 女性のヘルスケア領域（月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症について）	乳癌の診断と治療について学ぶ。 女性のヘルスケア領域の疾患と治療について学ぶ。 （月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症）	事前学習課題：事前配布資料を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
5	不妊治療と妊娠 妊娠の経過とその異常	不妊治療の概略を理解する。 妊娠の成立とその経過について理解し、異常について学ぶ。 妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価とFGR、FGRと将来の生活習慣病、胎盤機能の異常とIUGR、羊水の機能と生理 ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常（妊娠悪阻、流産、異所性妊娠）、 妊娠中期（多胎妊娠、早期産、切迫早産）、 妊娠後期（前置胎盤、常位胎盤早期剥離） 妊娠期の感染症（母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人T細胞性白血病、パルボウイルスB19	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第2章、第7章I節B）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
6	分娩の経過とその異常	分娩の経過とその異常について学ぶ。 分娩期：分娩の三要素（産道／娩出力／娩出物）について整理し、それらの関係と分娩の異常について理解する。 産道：骨産道と軟産道の異常 娩出力：陣痛微弱と分娩の遷延、過強陣痛 娩出物：胎位異常、胎盤の異常、臍帯の異常、羊水の異常 胎児機能不全  *無痛分娩や急速遂娩（吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術）について。	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第7章II節）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
7	産褥・新生児の異常	産褥期： 産褥出血、産褥熱、精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、産褥血栓症	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第7章III節）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
8	産褥・新生児の異常	新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題：テキスト「母性看護学各論」（第7章IV節）を読んでくる（30分） 事後学習課題：講義内容の復習（30分）
9			
10			
11			

	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。			
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会とするなどのたくさんの問いを持って、真摯に学んで下さい。			
担当者の 研究室等	連絡担当：泉川孝子（研究室 15）			
備考	授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する対応方法は授業開始時に知らせる。			



科目名	疾病・治療論VI	科目名 (英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN1017a0		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	精神科医、西井重超先生に協力を得て授業を行う。 講義を中心とするが、適宜質問を受け付け授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患(症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第2章(P.21~60)」「第3章I(P.61~64)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病(双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-B、C、D(P.71~86)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害(精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-E、F(P.64~71)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害(不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状症)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-E、F(P.87~97)、N(P.134~137)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
5	精神科的治療I ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法(支持的療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章I、II(P.148~167)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
6	精神科的治療II てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法(催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章III(P.167~188)」「第3章II-J、K(P.110~121)」「第3章II-O(P.137~146)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前:参考書③精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章II-L(P.121~127)」「第7章II-E(P.300~306)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害(性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事前:参考書③精神看護学① 精神看護学概論/精神保健「第5章I~III(P.150~165)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論I、精神看護学援助論II、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神疾患にかかわる人が最初に読む本	西井重超	照林社
2	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	

	3	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
評価方法 (基準)	試験/レポート 100%			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	質問等があれば、学内メールに連絡をください。			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く Teams を確認をすること。 連絡事項は全て Teams を使用します。			

科目名	疫学	科目名 (英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1018a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関係に注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学び、最後にスクリーニングについて基本事項を解説する。
到達目標	疫学の概要や役割を知り、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の歴史と指標	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p1-7, 13-24) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
2	因果推論と研究デザイン (1)	因果推論、コホート研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p93-94, 34-35, 47-49, 62-66) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
3	研究デザイン (2)	ランダム化比較試験	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p67-78) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
4	研究デザイン (3)	症例対照研究	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 54-61) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
5	研究デザイン (4)	横断研究、生態学的研究、症例報告/症例集積、システマティック・レビュー	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p47-49, 52-53, 50-52, 79-82) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
6	誤差とバイアス (1)	偶然誤差と系統誤差 (選択バイアス)	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p83-84, 34) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
7	バイアス (2)	情報バイアス	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p84-86) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
8	バイアス (3)	交絡	・予習してわからない点をまとめる (教科書 p86-91) (30分) ・配布資料と教科書で復習する (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	公衆衛生学、統計の基礎、保健統計学
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版	日本疫学会	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	保健医療福祉行政論	科目名 (英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、格差の拡大など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史の変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史の変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に moodle、Teams を用いて行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例をを交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果 (資格)	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 看護師・助産師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	保健医療福祉行政の概要と変遷 (1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前: テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷 (2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前: テキスト p43~p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <子ども・家庭と福祉>	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前: テキスト p80~p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <障害児・者と福祉>	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前: テキスト p98~p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <難病対策>	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前: テキスト p111~p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
6	社会福祉の制度 <生活保護>	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前: テキスト p136~p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
7	社会福祉の制度 <地域福祉>	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前: テキスト p152~p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <高齢者と福祉>	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前: テキスト p120~p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
9	社会保障制度 <医療保険制度>	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前: テキスト p171~p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと (30分以上)。 事後: 授業内容を整理しておくこと (1時間)。
10	社会保障制度 <年金制度>	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前: テキスト p164~p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
11	社会保障制度 <雇用保険と労災保険>	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前: テキスト p200~p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前: テキスト p187~p199 まで熟読する。さらに

		<介護保険 (1) >	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	13	社会保障制度 <介護保険 (2) >	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	14	社会保障制度 <介護保険 (3) >	介護保険制度の見直しと課題	事前：授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 第4版		増田 雅暢 編集	メディカ出版
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2020/2021 (第67巻第9号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	2	国民の福祉と介護の動向 2020/2021 (第67巻第10号)			一般財団法人 厚生労働統計協会
	3				
評価方法 (基準)	授業ごとのミニレポートの提出、授業後の確認テストを総合して評価を行う。				
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は看護師・保健師として15年の豊富な実務経験を有する教員が、看護職として必要な保健医療福祉行政の法や制度について具体的な事例を紹介しながら、授業を進めていきます。</li> <li>・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかりと行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。</li> </ul>				
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館3階 研究室5 松田千登勢 7号館3階 研究室6				
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。				

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1020a0		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う各分野の概要について基本的知識を身につけ、公衆衛生の実際の取り組みとその意義を理解する。

授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
----------	--

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人類史と人口・疫学転換	人類史と人の健康	・予習する (教科書第1章 p7-10, 第2章 p24-25) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
2	日本の公衆衛生の歴史	歴史と概要	・予習する (教科書第1章 p1-12) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
3	人口統計 (1)	人口静態統計	・予習する (教科書第2章 p19, 25-27) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
4	人口統計 (2)	人口動態統計、生命表	・予習する (教科書第2章 p19-23, 27-29) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
5	疾病予防と予防戦略	予防医学の考え方	予習する (教科書第4章 p53-58) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
6	感染症と予防	感染症の疫学と予防	・予習する (教科書第5章 p83-100, 166-178) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
7	生活習慣病と予防	生活習慣病の疫学と予防	・予習する (教科書第5章 p100-113, 79-82) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
8	環境保健	環境と健康	・予習する (教科書第6章 p139-149, 203-208, 211-220) (30分) ・わからない点をまとめる (30分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	疫学、統計の基礎、保健統計学、情報リテラシー II
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2021	鈴木庄亮他	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2021/2022	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	家族看護学	科目名 (英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢, 足立 安正, 石田 拓也, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1022a0		

授業概要・目的	<p>家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、互いに重要な役割を担う。このことから、疾病をもつ家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化、問題を克服する家族の力量について学び、理解する。さらに、家族看護学において用いられる理論と、実践的の場で活用するアセスメント方法を学び、そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を理解する。加えて、看護学の専門領域別に具体的事例を用いて家族看護の実際について学び、看護職としての在り方について考察する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族看護学の目的、家族の定義について理解する。</li> <li>2. 家族看護に用いる理論を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族発達理論、2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論</li> </ol> </li> <li>3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルについて理解する。</li> <li>4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について理解する。</li> <li>5. 看護の以下の専門領域における家族看護について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児看護学における家族看護</li> <li>2) 母性看護学における家族看護</li> <li>3) 成人看護学（急性期）における家族看護</li> <li>4) 成人看護学（慢性期）における家</li> </ol> </li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>授業計画に沿って講義中心に行う。教科書、資料を用いて授業を行いますので、該当箇所をしっかりと学習すること。講義後は、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。</p>			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	家族とは何か	家族の定義、その多様性と現代的課題について理解する	テキスト第1章について予習する（事前：1時間）。家族の現代的課題について自身の考えについて、ミニレポートを提出する（事後：1時間）。
	2	家族の「こころ」を取り扱う	ナラティブの視点から個人のこころと家族関係について理解する。	講義内で指定する資料について予習する（事前：1時間）。身近な話題を心理的な問題として捉えなおし、ミニレポートとして提出する（事後：1時間）。
	3	家族を理解するための理論1	家族発達論・システム論について理解する	テキスト第3章について予習する（事前：1時間）。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する（事後：1時間）。
	4	恋愛と結婚・夫婦関係	恋愛に関する心理的問題と、夫婦の精神病理について理解する	テキスト第2章・第3章について予習する（事前：1時間）。授業内容を整理し、ミニレポートを提出する（事後：1時間）。
	5	親と子の関係1	アタッチメントについて理解する	テキスト第4章・第5章について予習する（事前：1時間）。講義内で提示する映像資料について考えをまとめ、ミニレポートを提出する（事後：1時間）。
	6	親と子の関係2	親子関係の心理社会的問題、特に虐待について理解する	講義内で指定する資料について予習する（事前：1時間）。虐待における心理的な問題を整理し、ミニレポートとして提出する（事後：1時間）。
	7	家族病理	家庭内暴力・依存について理解する	テキスト第6章について予習する（事前：1時間）。家族病理について自分の考えをまとめて、ミニレポートを提出する（事後：1時間）。
	8	家族を理解するための理論2	家族ストレス対処論について理解する	講義内で指定する資料について予習する（事前：1時間）。授業内容を整理し、ミニレポートとして提出する（事後：1時間）。
	9	家族看護過程	家族看護過程の概要 家族のセルフケア機能	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深める（1時間）。
	10	家族アセスメント	フリードマン家族アセスメントモデル、 家族エンパワーメントモデル カルガリーアセスメントモデル ジェノグラム、エコマップの学習	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深めること（1時間）。
	11	家族看護における基本姿勢と看護者の役割	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族との関係のあり方</li> <li>2. 看護者の基本的な姿勢</li> <li>3. 家族成員に対する援助</li> <li>4. 家族間後における役割</li> </ol>	事前：テキストの該当部分を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護における基本的な考え方と看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	12	小児看護学における家族看護	小児看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、小児看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	13	母性看護学における家族看護	母性看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、母性看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	14	精神看護学における家族看護	精神看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理する。

				理し、精神看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
	15	在宅看護学における家族看護	在宅看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、在宅看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。
関連科目	家族関係論ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる家族心理学	柏木恵子	ミネルヴァ書房
	2	家族看護学	上別府圭子	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族看護学 理論と実践 第5版	鈴木和子	日本看護協会出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出されたレポートにより評価する。			
学生への メッセージ	本科目はオムニバス形式で、医療機関や保健機関、事業所などで看護職として豊富な実務経験を有する教員陣が担当します。家族の形が多様化する昨今、患者や対象者だけでなく家族への支援も看護職に求められる中、支援の基礎となる学問です。日々の学習（予習・復習）を大事にし、学びを深めてください。			
担当者の 研究室等	教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。			
備考				



科目名	医療経済論	科目名 (英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1023a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。</li> <li>看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。</li> <li>動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。</li> <li>医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。</li> <li>後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。</li> <li>授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。</li> <li>経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会経済環境の変化と看護・医療サービス	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第2章 教科書第2章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
3	看護の生産性と看護師の生産性	2つの生産性概念について講義する。	第3章 教科書第3章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
4	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第4章 教科書第4章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
5	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師が他の職種業務を担うメカニズムについて講義する。	第5章 教科書第5章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
6	無視できない結婚と出産・育児	看護師労働市場における結婚と出産・育児における影響について講義する。	第6章 教科書第6章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
7	看護師の労働需要と労働力不足	生産性に見合わない賃金と労働力不足について講義する。	第7章 教科書第7章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
8	賃金・労働条件の格差と人的資本論	看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第8章 教科書第8章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
9	看護師間の賃金格差を生み出すメカニズム	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第9章 教科書第9章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
10	看護師のワークライフバランスと生産	看護師のワークライフバランスと生産性について講義する。	第10章 教科書第10章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
11	よりよい看護を消費者のもとへ届けるために	よりよい看護のあり方について講義する。	第11章 教科書第11章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
12	新しい病院体制についての動画による習熟度確認試験。(予定)	やりがいのある病院体制、新しい診療科連携の実践動画によるレポート作成を行う。	これまでの配布資料、教科書および受講による直筆作成ノートのみ参照可。
13	看護管理職の備えるべき視点1	看護管理者、看護部長の基本事務、変化への対応力等を講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度
14	看護管理職の備えるべき視点2	看護管理者の特性(変革期の人材マネジメント)、看護政策対応力、院内看護政策力等について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度
15	看護管理職の備えるべき視点3	看護管理者に求められるもの(コスト意識と金銭感覚、看護業務の電子化、病院統治力等)について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度

関連科目	労働経済学、ミクロ経済学、経営学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護サービスの経済政策論 看護サービスの働き方を経済学から読み解く	角田由佳	医学書院

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート内容の平均(70%) 及び、レポート提出回数、修正対応等を受講態度 (30%) として総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。</li> <li>・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識（経済学等の社会科学科目）も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。</li> <li>・急性期だけでなく慢性期治療にも対応した市立病院で 15 年間事務職として総務、人事、医事、システム関連部署に勤務し診療関係全般に従事した経験から高度医療機関</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 1 号館 7 階 田井教授室 (経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。			

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	松本 葉子, 泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN1024a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する職業である。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。</p> <p><b>【授業目的】</b> 医療・保健に関連する諸制度や法令を修得し、看護職としての法的責任や義務について医療や看護事故の事例などをもとに理解し、看護職としての在り方を考えることを目指す。</p> <p>看護職としての臨床および教育についての実務経験に基づいて教育を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。</li> <li>・母子保健に関する法令について、人々の健康の維持・増進にかかわる制度と法令の関係を説明することができる。</li> <li>・医療従事者に問われる3種類の法律上の責任について理解することができる。</li> <li>・医療事故の事例をもとに看護職の責任と義務、および、看護職としての在り方について自分の考えを示すことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義形式を中心とする。各授業回の開始時に資料を配布するが、教科書も併用する。最終回には学習した知識を活用して、事例をもとにグループディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	看護職に必要な法的な知識を学び、過去の事故事例から看護の責任や義務を考察することによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	医療法と医療提供の理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供の理念</li> <li>・医療法での規定</li> <li>・医療職の責務</li> <li>・医療提供体制</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
3	看護をめぐる法 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法の目的</li> <li>・保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、義務、業務、試験について</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
4	看護をめぐる法 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法に基づく罰則、特定行為研修など</li> <li>・看護師等の人材確保の促進に関する法律</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
5	母子の健康に関する法律 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健法</li> <li>・母体保護法</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
6	母子の健康に関する法律 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働基準法</li> <li>・育児・介護休業法</li> </ul>	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
7	看護師の法的責任 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的責任の種類</li> <li>・医療事故と医療過誤</li> </ul>	事前：事例をよく読んでおく。 事後：事例の考察を振り返る。
8	看護師の法的責任 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故における看護師の義務と責任について (事例学習)</li> <li>・事例をもとにグループディスカッション</li> </ul>	事前：事例をよく読んでおく。 事後：グループワークでの検討内容をもとに、医療事故における看護師の責任、義務などについて考察し、看護師のあるべき姿について自己の考えをまとめる。 医療事故における看護師の義務と責任についてレポートを作成し、提出する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論、看護学全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 第2版	平林勝政、小林知世、和泉澤千恵	メディカ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 定期試験および課題レポートによって評価する。

(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験：85%</li> <li>・課題レポート：15%</li> </ul>
学生へのメッセージ	法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることにもつながります。法的な知識を自分の力に変えて活動できるように学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室28
備考	

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1091a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
2	社会福祉の歴史	諸外国および日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
3	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
4	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
5	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
6	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
7	地域福祉②	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、グループで共有を行います	事前学習：個人ワークに取り組むこと (3時間) 事後学習：ワークの成果物について振り返りを行うこと (3時間)
8	日常生活支援の担い手としての大学生の可能性と講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度についてあらためて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学習：講義の振り返りを行うこと (2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各回のレポート50%、期末レポート50%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--



科目名	看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2025a0		

授業概要・目的	看護の概念や看護理論、看護の歴史、看護の対象（人間、環境、健康、生活）、保健医療を提供するためのシステム、看護の機能と業務、看護活動等について理解し、看護学を学ぶうえでの基盤を形成する。 また、看護職者の倫理感や関連する法について理解し、看護学の学習の基盤となる知識や態度の修得を目指す。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、より実践的な看護活動や対象理解のための基盤となる知識や看護者として不可欠な態度についての教育を行う。
到達目標	1. 看護の定義と主要な看護理論および看護モデルについて説明できる。 2. 社会の変化と看護概念の変遷について説明できる。 3. 看護の対象である人間と健康、環境、生活について述べ、それらの関連について説明できる。 4. 看護の機能・役割について説明できる。 5. 看護者の責務と倫理的態度について説明できる。 6. 専門職としての看護について自己の考えを述べるができる。
授業方法と留意点	授業は教科書及び配布資料を中心として授業を進め、視覚教材やパワーポイント等を用いる。事前・事後課題、ピア評価等を適宜取り入れ、看護の基本となる知識の習得を目指す。看護、また看護職者としての態度・倫理感を培い、看護について自分の言葉で表現できるように、講義後のレポートや課題を提示する。
科目学習の効果 (資格)	看護職者として根幹となる基礎的な知識と態度を学び、今後の学習の基盤を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護とは、ナイチンゲールの看護哲学	・「看護」とは ・ナイチンゲールの看護哲学 ・社会の変化と看護概念の変遷	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
2	現代の看護の定義と看護モデル	・看護の定義 ・看護理論とは ・理論の範囲 ・看護モデルの発達と系譜	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
3	主要な看護モデルと理論①	・ニード論による看護理論 ・相互作用理論による看護理論 ・システム理論による看護理論	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
4	主要な看護モデルと理論②	・ケアリングによる看護理論 ・文化ケア理論	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
5	主要な看護モデルと理論③ 看護の歴史①	・ナイチンゲールの業績と近代看護への影響 ・近代看護の変遷	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
6	看護の歴史②	・欧米の歴史的な看護の変遷 ・日本の歴史的な看護の変遷	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
7	看護の対象 (人間と環境①)	「人間」と「環境」についてディスカッションとグループワークを行う。	事前課題:人と環境について自己の考えをまとめておく。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
8	看護の対象 (人間と環境②)	「人間」と「環境」の相互作用についてグループで発表し、学びを共有する。	事前課題:人と環境について自己の考えをまとめ、発表準備を行う。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
9	生活者としての人間①	・看護の対象としての「人間」とは ・成長・発達/発達課題 ・看護の対象としての「環境」とは	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
10	生活者としての人間②	・健康の概念と看護の目標 ・人々の健康の状態	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
11	看護の役割と機能・専門職の連携と協働①	・保健・医療・福祉における専門職チーム ・チーム医療の中での看護の役割	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
12	看護の役割と機能・専門職の連携と協働②	・保健医療システムと看護 ・医療安全	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
13	看護の機能と業務、看護のマネジメントと病院看護管理	・看護の機能と業務 ・看護業務の能力的機能分化 ・看護のマネジメント、病院看護管理	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
14	医療安全	・医療事故の発生メカニズム ・安全な医療への取り組みについて	事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分)

				事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
	15	看護における国際化とこれからの展望、実践科学としての看護、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての看護</li> <li>・実践科学としての看護</li> <li>・まとめ</li> </ul>	事前課題：教科書の該当部分を読むこと。(30分) 事後課題：配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
関連科目	全ての看護学関連教科			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(1)：看護学概論	志自岐 康子 編集	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
	2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
	3	看護覚え書：看護であること・看護でないこと	F. ナイチンゲール	現代社
評価方法 (基準)	筆記試験 (60%)、課題レポート、プレゼンテーション、授業態度 (30%)、ピア評価 (10%) 原則、全講義を出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	看護を学ぶ初めての講義です。 看護職とはどのようなものかを知り、看護のとは何か、対象となる人や環境について考えることで、今後の学習の基盤となります。看護職者は、その関わり方一つがひとの人生・生命に影響を与えます。倫理感や社会人としての基礎的な能力、対人関係能力、専門家としての知識と技術が常に問われる専門職であるということを考え、自己の考えを深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)			
備考	提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。 医療安全 ナーシンググラフィカ メディカ出版 ISBN-10: 4840453853 も参考になります。興味のある学生は参考資料として読んでみてください。			



科目名	看護対人関係論	科目名 (英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2026a0		

授業概要・目的	看護の場における対人関係に関する基本的な概念・技法の理解と修得を目指す。看護師は患者の心身の状態をアセスメントしながら、一人ひとりに合ったコミュニケーションをとる技術の修得が不可欠である。そのような患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、具体的な看護場面や事例課題を通して対人関係の基礎的な知識を修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。科目責任者は、総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務
到達目標	1. 患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションに必要な基本的技法について説明できる。 3. 自分自身のコミュニケーションについて振り返り、今後の課題を述べるができる。 4. 看護場面をイメージし、適切なコミュニケーションの技法や言葉、態度について、自身の考えを述べるができる。 5. カンファレンスにおける役割、ポイントを説明することができる。
授業方法と留意点	看護師として必要不可欠なコミュニケーション技法について講義を行う。具体的な看護場面をイメージできるよう、写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。「知っている」と「できる」ことは同じではない。「できる」ようになるよう、積極的に学習に取り組み、自身のコミュニケーションを振り返る態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる技術を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが重要となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を学ぶ。また、対人関係を振り返り学習すること、意識的なコミュニケーションの重要性について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」「話すこと」について演習し、考えを深める。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取ってなければ何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」について、日常生活の中の自身と他者との会話を回顧的に分析する。相手の気持ちを受けとめる会話について学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめる話し方、聞き方について考える。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
6	患者との会話を練習しよう(2)	会話を通して、患者のことばに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶこと、実習に必要なマナーについて学ぶ。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係の理論を学ぶ。 講義に加え、授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
8	まとめ	看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について自身の言葉でまとめる。授業内で演習を行う。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
9				

	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	看護学概論、全ての看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス</td> <td>大森武子/大下静子/矢口みどり</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス	大森武子/大下静子/矢口みどり	医歯薬出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス	大森武子/大下静子/矢口みどり	医歯薬出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング</td> <td>篠崎恵美子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子	医学書院																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験 (40%) ピア評価 (20%)、授業の参加度と課題レポート (40%) により総合評価する。 原則全ての授業に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。																			
学生への メッセージ	看護は対象者を身体的・精神的・社会的な側面から理解し、よりよい人間関係を築くことから始まります。看護実践において、対人関係能力はその基本的能力のひとつであり、必要不可欠なものです。何気ないコミュニケーションから、相手の思いに気付く視点をもつことが看護の基本です。また、会話や状況など客観的な事実と、その時感じたこと・考えたことを分けて捉え、分析することも重要です。この授業を通して、今後の実習や学習の基本的な能力を身につけてゆきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)																			
備考	提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。																			

科目名	フィジカルアセスメント	科目名 (英文)	Physical Assessment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】

				授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに 関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを 実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。修得した技術について 自己練習すること（1時間）。
15	フィジカルアセスメントと 看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程の プロセスにつなげるために必要な考え 方や理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席するこ と（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポート を作成すること（2時間）。

関連科目 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘルスアセスメント	横山美樹 石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 筆記試験（50%）、実技試験または小テスト（20%）、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程（20%）、授業への参加状況（10%）  
原則全ての授業及び演習に出席していること。  
※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。

学生へのメッセージ 「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、研究室3（山居）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）

備考 技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。  
提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	フィジカルアセスメント	科目名 (英文)	Physical Assessment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。また、フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な理論について学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習では少人数グループとなり、教員がグループごとに担当し個別指導する。看護師及び患者役割を体験し、実施したフィジカルアセスメントの基本技術に関する知識と根拠、患者の心情や状態から必要な看護について振り返る。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、グループワークやディスカッション、発表を通して今後
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント	【講義】 看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、情報収集・整理等の基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	【講義・演習】 問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)の基本的技術のほか、看護過程に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	【演習】 循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	【講義】 消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】

				授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）	【講義】 脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）	【演習】 脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
15	フィジカルアセスメントと看護過程	【講義・演習】 フィジカルアセスメントを看護過程のプロセスにつなげるために必要な考え方や理論を学ぶ。		【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読んで出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。

関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヘルスアセスメント	横山美樹 石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	筆記試験（50%）、実技試験または小テスト（20%）、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程（20%）、授業への参加状況（10%） 原則全ての授業及び演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生へのメッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、研究室3（山居）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）			
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。			

科目名	看護過程論	科目名 (英文)	Nursing Process
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美, 山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、実践的な看護過程の展開と看護技術についての教育を行う。
到達目標	授業および演習を通し、看護過程の展開方法を理解できる。 1) 看護過程の基本的な知識について理解する。 2) 事例の対象者について情報の整理、情報の分析と統合、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価を行うことができる。 3) 看護実践時の記録の記載方法を理解できる。 4) 看護過程における看護者と倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で看護過程の理論を学び、講義室または基礎看護演習室において演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。初回授業の方法については、Teams にてアナウンスを行う。 看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 II および看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護過程とは	【講義】 ・看護過程の概要・構造 ・問題解決過程としての看護過程 ・看護過程に必要な能力	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
2	看護過程のステップ①	【講義】 ・事例課題の情報整理 ・看護アセスメントとその枠組み	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
3	看護過程のステップ②	【講義】 ・事例課題の情報の分析と統合 ・看護上の問題と看護目標・優先順位	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 個人課題を作成する。(2 時間)
4	看護過程のステップ③	【講義・演習】 ・看護計画の実施と評価 ・事例紹介	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
5	看護記録・看護過程の演習①	【講義・演習】 ・看護記録とは ・看護記録の種類 ・グループワーク	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
6	看護過程の演習②	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
7	看護過程の演習③	【演習】 グループワークにて、事例の情報分類・アセスメント・看護問題の明確化を行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
8	看護過程の演習④	【演習】 グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
9	看護過程の演習⑤	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
10	看護過程の演習⑥	【演習】 グループにて、看護問題・関連図の検討を行う。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
11	看護過程の演習⑦	【演習】 グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：全体関連図を各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
12	看護過程の演習⑧	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。個人面談を行う	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2 時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2 時間)
13	看護過程の演習⑨	【演習】 グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2 時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2 時間)
14	看護過程の演習⑩	【演習】	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を

			グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2時間)																
	15	看護過程の演習⑩ まとめ	【演習】グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表し、グループ案を振り返り、評価・修正を行う。	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)																
関連科目	フィジカルアセスメントおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践</td> <td>秋葉公子 江崎フサ子 (他)</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>実践に役立つ看護過程と看護診断</td> <td>三上れつ</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ	2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子 江崎フサ子 (他)	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヘンダーソン看護論と看護実践への応用</td> <td>金子道子</td> <td>照林社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用	金子道子	照林社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験 40%、課題 (グループ課題・個人課題) 50%、授業参加態度 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。																			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目が取得できない場合、基礎看護学実習Ⅱの課題も達成できません。本科目の課題を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室1 (北村、舟木)、共同研究室3 (今井)																			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示する。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出すること。 提出した課題については、必要に応じて授業内でフィードバックします。																			



科目名	成人看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲垣 美紀, 竹下 裕子, 松本 葉子, 森谷 利香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2034a0		

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機状況や急性期症状を呈する健康問題をもつ成人期の対象の理解と看護、及び慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護について学習する。また成人看護に有用な主要概念・理論について理解する。
到達目標	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。 2. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。 3. 急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護について説明できる 4. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 5. 成人看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 6. リハビリテーションを必要とする対象の理解及び特徴的な看護について説明できる。 7. がんと共に生きる患者の理解及び特徴的な看護について説明できる。 8. ター
授業方法と留意点	成人期にある対象を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴を理解する。成人の特徴を踏まえた急性期看護および慢性期看護を学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を活用して学習する。また臨床事例や視聴覚教材を活用して、主要概念や看護理論の知識を深め、実践に活用できるようなみかた・考え方を学習する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・成人期の成長・発達と健康レベル ・成人保健の動向	・授業前に第1章「成人看護学の概念と構成」、第2章「成人看護学の特性」を読んでおく。 (1時間) 特に第1章2,3, 第2章1,3を読んでおくこと。授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)
2	成人期にある対象の健康保健・医療・福祉における動向と課題	・成人期における健康、健康レベルにおける枠組み ・成人期における健康障害の特徴と予防の現状 ・第1・2回で理解した内容をもとに、成人期にある対象の健康課題について、自身や周囲の人々の経験などから、理解を深めることができる。	・授業前に第3章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第5章「健康レベルにおける枠組み」を読んでおくこと。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
3	急激な健康破綻を生じる対象が抱える健康問題の特徴と看護	・侵襲に対する生体反応 ・急性期にある対象の特徴 ・急性期にある対象の看護 ・心身の危機状態に対する看護の基盤となる理論・モデル	・授業前に第5章「健康レベルにおける枠組み」、第6章3「ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論」、4「生体侵襲理論」を読んでおくこと。(1時間)授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)	
4	成人期にある人の理解	・アクティブラーニング 成人期にある対象の健康課題や看護の役割について、説明できる。	・授業前に第2回講義後に提出した課題及び今までの講義内容をもとに、成人期にある対象の健康課題や看護師の役割について、自身の考えをまとめておくこと。(1時間) 授業後は学んだ内容の復習すること。(1時間)	
5	急性期にある対象の理解①	・アクティブラーニング ・がんで手術療法を受ける対象の事例を活用しながら、周手術期にある対象の心身の特徴や問題についてグループ討議する。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
6	急性期にある対象の理解②	・アクティブラーニング ①で明らかにした周手術期にある対象の心身の特徴や問題について他者に説明(発表)し、看護の方向性について討議する。討議を通して、様々な理解の視点や考え方を得る。	・授業前に配布する資料を読んでおく。(30分) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
7	成人看護における倫理的課題と看護者の役割、緩和ケア	・アクティブラーニング 看護倫理と倫理原則、成人看護にまつわる倫理的課題について理解する。さらに、教科書の症例検討シートを参考にしながら事例検討を行い、倫理的問題解決過程を学習する。 ・急性期にある対象の全人的苦痛の理解と緩和ケア	・授業前に教科書第4章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと。緩和ケアについては資料を配布する。(1時間) 授業後は課題を提出する。(1時間)	
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント、アセスメントの統合、看護展開	・授業前に教科書第7章「成人におけるヘルスアセスメント」、第8章「看護過程の展開」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。	
9	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患及び治療法の特徴について ・対象の心理・身体・社会的な特徴と看護 ・健康の再構築への支援が必要な対象の理解 (グループワークを含む)	・授業前に教科書第5章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第5章4「健康再構築への支援を必要としている対象」を読んでおくこと(1時間)。 ・授業後には授業内容を復習すること(1時間)。	
10	慢性的な経過をたどる健康	・セルフケア理論の理解と活用	・授業前に教科書第6章5「セルフケア論」を読ん	

		障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)		<p>でしておくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	11	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ患者の看護に有用な主要概念・理論 (1)	<p>・アンドラゴジー理論の理解と活用</p> <p>・自己効力理論の理解と活用、患者支援教育の理解</p>	<p>・授業前に第VI章10「アンドラゴジー」、6「自己効力理論」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	12	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (1)	<p>・リハビリテーションの概念の理解</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	13	リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護 (2)	<p>・リハビリテーションを必要とする対象の理解 (障害受容) と看護の役割</p>	<p>・授業前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	14	がんと共に生きる患者の理解と特徴的な看護	<p>・がんとともに生きる対象の理解 (全人的苦痛をもつ患者の理解) と特徴的な看護</p> <p>・がん医療における緩和ケア</p>	<p>・授業前に参考書の「がん看護」の「がん患者の特徴」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること (1時間)。</p>																
	15	ターミナル期の患者の理解と特徴的な看護	<p>・ターミナル期の定義</p> <p>・ターミナル期にある対象の特徴 (心理過程の理解) と必要な援助</p>	<p>・授業前に第V章5「ターミナル期の援助を必要としている対象」を読んでおくこと (1時間)。</p> <p>・授業後には授業内容を復習すること。またレポート課題を行う (2時間)。</p>																
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習 (急性)・(慢性)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学概論 (第2版)</td> <td>大西和子、岡部聡子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア</td> <td>田村 恵子</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ	2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社	3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学概論 (第2版)	大西和子、岡部聡子	ヌーベルヒロカワ																	
2	新体系 看護学全書 経過別成人看護学 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	田村 恵子	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア</td> <td>明石恵子、益田美津美</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>がん看護学</td> <td>大西和子、飯野京子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社	3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針)	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																	
2	新体系 看護学全書 経過別 成人看護学①急性期看護：クリティカルケア	明石恵子、益田美津美	メヂカルフレンド社																	
3	がん看護学	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ																	
評価方法 (基準)	本科目では原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験 (50%)、レポート課題 (40%)、グループワークの参加状況 (10%) を総合して総合的評価をする。尚レポート課題は授業中に説明する。																			
学生へのメッセージ	成人看護学に関する基礎となる知識を習得しますので、しっかり学習しましょう。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。																			
担当者の研究室等	稲垣 (研究室 26)、森谷 (研究室 29)																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（急性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Acute)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹下 裕子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】</p> <p>健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。 集中治療室、外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。</p>
---------	---

到達目標	<p>【一般目標】</p> <p>1. 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 2. 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 3. 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って、講義およびディスカッション等を組み合わせた授業を行います。教科書を利用し、適宜プリントを配布するので持参してください。課題については授業内にフィードバックを行う時間を設けます。質問は、授業時間内および、授業時間外でも適宜受け付けます。本授業の教科書は、3年前期の成人看護学援助論Ⅱ（急性）でも使用しますので、大切に保管してください。</p>
----------	---

科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習（成人看護学実習Ⅰ）において、看護援助を実践するための基盤となる。</li> <li>・看護師国家試験の出題範囲である。</li> </ul>
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	周手術期にある対象の特徴と理解①—手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応，炎症，創傷治癒	【事前】教科書Ⅰの序章，第1章，第4章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（1時間）
2	周手術期にある対象の特徴と理解②—術前患者	情報収集とアセスメント，術前オリエンテーション，術前日～術当日の看護	【事前】教科書Ⅰの第7章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（1時間）	
3	周手術期にある対象の特徴と理解③—術中看護	麻酔法，手術室環境，麻酔の基礎知識と麻酔時の看護	【事前】教科書Ⅰの第3章，第8章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（1時間）	
4	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後看護	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント，早期離床，疼痛管理，自己管理に向けた援助	【事前】教科書Ⅰの第9章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく	
5	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症，循環器合併症，イレウス予防のための看護	【事前】教科書Ⅰの第9章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また，術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく（1時間）	
6	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染，縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む），術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書Ⅰの第1章C～E，第9章を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（1時間）	
7	救急医療を必要とする対象の特徴と理解	救急医療における看護，救急患者に対するアセスメント，救命救急処置	【事前】教科書ⅡのⅠ「急性期の看護技術」を読むこと（1時間） 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく（1時間）	
8	急性期におけるチーム医療	急性期におけるチーム協働の在り方と連携	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく（1時間） 【事後】資料の内容を復習しておく（1時間）	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	<p>成人看護学概論 人体の構造と機能 病理学総論 疾病治療論 感染と防御</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）
	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	成人看護学 周手術期看護論 (第3版)	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ
	2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、課題の達成状況 40%により総合的に評価する。原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。また遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。やむを得ない理由で欠席した場合には、欠席届を提出の上、配布資料や課題の指示を受けること (履修要項参照)。			
学生への メッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30 (竹下)			
備考	スケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。			

科目名	成人看護学援助論Ⅰ（慢性）	科目名（英文）	Adult Nursing I(Chronic)
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	森谷 利香, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要となる成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、看護援助の方法について理解するとともに看護技術の基礎を習得する。担当教員の臨床経験に基づいて、慢性的な健康問題のある人々への看護の考え方や看護援助方法を具体的に教授する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的</p>			
到達目標	<p>1. 慢性的な健康問題のために生活の再構築、あるいはストレスコーピングの促進が必要な対象（以下対象とする）とその家族の特徴と課題を説明できる。</p> <p>2. 対象の症状、および治療に伴う副作用に対する看護援助について説明できる。</p> <p>3. 対象と家族の生活をアセスメントし、関連要因を踏まえた上で主体的な療養生活に向けた援助が理解できる。</p> <p>4. 対象とその家族のQOLの維持・向上のために必要なチーム医療の在り方と看護の役割を理解できる。</p> <p>5. 対象と家族に生じることが予想される倫理的課題について理解し、自分の考えを考察</p>			
授業方法と留意点	<p>本授業は講義を中心とし、ディスカッションやグループワークを含む。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィード</p>			
科目学習の効果（資格）	看護師国家試験受験に必要な科目です			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（1）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護1）難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと（1時間）。
	2	生活の再構築や適応を促進するための看護援助（2）	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護2）生活の再構築の過程を支える看護	【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す（1時間）。
	3	ストレスコーピングを促進するための看護援助（1）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	4	ストレスコーピングを促進するための看護援助（2）	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	5	ストレスコーピングを促進するための看護援助（3）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	6	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	7	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護1）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	8	ストレスコーピングを促進するための看護援助（6）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護2）	【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ（慢性）、疾病・治療論Ⅰ～Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ
	2	「系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器」	浅野浩一郎 他	医学書院
	3	「系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器」	飯野京子 他	医学書院
評価方法 (基準)	本科目では原則として 2/3 以上の出席を成績評価の対象とする。また、筆記試験 (90%) およびレポート (10%) の内容を総合して評価する。			
学生への メッセージ	提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。			
担当者の 研究室等	研究室 29 森谷			
備考				

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2041a0		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための看護を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じて講義資料を提示します。普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	事前課題事後課題 テキストをp2-20、p70-82を事前に予習して、概要をとらえておいてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理し、まとめてください。(1時間)
	2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、自分の担当分をまとめてください。(1時間) 事後課題 グループでまとめたものを事前の資料と合わせて整理をしてください。(30分)
	3	加齢現象の理解(1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	事前課題 教科書p94-118を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(1時間)
	4	加齢現象の理解(2) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	事前課題 教科書p89-91、297-299を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントに加齢現象を整理してください。(1時間)
	5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	事前課題 教科書p378-382を読み、高齢者の家族について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	6	高齢者を取り巻く関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	事前課題 教科書p36-53を読み、医療制度、介護保険制度について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントをもとに整理してください。(1時間)
	7	高齢者への看護活動:病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を実践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	事前課題 教科書318-344を読み、様々な場で高齢者の看護について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントにそれぞれの場の看護を整理してください。(1時間)
	8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	事前課題 教科書p348-357、54-66を読み、倫理的課題等について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、 看護関係法規			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3			
評価方法 (基準)	試験とレポートで評価します。			
学生への メッセージ	予習、復習をおこなってください			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室6			
備考				



科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 由貴, 小川 宣子, 田中 真佐恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2042a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的なケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習・実技等を行い、高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回) (村瀬由貴/4 回) 高齢者の生活機能からとらえた看護 (食事・清潔/身じたく・排泄・コミュニケーション) (小川宣子/3 回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (</p>
到達目標	<p>1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。 2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。 3) 長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援の演習、高齢者の特徴をふまえた活動を拡大するための演習を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートや評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。事前・事後課題は学習の成果物としてファイル化します。なくさないように管理してください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	高齢者疑似体験演習①	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)
2	高齢者疑似体験演習②	【演習】 高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I・II での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)
3	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①)	【講義】高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 テキスト P142~146 を読み、廃用性症候群の原因と種類について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の活動の援助の必要性について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
4	認知症高齢者の理解と支援 ①	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
5	高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による皮膚や粘膜の変化についてテキストを読み要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の清潔の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の活動を阻害する要因についてテキストを読んで要点をまとめておく。(一時間) 【事後】 高齢者の休息の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 (食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の食事や栄養の特徴について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の食事について指示されたワークシートに記入し提出する。(一時間)
8	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 高齢者施設での生活支援の実際と高齢者を尊重したダイバーショナルセラピスタとしての活動をゲストスピーカーの講演を通して学びます	【事前】 テキスト P218~224 を読み、高齢者の社会参加についての要点をまとめておく (一時間) 【事後】 講演を聴講後に学びをレポートに記入し提出する。(一時間)
9	認知症高齢者の理解と支援	【講義】	【事前】 認知症を理解するための資料 (第 2 講目に

		②	認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	配布)を読み、要点をまとめておく(一時間) 【事後】認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する(一時間)
	10	高齢者の生活機能から捉えた看護(排泄)	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による排泄への影響についてテキストを読み要点をまとめておく(一時間) 【事後】 高齢者の排泄援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)
	11	高齢者の活動を拡大するための演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してこくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
	12	高齢者の活動を拡大するための演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた活動を拡大するための方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してこくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
	13	高齢者の生活支援演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してこくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
	14	高齢者の生活支援演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握してこくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)
	15	高齢者の生活機能から捉えた看護(コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】老年看護学実習Ⅰでの体験を思い出し、気がかりに感じた場面をレポートに記入しておく。(一時間) 【事後】 授業時に作成したワークシートを完成させ、テキストP198～213の要点をまとめておくこと。(一時間)

関連科目 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ～Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院
	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期テストと提出物・レポート(授業内で指示するもの)、演習中の学習態度や事前課題およびレポート提出状況も加味して総合的に評価します。体調に留意し、毎回の授業に積極的に参加してください。

学生へのメッセージ 既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。実務経験のある教員が行う

担当者の研究室等 村瀬由貴 7号館3階研究室4  
小川宣子 7号館3階研究室10  
田中真佐恵 7号館3階共同研究室2

備考

科目名	小児看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2047a0		

**授業概要・目的**  
 小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。  
 鎌田は看護師として6年、池田は看護師及び助産師として5年の実務経験を活かし、具体的な子どもと家族の事例を用いながら、理論や倫理的側面を踏まえながら実践的な教育を行う。

**到達目標**  
 1. 小児看護の対象である子どもの成長発達と家族を理解する  
 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する  
 3. 小児看護でよく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる

**授業方法と留意点**  
**【授業方法】** 原則対面授業を行う  
**【留意点】** 授業の確認テストを行うので受験すること  
 授業内容の理解を促すため、事前課題実施した上で授業に参加すること

**科目学習の効果 (資格)**  
 看護師国家試験受験のための必須科目である。  
 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観	・小児看護の対象、役割 ・子どもの発達区分、特徴について ・小児医療・看護の歴史と変遷について ・保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境について	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。(1時間) 事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる(1時間)
2	子どもの権利	・子どもの権利条約、児童福祉法、母子保健法等 ・医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について ・子どもの遊びと教育	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
3	小児看護で用いる概念と理論	・発達理論 (ピアジェ、エリクソン) について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
4	小児看護で用いる概念と理論	・母子関係理論 (ボウルビイ) 等について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
5	子どもの成長・発達の特徴	・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
6	各発達段階にある子どもの特徴 (新生児期・乳児期)	・新生児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題：授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
7	各発達段階にある子どもの特徴 (幼児期)	・幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題；授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
8	各発達段階にある子どもの特徴 (学童・思春期)	・学童期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	事前課題；授業で課題を提示する(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

**関連科目** 看護学概論、生命倫理、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論/小児保健	添田啓子他	メヂカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論	奈良間美徳他	医学書院
2				
3				

**評価方法 (基準)** 定期テスト 80%、授業毎に実施する確認テスト 20%  
**学生への** 小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解する

メッセージ	ことを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもに目を向け、洞察を深めてください。
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17（鎌田）、研究室16（池田）
備考	

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2048a0		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。 授業担当者である鎌田、池田、亀田、中山は看護師として5年以上の臨床経験から子どもと家族との援助の実際を踏まえながら、ディスカッションやグループワークも含めながら授業や演習を展開する。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、障がいの子どもの病態生理、検査・処置、治療の看護について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。授業は、講義、グループワークやディスカッションを行う。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識の活用を促す。 小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。 演習は対面で行う。講義はリアルタイムオンライン授業、オンデマンド授業で実施する。ただし、大学の方針の変更によっては授業方法も変更になる。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論IIの理解を深め、小児看護学実習を行うために基盤となる科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康問題や障害が子どもと家族に与える影響と看護	・子どもが病気や入院をどのように理解するか学ぶ	事前課題教科書：「健康障害をもつ小児の看護」のP8～23を自己学習しておくこと、ピアジェの認知発達理論について復習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
2	新生児・乳幼児期の発達段階に応じた看護	・新生児・乳児の特徴と看護を理解する。	事前課題：教科書教科書「健康障害をもつ小児の看護」P26-46を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
3	幼児の発達段階に応じた看護	・幼児の特徴と看護を理解する。	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P47-58を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
4	学童・思春期の成長発達と看護	・学童・思春期の特徴と看護を理解する。	事前課題：事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P59-75を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
5	子どもによくみられる症状と看護 I	・啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれんなど、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間)、技術自己練習(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
6	子どもによくみられる症状と看護 II	・呼吸困難、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」の該当部分を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
7	乳幼児の日常生活援助技術演習	・定額していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 ・定額している幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ・ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50を自己学習しておくこと、技術自己練習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
8	乳幼児の日常生活援助技術演習	・ベッド柵の取扱い	事前課題：教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50を自己学習しておくこと、技術自己練習(2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
9	子どものヘルスアセスメント I	・子どもとのコミュニケーションについて ・ヘルスアセスメントの目的・意義について ・子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P270-273(1/2時間)自己学習しておくこと 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
10	子どものヘルスアセスメント II	・フィジカルアセスメントの実手順について	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」フィジカルアセスメントの項目を自己学習しておくこと(1/2時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1/2時間)
11	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ事前課題：教科書「小児看護技術」P204-242を自己学習しておくこと。グループで技術練習(2時間) 事後課題：技術演習内容の振り返り(1/2時間)
12	フィジカルアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定	事前課題：教科書「健康障害をもつ事前課題：教科書「小児看護技術」P204-242を自己学習しておくこ

				と。グループで技術練習 (2 時間) 事後課題: 技術演習内容の振り返り (1/2 時間)
	13	子どもの事故と事故予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの事故の特徴</li> <li>子どもの事故の予防について</li> </ul>	事前課題: 教科書「小児看護学概論」発達段階における事故防止を自己学習しておくこと (1/2 時間) 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1/2 時間)
	14	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>隔離や制限を必要とする子どもと家族の看護</li> </ul>	事前課題: 教科書「健康障害をもつ小児の看護」の隔離や制限を必要とする子どもと家族の看護を自己学習しておくこと (1/2 時間) 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1/2 時間)
	15	さまざまな治療を受ける子どもと家族への看護 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査や処置を受ける子どもの看護</li> <li>プレパレーションについて</li> </ul>	事前課題: 教科書「健康障害をもつ小児の看護」の検査や処置を受ける子どもの看護を自己学習しておくこと (1/2 時間) 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる (1/2 時間)
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論/小児保健	小林京子 編	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子 編	メジカルフレンド社
	3	小児看護学(2): 小児看護技術 第4版	中野綾美 編	ナーシンググラフィカ
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版	奈良間美穂 他	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	後期の定期試験 85%、課題、演習、グループワーク 15%とし総合的に評価する シラバスの順番が多少前後する場合があるが、事前に連絡する。			
学生へのメッセージ	小児看護学援助論 I では非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第 1 回目の授業で説明します。			
担当者の研究室等備考	7号館 3階 研究室 17 (鎌田)、研究室 16 (池田)、研究室 23 (亀田)、共同研究室 3 (中山)			

科目名	母性看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2051a0		

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	1. 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 2. 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 3. 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 4. 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 5. 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 6. 現代の女性・家族の健康に関する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果 (資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学等の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産師選択課程に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ。 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (P2-12、20-34) 事後学習課題: 講義内容のキーワードについて整理する (前後、各1時間)
2	母性看護の対象を取り巻く社会について1	母性看護の歴史的変遷と現状、諸外国の歴史について、および母性看護の対象を取り巻く環境について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p54-57, p86-94) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
3	母性看護の対象を取り巻く社会について2	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p59-85) 事後学習課題: 統計データから読み取れたことを整理する (前後、各1時間)
4	母性看護の対象理解	母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ 女性のライフサイクル、母性各期 (小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期) について理解する (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p97-124) 事後学習課題: 母性の対象理解について整理する (前後、各1時間)
5	思春期の健康と看護	思春期の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分 (P185-204) を読んでくる (2時間) 事後学習課題: 講義内容を振り返り整理する (2時間)
6	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p205-217) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
7	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p217-247) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
8	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関与する、性感感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (250-315) 事後学習課題: 講義内容、討議から理解したことを整理する (前後、各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	人体の構造と機能、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、家族看護学、看護倫理、女性学
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座専門分野Ⅱ: 母性看護学①母性看護学概論	森恵美	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス, M. H. ・ケネル, J. H.	医学書院
	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン・R, 新藤幸恵・後藤桂子訳	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	定期試験、授業参加度(提出課題・授業態度等)を総合して判定する。 割合: 定期試験 80%、提出課題等 20%			
学生への メッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。授業担当として、総合病院で助産師(看護師)として7~10年間勤務した経験から、母子保健や周産期の看護に関心を高める教育を心がけています。			
担当者の 研究室等	泉川孝子(研究室15)			
備考				



科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西頭 知子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 名草 みどり
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2052a0		

授業概要・目的	【概要】 リプロダクティブヘルスケアの必要性について学ぶ。また、妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントの視点と看護について理解する。 (オムニバス方式/全15回)																																																				
	【目的】 リプロダクティブヘルスおよび妊産褥婦と新生児の身体・心理・社会的特徴を知ること、アセスメントの視点が理解できるとともに必要な看護を考える力を身につける。																																																				
到達目標	1. リプロダクティブヘルスケアの必要性を理解する。 2. 正常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。 3. 異常経過にある妊産褥婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメントの視点と看護を理解する。																																																				
授業方法と留意点	講義・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ。																																																				
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である。																																																				
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>リプロダクティブヘルスケアと看護</td> <td>子どもを産むに当たり生じる遺伝や不妊の問題について、その課題と看護について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:教科書1の該当ページ(第1章、第2章)を読む。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>妊婦と胎児のアセスメント(1)</td> <td>妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章A,C)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>妊婦と胎児のアセスメント(2)</td> <td>妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。妊婦の心理・社会的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章B,D)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハイリスク妊娠と看護</td> <td>妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:教科書1の該当ページ(第7章I)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を振り返り整理する。(前後各1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>正常分娩の経過</td> <td>1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章AB) 事後学習課題:分娩経過について整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>分娩期のアセスメントと看護</td> <td>1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章C) 事後学習課題:産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ハイリスク分娩の看護</td> <td>1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II) 事後学習課題:分娩時異常時の看護について整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>帝王切開術と看護</td> <td>帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ。 母子分離、喪失感、悲嘆へのケアについて学ぶ。</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II,I,K) 事後学習課題:帝王切開術前後の看護について整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>褥婦の身体的変化</td> <td>退行性変化と進行性変化について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>褥婦の心理・社会的変化</td> <td>Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>産褥期の異常と看護</td> <td>子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦、精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ。</td> <td>事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章IV) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>新生児の生理とアセスメント</td> <td>胎児から新生児への生理的变化、新生児</td> <td>事前課題:テキストの該当部分(p.254~294)を読む</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	リプロダクティブヘルスケアと看護	子どもを産むに当たり生じる遺伝や不妊の問題について、その課題と看護について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第1章、第2章)を読む。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)	2	妊婦と胎児のアセスメント(1)	妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章A,C)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)	3	妊婦と胎児のアセスメント(2)	妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。妊婦の心理・社会的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章B,D)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)	4	ハイリスク妊娠と看護	妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第7章I)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を振り返り整理する。(前後各1時間)	5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章AB) 事後学習課題:分娩経過について整理する(前後、各1時間)	6	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章C) 事後学習課題:産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する(前後、各1時間)	7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II) 事後学習課題:分娩時異常時の看護について整理する(前後、各1時間)	8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ。 母子分離、喪失感、悲嘆へのケアについて学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II,I,K) 事後学習課題:帝王切開術前後の看護について整理する(前後、各1時間)	9	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)	10	褥婦の心理・社会的変化	Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)	11	産褥期の異常と看護	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦、精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章IV) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)	12	新生児の生理とアセスメント	胎児から新生児への生理的变化、新生児	事前課題:テキストの該当部分(p.254~294)を読む
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																	
	1	リプロダクティブヘルスケアと看護	子どもを産むに当たり生じる遺伝や不妊の問題について、その課題と看護について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第1章、第2章)を読む。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)																																																	
	2	妊婦と胎児のアセスメント(1)	妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章A,C)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)																																																	
	3	妊婦と胎児のアセスメント(2)	妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。妊婦の心理・社会的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第3章B,D)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を整理する。(前後各1時間)																																																	
	4	ハイリスク妊娠と看護	妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。	事前学習課題:教科書1の該当ページ(第7章I)を読み、指定のビデオを視聴する。 事後学習課題:授業内容を振り返り整理する。(前後各1時間)																																																	
	5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章AB) 事後学習課題:分娩経過について整理する(前後、各1時間)																																																	
	6	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第4章C) 事後学習課題:産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する(前後、各1時間)																																																	
	7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II) 事後学習課題:分娩時異常時の看護について整理する(前後、各1時間)																																																	
	8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ。 母子分離、喪失感、悲嘆へのケアについて学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章II,I,K) 事後学習課題:帝王切開術前後の看護について整理する(前後、各1時間)																																																	
	9	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)																																																	
	10	褥婦の心理・社会的変化	Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第6章ABCD) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)																																																	
11	産褥期の異常と看護	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦、精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ。	事前学習課題:テキストを読んでくる(各論:第7章IV) 事後学習課題:授業内容を整理する(前後、各1時間)																																																		
12	新生児の生理とアセスメント	胎児から新生児への生理的变化、新生児	事前課題:テキストの該当部分(p.254~294)を読む																																																		

		ト	の身体的特徴について学ぶ。 新生児の診断、発育の評価について理解し、アセスメントに必要な視点と情報収集技術について学ぶ。	んでくる。 事後課題：講義内容を整理する。 (前後、各1時間)																
	13	新生児の看護	アセスメントに基づいた新生児への看護(出生直後、出生後から退院まで、退院時から生後1か月健康診査まで)を学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分(p.294~305)を読んでくる。 事後学習課題：授業内容を整理する。 (前後、各1時間)																
	14	新生児の異常と看護	低出生体重児(ディベロップメンタルケアを含む)、高ビリルビン血症児を中心に新生児の異常に対する看護について学ぶ。	事前課題：テキストの該当部分(p.456~483)を読んでくる。 事後学習課題：授業内容を整理する。 (前後、各1時間)																
	15	育児技術に関わる援助	新生児の抱き方と寝かせ方、授乳の仕方、オムツ、衣服の交換、沐浴等について学ぶ。	事前課題：配布された育児技術方法についての資料を読んでくる。 事後課題：技術演習内容について振り返りを行い、整理する。 (前後、各1時間)																
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院																	
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気がみえる vol.10 産科</td> <td>井上 裕美 他</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>新道 幸恵 他訳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾 京子 他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気がみえる vol.10 産科	井上 裕美 他	メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	新道 幸恵 他訳	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾 京子 他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	病気がみえる vol.10 産科	井上 裕美 他	メディックメディア																	
2	ルヴァ・ルービン母性論	新道 幸恵 他訳	医学書院																	
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾 京子 他	メディカ出版																	
評価方法(基準)	評価割合：試験80%、提出物20%																			
学生へのメッセージ	母性看護学では、妊産褥婦だけでなく、女性の健康を支援する看護を学びます。看護の対象は、女性とその家族です。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。																			
担当者の研究室等備考	西頭知子(研究室14)、井田歩美(研究室12)、名草みどり(研究室13)、永田阿子(共同研究室5)																			

科目名	精神看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2055a0		

**授業概要・目的**  
精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。  
本科目は、精神科病棟で勤務経験がある教員が、経

**到達目標**  
心の構造と機能について説明できる。  
心の健康・不健康について説明できる。  
現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。  
自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。  
災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。  
精神保健の概念について説明できる。  
精神科看護師の役割について説明できる。

**授業方法と留意点**  
下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、体験談や事例を活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。  
毎回の授業の最後に、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め (ワークシート/小テスト)、理解を深めていくとともに、次週の授業の

**科目学習の効果 (資格)**  
看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I~IV (P. 2~26)」 「第4章 (P. 121~148)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章 I、II (P. 27~70)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
3	心の健康とは何か (ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第5章 (P. 149~170)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章 I~V (P. 71~98)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
5	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章 I、II (P. 225~252)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法) について理解する。	事前：教科書①「第7章 III (P. 252~273)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第1章 I~IV (P. 2~20)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第8章 I~III (P. 351~422)」 「第9章 I、II (423~459)」を読んで来てください (2時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください (1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

**関連科目** 精神看護学援助論 I、精神看護学援助論 II、疾病・治療論 VI、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神疾患にかかわる人が最初に読む本	西井重超	照林社

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (80%)、課題 (ワークシート、小テスト) 20%を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。分からないところ、不明瞭なところがあればいつでも質問をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2056a0		

授業概要・目的	精神看護を实践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者-看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者-看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者-看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるプロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者-看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義/演習を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、事例や精神科看護師の体験談等を活用し、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B (P. 71~76)」「第7章-II-A, B (P. 270~289)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P. 76~87)」「第7章-II-C, D (P. 289~300)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-B, D (P. 71~76, 81~87)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-E, F (P. 87~97)」「第7章-III-C, D (P. 324~333)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第3章-II-C, D (P. 76~87)」「第7章-II-C, D (P. 289~300)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護第3章-II-N (P. 134~137)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
7	援助的人間関係 (理論編 1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P. 189~220)」を読んで来てください(2時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
8	援助的人間関係 (理論編 2)	対人関係論、プロセスレコード	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第5章 (P. 189~220)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (1時間)。
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (1時間)。
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り、エゴグラム	事後：教科書を参照しながら、授業内容を整理しておいてください (1時間)。
12	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-I~II (P. 147~166)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください(1時間)。
13	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第4章-III, IV (P. 167~188)」を読んで来てください (1時間)。 事後：授業内容を整理しておいてください。(1時間)
14	精神科救急に関する看護	精神科救急の現場で実践されている看護援助の具体、精神科における看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第7章 (P. 253~269)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を復習をしておいてください (1時間)。
15	退院調整と地域生活支援	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、地域における精神科看護師の役割・機能	事前：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護「第8章 (P. 351~422)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を復習をしておいてください (1時間)。

関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論II、疾病・治療論VI、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社

		論／精神保健		
	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生・渡邊博幸	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神疾患にかかわる人が最初に読む本	西井重超	照林社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験 (80%)、課題 (ワークシート、演習時の課題) 20%を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。 課題提出は、必ず締め切り日までに提出してください。 分からないところ、不明瞭なところがあれば、学内メールにいつでも連絡をください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 授業内容によっては、2コマ続きで授業を行うため、1日1回は Teams を確認するようお願いいたします。 授業に関する連絡事項は、全て Teams を経由して周知していきます。			

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2059a0		

**授業概要・目的**  
在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。

**到達目標**  
1. 在宅看護の目的と特徴を説明できる。  
2. 在宅看護の歴史の変遷を説明できる。  
3. 在宅看護の対象者について説明できる。  
4. 在宅療養の支援と看護者の役割について説明できる。  
5. 在宅看護を支える法、制度とその活用について説明できる。  
6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。  
7. 在宅看護における倫理について説明できる。

**授業方法と留意点**  
授業計画に沿って講義中心に行う。教科書を必ず参照すること。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、動画や事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、ネット等を用いてもよいので、自分なりに調べ、また不明な点は質問するなど、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。

**科目学習の効果 (資格)**  
看護師の資格取得に必須の単位である。患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を指向する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	在宅看護の概念と歴史の経緯	地域における在宅看護(訪問看護)とは何か、その目的と特徴を学ぶ。また訪問看護の歴史を学ぶ。	事前: テキストの第1章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者の特徴を、住まいや家族、地域の視点から理解する。家族関係を視覚化するエコマップについてワークを行う。	事前: テキストの第4章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅療養の支援と看護者の役割	在宅看護の提供方法である 継続看護、訪問看護等の支援方法について学ぶ。	事前: テキストの第2章を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護に関連する法と制度	在宅看護を支える法的基盤、介護保険等を含めた法と制度について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	訪問看護サービスの提供	訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを主とした施設、訪問看護の機能について重点的に学ぶ。	事前: テキストの第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅看護における社会資源の活用と多職種連携	在宅看護におけるさまざまな社会資源の活用と多職種との連携、地域のネットワーク作りについて学ぶ。	事前: テキスト第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	後: 授業内容を整理しておくこと。
7	在宅看護における看護の展開方法とリスクマネジメント	在宅看護における看護を展開する上で必要な視点と、リスクマネジメントを学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	在宅看護における倫理と権利保障	在宅看護学における倫理を、訪問看護の倫理と、個人情報保護、虐待なども含めて多様な視点で学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間)	事後: 授業内容を整理しておくこと。
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

**関連科目** 家族看護学、公衆衛生看護学 専門科目の概論のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

**評価方法 (基準)** 小テスト・レポート類、課題達成度、授業での参加度(オンラインツール上の質問・意見発信も含める)が20%、定期試験80%で評価する。授業態度が悪い場合、20%を上限に減点することがある。

**学生へのメッセージ** 現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。コロナ禍で在宅看護のニーズはますます増大している状況です。病院看護と違い、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(事前・事後学習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。

	なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には30時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	7号館 3階 第9研究室 田中結華
備考	毎回の授業ごとに、レポートを課す。また、随時小テストや課題を提示する。テキストの指示された部分はあらかじめ読み、不明な部分に下線を引くなどして準備をすること。授業を受けて、不明な部分やわかりにくい部分は、積極的に質問すること。また、学生同士で意見交換も行うこと。文献、資料等は授業でも紹介する。  y-tanaka@nrs.setsunan.ac.jpが連絡先です。質問メールは、必ず大学アカウントから送ること。プライベートアカウントには対応しません。



科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 富永 真己, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2060a0		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、およびQOLの維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。 また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習、グループワーク等により授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。 やむなくオンライン授業となる場合は、授業方法や日程は初日のオリエンテーションで周知します。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学実習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論Ⅱでの学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2)	在宅看護に必要な面接技術について演習課題に取り組む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (4)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (5)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
11	COPDをもつ在宅療養者の看護	COPDをもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>

				事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生(わたぼうし訪問看護ステーション)による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。(30分) <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。(1時間以上)																
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書在宅看護論</td> <td>河野あゆみ編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ナーシンググラフィカ在宅看護論②</td> <td>臺有桂編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社	2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②	臺有桂編	メディカ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社																	
2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②	臺有桂編	メディカ出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>見えてわかる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング</td> <td>東京訪問看護ステーション協議会</td> <td>学研メディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>《シリーズ ケアをひらく》在宅無限大 訪問看護師がみた生と死</td> <td>村上靖彦</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	見えてわかる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル	2	《シリーズ ケアをひらく》在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	見えてわかる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル																	
2	《シリーズ ケアをひらく》在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院																	
3																				
評価方法(基準)	講義・演習への参加態度50% (小テスト、ミニレポート、グループワーク、レポート、発表等も含める) 筆記試験50% (但し、筆記試験の得点は60%以上取得を単位取得の必須条件とする)。なお、授業態度不良の場合は20%を上限に減点する 場合がある。 やむなく遠隔授業になった場合は、参加態度(内容は上記参照)で評価する。授業の視聴記録等がなく提出された成果物は評価の対象外となる。																			
学生へのメッセージ	本授業では、在宅看護学概論を踏まえて、在宅援助方法のさまざまな技術を学びます。原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。 なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には15時間以上をあてること。																			
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本 十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																			
備考																				

科目名	公衆衛生看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Public Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動
授業方法と留意点	今年度は動画配信型授業（リアルタイムで授業動画を配信し、時間割通りの曜日・時限で授業を行う方法）を Teams と Moodle を用いて行います。授業計画に沿った講義中心の内容です。教科書は必ず購入し、毎回、予習・復習をするとともに、授業の際に用意してください。教科書以外の資料も Moodle 上で配布しますので、必ずプリントアウトして用意してください。 昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の発言を促しながら、授業を進行します。発言に関しては、「授業の参加度」という点で
科目学習の効果 (資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション (カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について)、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前: 保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んでくる (テキスト P3~13, 86~100) と同時に、関係する資料を調べて読み予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷 (諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	事前: テキスト P22~43, 61~71 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護 (プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本 21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	事前: テキスト P14~37, 86~100, 200~208 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開 (ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	事前: テキスト P14~37, 86~100, 105~107, 188~192, 200~208, 259~283 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み (成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	事前: テキスト P63-85, 200~208, 259~283 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康調査の概要	事前: テキスト P168~208 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動 (人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	事前: テキスト P234~246, 264~284 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (精神保健・感染症概論)	事前: テキスト P345~353, 367~386 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動 (結核・難病概論)	事前: テキスト P308~314, 387~401 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前: テキスト P209~218 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要 (地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	事前: テキスト P103~122 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 地域診断の事例、公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	事前: テキスト P44~50, P136~149 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
13	産業保健 1	産業保健 1 (産業保健・産業看護の理念と我が国の実態)	事前: テキスト P462~485 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健 (学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	事前: テキスト P447~461 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。事後: 授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。
15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前: テキスト P514~543 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。

				事後：授業内容を整理し、理解を深める（2時間）。
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 改訂第5版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
	2	国民衛生の動向 2021/2022		厚生労働統計協会
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 90% (筆記試験の得点は60%以上の取得をもって単位取得の必須条件とする)、授業参加度 10%、の合計 100%とで評価します。なお、授業態度不良の場合は減点する場合があります。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、教科書（公衆衛生看護学.jp 改訂第 5 版）の内容を中心に講義しますので、必ず購入し、予習・復習とともに毎回の授業の際に用意してください。</li> <li>・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。</li> <li>・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼</li> </ul>			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階研究室7			
備考	追加の文献や資料などは授業中に紹介します。			

科目名	海外医療セミナー	科目名 (英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等により、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場・講義での学習を通して、日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。																																																																		
到達目標	1. 日本と海外の看護・保健・医療の違いについて正しく理解する。 2. 日本と海外の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる医療者としての態度を身に付けることができる。 2. 日本の看護とそのあり方についても一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について述べるることができる。																																																																		
授業方法と留意点	2021年度は不開講です。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	-																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-	2	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	6	-	-	-	7	-	-	-	8	-	-	-	9	-	-	-	10	-	-	-	11	-	-	-	12	-	-	-	13	-	-	-	14	-	-	-	15	-	-	-
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-																																																																
2	-	-	-																																																																
3	-	-	-																																																																
4	-	-	-																																																																
5	-	-	-																																																																
6	-	-	-																																																																
7	-	-	-																																																																
8	-	-	-																																																																
9	-	-	-																																																																
10	-	-	-																																																																
11	-	-	-																																																																
12	-	-	-																																																																
13	-	-	-																																																																
14	-	-	-																																																																
15	-	-	-																																																																
関連科目	国際看護学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	事前学習、海外研修、報告会																																																																		
学生へのメッセージ	事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。 海外研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものができるよう自ら働きかけること。 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階研究室16 (池田研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的	「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいて知っているながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないとしたら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」 このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある(人によっては常に考えている)ことなのではないかと思えます。本授業ではこのような
到達目標	1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な視点を身に着ける。 2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	Teamsを使用して、講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題に答えてもらいます。 【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習: なし 復習: なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題(哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い)がある場合は、それを読み、選択問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めるとどうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことができるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいかなるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで	ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				
3				

評価方法 (基準)	授業毎の課題 (インターネット経由で提出) : 70% (Google Form によって提出してもらおう各授業回の課題×14 回分 (第 2 回-第 15 回分)。第 1 回目は授業資料、課題共にありません) 期末試験 (インターネット経由で提出) : 30%
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的	「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいて知っ ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと したら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」 このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことなのでは ないかと思います。本授業ではこのような
到達目標	1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義 務等) について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論を参考に、専門的な視点を身に着ける。 2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテ キストに関する小問題に答えてもらいます。 【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイム で授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】
科目学習の 効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習：なし 復習：なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように 扱うべきか	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) がある場合は、それを読み、選択 問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持 つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めると どうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことがで きるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理学に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいか なるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズム まで	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				
3				



評価方法 (基準)	授業毎の課題（インターネット経由で提出）：70%（Google Form によって提出してもらおう各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）。第 1 回目は授業資料、課題共にありません） 期末試験（インターネット経由で提出）：30%
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面にぶつかることになり
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するという事を学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	古代哲学 (1)	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	古代哲学 (2)	ソクラテスのイデア論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	古代哲学 (3)	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	自然科学の発展	ガリレオの自然の数学化を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	認識論 (1)	デカルトの「我思う故に我在り」を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	認識論 (2)	ロックの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	認識論 (3)	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	心と物 (1)	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	心と物 (2)	唯物論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	心と物 (3)	フッサールの志向性分析を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	人間の生きる世界 (1)	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	人間の生きる世界 (2)	ハイデガーの根本気分を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	人間の生きる世界 (3)	バシュアールの夢を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生活世界の構造</td> <td>アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫													
	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書													
3																	

評価方法	学期末のレポート50%、毎回の授業内課題 (コメント) 50%の割合で評価する。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面にぶつかることになり
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するという事を学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果（資格）	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える（30分）
2	古代哲学（1）	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
3	古代哲学（2）	ソクラテスのイデア論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
4	古代哲学（3）	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
5	自然科学の発展	ガリレオの自然の数学化を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
6	認識論（1）	デカルトの「我思う故に我在り」を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
7	認識論（2）	ロックの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
8	認識論（3）	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
9	心と物（1）	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
10	心と物（2）	唯物論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
11	心と物（3）	フッサールの志向性分析を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
12	人間の生きる世界（1）	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
13	人間の生きる世界（2）	ハイデガーの根本気分を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
14	人間の生きる世界（3）	バシュアールの夢を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30分） 復習：講義ノートを見直す（30分）
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す（計1時間）

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生活世界の構造</td> <td>アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫														
2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
3																	

評価方法	学期末のレポート50%、毎回の授業内課題（コメント）50%の割合で評価する。
------	--

(基準)	
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤塚 京子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1303a1		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を身につけることができる。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、資料を配布する。講義中心。詳細については、初回の授業で説明する。 なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、遠隔授業で実施する。Teams は事務連絡、および講義動画を配信するために利用する。講義スライドやコメントシート等の教材は、初回授業で連絡したとおり、Webfolder の該当フォルダにアップロードしておくので、それを各自ダウンロードすること。コメントシート等の課題提出も初回授業で連絡したとおり、Web
科目学習の効果 (資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、医療倫理・生命倫理の基本原則 (前半)	講義：医療・生命科学研究が守るべき原則や、患者主体の医療に必要なことを説明する (生命倫理4原則、インフォームドコンセント等)。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
2	医療倫理・生命倫理の基本原則 (後半)、生殖補助医療技術と倫理 (前半)	講義：医療・生命科学研究が守るべき原則や患者主体の医療に必要なことを説明する。生殖補助医療技術の倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
3	生殖補助医療技術と倫理 (後半)	講義：生殖補助医療技術の倫理的問題について説明する。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分) また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)
4	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義：出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明する。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
5	重症新生児治療の差し控え・中止	講義：新生児医療が直面する問題について説明する。NICU における医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分) また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
6	安楽死・尊厳死の倫理的問題	講義：安楽死と尊厳死の違いについて説明する。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を学ぶ。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
7	脳死と臓器移植	講義：生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明する。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
8	子どものインフォームド・コンセント	講義：子どもに医療におけるインフォームドコンセント (アセント) と親権、児童虐待の問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
9	病気と差別：HIV 感染症	講義：HIV 感染症と、その感染者や AIDS 発症者をめぐる問題について説明する。薬害 HIV 事件、強制 HIV 検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
10	難病を生きるということ、自己決定と遺伝カウンセリング	講義：難病と難病政策について説明する。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明する。遺伝子診断をめぐる倫理的問題 (知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC 遺伝子検査、遺伝子差別等) について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
11	慢性疾患の患者に対する療養指導、認知症を抱えて (前半)	講義：慢性疾患を抱える患者との接し方について考える。認知症とそのケアの在り方について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
12	認知症を抱えて (後半)、ターミナルケア (前半)	講義：認知症とそのケアの在り方について説明する。患者の QOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故 (交通事故・行方不明など) 等について考える。終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと (30分)。
13	ターミナルケア (後半)、研究倫理 (前半)	講義：終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明する。死の受容	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと (30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理して

			と延命治療、鎮静（セデーション）、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。看護研究の倫理について考える。	おくこと（30分）。																
	14	研究倫理（後半）、医療が患者に害をもたらすとき	講義：看護研究の倫理について考える。医療事故とインシデントおよびそれらへの取り組みについて説明する。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。																
	15	講義の復習と映像資料鑑賞	これまでの講義の復習。生命倫理に関する映像資料を鑑賞し、生命倫理の問題を考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。																
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例でまなぶ ケアの倫理</td> <td>G supple 編集委員会編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護のための生命倫理 [改訂3版]</td> <td>小林亜津子</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護のための生命倫理 [改訂3版]	小林亜津子	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護のための生命倫理 [改訂3版]	小林亜津子	ナカニシヤ出版																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業での毎回のコメントシート（30%）、期末試験（70%）により評価する。全体で60%以上獲得で合格。																			
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。																			
担当者の 研究室等 備考	1号館2階 非常勤講師室。 授業に関する質問等は、毎授業で配布するコメントシートやメールでも受け付けます。																			

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1304a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。第 5 回から対面授業に切り替える。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを確認しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内で実施する試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを確認すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1 号館 2 階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールで受け付ける。
------------	------------------------------------



科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1304a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。第 5 回から対面授業に切り替える。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3 時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内で実施する試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3 時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1 号館 2 階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールで受け付ける。
------------	------------------------------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1305a1		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。			
到達目標	人文地理学の様々な研究成果や事例を通して、私たちが生きる現実世界すなわち身近なものから現代世界・社会の様々な現象や課題を地理学的な発想から捉え直し、解決に向けて取り組む視点、知識、発想の習得を目指す。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などのような地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。			
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) オンライン
	2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) オンライン
	3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
	4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
	5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
	15	まとめ	授業の総括	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
関連科目	「自然地理学」「地誌学」			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)			
学生への メッセージ	<p>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</p> <p>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</p> <p>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</p> <p>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	授業外の質問等については、メールにて対応する。メールアドレスは次の通り。 dankebitte0605@gmail.com			

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1305a1		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	人文地理学の様々な研究成果や事例を通して、私たちが生きる現実世界すなわち身近なものから現代世界・社会の様々な現象や課題を地理学的な発想から捉え直し、解決に向けて取り組む視点、知識、発想の習得を目指す。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などのような地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) オンライン
2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) オンライン
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
15	まとめ	授業の総括	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド

関連科目	「自然地理学」「地誌学」
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30%（平常課題を何度か課す。）			
学生への メッセージ	<p>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</p> <p>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</p> <p>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</p> <p>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	授業外の質問等については、メールにて対応する。メールアドレスは次の通り。 dankebitte0605@gmail.com			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻 晶子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NHU2306a1		

授業概要・目的	<p><b>【授業形態】</b> 第1回は対面&amp;teams、第2回以降はオンデマンド配信型授業</p> <p><b>【授業概要】</b> 物語や説話、絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。作品の文化的背景についての講義・作品読解・映画など関連作品鑑賞を行います。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p><b>【授業目的】</b> ・中世のひとつとが、生命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。</p>
	<p><b>【到達目標】</b> ・中世の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。</p>

到達目標	<p><b>【授業方法】</b> ・講義形式の授業です。 ・毎回、音声スライドを配布します。各自のペースで一次停止しながら視聴してください。 ・授業の最後に、毎回、ミニレポートを書きます。 ・ミニレポートに対しては、最終回以降に teams にフィードバックとして全体講評を掲示します。</p> <p><b>【留意点】</b> ・ミニレポートは、第2回授業で配布する指定の用紙 (Word) に追記 (上書き) していき、最終回にまとめて提出します。 ・質問は、メールで受け付けます。</p>
------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「生」を読む —ガイダンス—	授業の説明 講義	【事前学習】 シラバスをよく読む (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
2	「子ども」を読む (1) —こどもとは誰か—	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
3	「子ども」を読む (2) —語られる成長—	講義 ミニレポート	【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
4	「妊娠」を読む —密教と胎児—	講義 ミニレポート	【事前学習】 妊娠に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
5	「出産」を読む —出産の文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 出産に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
6	「育児」を読む —母乳の文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 母乳育児に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
7	「性」を読む —日本の性愛—	講義 ミニレポート	【事前学習】 性愛に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
8	「身体」を読む —身体は誰のもの—	講義 ミニレポート	【事前学習】 身体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
9	「老い」を読む —老いの文化史—	講義 ミニレポート	【事前学習】 老いに関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
10	「病」を読む —描かれる病—	講義 ミニレポート	【事前学習】 病に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
11	「死」を読む —死は誰のもの—	講義 ミニレポート	【事前学習】 死に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
12	「死体」を読む —描かれる死体—	講義 ミニレポート	【事前学習】 死体に関する報道をチェックする (60分)

			【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	13	「死後」を読む —死後の世界—	講義 ミニレポート 【事前学習】 死後の世界について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	14	「魂」を読む —描かれる幽霊—	講義 ミニレポート 【事前学習】 幽霊について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (60分)
	15	再び、「生」を読む —詩歌の世界—	講義 ミニレポート 【事前学習】 思い出深い出来事を、言葉で他者に伝えられるようにする (60分) 【事後学習】 自分の基礎となっている物語を振り返る (60分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のミニレポートの提出状況により評価します。定期試験や期末レポートはありません。</li> <li>・全14回(第2回～15回)のミニレポートのうち、6回以上未提出であれば、合格できません。</li> <li>・ミニレポートの評価基準は、以下の6つです。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業(講義資料)の理解度</li> <li>②与えられた問いに答えているか</li> <li>③分量</li> <li>④その回の課題の最低条件をクリアしているか(タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等)</li> <li>⑤自分で書いているか(残念ながらコピーはバレます)</li> <li>⑥指定のレポート用紙に追記する形で記入でき</li> </ol> </li> </ul>
--------------	---

学生への メッセージ	<p>高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。 古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。 一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。</p>
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
--------------	--------------

備考	<p>質問等がある場合は、メールで対応します。 メールを送信する場合は、以下を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の学生であることを明記</li> <li>・大学のアカウントから送信(標的型攻撃メールとの区別が付かないため、プライベートアドレスから送信されたメールは開封しません)</li> <li>・曜日時限・授業名・授業回数・学生番号・氏名を明記</li> <li>・件名(件名がないと迷惑メールに振り分けられてしまいます)</li> <li>・これらの情報がそろっていないメールには、対応できない場合があります</li> </ul> <p>※授業資料に記してあるメールアドレス宛に送信してください。</p>
----	--

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 真由子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NHU2307a1		

授業概要・目的	看護においては、患者がどのように感じているのか、どのように考えているのかなどを汲み取り治療に活かす必要がある。また、看護師と患者との良好な関係は、患者の治療成果だけではなく、満足度やQOLにも直結する。 本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論や生涯発達を学ぶことを通して、私たち人間がどのように物事をとらえているのか、それに対してどのように感じているのかなどを理解し、患者を理解する上で役立つコミュニケーション法や考え方を身につけ、患者との関わりに活かすことを目的とする。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、患者を含む他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めることを目指す。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントの講義資料を配布し、オンライン講義中心の授業を実施する。 時折ディスカッションの時間も設けることで、心理学の理解を体験的に促す。
科目学習の効果 (資格)	患者との関わり、職場での人間関係、自己理解と他者理解に活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活の中でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	教科書の第1章を一読しておくことが望ましい(1時間)。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書の第2章Bを一読しておくことが望ましい(1時間)。
4	学習理論について	本講義では、人や動物がどのように学習し、行動を形成しているのかについて学ぶ。	教科書の第2章Aを一読しておくことが望ましい(1時間)。
5	感情と欲求について	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求について学ぶ。	教科書の第3章を一読しておくことが望ましい(1時間)。
6	性格とパーソナリティ (人格) 障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ (人格) 障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書の第4章A,Bを一読しておくことが望ましい(1時間)。
7	知能と知能検査、性格検査について	本講義では、知能とは何か、知能と性格をはかる検査にどのようなものがあるのかを学ぶ。	教科書の第4章Cを一読しておくことが望ましい(1時間)。
8	乳幼児期、児童期の発達と愛着について	本講義では、主に乳幼児期と児童期の発達の過程や愛着の機能について学ぶ。	教科書の第5章Aを一読しておくことが望ましい(1時間)。
9	虐待について	本講義では、児童虐待や高齢者虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースをチェックして、最近の虐待の実情を把握しておくことが望ましい(1時間)。
10	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章Bを一読しておくことが望ましい(1時間)。
11	成人、高齢者の発達とそれらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程とそれらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章C,Dを一読しておくことが望ましい(1時間)。
12	社会・集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団心理について学ぶ。	教科書の第6章を一読しておくことが望ましい(1時間)。
13	患者を理解する上で役立つ考え方について	本講義では、患者を理解する上で役立つ考え方について学ぶ。	教科書の第8,9章を一読しておくことが望ましい(1時間)。
14	患者と関わる上で役立つコミュニケーション法や考え方について	本講義では、患者と関わる上で役立つ援助職としての傾聴の態度について学ぶ。	教科書の第9,10章を一読しておくことが望ましい(1時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のレジュメもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい(1時間)。

関連科目 臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	看護学生のための 心理学 第2版	(編)長田 久雄	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) オンラインでの定期試験の成績 (60%)、小テスト (40%)

学生へのメッセージ 心理学は看護に役立つだけでなく、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がります。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。  
また、これまで私は病院や学校でカウンセリングや心理検査を行い、特に子どもを専門に臨床心理士として働いてきました。心理学の知識だけ



	ではなく、実際に現場での経験も話す予定ですので、少しでも心理学に興味を持ってもらえると嬉しいです。
担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における質問時間は、講義（木曜4時限）前の30分で、場所は非常勤講師室とする。</li> <li>・毎回、1時間程度の予習復習を行うことで、定期テストのみならず心理学の知識が身につきます。</li> </ul>

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NHU2308a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
3	人類学の誕生 (2) : 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
10	構造主義 (1) : モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします (30分から1時間程度)。

関連科目	学芸員課程			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>評価方法： 評価の配分はレポートなどの課題提出を 100 %とする。</p> <p>評価の基準： 人類的思考がどのようなものを理解したうえで書けているかどうかを基準とする。ネットや参考書などで調べた知識は（授業内容と無関係であった場合）必ずしも評価の対象とならない。</p>			
学生への メッセージ	<p>教科書・参考書は特にありません。関連図書については授業の中で適宜紹介します。</p> <p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。事前学習より事後学習が大切です。ノートを読み返し、理解できているかを確認すること。</p> <p>この授業に限らず一般論として、分かったつもりになっていても、試験などでいざ書こうとしたら、実はわかっていなかったという事態はしばしば起こります。そこで、この授業ではノートに半分から1ページほど（10 から 20 行程度）で、前の週の要約を作ってみることをお勧めしています。もし要点をうまくまとめ</p>			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。			

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NHU2309a1		

授業概要・目的	あなたは「教育」とは「よい」ものだと思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よく」なったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であ
到達目標	教育をめぐる思想や教育の歴史について基礎的な知識を身につける。 自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につける。 現代の教育課題について、教育に関する基礎知識をもとに論理的・分析的に記述、説明できる。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進め、毎回、Teamsのチャネルを通して講義資料を配布する。また、文献・テキストの事前学習に基づくグループワークも実践する予定である。グループワークでは事前学習が授業出席のための必須条件となるほか、事前学習成果（予習ノート）をレポートとして評価する。対面でグループワークを実施できない場合は、レポート（予習ノート）提出をもってグループワークに代える。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	事前学習とグループワークの方法について	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。(30分)
2	教育学を学ぶ意味1	実践的教育学の関心領域と危うさ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
3	教育学を学ぶ意味2	教育科学の意義と限界	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
4	教育学を学ぶ意味3	教育学を学ぶ理由	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
5	グループワーク1	教育開発	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)
6	教育学の成立1	教育の「定義」をめぐる、「教育」の視線の次元	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
7	教育学の成立2	教育による人間と社会の改造、学校の誕生	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
8	教育学の成立3	学校の普及・拡大とその背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
9	教育学の成立4	学校の普及・拡大の背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
10	グループワーク2	学歴社会の捉え方	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)
11	教育の成功と失敗1	教育の不確実性、学習可能性と教育可能性の距離	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
12	教育の成功と失敗2	教育可能性に向けた技術の発展	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
13	教育の成功と失敗3	教育可能性に向けた技術の発展、教育学の潮流	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
14	教育の目的再考1	教育のポストモダンと教育目的の迷走	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
15	教育の目的再考2	教育目的論再構築の可能性	教育と社会の新たな関係に関する指定文献について、様式に従ってレポートを作成・提出する。(150分)

関連科目 他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	ヒューマニティーズ 教育学	広田照幸
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	御苑に近き学び舎に—京都・番組小学校の誕生	荒木源
	2	教育社会学	原清治・山内乾史編	ミネルヴァ書房
	3	社会のなかの教育	志水宏吉編	岩波書店

評価方法（基準） 定期試験 50%、レポート 50%（グループワークにおけるピアレビューを含む）で総合的に評価する。定期試験を受験しなかった場合は評価不能となる。定期試験はオンライン Web 試験に変更する場合がある。その場合は試験時間割公開に先立ち指示する。

学生へのメッセージ 受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス7号館3階(朝日研究室)

備考 ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にすること。

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1310a1		

授業概要・目的  
みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしたりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。  
商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人々には〈やりがい〉〈思い出づくり〉(社会貢献)といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。

- 到達目標
- (1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる
  - (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる
  - (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる

授業方法と留意点  
この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

科目学習の効果 (資格)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する
	2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示に

				したがって調査すること。(90分) 事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク (1) — 国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク (2) — 国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク (3) — 国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。		事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ

			<p>れまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) この授業は授業内課題 (リアクションペーパー) 15%、グループワーク 20%、期末レポート 65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。

学生へのメッセージ 決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。

担当者の研究室等 メールアドレス：xmrimse[\*]edu.setsunan.ac.jp  
 ([\*]を半角の@に置き換え)  
 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

備考 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	並木 州太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	【授業概要】 グローバル経済、知識経済の時代である現代において、日本経済は急激かつ大幅な変化の渦中にあります。変化の過程においては、様々な経済・社会・環境問題が発生し、それらは私たちの生活とは一見無縁のようであり、密接に関わり合っています。経済学の基本的な考え方を学び、現象を理解し、対処する力を身につける事は、現代社会において役割を担う私達にとって不可欠なことのできない能力です。本講義は、経済学の基本的な考え方を身につける事を目標としますが、グローバル経済や知識経済という現代経済の動向、そのもとの日本経済
到達目標	1. 経済学の基礎的な概念・キーワードについて理解できる。 2. それらを用いて現実のさまざまな経済・社会・環境問題を読み解く力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この授業は講義と教員とのディスカッションを中心に行います。授業では日本経済新聞や日経ビジネスの記事を使用しますので、書店や図書館等で入手して、気になったトピックを読む習慣をつけましょう。 この授業は原則対面で行いますが、緊急事態宣言の発出等により、遠隔授業に切り替わる可能性があります。その際の手順等については別途案内しますので、安心して受講してください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済学と私達の生活の関係について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：シラバスを確認すること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
2	経済循環を学ぶ:古典派経済学とマルクス	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
3	シュンペーターと経済発展の理論	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
4	価値と分配の理論:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
5	需要と供給:需要曲線、供給曲線について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
6	ケインズ入門:有効需要の原理とは何か	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
7	制度派経済学:制度(法律や慣習、罰則)を重視する経済学の系譜	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
8	地域経済と地域経済政策:地域の経済発展を考える	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
9	戦後の日本経済史:高度経済成長の背景	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
10	労働市場の構造変化と格差問題	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
11	政府の役割:市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
12	人口減少と社会保障制度	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
13	ベンチャー企業や起業家の役割:社会起業家に注目して	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
14	ポスト資本主義社会を考える:これからの私達が生きる社会	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
15	まとめ:これまでの講義の振り返り	配布するレジュメやスライド資料による講義。	事前：授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べる(30分)



				事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論〈第2版〉	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、講義期間中に実施する小テスト/レポート 70%。(60%以上で合格) (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	私達の身の回りには、経済用語が溢れています。それらの用語の背景にある理論に触れ、エッセンスを持ち帰り、自らの働き方や社会との関わりを考えるヒントにしてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、医療制度、社会保険の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことにより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで医療や人間の生命に関わろうとする看護学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者で
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～湾岸戦争とその結果	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くことになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社																	
2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
3																				
評価方法（基準）	レポート（約70%）と小テスト（約30%）で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、医療制度、社会保険の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことにより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで医療や人間の生命に関わろうとする看護学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者で
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～湾岸戦争とその結果	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くことになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社																	
2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
3																				
評価方法（基準）	レポート（約70%）と小テスト（約30%）で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法(1)-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法(2)-親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法(1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法(2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法学概論-身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習(教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習(講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習(講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	---

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法(1)－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法(2)－親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法(1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法(2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習(教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習(講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習(講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	---

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NSO1314a1		

授業概要・目的	経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。 この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。 身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をヨ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実には生じる物事を考える姿勢を身に付ける</li> <li>実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る</li> <li>複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く</li> <li>専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する</li> </ul>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく	事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2				
3				

評価方法 (基準)	この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。 2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。 「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」
-----------	---



	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01314a1		

授業概要・目的	経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。 この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。 身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をヨ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実を生じる物事を考える姿勢を身に付ける</li> <li>実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る</li> <li>複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く</li> <li>専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する</li> </ul>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。 2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。 「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	後期初回授業は Teams にてオンデマンド配信とします。授業時間までに内容（動画リンクと資料）をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。  各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思っております。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探索レポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	後期初回授業は Teams にてオンデマンド配信とします。授業時間までに内容 (動画リンクと資料) をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。			

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	後期初回授業は Teams にてオンデマンド配信とします。授業時間までに内容（動画リンクと資料）をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。  各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思っております。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探索レポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	後期初回授業は Teams にてオンデマンド配信とします。授業時間までに内容 (動画リンクと資料) をアップしますので、視聴し、期日までに課題フォームへの入力をお願いいたします。			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NS01316a1		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど）  毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果（資格）	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習1時間、事後学習1時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の機能と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習1時間、事後学習1時間。
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の仕事について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習1時間、事後学習1時間。
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜ SDGs は注目されるのかについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社 (LCC) について調べる。事前学習1時間、事後学習2時間。
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
12	観光業の環境分析	観光産業の環境分析、SWOT 分析について学習します。	SWOT 分析について復習しておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。テストを実施します (1~13回)。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。
15	これまでのまとめ	観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまでに学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書																	



	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
評価方法 (基準)	テスト 50%、5 回の課題レポート 50%			
学生への メッセージ	本授業では、観光学に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5 回提出する。			
担当者の 研究室等	楽しく観光を学びましょう。			
備考	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12 時 30 分~13 時 10 分) stellakim0217@gmail.com			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NS02317a1		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。オンライン授業方法の詳細は、第2回授業の中で説明します。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎(1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎(2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下の平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下の平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	新しい人権	講義	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

		自己決定権	新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）																
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）																
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。 （3時間）																
関連科目	法学入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタディ憲法</td> <td>曾我部真裕 他</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法（第7版）</td> <td>芦部信喜</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店																	
2																				
3																				
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）40%と、期末試験（レポート、他）60%によって、総合的に評価します。 詳細は、オンライン授業開始の際に説明します。																			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。																			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																			
備考	各授業の最後に実施する課題については、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で、随時紹介します。																			

科目名	生物・化学の基礎	科目名 (英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木 敏英
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1318a1		

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を修得する。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明し、将来仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考ができる。
授業方法と留意点	講義中心にて実施する。適宜小テスト、課題レポート等を実施し、理解の確認を行いながら進行させる。 事前学習：講義前に教科書を読んで予習する（1時間×15回）。 事後学習：講義後の復習として、講義内容をノートにまとめる（1時間×15回）。
科目学習の効果（資格）	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。本講義は適宜、国家試験の基礎となる事項も含まれるので、自然科学と看護を結びつける習慣をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	物質の構成と構成粒子	化学学習の基礎となる物質の分類、成分や状態変化について学ぶ。物質の構成粒子（原子・分子・イオン）について学ぶ。	配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
2	化学結合、物質と化学反応式	イオン結合からなるイオン結晶の性質、共有結合からなる分子構造と性質について学ぶ。物質と質量の関係、溶液と濃度、化学変化を化学反応式を用いて表現することを学ぶ。	配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
3	酸と塩基、酸化還元反応	酸と塩基の定義と性質、強弱について学ぶ。酸化と還元反応の定義と反応、強弱について学ぶ。	配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
4	細胞の構造と生命誕生	細胞が生命としての最小単位であることを知り、細胞の基本構造とその多様性を認識するとともに、生命体の起源や多細胞生物の成り立ちを学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
5	生命体を構成する物質①	生体を構成する成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミンおよびミネラル）の特徴を理解するとともに、吸収と分解・排泄のメカニズムについて学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
6	生命体を構成する物質②	生体を構成する成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミンおよびミネラル）の特徴を理解するとともに、吸収と分解・排泄のメカニズムについて学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
7	遺伝子の構造と機能	遺伝子を構成する成分について知るとともに、セントラルドグマに関連する分子的背景を理解する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
8	生体とエネルギー	生体内で代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解するとともに、生体エネルギーの産生を行う代謝系（解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系）について学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
9	細胞の分裂・情報伝達・がん化	細胞の増殖と分化のしくみと意義を理解するとともに、現代の三大疾病の1つである「がん」の基礎的知識を習得する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
10	生命体の受精と成長	生命体の永続性の知識を深めるために、生命における生殖と発生、さらに成長と老化について習得する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
11	多細胞生物の自己維持機構①	多細胞生物では個体の生命を維持するために細胞間情報伝達システムが不可欠であることを理解するとともに、生体維持機構と生体防御機構の基本的なしくみを学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
12	多細胞生物の自己維持機構②	多細胞生物では個体の生命を維持するために細胞間情報伝達システムが不可欠であることを理解するとともに、生体維持機構と生体防御機構の基本的なしくみを学ぶ。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
13	遺伝のしくみと遺伝病①	遺伝の生物学的な機構を理解するとともに、医療応用として、ヒトの遺伝性疾患の基礎的知識を習得する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
14	遺伝のしくみと遺伝病②	遺伝の生物学的な機構を理解するとともに、医療応用として、ヒトの遺伝性疾患の基礎的知識を習得する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
15	生命科学技術と社会	生命科学技術の発展とその応用を知るために、技術の概要と求められる倫理感を習得する。	教科書の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。

関連科目 人体の構造と機能（1年次前後期）、代謝栄養学（1年次後期）、感染と防御（1年次後期）、薬理学総論（2年次前期）、薬物治療学（2年次後期）

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲保 他	羊土社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護で役立つ化学の基本	有本淳一 西沢いづみ	化学同人
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(20%)、小テスト(20%)、および定期試験(60%)で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。 再受験者は定期試験(100%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。 なお新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。			
学生への メッセージ	医療人として必要となる知識基盤をしっかりと築くことを目的に、人体に関係する生物学を中心とした講義を行います。また、その理解に必要な化学の基礎についても取り扱います。高校での化学基礎の内容の理解に自信のない学生は、教科書以外に指定参考書を用いて学習してください。			
担当者の 研究室等	1号館1階 高木准教授室 もしくは 1号館4階 薬剤学研究室			
備考				

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐合 紀親
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1319a1		

授業概要・目的	教養数学では、看護学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、看護学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義を中心に授業を進める。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。 事前・事後学習は毎回4時間以上かけること。 事前:テキストを事前に読んで準備する(1時間以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する、課題レポートに取り組む(3時間以上)
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・関数と極限	課題レポート
	2	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数 ・冪関数の微分	課題レポート
	3	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	4	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	5	微分の基本	・微分と変化率 ・速度と加速度	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則 ・指数関数と対数関数の導関数	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・指数関数、対数関数を含む関数のグラフ	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・不定積分の定義 ・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目	統計の基礎
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題レポートで30% 期末課題70%の合計によって判断する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。講義を聞くだけ、テキストを読むだけでは数学は身につけません。授業で学んだ内容は自分で手を動かして確かめるように心掛けましょう。分からないことがあれば、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	佐合 紀親：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) 連絡先メールアドレスは初回授業でお伝えします。 メールを送る際は、必ず氏名、学籍番号、所属、コース名を本文に分かるように書いてください。 Teamsのチャット機能で連絡して頂くこともできます。
----------	---

備考	課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	-----------------------------------

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮寄 英寿
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NNA2320a1		

授業概要・目的	本講義では、世界の環境問題と生態系の構造を俯瞰的にみることで、それらの基礎知識を習得することを目的とする。加えて、実際に生じている世界の環境問題を様々な事例研究を解説し、地域社会の特徴とそれが抱える諸問題から共通点と相違点についての考察を深めてもらいます。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて環境問題の問題発見と解決策を模索します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明できる。</li> <li>日本だけではなく世界各地域特有の状況から、これからの環境問題のあり様について考えを述べるができる。</li> <li>日々の暮らしの中で生物と環境に関する気づきや発見を得る喜びを持つようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義は主に PPT や映像を用いておこないます。 受講者によるグループワーク、個別・グループプレゼンテーションなどを実施します。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画、採点方法に関する説明	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
2	基礎知識の習得 1	気候、農業、資源	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
3	基礎知識の習得 2	環境・生態と人々の暮らし	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
4	基礎知識の習得 3	環境問題、生物多様性と生態系サービス	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
5	生物と環境のかかわりを学ぶ 1	西アフリカ、ブルキナファソにおける事例研究から (砂漠化・農牧混交)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
6	生物と環境のかかわりを学ぶ 2	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 1 (レジリアンス・気候変動)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
7	生物と環境のかかわりを学ぶ 3	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 2 (食料安全保障・貧困削減)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
8	生物と環境のかかわりを学ぶ 4	南アジア、インドにおける事例研究から その 1 ラージスターン (気候変動・移動牧畜)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
9	生物と環境のかかわりを学ぶ 5	南アジア、インドにおける事例研究から その 2 タミル・ナドゥ (気候変動・外来生物)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
10	生物と環境のかかわりを学ぶ 6	中東、アラブ首長国連邦における事例研究から (国際労働移動・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
11	生物と環境のかかわりを学ぶ 7	東南アジア、ラオス・ミャンマーにおける事例研究から (農村開発・都市開発)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
12	生物と環境のかかわりを学ぶ 8	東南アジア、インドネシアにおける事例研究から (貧困削減・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
13	総合討論 1	これからの生物と環境について考えよう (個人あるいはグループ討論)	講義中に出す課題レポート 発表準備
14	総合討論 2	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備
15	総合討論 3	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義への参加姿勢 (発言) (30%)、リアクションペーパーと各講義中に出す課題レポート (30%)、グループワークとプレゼンテーション (40%) で評価します。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	



科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ユアン マトウカガル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ファッション 2	ユニット 1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 3 語彙 (先生のプリント)
3	スマートフォン中毒 1	教科書ユニット 3 "I'm not Addicted" ユニット 3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
4	スマートフォン中毒 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
5	Class Presentation 1 & Tests	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 4 語彙 (先生のプリント) レー
6	SNS1	教科書ユニット 4 "Social Media Star" ユニット 4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
7	SNS2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 5 語彙 (先生のプリント)
8	ジェンダー問題 1	教科書ユニット 5 "Who pays?" ユニット 5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
9	ジェンダー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
10	Class Presentation 2 & Tests	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学習ユニット 7 語彙 (先生のプリント)
11	モダンファミリー問題 1	教科書ユニット 7 "Family Values" ユニット 7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
12	モダンファミリー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 9 語彙 (先生のプリント)
13	モダンファミリー問題 3	教科書ユニット 9 "A Visit to Grandma" ユニット 9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
14	モダンファミリー問題 3	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
15	Class Presentation 3 & Tests 定期テスト準備	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues1	Richard R Day Joseph Shaules Junko Yamanaka	Pearson
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students & teacher	Active participation
	2	Unit 1 - People	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation
	3	Unit 1 - People	Reading, writing, video, communication	Active participation Conversation Test 1
	4	Unit 2 - A Day in the Life	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation
	5	Unit 2 - A Day in the Life	Reading, writing, video, communication	Active participation Graded Dialogue 1
	6	Unit 3 - Going Places	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation
	7	Unit 3 - Going Places	Reading, writing, video, communication	Active participation
	8	Student Presentations Vocabulary Test	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test
	9	Unit 4 - Food	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation
	10	Unit 4 - Food	Reading, writing, video, communication	Active participation
	11	Unit 5 - Sports	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Conversation Test 2
	12	Unit 5 - Sports	Reading, writing, video, communication	Active participation
	13	Unit 6 - Destinations	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Graded Dialogue 2
	14	Unit 6 - Destinations	Reading, writing, video, communication	Active participation
	15	Student Presentations Vocabulary Test Course Review	Student presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World English 1 (Third Edition)	John Hughes & Martin Milner	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
----------	--

学生へのメッセージ	Please make an effort to improve your speaking ability and communicate with others in a respectful manner.
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前: 前の授業で学んだ範囲を復習する (15 分以上) 事後: 授業で学んだ範囲を復習する (30 分以上)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの使用法の説明。 リスニングとスピーキングの活動方法の説明。	事前: なし 事後: PC の使用方法を確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	病室内の施設の名称 (テキスト Chapter 1)	テキストからのリスニング 病室内の施設の名称を覚え、使えるようにする。	事前: Unit 1 のリスニング予習 事後: 病室内の施設の名称を復習
3	バイタルサイン測定 (テキスト Chapter 2)	テキストからのリスニング バイタルサイン測定について、必要な応答ができるようにする。	事前: Unit 2 のリスニング予習 事後: どのような対応があるのかを復習
4	痛みの程度を聞く (テキスト Chapter 3)	テキストからのリスニング 痛みの程度について必要な応答ができるようにする。	事前: Unit 3 のリスニング予習 事後: どのように痛みの程度を聞くのかを復習。
5	症状の表現 (テキスト Chapter 4)	テキストからのリスニング 症状について、必要な事柄を英語で表現する。	事前: Unit 4 のリスニング予習 事後: 症状の表現について復習
6	体の動きの表現 (テキスト Chapter 5)	テキストからのリスニング 体の動きについて英語で表現する。	事前: Unit 5 のリスニング予習 事後: 身体部位の知識を深める。
7	検査についての表現 (テキスト Chapter 6)	テキストからのリスニング 検査の際に必要な手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前: Unit 6 のリスニング予習 事後: 検査についての一般的な事柄を知る。
8	中間のまとめ (テキスト Chapter 7)	テキストからのリスニング 医療英語について知り、それを英語で表現する。	事前: Unit 7 のリスニング予習 事後: 学んだ英語表現ができるようにする。
9	日常の看護についての表現 (テキスト Chapter 8)	テキストからのリスニング 前回に続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 8 のリスニング予習 事後: 学んだ英語表現ができるのようになる。
10	与薬についての表現 (テキスト Chapter 9)	テキストからのリスニング、 与薬に関する英語表現を知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 9 のリスニング予習 事後: 与薬についての理解を深める。
11	排泄についての表現 (テキスト Chapter 10)	テキストからのリスニング 排泄に関する表現を知り、それを英語で表現をする。	事前: Unit 10 のリスニング予習 事後: 排泄についての理解を深める
12	慢性疾患についての表現 (テキスト Chapter 11)	テキストからのリスニング よく使われる慢性疾患の名称を知る。	事前: Unit 11 のリスニング予習 事後: 慢性疾患についての理解を深める。
13	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	テキストからのリスニング 急性、緊急医療についての表現を知る。	事前: Unit 12 のリスニング予習 事後: 急性、緊急医療について理解を深める。
14	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
15	授業内容から医療関係 Reading のまとめ	ポイントを押さえながら、理解していることの教科書確認	事前: 授業で取り上げられた医療内容の復習 事後: 期末テストの準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 % 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) %		
学生への メッセージ	語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 11 第1回プレゼンへの導入	授業の説明 ① 会話の解説を聞く。 ② Dramatic Reading をペア練習、【録音ファイル】を提出する。 ③ Get Ready をペアで話し合い、代表者が【用紙】に記入して提出。	事前：① 授業で習う教科書の範囲の単語を調べておく。 ② Check Your Comprehension、Launguage Puzzle を授業開始前に提出。 事後：次週までにプレゼンの話題を考えておく。
2	Unit 11 第1回プレゼンの準備	① Think about the Issue をグループで話し合う。 ② On Your Own をグループで話し合う。 ③ Group Exchange をグループで話し合い、【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼン例の解説を聞き、プレゼン作成の参考にする。	事前：① Think about the Issue、On Your Own を授業開始前に提出。 事後：プレゼンの原案を作成しておく。
3	Unit 11 第1回プレゼンの実施	① 英語表現の紹介を参考に、プレゼン作成の参考にする。 ② Organize を元にペアで討論する。 ③ プレゼンの原稿を推敲し、最終版を各自で【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼンを録画し、【動画ファイル】を提出する。 ⑤ Feedback を記入し、【用紙】に記入して提出する。	事前：Organize を授業開始前に提出。
4	Unit 12 第2回プレゼンへの導入	① 会話の解説を聞く。 ② Dramatic Reading をペア練習、【録音ファイル】を提出する。 ③ Get Ready をペアで話し合い、代表者が【用紙】に記入して提出。	事前：① 授業で習う教科書の範囲の単語を調べておく。 ② Check Your Comprehension、Launguage Puzzle を授業開始前に提出。 事後：次週までにプレゼンの話題を考えておく。
5	Unit 12 第2回プレゼンの準備	① Think about the Issue をグループで話し合う。 ② On Your Own をグループで話し合う。 ③ Group Exchange をグループで話し合い、【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼン例の解説を聞き、プレゼン作成の参考にする。	事前：① Think about the Issue、On Your Own を授業開始前に提出。 事後：プレゼンの原案を作成しておく。
6	Unit 12 第2回プレゼンの実施	① 英語表現の紹介を参考に、プレゼン作成の参考にする。 ② Organize を元にペアで討論する。 ③ プレゼンの原稿を推敲し、最終版を各自で【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼンを録画し、【動画ファイル】を提出する。 ⑤ Feedback を記入し、【用紙】に記入して提出する。	事前：Organize を授業開始前に提出。
7	Unit 13 第3回プレゼンへの導入	① 会話の解説を聞く。 ② Dramatic Reading をペア練習、【録音ファイル】を提出する。 ③ Get Ready をペアで話し合い、代表者が【用紙】に記入して提出。	事前：① 授業で習う教科書の範囲の単語を調べておく。 ② Check Your Comprehension、Launguage Puzzle を授業開始前に提出。 事後：次週までにプレゼンの話題を考えておく。
8	Unit 13 第3回プレゼンの準備	① Think about the Issue をグループで話し合う。 ② On Your Own をグループで話し合う。 ③ Group Exchange をグループで話し合い、【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼン例の解説を聞き、プレゼン作成の参考にする。	事前：① Think about the Issue、On Your Own を授業開始前に提出。 事後：プレゼンの原案を作成しておく。
9	Unit 13 第3回プレゼンの実施	① 英語表現の紹介を参考に、プレゼン作成の参考にする。 ② Organize を元にペアで討論する。 ③ プレゼンの原稿を推敲し、最終版を各自で【用紙】に記入して提出する。	事前：Organize を授業開始前に提出。

			④ プレゼンを録画し、【動画ファイル】を提出する。 ⑤ Feedback を記入し、【用紙】に記入して提出する。																	
	10	Unit 15 第4回プレゼンへの導入	① 会話の解説を聞く。 ② Dramatic Reading をペア練習、【録音ファイル】を提出する。 ③ Get Ready をペアで話し合い、代表者が【用紙】に記入して提出。	事前：① 授業で習う教科書の範囲の単語を調べておく。 ② Check Your Comprehension、Launguage Puzzle を授業開始前に提出。 事後：次週までにプレゼンの話題を考えておく。																
	11	Unit 15 第4回プレゼンの準備	① Think about the Issue をグループで話し合う。 ② On Your Own をグループで話し合う。 ③ Group Exchange をグループで話し合い、【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼン例の解説を聞き、プレゼン作成の参考にする。	事前：① Think about the Issue、On Your Own を授業開始前に提出。 事後：プレゼンの原案を作成しておく。																
	12	Unit 15 第4回プレゼンの実施	① 英語表現の紹介を参考に、プレゼン作成の参考にする。 ② Organize を元にペアで討論する。 ③ プレゼンの原稿を推敲し、最終版を各自で【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼンを録画し、【動画ファイル】を提出する。 ⑤ Feedback を記入し、【用紙】に記入して提出する。	事前：Organize を授業開始前に提出。																
	13	Unit 19 第5回プレゼンへの導入	① 会話の解説を聞く。 ② Dramatic Reading をペア練習、【録音ファイル】を提出する。 ③ Get Ready をペアで話し合い、代表者が【用紙】に記入して提出。	事前：① 授業で習う教科書の範囲の単語を調べておく。 ② Check Your Comprehension、Launguage Puzzle を授業開始前に提出。 事後：次週までにプレゼンの話題を考えておく。																
	14	Unit 19 第5回プレゼンの準備	① Think about the Issue をグループで話し合う。 ② On Your Own をグループで話し合う。 ③ Group Exchange をグループで話し合い、【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼン例の解説を聞き、プレゼン作成の参考にする。	事前：① Think about the Issue、On Your Own を授業開始前に提出。 事後：プレゼンの原案を作成しておく。																
	15	Unit 19 第5回プレゼンの実施	① 英語表現の紹介を参考に、プレゼン作成の参考にする。 ② Organize を元にペアで討論する。 ③ プレゼンの原稿を推敲し、最終版を各自で【用紙】に記入して提出する。 ④ プレゼンを録画し、【動画ファイル】を提出する。 ⑤ Feedback を記入し、【用紙】に記入して提出する。	事前：Organize を授業開始前に提出。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Impact Issues 1</td> <td>Richard R Day Joseph Shaules Junko Yamanaka</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Impact Issues 1	Richard R Day Joseph Shaules Junko Yamanaka	Pearson	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Impact Issues 1	Richard R Day Joseph Shaules Junko Yamanaka	Pearson																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																			
学生への メッセージ	ひとつのテーマに関して英語でのプレゼンテーションを行うとともに、他の人に質問したり、コメントすることによって、考えをより広め、深めていきましょう。失敗を恐れず、積極的に参加してください。 詳しくは、WebFolder k_m > m_松木園久子 > 教材 > 「月曜3限」内の【後期授業の案内】を読んでください。																			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	<p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。</p> <p>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation and Introduction</td> <td>Explanation of the class, syllabus, rules &amp; grading Introduction of students &amp; teacher</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7 - Communication</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7 - Communication</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation Conversation Test 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8 - Making Plans</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 8 - Making Plans</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation Graded Dialogue 1</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 - Types of Clothing</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9 - Types of Clothing</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Student Presentations Vocabulary Test</td> <td>Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test</td> <td>Active participation Student presentations Vocabulary Test</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10 - Lifestyles</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 10 - Lifestyles</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11 - Achievements</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation Conversation Test 2</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11 - Achievements</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 - Decisions</td> <td>Vocabulary, grammar, listening, conversation</td> <td>Active participation Graded Dialogue 2</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 - Decisions</td> <td>Reading, writing, video, communication</td> <td>Active participation</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Student Presentations Vocabulary Test Course Review</td> <td>Student presentations on a textbook topic Vocabulary Test</td> <td>Active participation Student presentations Vocabulary Test</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students & teacher	Active participation	2	Unit 7 - Communication	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation	3	Unit 7 - Communication	Reading, writing, video, communication	Active participation Conversation Test 1	4	Unit 8 - Making Plans	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation	5	Unit 8 - Making Plans	Reading, writing, video, communication	Active participation Graded Dialogue 1	6	Unit 9 - Types of Clothing	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation	7	Unit 9 - Types of Clothing	Reading, writing, video, communication	Active participation	8	Student Presentations Vocabulary Test	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test	9	Unit 10 - Lifestyles	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation	10	Unit 10 - Lifestyles	Reading, writing, video, communication	Active participation	11	Unit 11 - Achievements	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Conversation Test 2	12	Unit 11 - Achievements	Reading, writing, video, communication	Active participation	13	Unit 12 - Decisions	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Graded Dialogue 2	14	Unit 12 - Decisions	Reading, writing, video, communication	Active participation	15	Student Presentations Vocabulary Test Course Review	Student presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students & teacher	Active participation																																																																
2	Unit 7 - Communication	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation																																																																
3	Unit 7 - Communication	Reading, writing, video, communication	Active participation Conversation Test 1																																																																
4	Unit 8 - Making Plans	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation																																																																
5	Unit 8 - Making Plans	Reading, writing, video, communication	Active participation Graded Dialogue 1																																																																
6	Unit 9 - Types of Clothing	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation																																																																
7	Unit 9 - Types of Clothing	Reading, writing, video, communication	Active participation																																																																
8	Student Presentations Vocabulary Test	Student Presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test																																																																
9	Unit 10 - Lifestyles	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation																																																																
10	Unit 10 - Lifestyles	Reading, writing, video, communication	Active participation																																																																
11	Unit 11 - Achievements	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Conversation Test 2																																																																
12	Unit 11 - Achievements	Reading, writing, video, communication	Active participation																																																																
13	Unit 12 - Decisions	Vocabulary, grammar, listening, conversation	Active participation Graded Dialogue 2																																																																
14	Unit 12 - Decisions	Reading, writing, video, communication	Active participation																																																																
15	Student Presentations Vocabulary Test Course Review	Student presentations on a textbook topic Vocabulary Test	Active participation Student presentations Vocabulary Test																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>World English 1 (Third Edition)</td> <td>John Hughes &amp; Martin Milner</td> <td>National Geographic Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World English 1 (Third Edition)	John Hughes & Martin Milner	National Geographic Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	World English 1 (Third Edition)	John Hughes & Martin Milner	National Geographic Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Please make an effort to improve your speaking ability and communicate with others in a respectful manner.																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			



科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前:前の授業で学んだ範囲を復習する(15分以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する(30分以上)
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	①教科書:Unit 2 Entertainment ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 2を予習
3	①教科書:Unit 3 Business ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 3を予習
4	①教科書:Unit 4 Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 4を予習
5	①教科書:Unit 5 Telephone ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 5を予習
6	①教科書:Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 6を予習
7	①教科書:Unit 7 Health ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 7を予習
8	①教科書:Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 8を予習
9	①教科書:Unit 9 New Products ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 9を予習
10	①教科書:Unit 10 Travel 1 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 10を予習
11	①教科書:Unit 11 Travel 2 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 11を予習
12	①教科書:Unit 12 Job Applications ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 12を予習
13	①教科書:Unit 13 Shopping ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 13を予習
14	①教科書:Unit 14 Education ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 14を予習
15	Final Review	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘, Michael Schaurte	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 TOEIC Bridge	20% 10%
----------	--------------------------	------------

	定期試験 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	30% 40%
学生への メッセージ		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。	

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ユアン マトウカガル
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Hospital Departments	テキストの使用法の説明。 Teacher's workbook.	次回のテキストの予習
	2	Unit 1 Hospital Departments	小テスト テキスト (11-16 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit 1 の予習・復習
	3	Unit 2 Application Forms	テキスト (17-21 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit2 の予習・復習
	4	Unit 2 Application Forms	小テスト テキスト (17-21 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit2 の予習・復習
	5	Unit 3 Parts of the Body	テキスト (22-26 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit3 の予習・復習
	6	Unit 3 Parts of the Body	小テスト テキスト (22-26 ページ) 学習	Workbook and Unit3 の予習・復習
	7	Unit 1-3 Test / Speaking Report	Unit 1-3 Test Workbook check. Pairs conversation check	予習・復習
	8	Unit 4 Illnesses	テキスト Lesson7 (41-46 ページ) 学習	Workbook and Unit4 の予習・復習
	9	Unit 4 Illnesses	小テスト テキスト Lesson8 (47-52 ページ) 学習	Workbook and Unit4 の予習・復習
	10	Unit 5 Hospital Routine	テキスト Lesson9 (53-58 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	11	Unit 5 Hospital Routine	小テスト テキスト Lesson10 (59-64 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	12	Unit 6 Hospital Objects	テキスト Lesson11 (65-70 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	13	Unit 6 Hospital Objects	小テスト テキスト Lesson12 (71-76 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	14	Unit 4-6 Test	Unit 1-3 Test Workbook check. Pairs conversation check	予習・復習
	15	Unit 1-6 まとめテスト	まとめテスト	これまでの振り返り

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs 2 Reading and Writing Essential English for Healthcare Professionals	Vivian Morooka	Nan'Un-Do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト、授業参加態度 (30%) まとめテスト (50%) TOEIC スコア (20%)
-----------	--

学生へのメッセージ	看護英語を学ぶ上では、分野ごとの用語を把握することはもちろん、専門的立場にある者として、一般の人にも分かりやすくその知識を伝える術を身につけることも必要となるでしょう。本授業では文章の読解のみならず、ディクテーションや作文を通してその表現や論理を自分のものとした上で、再度人に伝えるための力を付けることが目的となります。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リオン タウンゼンド
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</li> <li>・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</li> <li>・「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海</li> </ul>

授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students	Preview unit 1
	2	Unit 1	Textbook pages 4-10	Review unit 1 Preview unit 2 Homework
	3	Unit 2	Textbook pages 11-19	Review unit 2 Homework
	4	Units 1 & 2 review Dialogue test	Review of units 1 & 2 Dialogue test	Preview unit 3 Homework
	5	Unit 3	Textbook pages 20-27	Review unit 3 Preview unit 4 Homework
	6	Unit 4	Textbook pages 28-35	Review unit 4 Revise vocabulary
	7	Units 3 & 4 review Vocabulary test	Review of units 3 & 4 Vocabulary test	Presentation preparation
	8	Presentation 1	Student Presentations	Preview unit 5
	9	Unit 5	Textbook pages 36-43	Review unit 5 Preview unit 6 Homework
	10	Unit 6	Textbook pages 44-51	Review unit 6 Homework
	11	Units 5 & 6 review Dialogue test	Review of units 5 & 6 Dialogue test	Preview unit 7 Homework
	12	Unit 7	Textbook pages 52-59	Review unit 7 Preview unit 8 Homework
	13	Unit 8	Textbook pages 60-67	Review unit 8 Revise vocabulary
	14	Units 7 & 8 review Vocabulary test	Review of units 7 & 8 Vocabulary test	Presentation preparation
	15	Presentation 2	Student Presentations	Course review

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for Nursing	Ros Wright & Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC テストスコア 20% 授業への参加、貢献 80%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	Please make an effort to improve your speaking ability and communicate with others in a respectful manner.
-----------	--

担当者の研究室等	1号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NEN2325c1		

授業概要・目的	英語Ⅰ、Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力」としては、英文を速読するためにリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</li> <li>・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</li> <li>・「会話、ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外</li> </ul>
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 事前:前の授業で学んだ範囲を復習する(15分以上) 事後:授業で学んだ範囲を復習する(30分以上)
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Syllabus Introduction	講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	2	Airport	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	3	Train Station	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	4	Department Store	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	5	Restaurant	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	6	Hotel	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	7	Hospital	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	8	Bank	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	9	Workplace	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	10	Fitness Club	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	11	Sightseeing	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	12	International Conference	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	13	Computer Society	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	14	Employment	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	15	Job Training	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末テスト(30%) レポートを含む提出物(50%) TOEIC(20%) 指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。
----------	---

学生へのメッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に教室にて対応する。
----	---

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につけるようにする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 発音 (1) 声調・母音 発音 (2) 子音・軽声	・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音) ・子音 ・軽声	p12～p19 の録音を聞いて、 発音を練習をすること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・r 化音  名前の言い方 月日の表現	・母音 (鼻母音) ・声調変化 ・声調の組み合わせ ・r 化音 ・名前の言い方 ・月日の表現	p20～p30 の録音を聞いて、 発音とフレーズを練習をすること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
3	本編 第 1 課 中国のかたですか？	・動詞述語文 ・疑問文 ・指示代名詞 ・家族名称 ・会話 (中国のかたですか)	p 32～p 35 の録音を聞いて、 第 1 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
4	第 2 課 あなたの家はどこにありますか？	・形容詞述語文 ・所有の「有」 ・動詞構文の基本語順 ・「的」の使い方 ・副詞「也」など ・会話 (あなたの家はどこにありますか)	p36～p 39 の録音を聞いて、 第 2 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
5	☆単元テスト 第 3 課 今日はどこに行きますか？	・動詞「有」と「在」 ・連動文 ・助動詞「想」と「要」の用法 ・時間詞の位置 ・会話 (今日どこに行きますか)	p 40～p 43 の録音を聞いて、 第 3 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
6	第 4 課 娘は切符を買う必要がありますか？	・年齢の言い方 ・～と「和」 ・時刻の言い方 ・連体修飾語 ・会話 (娘は切符を買う必要がありますか)	p44～p47 の録音を聞いて、 第 4 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
7	第 5 課 お手伝いしましょうか？	・助動詞「会」と「能」の用法 ・文末の「了」 ・数量詞 ・介詞「給」 ・会話 (お手伝いしましょうか)	p50～p53 の録音を聞いて、 第 5 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
8	第 6 課 ちょっと見てもいいですか？	・助動詞「可以」 ・完了の「了」 ・助詞「一下」 ・時間量の言い方 ・会話 (ちょっと見てもいいですか)	p54～p 57 の録音を聞いて、 第 6 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
9	第 7 課 旅行で来たのですか？	・介詞「在」 ・時量 ・「是～的」構文 ・～するつもり「打算」 ・過去の経験を表す「過」 ・会話 (旅行で来たのですか)	p58～p61 の録音を聞いて、 第 7 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
10	☆単元テスト 第 8 課 もちろん登ってみたいです。	・結果補語 ・疑問詞の不定用法 ・介詞「離」 ・方向補語 ・動詞の重ね型 ・会話 (もちろん登ってみたいです)	p62～p65 の録音を聞いて、 第 8 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
11	第 9 課 道に迷いましたか？	・進行形 ・介詞「从」 ・副詞の「就」 ・反復疑問 ・会話 (道に迷いましたか)	p68～p71 の録音を聞いて、 第 9 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
12	第 10 課 まず販売機で食券を買います。	・「把」の構文 ・方位詞 ・存現文 ・二重目的語	p72～p 75 の録音を聞いて、 第 10 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p103) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。

			・会話（まず販売機で食券を買います）	
	13	第11課 ビールを注文しました。	・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました）	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	・様態補語 ・助動詞「應該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね）	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
	15	第1～12課の総合復習 ★単元テスト（期末テスト）	第1～12課の総合復習・文法まとめ、 質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師にて対応する。			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につけるようにする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 発音 (1) 声調・母音 発音 (2) 子音・軽声	・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音) ・子音 ・軽声	p12～p19 の録音を聞いて、 発音を練習をすること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・ r 化音 名前の言い方 月日の表現	・母音 (鼻母音) ・声調変化 ・声調の組み合わせ ・r 化音 ・名前の言い方 ・月日の表現	p20～p30 の録音を聞いて、 発音とフレーズを練習をすること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
3	本編 第 1 課 中国のかたですか?	・動詞述語文 ・疑問文 ・指示代名詞 ・家族名称 ・会話 (中国のかたですか)	p 32～p 35 の録音を聞いて、 第 1 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
4	第 2 課 あなたの家はどこにありますか?	・形容詞述語文 ・所有の「有」 ・動詞構文の基本語順 ・「的」の使い方 ・副詞「也」など ・会話 (あなたの家はどこにありますか)	p36～p 39 の録音を聞いて、 第 2 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
5	★単元テスト 第 3 課 今日はどこに行きますか?	・動詞「有」と「在」 ・連動文 ・助動詞「想」と「要」の用法 ・時間詞の位置 ・会話 (今日どこに行きますか)	p 40～p 43 の録音を聞いて、 第 3 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
6	第 4 課 娘は切符を買う必要がありますか?	・年齢の言い方 ・～と「和」 ・時刻の言い方 ・連体修飾語 ・会話 (娘は切符を買う必要がありますか)	p44～p47 の録音を聞いて、 第 4 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
7	第 5 課 お手伝いしましょうか?	・助動詞「会」と「能」の用法 ・文末の「了」 ・数量詞 ・介詞「給」 ・会話 (お手伝いしましょうか)	p50～p53 の録音を聞いて、 第 5 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
8	第 6 課 ちょっと見てもいいですか?	・助動詞「可以」 ・完了の「了」 ・助詞「一下」 ・時間量の言い方 ・会話 (ちょっと見てもいいですか)	p54～p 57 の録音を聞いて、 第 6 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
9	第 7 課 旅行で来たのですか?	・介詞「在」 ・時量 ・「是～的」構文 ・～するつもり「打算」 ・過去の経験を表す「過」 ・会話 (旅行で来たのですか)	p58～p61 の録音を聞いて、 第 7 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
10	★単元テスト 第 8 課 もちろん登ってみたいです。	・結果補語 ・疑問詞の不定用法 ・介詞「離」 ・方向補語 ・動詞の重ね型 ・会話 (もちろん登ってみたいです)	p62～p65 の録音を聞いて、 第 8 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
11	第 9 課 道に迷いましたか?	・進行形 ・介詞「从」 ・副詞の「就」 ・反復疑問 ・会話 (道に迷いましたか)	p68～p71 の録音を聞いて、 第 9 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。
12	第 10 課 まず販売機で食券を買います。	・「把」の構文 ・方位詞 ・存現文 ・二重目的語	p72～p 75 の録音を聞いて、 第 10 課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p103) を解答すること (事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う)。



			・会話（まず販売機で食券を買います）	
	13	第11課 ビールを注文しました。	・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました）	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	・様態補語 ・助動詞「應該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね）	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
	15	第1～12課の総合復習 ★単元テスト（期末テスト）	第1～12課の総合復習・文法まとめ、 質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること（事前と事後にそれぞれ1時間の学習を行う）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師にて対応する。			

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では4月22日以降はオンライン授業となる。オンライン授業の形式は、教科書に沿った動画を作成して出すので、それを視聴して課題を提出してもらった形式をとる。また授業中に中間試験代わりの難易度のある大型課題と、期末試験代わりの難易度のある大型課題を出す。これらはきちんとオンライン授業を受けていないと対応できないため、なるべくオンライン授業を休まないことが望ましい。オンライン授業時は、必ず教科書を手元に置き、動画をきちんと視聴し、ノートを取り、理解し、最後に課題をやって提出すること。(動画をきちんと視聴)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国語とは</td> <td>文字の仕組み</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母音 1</td> <td>基本母音</td> <td>教科書 第1課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>母音 2</td> <td>合成母音</td> <td>教科書 第1課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音 1</td> <td>基本子音</td> <td>教科書 第2課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子音 2</td> <td>子音 (濃音・激音)</td> <td>教科書 第2課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文字の確認</td> <td>反切表の整理と文字の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パッチム</td> <td>終声について</td> <td>教科書 第3課</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発音の変化 1</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 第4課</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発音の変化 2</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 第4課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発音の変化の確認</td> <td>発音の変化の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体言文 1</td> <td>体言文 (平叙文)</td> <td>教科書 第5課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体言文 2</td> <td>体言文 (疑問文)</td> <td>教科書 第5課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>体言文 3</td> <td>体言文 (否定文)</td> <td>教科書 第6課</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総確認</td> <td>総確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国語の実際</td> <td>韓国のドラマのセリフを聞いてみる</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の仕組み		2	母音 1	基本母音	教科書 第1課	3	母音 2	合成母音	教科書 第1課	4	子音 1	基本子音	教科書 第2課	5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第2課	6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認		7	パッチム	終声について	教科書 第3課	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第4課	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第4課	10	発音の変化の確認	発音の変化の確認		11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第5課	12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第5課	13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第6課	14	総確認	総確認		15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の仕組み																																																																	
2	母音 1	基本母音	教科書 第1課																																																																
3	母音 2	合成母音	教科書 第1課																																																																
4	子音 1	基本子音	教科書 第2課																																																																
5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第2課																																																																
6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認																																																																	
7	パッチム	終声について	教科書 第3課																																																																
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第4課																																																																
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第4課																																																																
10	発音の変化の確認	発音の変化の確認																																																																	
11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第5課																																																																
12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第5課																																																																
13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第6課																																																																
14	総確認	総確認																																																																	
15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる																																																																	
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おはよう韓国語 1</td> <td>崔柄珠</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題提出回数、毎回の課題の完成度、中間試験代わりの大型課題、期末試験代わりの大型課題の出来などを総合的に鑑みて評価。 毎回の授業時の課題 (60%)、試験代わりの大型課題 (40%)。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																																																																		
備考	提出された課題については、次週の授業で解答の確認、誤答のチェック、(必要に応じて) 再説明を行う。質問に対しては次週の授業がそれまでに回答する。 学期中は授業外で計 30 時間以上の学習を求める。																																																																		

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的  
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標  
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点  
この授業では4月22日以降はオンライン授業となる。オンライン授業の形式は、教科書に沿った動画を作成して出すので、それを視聴して課題を提出してもらおう形式をとる。また授業中に中間試験代わりの難易度のある大型課題と、期末試験代わりの難易度のある大型課題を出す。これらはきちんとオンライン授業をうけていないと対応できないため、なるべくオンライン授業を休まないことが望ましい。オンライン授業時は、必ず教科書を手元に置き、動画をきちんと視聴し、ノートを取り、理解し、最後に課題をやって提出すること。(動画をきちんと視聴)

科目学習の効果 (資格)  
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	
2	母音 1	基本母音	教科書 第 1 課
3	母音 2	合成母音	教科書 第 1 課
4	子音 1	基本子音	教科書 第 2 課
5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第 2 課
6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認	
7	パッチム	終声について	教科書 第 3 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第 4 課
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第 4 課
10	発音の変化の確認	発音の変化の確認	
11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第 5 課
12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第 5 課
13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第 6 課
14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる	

関連科目  
韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
課題提出回数、毎回の課題の完成度、中間試験代わりの大型課題、期末試験代わりの大型課題の出来などを総合的に鑑みて評価。  
毎回の授業時の課題 (60%)、試験代わりの大型課題 (40%)。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考  
提出された課題については、次週の授業で解答の確認、誤答のチェック、(必要に応じて) 再説明を行う。質問に対しては次週の授業かそれまでに回答する。  
学期中は授業外で計 30 時間以上の学習を求める。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中に入れておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。  オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。  オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。  オンライ
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
	12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)			
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、Gmail もしくは Teams にて対応。			

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。  オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。  オンライン授業については、Teams によるリアルタイム方式で行い、課題の提出は Web Folder とする。  オンライ
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書 p. 1～6 を復習する（一時間程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する（一時間程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する（一時間程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する（一時間程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する（一時間程度）
	11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する（一時間程度）
	12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（一時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。（一時間程度）
	14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する（一時間程度）	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう努めましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)			
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。遠隔授業になった場合は、Gmail もしくは Teams にて対応。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔形式で実施します。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。また、「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャンネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (1 時間) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 文字、段落、セクションの書式設定	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 表やリストの作成	デジタル時代の著作権 (2) 表の作成と修正・装飾 リストを作成・変更する 表内でのタブ設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 グラフィック要素の挿入と書式設定 ドロー描画	ネット社会に潜む危険と対策 (1) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArt の挿入・書式設定 ドローツールによる描画	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 文書作成の振り返り	文書作成テスト演習	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間) 事後: 今までの機能のまとめ (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前: 発表練習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理	メールによるコミュニケーション ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理	Web によるコミュニケーション (1) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 見せる表の作成	Web によるコミュニケーション (2) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	Web によるコミュニケーション (3) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	モバイル機器の活用と管理 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)



			関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する																	
	14	【Word & Excel】 連携課題演習	情報モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成	事前：授業テーマの予習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)																
	15	【Word & Excel】 まとめと振り返り	情報モラルとセキュリティのまとめ 総合テスト演習	事前：今までの諸機能の復習(2時間)																
関連科目	情報リテラシーⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>30時間アカデミック Office2019</td> <td>杉本くみ子、大澤栄子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>&lt;改訂3版&gt;情報モラル &amp; 情報セキュリティ</td> <td>富士通 FOM</td> <td>FOM 出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	2	<改訂3版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版																	
2	<改訂3版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、テスト課題(20%)を総合して評価する。																			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。																			
担当者の 研究室等																				
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの「Q and A」チャンネル、または Teams チャットで質問してください。																			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔形式で実施します。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。また、「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャンネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (1 時間) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 文字、段落、セクションの書式設定	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 表やリストの作成	デジタル時代の著作権 (2) 表の作成と修正・装飾 リストを作成・変更する 表内でのタブ設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 グラフィック要素の挿入と書式設定 ドロー描画	ネット社会に潜む危険と対策 (1) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArt の挿入・書式設定 ドローツールによる描画	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 文書作成の振り返り	文書作成テスト演習	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間) 事後: 今までの機能のまとめ (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリク評価	事前: 発表練習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理	メールによるコミュニケーション ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理	Web によるコミュニケーション (1) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 見せる表の作成	Web によるコミュニケーション (2) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	Web によるコミュニケーション (3) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	モバイル機器の活用と管理 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)

			関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する																	
	14	【Word & Excel】 連携課題演習	情報モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成	事前：授業テーマの予習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)																
	15	【Word & Excel】 まとめと振り返り	情報モラルとセキュリティのまとめ 総合テスト演習	事前：今までの諸機能の復習(2時間)																
関連科目	情報リテラシーⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>30時間アカデミック Office2019</td> <td>杉本くみ子、大澤栄子</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>&lt;改訂3版&gt;情報モラル &amp; 情報セキュリティ</td> <td>富士通 FOM</td> <td>FOM 出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	2	<改訂3版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版																	
2	<改訂3版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、テスト課題(20%)を総合して評価する。																			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。																			
担当者の 研究室等																				
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの「Q and A」チャンネル、または Teams チャットで質問してください。																			

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前) 教科書 p12-16 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前) 教科書 p29-34 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前) 教科書 p18-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前) 教科書 p16-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
5	代表値と散布度 (3)	エクセル演習	(事前) 教科書 p16-28 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
9	推定 (2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
10	推定 (3)	演習問題	(事前) 教科書 p68-72, 76 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
11	検定 (1)	Z 検定 (1 集団、連続変数)	(事前) 教科書 p68-75, 77 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
12	検定 (2)	t 検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p80-87 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
13	検定 (3)	二項分布と Z 検定 (1 集団、割合)	(事前) 教科書 p68-75 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
14	検定 (4)	$\chi^2$ 乗検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p101-106 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	$\chi^2$ 乗検定 (2 集団) と統計のまとめ	(事前) 教科書 p101-106, および授業資料と教科書で復習する (30分)

関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉ほか	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子, 寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前) 教科書 p12-16 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前) 教科書 p29-34 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前) 教科書 p18-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前) 教科書 p16-22 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
5	代表値と散布度 (3)	エクセル演習	(事前) 教科書 p16-28 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前) 教科書 p41-45, 96 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
9	推定 (2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	(事前) 教科書 p68-72 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
10	推定 (3)	演習問題	(事前) 教科書 p68-72, 76 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
11	検定 (1)	Z 検定 (1 集団、連続変数)	(事前) 教科書 p68-75, 77 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
12	検定 (2)	t 検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p80-87 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
13	検定 (3)	二項分布と Z 検定 (1 集団、割合)	(事前) 教科書 p68-75 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
14	検定 (4)	$\chi^2$ 乗検定 (1 集団)	(事前) 教科書 p101-106 で予習する (30分) (事後) 配布資料と教科書で復習する (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	$\chi^2$ 乗検定 (2 集団) と統計のまとめ	(事前) 教科書 p101-106, および授業資料と教科書で復習する (30分)

関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉ほか	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題および/または小テストで評価する。60%以上を合格とする。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階24
----------	---------

備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。
----	--------------------------

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1334a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。</li> <li>●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●到達目標：1年次の自分なりに、で構いません。自分は看護学部で何を学び、そして看護師になって何がやりたいのか、何を現実させたいのか。そのためにはこれから自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。</li> <li>●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、意見を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。</li> <li>●いろいろな角度からテーマを出しますので、「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイントで作成したスライドを使用し、講義します。</li> <li>●医療者には、「多様性理解」が求められます。講義を通して、新たな視点、考え方を知り、異なる意見を持つ他人を受容できる自分、を目指しましょう！</li> <li>●毎回の講義終了後に、課題レポート提出があります。必ず期限までに提出下さい。</li> <li>●課題は、moodleにて掲示します。その課題を記入し、moodleにて提出して頂きます。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</li> <li>●自分自身をしっかりと理解することで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・「キャリアデザイン」概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義概要</li> <li>・講師自身のキャリア形成と、モデリング</li> <li>・キャリアの考え方</li> <li>・社会の現状とキャリアデザインの重要性</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふう動いているのか、</li> <li>・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること</li> <li>・身近な社会人のキャリア選択を調べる。その「意思決定の理由」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
2	「看護師」という職業を考える！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。</li> <li>・看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる</li> <li>・新聞、ネットメディア、専門誌等 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
3	日本の医療制度を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が将来働く医療界の知識</li> <li>・国民皆保険制度のメリット、課題</li> <li>・高齢社会と国民医療費抑制、病院が抱える課題</li> </ul> 講義、全体議論 45分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が将来働く医療界の知識を得る</li> <li>・国民皆保険制度のメリット、課題を知り、看護師としてどのように社会と関わることができるのか、可能性を探る</li> <li>・国民への健康についての啓蒙活動は何ができるか</li> <li>「日本の医療費、医療制度、予防医療について」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
4	自分自身を知る①「職業人に求められる基礎力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」のうち、「20代で」身に付けたい基礎力に焦点を当てて解説。</li> <li>・自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。</li> </ul> 講義 30分、個人ワーク 15分、グループ討論 15分、レポート 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。</li> <li>・講師から具体的なアドバイスもしていきます。</li> <li>課題ワーク 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
5	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。</li> <li>・物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、についてディスカッション。</li> </ul> 講義 45分、個人ワーク 10分、グループ討論 15分 全体議論 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。</li> <li>・患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。</li> <li>・自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみます。</li> <li>「自己肯定感、自己効力とは何か」 事前 60分・事後 30分</li> </ul>
6	リーダーシップを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。</li> <li>・どうやったらそうなれるのか。皆で議論していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで自分が見てきたリーダーはどこかところが優れていたのか、まとめてみましょう。</li> <li>・リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。</li> </ul>

			講義、全体議論 40 分、グループ討論 20 分、レポート 20 分	「自分が今まで関わってきたリーダーが持っていたスキルとは・・・言葉で伝えられるようにまとめておく」事前 60 分・事後 30 分																
	7	医療人のプロフェッショナルリズム	・医師、看護師の使命とは何か？プロとは、どのような行動を取るのか？ ・プロとは何か？ ・プロが取る行動「プロフェッショナルリズム」について ・自分はどんなプロを目指すのか  講義、全体議論 30 分、個人ワーク 20 分、グループ討論 30 分	・医師、看護師の職業使命を知り、どのような行動が求められているのかを理解します。 ・プロ意識を持った職業人は、凡人とどこが違うのか。 ・自分はどんなプロ看護師になりたいのか、考える時間にして下さい。  「プロとは何か、を自分の言葉で言えるように考えてきて下さい」事前 60 分、事後 30 分																
	8	まとめ～「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	・「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。  講義、全体議論 30 分、グループ討論 50 分、	・看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。 ・ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。 ・自分の人生は自分で決められる。自己決定のクセをつけましょう。  課題ワーク事前 60 分・事後 30 分																
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	特記なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	なし																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬学生のためのキャリアデザインブック</td> <td>西鶴智香</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後のレポートもしくは講義中に使用するワークシートを提出すること、を必須要件とする。</li> <li>・提出物は、70%以上の記載を義務とする。</li> </ul> <p>※評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師に求められる書く力・・・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。(論理的思考)(記述スキル)(ボリューム)</li> <li>・その内容は、自分の意見を持ち、様々な視点から観察し検討した内容で記入できているか、を評価します。(課題発見力)(創造性)(俯瞰力)</li> <li>・また、講義を通じて知った情報から、どのような新たな視点</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、学生時代にだけできること。 この講義を通して、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいことは何か、等を考え整理していくことで、「看護師としての、自分のキャリアビジョン」というものを、ぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。</p> <p>自立したカッコイイ大人、を目指しましょう！</p>																			
担当者の 研究室等	非常勤講師 (株式会社キャリア・ポジション 代表取締役)																			
備考	講義、その他についての問い合わせは、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。 メールアドレス chika@career-position.com																			

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCA1335a1		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を習得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を習得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法及び留意点	【授業方法】 講義を中心とし、グループワーク、発表なども取り入れて行います。 【留意点】 ・第1回目に全体のオリエンテーションを行います。 ・本授業を通して、自身のキャリアを考える機会にすること。 ・課題の提出をもってこの科目の評価とするので、期限内に提出すること。 (課題提出にMoodleを使う回があります。Teamsにて指示しますので登録して下さい。) ・グループワークでは自ら意見を発言する機会を増やし、積極的な意見交換を行うこと。 ・注意) シラバスで示した授業内容は順序が入れ替わる場
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学で学ぶということ、教務ガイダンス	摂南大学について理解を深め、看護学部生としての自覚を高める。 ・摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、医療系学生としての倫理観について学ぶ	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく、履修申請要領を読んでおく 事後学習課題：自身の履修する科目、関心ある科目のシラバスを確認する。
2	学部アセスメント	・学部アセスメントを通して、大学4年間の自己の能力の出発点について確認する。	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：今日学んだことを、確認する
3	クラス活動	担任教員・クラスの仲間と交流し、担任との面談を行う。	事前学習課題：担任教員を確認し、疑問点をまとめておく。 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える。
4	学生生活ガイダンス、国試ガイダンス	・学生委員会から、学生生活を送るためのさまざまなサポートについて説明する。 ・国家試験について理解し、4年間の学修の中で、どのように国家試験の準備を進めるかについて考えをもつ。	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考える。
5	上級生との交流	上級生と少人数でトークタイムを持ち、学生生活についてアドバイスをもらう。	事前学習課題：上級生に聞いてみたいことを点数準備する。 事前学習課題：アドバイスを具体的に生かす方法を考える。
6	コロナ禍での医療現場における看護職の役割について	連携病院である星ヶ丘医療センターで実際に COVID-19 感染拡大に対応されている看護師の講義を聴講する。コロナ禍における医療現場での看護職の働きを知る	事前事後学習課題：COVID-19 感染症拡大に関連した、事前に提示する課題について調べること。 事後課題：指示した課題を行い、成果物を提出すること。
7	チームビルディング(1)薬学部生と合同授業	・チーム医療について講義を受ける。 ・チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題：チーム医療について調べてくる。 事後学習課題：授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。
8	チームビルディング(2)薬学部生と合同授業	チームビルディング(チーム作り)を通して、協働作業に取り組み、チーム医療について考える。	事前学習課題：チーム医療について調べてくる。 事後学習課題：授業を通じて他者と協働作業することの意義や方法について考える。チーム医療における看護師の役割について考える。 課題を提出する。
9	患者から学ぶ医療職への期待(1)薬学部生と合同授業	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏をゲストスピーカーに迎え、テーマについて学ぶ	事前学習課題：患者の人権について調べてくる。 事後学習課題：ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる
10	患者から学ぶ医療職への期待(2)薬学部生と合同授業	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏の講義からの学びをまとめる。	事前学習課題：患者の人権について調べてくる。 事後学習課題：ゲストスピーカーから学んだこと、考えたことをまとめる。課題を提出する。
11	チーム医療について(1)薬学部生と合同授業	いままでの合同授業を通してチーム医療について学んだ内容を薬学部生との混合グループで討議する。	事前学習課題：チーム医療について、疑問点や話し合いたい点を準備する。 事後学習課題：討議した内容の発表準備をする。
12	チーム医療について(2)薬学部生と合同授業	グループの発表内容をまとめ、発表する。	事前学習課題：発表での自分の役割を考え、協力して準備する。他者の発表にも関心をもち聞く準備をする。 事後学習課題：グループでの課題の最終プロダクト(成果物)を作成し、提出する。
13	私のキャリア I	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、	事前学習課題：日本看護協会の HP から「キラリ！看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリ



			卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める。	ストの動画を視聴する。 事後学習課題：さらに知りたいことを深めることをまとめる
	14	私のキャリアⅡ	保健師、助産師、看護専門看護師および認定看護師など看護のスペシャリスト、卒業生からの講義を受け、自身のキャリアについて考えを深める。	事前学習課題：日本看護協会のHPから「キラリ！看護師のシゴト」を検索し、関心のあるスペシャリストの動画を視聴する。 事後学習課題：さらに知りたいことを深めることをまとめる
	15	看護学生に必要な感染予防策について	看護学生に必要な感染予防策を、理解する。特に感染症の予防接種について取り扱う。自己の抗体価検査の結果の読みとり、感染予防に関する自己の計画を立てる。	事前事後学習課題：医療系学部生に必要な予防接種について調べる。 事後学習課題：自己の感染対策を実行する。
関連科目	キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	田中結華 研究室 9 鎌田佳奈美 研究室 17 亀田直子 研究室 23			
備考				

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香, 神谷 美紀子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NCA2336a1		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>医療の進歩に伴う医療技術の高度化や複雑化、在院日数の短縮化と在宅療養へ移行する患者の増大、そして患者のニーズの多様化などを背景に看護職者の役割の期待は高まっている。同時に医療事故が社会問題化し、医療技術の最終提供者となることの多い看護職者がこれに関与することもある。質の高い看護実践は安全な医療のもとに成り立つ。本科目では、我が国における医療安全の現状を概観し、医療事故防止に関する基本的な知識を身につける。また、看護職者としての責務と役割、およびリスクの予知と回避について学習するとともに</p>
到達目標	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全の意味と重要性について理解できる。</li> <li>2. 事故発生のメカニズム、ヒューマン・エラーについて理解できる。</li> <li>3. 医療事故の動向と医療安全への取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 医療・看護場面での危険予知と対策について説明できる。</li> <li>5. 医療・看護場面でのリスクと事故防止について説明できる。</li> <li>6. エラーの要因と分析方法について説明できる。</li> <li>7. 演習を通して、自己を知り、また互いの違いを理解、尊重し、チームによる医療事故防止について説明できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>[授業方法と留意点]</p> <p>下記の授業計画に沿って進める。講義では、医療安全に関する基本的知識の教授を基本としながら、実際に起きた事例を引用し、また視覚教材の活用を通して学習内容のイメージ化を促進する。またグループワークを組み合わせることで、知識の定着を図り、主体的に学習に臨めるように授業を展開する。同時に、チームでの事故防止について知見を深め、互いの立場や役割を理解、尊重する姿勢を身に付ける。課題のフィードバックは必要に応じて授業の中、もしくはポータル等を用いて行う。定期試験に関するフィードバックは再試</p>
科目学習の効果 (資格)	本科目の内容は看護師国家試験の出題範囲に含まれます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1回 医療安全・患者安全の意味と重要性 ・医療安全を学ぶ意味 ・医療安全の対象 ・医療安全に関する基礎知識	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	2	2回 医療事故の動向と医療安全への取り組み ・医療事故の動向 ・国と職能団体の取り組み ・医療事故の報告制度	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	3	3~4回 医療・看護場面での危険予知と対策 1) ・KYT トレーニング	課題検討	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	4	5回 医療・看護場面での危険予知と対策 2) ・KYT トレーニング	発表・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	5	6回 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーの発生 ・ヒューマンエラーとは ・エラーを発生しやすい環境	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	6	7回 医療・看護場面でのリスクと事故防止 ・看護業務と事故発生要因 ・インシデント・アクシデント	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	7	8~9回 エラーの要因検討と対策 1) ・RCA 分析	課題検討	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	8	10回 エラーの要因検討と対策 2) ・RCA 分析	発表・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	9	11~14回 チームによる医療事故防止 1) 自己の探求	グループワーク	【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	10	第15回 チームによる医療事故防止 2) 事例検討	グループワーク・事例検討	【事前学習】講義の内容を復習し、事例に関する自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	11			
	12			
13				

	14			
	15			
関連科目	看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第4版	松下 由美子	メディカ出版
	2	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド：医療安全学習にそのまま使える これだけは知っておきたい	相馬 孝博	メディカ出版
	3			
評価方法 (基準)	本科目では2/3以上の出席を成績評価の対象とする。定期試験(50%)、およびその他(50%)；課題、グループワークでの取り組み状況)から評価する。			
学生への メッセージ	本科目は今後の実習や実践において医療者に必要な安全に関する基本的な学習内容です。スケジュールは変則ですので、配布する資料やポータルサイトの連絡に注意してください。			
担当者の 研究室等	森谷：7号館3階(研究室29) 神谷：7号館3階(研究室2)			
備考				

科目名	患者コミュニケーション	科目名 (英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子, 青野 美里, 今井 秀人, 岩崎 綾乃, 田中 雅幸, 村瀬 由貴, 安田 香, 山本 智津子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NCA2337a1		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得する。将来、医療現場で働くものとして、患者・家族、医療者によりよい関係を築くためのコミュニケーション技法について学ぶ。また、医療者として患者が求めているケアを提供するには、患者が何を望んでいるのか、どう考えているのかを正確に理解する必要がある。よって、医療を受ける患者の理解（特に心理のプロセス）についても学習する。 本科目は病院での勤務経験がある教員が、経験を踏まえてコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。</li> <li>医療を受ける患者を理解し（特に心理プロセス）、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。</li> <li>患者・医療者のコミュニケーション（会話）に必要な技法について述べるができる。</li> <li>上記の技法について模擬的な場面を設定し、体験的に学習し、発表、リフレクションができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義と小グループでのディスカッション (SGD) を通して学ぶ。
科目学習の効果 (資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション、医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性	合同講義を行う。 授業オリエンテーション、医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴、コミュニケーショントレーニングの必要性について解説する。	事前課題：テキスト付録のDVDを視聴し、指定箇所を読んでくる。(2時間) 事後課題：個人ワークシート記録(1時間)
2	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成(1時間)
3	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成(1時間)
4	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者・医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成(1時間)
5	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出(1時間)
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材：テキスト、配布物	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録(1時間)
7	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレイを行い、患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成(1時間)
8	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレイを行い、患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間) 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成(1時間)
9	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(3)	ワーク：①心理プロセスを理解する事例を検討し、②グループごとにロールプレ	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認(1時間)

		クラス別 SGD	イを行い、患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成（1時間）
	10	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認（1時間） 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出（1時間）
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと（1時間） 事後課題：個人ワークシート記録（1時間）
	12	ワーク3：患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（1） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認（1時間） 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成（1時間）
	13	ワーク3：患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（2） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認（1時間） 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成（1時間）
	14	ワーク3：患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（3） クラス別 SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認（1時間） 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成（1時間）
	15	ワーク3：患者・医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ（4） クラス別 SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認（1時間） 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出（1時間）
関連科目	看護対人関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル[DVD付]—悪い知らせをどう伝えるか	内富 庸介 藤森 麻衣子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	個人ワーク、各回レポート課題、最終レポートの内容及び提出状況 100点満点中60点以上で合格。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。			
学生へのメッセージ	将来、医療に携わる者として、患者・医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。 課題提出は必ず期限を守ってください。			
担当者の研究室等	眞野：7号館3階（看護学部研究室19） 山本智：7号館3階（看護学部研究室18） 村瀬：7号館3階（看護学部研究室4） 今井：7号館3階（看護学部共同研究室3） 青野：7号館3階（看護学研共同研究室2） 安田：7号館3階（看護学部共同研究室1） 岩崎：1号館4階（岩崎講師室） 田中雅幸：1号館1階（田中准教授室）			
備考	課題（グループ発表資料等）については完成後に発表し、全学生が互いにフィードバックしあい、教員が総括する。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

授業概要・目的  
生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。  
SDGs-3, 4, 5

到達目標  
①健康の維持・増進をはかる  
②運動技能を向上させることができる  
③マナーやルールを理解することができる  
④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

授業方法と留意点  
摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を使い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。

科目学習の効果 (資格)  
基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。  
「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識の収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
3	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
4	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義 (講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前：一般人における運動の必要性について調べる。 事後：授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。 (事前事後学習時間 30 分)
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	総括	後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ (事後学習時間 30 分)

関連科目  
人体の構造と機能 I、II、III、IV

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。          なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。          遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30%          なお活動点とは授業への参加意欲とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。          授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。</p>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

**授業概要・目的**  
生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。  
SDGs-3, 4, 5

**到達目標**  
①健康の維持・増進をはかる  
②運動技能を向上させることができる  
③マナーやルールを理解することができる  
④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

**授業方法と留意点**  
摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を使い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。

**科目学習の効果 (資格)**  
基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。  
「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識の収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
3	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
4	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義 (講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前：一般人における運動の必要性について調べる。 事後：授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。 (事前事後学習時間 30 分)
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	総括	後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ (事後学習時間 30 分)

**関連科目** 人体の構造と機能 I、II、III、IV

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。          なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。          遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30%          なお活動点とは授業への参加意欲とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。          授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。</p>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	NPH1342a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツは健康づくりにおいて欠かせない要素である。本科目では、スポーツ科学Ⅰで学修した技術や知識をさらに深め、生涯スポーツへ継続できる能力育成を目的とする。さらに運動療法を安全かつ効果的に進めることの重要性、疾病予防・介護予防における運動・スポーツの役割やメカニズムについて疫学・基礎・実践研究の観点から学修する。 健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teamsを用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、問題解決力 態度：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観 創造的思考力：課題解決能力を修得できる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める (事後学習時間 30分)
2	チームビルディング	チームビルディング 自分自身の体力を維持・向上させるために必要なスポーツ (次週から開始する「スポーツ①」) に関するディスカッション	事前：運動・スポーツの役割および重要性について理解する 事後：スポーツ①の背景、ルールを調べる (事前事後学習時間 30分)
3	スポーツ①	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ①の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
4	スポーツ①	スポーツ①をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
5	スポーツ①	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ①をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
6	スポーツ①のまとめ	スポーツ①の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ② (体脂肪量減少を目的としたスポーツ) の計画	事前：スポーツ①実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①実践内容をスポーツ②に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
7	スポーツ②	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ②の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
8	スポーツ②	スポーツ②をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
9	スポーツ②	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ②をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
10	スポーツ②のまとめ	スポーツ②の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ③ ((1) 高齢者の体力および認知機能低下遅延 or (2) リラクゼーションを目的としたスポーツ) の計画。	事前：スポーツ②実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①②実践内容をスポーツ③に活かす工夫を考える。 (事前事後学習時間 30分)
11	スポーツ③	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ③の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習 (事前事後学習時間 30分)
12	スポーツ③	スポーツ③をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る (事前事後学習時間 30分)
13	スポーツ③のまとめ	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ③をロールプレイ形式で実施	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ

				(事前事後学習時間 30分)
	14	スポーツ③のまとめ	スポーツ③の成果について、グループワークで振り返る	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ (事前事後学習時間 30分)
	15	スポーツ④ 総まとめ	ニュースポーツ体験と総まとめ	事前：スポーツ④の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ④の内容、本授業全般についてまとめ (事前事後学習時間 30分)
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。          なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。          遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30%          なお活動点とは授業への参加意欲とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。          授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。</p>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 長沢 美和子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NKY1349a1		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>
到達目標	<p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。          ② ABDによる読書法を身につけている。          ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。          ④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。          ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。          ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解すること</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて、アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。本授業は原則として、対面授業として行われるが、新型コロナウイルス感染状況により、遠隔授業となる可能性も</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月10日 (9:20~11:00)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部)  枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月10日 (11:10~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月10日 (13:20~16:30)	チームビルディングの研修プログラム	※リーディングスキルテストに関するお知らせ 授業方法と留意点に明記 (初回と最終回: 各60分実施)
4	大学教養入門: 「第1章 哲学」-① 4月17日	教養を極める読書術 「第1章 哲学」-① p 42 ~ p 69 : 西洋哲学など 「西洋哲学」について読み、理解して要約、発表する。 (論理的思考と表現)	事前: 「第1章 哲学」-①の重要な箇所の書き出し。 ②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
5	大学教養入門: 「第1章 哲学」-① 4月17日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出  第4回の発表の基礎に、質問力、まとめ力を養う。	事後: 「第1章 哲学」-①のサマリーシート及び事後学習シートに240~250文字で要約する。
6	大学教養入門: 「第1章 哲学」-② 4月24日	教養を極める読書術 「第1章 哲学」-② p 70 ~ p 97 西洋哲学など  「東洋哲学」について読み、理解して要約、発表する。 (論理的思考と表現)	事前: 「第1章 哲学」-重要な箇所の書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
7	大学教養入門: 「第1章 哲学」-② 4月24日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出  第6回の発表の基礎に、質問力、まとめ力を養う。	事後: 「第1章 哲学」-②のサマリーシート及び事後学習シートに240~250文字で要約する。
8	大学教養入門: 「第3章 歴史」-① 5月1日	教養を極める読書術 「第3章 歴史」-① p 156 ~ p 178 ヨーロッパなど	事前: 「第3章 歴史」-重要な箇所の書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
9	大学教養入門: 「第3章 歴史」-① 5月1日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後: 「第3章 歴史」-①のサマリーシート及び事後学習シートに240~250文字で要約する。
10	大学教養入門: 「第3章 歴史」-② 6月19日	教養を極める読書術 「第3章 歴史」-② p 178 ~ p 196 中国など	事前: 「第3章 歴史」-重要な箇所の書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
11	大学教養入門: 「第3章 歴史」-② 6月19日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後: 「第3章 歴史」-②サマリーシート及び事後学習シートに240~250文字で要約する。

	6月19日			
	12	大学教養入門：「第2章 宗教」 6月26日	教養を極める読書術 「第2章 宗教」 p114～p154	事前：「第2章 宗教」の重要な箇所の書き出し。 ②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
	13	大学教養入門：「第2章 宗教」 6月26日	QFTの説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「第2章 宗教」のサマリーシート及び事後学習シートに240～250文字で要約する。
	14	大学教養入門 SDGs（持続可能な開発目標） SDGsのゲームの実践 7月3日	SDGs（持続可能な開発目標） SDGsのゲームの実践、ふりかえりシートの作成 （3人で1チーム）	事前：SDG及び国際連合「The United Nations Academic Impact」の重要な箇所の書き出し。②不明な語句などを調べる。①と②を記入して、シートを作成する。
	15	大学教養入門 国際連合「The United Nations Academic Impact」 について  ※リーディングスキルテスト（事後：2回目） 7月3日	国際連合「The United Nations Academic Impact」について  ABD法、プレゼン、ふりかえりシートの作成と提出、理解度確認テストの実施（moodle）	事後：「SDGs及びAcademic Impact」のサマリーシート及び事後学習シートに240～250文字で要約する。
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教養を極める読書術－哲学・宗教・歴史・人物伝をこう読む－	麻生川静男著	ビジネス社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	リーディングスキルテスト(10%)、事前学習シート(10%)、事後学習シート(10%)、ふりかえりシート(20%)、理解度確認テスト(個人10%)、期末テスト(40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。			
学生への メッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。			
担当者の 研究室等	喜多 大三（農学部8号館2F） 松田 千登勢（看護学部7号館 研究室6） 大塚 正人（薬学部1号館5F） 長沢 美和子（看護学部7号館 共同研究室2） 藤林 真美（農学部8号館3F） 加藤 裕介（農学部8号館3F） 戴 容泰思（農学部8号館2F） 藤井 毅（農学部8号館2F）			
備考				

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 山居 輝美, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。 基礎看護技術 I では全ての看護技術の基礎となる知識および技術を学修する。 科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。 自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。 科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院等で看護師としての実務経験を持ち、それらの経験も活用しながら日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。 対象者のニーズを捉えながら衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助を実践する。 対象者の生命徴候を捉え、体内で起こっている反応について観察する。 自らが考え実践した援助を振り返り、よりよい援助を考える。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・ICT ツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室や自宅にて看護実践能力を養う。 ・授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 ・演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。クラスは 2 つに分け、教員は少人数グループを担当し、個別に実践しながら指導を行う。また、看護師及び患者役の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を主体的に行い、クラス全体での学びを深める。 【留意点】 ・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 ・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 ・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。
科目学習の効果 (資格)	・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 ・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 ・看護師国家試験受験資格にかかわる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは	【講義】 看護技術の基本的な考えについて概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	2	感染予防の看護技術 環境を整える看護技術 (1)	【講義】 看護師の基本的態度・感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する根本的な考えを学ぶ 環境整備に必要な根拠を理解し、安全で安楽な生活環境について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	3	環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	4	環境を整える看護技術 (3)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	5	環境を整える看護技術 (4)	【演習】 臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。



				を行う (1 時間)。
15	生命徴候の観察(2)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
16	生命徴候の観察(3)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
17	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(1)	【講義】 衣生活の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
18	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(2)	【演習】 臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
19	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(1)	【講義】 身体の清潔に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
20	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(2)	【演習】 清潔援助：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
21	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(3)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
22	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(4)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
23	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(5)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	



				を行う (1時間)。
	24	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(6)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の全身清拭を 実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	25	日常生活におけるニーズ・食事の援助(1)	【講義】 食事の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	26	日常生活におけるニーズ・食事の援助(2)	【演習】 食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	27	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(1)	【講義】 排泄の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	28	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(2)	【演習】 便尿器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	29	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(3)	【演習】 便尿器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
	30	学びのまとめ	【演習】 学びの整理と総合技術トレーニングを実 践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。
関連科目	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10%			

	筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室3（山居）、研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 山居 輝美, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。 基礎看護技術 I では全ての看護技術の基礎となる知識および技術を学修する。 科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。 自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。 科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院等で看護師としての実務経験を持ち、それらの経験も活用しながら日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。 対象者のニーズを捉えながら衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助を実践する。 対象者の生命徴候を捉え、体内で起こっている反応について観察する。 自らが考え実践した援助を振り返り、よりよい援助を考える。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・ICT ツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室や自宅にて看護実践能力を養う。 ・授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 ・演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。クラスは 2 つに分け、教員は少人数グループを担当し、個別に実践しながら指導を行う。また、看護師及び患者役の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を主体的に行い、クラス全体での学びを深める。 【留意点】 ・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 ・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 ・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。
科目学習の効果 (資格)	・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 ・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 ・看護師国家試験受験資格にかかわる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは	【講義】 看護技術の基本的な考えについて概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	2	感染予防の看護技術 環境を整える看護技術 (1)	【講義】 看護師の基本的態度・感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する根本的な考えを学ぶ 環境整備に必要な根拠を理解し、安全で安楽な生活環境について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	3	環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	4	環境を整える看護技術 (3)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	5	環境を整える看護技術 (4)	【演習】 臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。



				を行う (1 時間)。
15	生命徴候の観察(2)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
16	生命徴候の観察(3)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
17	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(1)	【講義】 衣生活の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
18	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(2)	【演習】 臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
19	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(1)	【講義】 身体の清潔に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
20	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(2)	【演習】 清潔援助：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
21	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(3)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
22	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(4)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
23	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(5)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	

				を行う (1時間)。
	24	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(6)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の全身清拭を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	25	日常生活におけるニーズ・食事の援助(1)	【講義】 食事の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	26	日常生活におけるニーズ・食事の援助(2)	【演習】 食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	27	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(1)	【講義】 排泄の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	28	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(2)	【演習】 便器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	29	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(3)	【演習】 便器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	30	学びのまとめ	【演習】 学びの整理と総合技術トレーニングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
関連科目	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10%			

	筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室3（山居）、研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 山居 輝美, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。 基礎看護技術 I では全ての看護技術の基礎となる知識および技術を学修する。 科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。 自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。 科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院等で看護師としての実務経験を持ち、それらの経験も活用しながら日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。 対象者のニーズを捉えながら衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助を実践する。 対象者の生命徴候を捉え、体内で起こっている反応について観察する。 自らが考え実践した援助を振り返り、よりよい援助を考える。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・ICT ツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室や自宅にて看護実践能力を養う。 ・授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 ・演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。クラスは 2 つに分け、教員は少人数グループを担当し、個別に実践しながら指導を行う。また、看護師及び患者役の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を主体的に行い、クラス全体での学びを深める。 【留意点】 ・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 ・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 ・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。
科目学習の効果 (資格)	・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 ・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 ・看護師国家試験受験資格にかかわる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは	【講義】 看護技術の基本的な考えについて概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	2	感染予防の看護技術 環境を整える看護技術 (1)	【講義】 看護師の基本的態度・感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する根本的な考えを学ぶ 環境整備に必要な根拠を理解し、安全で安楽な生活環境について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	3	環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	4	環境を整える看護技術 (3)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	5	環境を整える看護技術 (4)	【演習】 臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。





				を行う (1 時間)。
15	生命徴候の観察(2)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
16	生命徴候の観察(3)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
17	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(1)	【講義】 衣生活の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
18	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(2)	【演習】 臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
19	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(1)	【講義】 身体の清潔に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
20	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(2)	【演習】 清潔援助：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
21	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(3)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
22	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(4)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
23	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(5)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	

				を行う (1時間)。																
	24	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(6)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の全身清拭を 実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル 日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	25	日常生活におけるニーズ・食事の援助(1)	【講義】 食事の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	26	日常生活におけるニーズ・食事の援助(2)	【演習】 食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	27	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(1)	【講義】 排泄の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	28	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(2)	【演習】 便尿器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	29	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(3)	【演習】 便尿器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
	30	学びのまとめ	【演習】 学びの整理と総合技術トレーニングを実 践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日 本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示 す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作 成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技 術課題について学生同士で実践及びディスカッション を行う(1時間)。																
関連科目	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ</td> <td>深井喜代子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ</td> <td>深井喜代子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社																	
2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10%																			

	筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生へのメッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室3（山居）、研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 山居 輝美, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。 基礎看護技術 I では全ての看護技術の基礎となる知識および技術を学修する。 科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。 自ら考え、学生が主導となって学修をすすめていく力を培うことを目指す。 科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院等で看護師としての実務経験を持ち、それらの経験も活用しながら日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方を学び、療養環境を整え、活動休息を助ける看護技術を修得する。 対象者のニーズを捉えながら衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助を実践する。 対象者の生命徴候を捉え、体内で起こっている反応について観察する。 自らが考え実践した援助を振り返り、よりよい援助を考える。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・ICT ツールを活用し、社会状況に応じて対面授業・オンライン授業を行う。講義では日常生活を整える援助の根拠を学び、演習では対象者に関わりながら実習室や自宅にて看護実践能力を養う。 ・授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するための資料を適宜配布する。看護実践能力を育成するための動画など視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 ・演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、臨床場面を模した形での援助場面を実践する。クラスは 2 つに分け、教員は少人数グループを担当し、個別に実践しながら指導を行う。また、看護師及び患者役の体験から援助技術に関するグループワークやディスカッション、発表等を主体的に行い、クラス全体での学びを深める。 【留意点】 ・演習のための準備は、指定された時間までに行い、片付けなどについては別途指示する。 ・演習で使用する物品は大切に扱い、片付けや整理整頓をする。 ・分からないことについては、自己判断せず教員に相談する。
科目学習の効果 (資格)	・基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目 ・基礎看護技術 II の履修にかかわる科目 ・看護師国家試験受験資格にかかわる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コースオリエンテーション 看護技術とは	【講義】 看護技術の基本的な考えについて概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	2	感染予防の看護技術 環境を整える看護技術 (1)	【講義】 看護師の基本的態度・感染予防 (スタンダードプリコーション) に関する根本的な考えを学ぶ 環境整備に必要な根拠を理解し、安全で安楽な生活環境について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	3	環境を整える看護技術 (2)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	4	環境を整える看護技術 (3)	【演習】 ベッドメイキングを実践する 環境整備を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
	5	環境を整える看護技術 (4)	【演習】 臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。

				を行う (1 時間)。
6	環境を整える看護技術 (5)	【演習】 臥床患者のシーツ交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
7	活動・休息を助ける看護技術	【講義】 活動・休息の援助に関する根本的な考えを理解する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
8	活動と休息を助ける看護技術・体位の整え (1)	【講義】 ボディメカニクス・安楽な体位の整え・姿勢保持について学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
9	活動と休息を助ける看護技術・体位の整え (2)	【演習】 ボディメカニクス (自分の体の使い方も含む)・臥床患者の体位の整え・姿勢保持を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
10	活動と休息を助ける看護技術・体位の整え (3)	【演習】 ボディメカニクス (自分の体の使い方も含む)・臥床患者の体位の整え・姿勢保持を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
11	活動と休息を助ける看護技術・移動・移送の援助 (1)	【講義】 移動・移送に関する基本を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
12	活動と休息を助ける看護技術・移動・移送の援助 (2)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
13	活動と休息を助ける看護技術・移動・移送の援助 (3)	【演習】 車いす・ストレッチャーでの移動・移送を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
14	生命徴候の観察 (1)	【講義】 生命維持の基本となる徴候を観察するための根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること (1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること (1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	

				を行う (1 時間)。
15	生命徴候の観察(2)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
16	生命徴候の観察(3)	【演習】 バイタルサインの観察を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
17	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(1)	【講義】 衣生活の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
18	日常生活におけるニーズ・衣生活の援助(2)	【演習】 臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
19	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(1)	【講義】 身体の清潔に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
20	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(2)	【演習】 清潔援助：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
21	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(3)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
22	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(4)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	
23	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(5)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の手浴・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。	

				を行う (1時間)。
	24	日常生活におけるニーズ・身体の清潔(6)	【演習】 身体の清潔の援助：臥床患者の全身清拭を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	25	日常生活におけるニーズ・食事の援助(1)	【講義】 食事の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	26	日常生活におけるニーズ・食事の援助(2)	【演習】 食事の援助を行う	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	27	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(1)	【講義】 排泄の援助に関する根本的な考えを学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	28	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(2)	【演習】 便器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	29	日常生活におけるニーズ・排泄の援助(3)	【演習】 便器・おむつによる排泄を援助する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
	30	学びのまとめ	【演習】 学びの整理と総合技術トレーニングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。
関連科目	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ	深井喜代子	メジカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10%			



	筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室3（山居）、研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神谷 美紀子・今井 秀人・北村 敦子・佐久間 夕美子・舟木 友美・山居 輝美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学びます。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得します。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、吸引、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得します。 科目責任者は、看護師・助産師として約20年の臨床経験があり、専従の医療安全管理者として4年間医療安全業務に携わっていました。  SDGs-3, 5, 17
---------	--

到達目標	診療に伴う看護技術について、その意義を理解し、手技1つ1つの根拠及び注意点を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面、安全安楽について述べるができる。
------	---

授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習します。 理解を深めるため、適宜資料を配布し説明します。必ず事前・事後学習を行い学びを深めてください。 援助場面をイメージできるように、動画や写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用します。技術の知識と実践のイメージを高めてください。 演習では、教員のデモンストレーションの実際または動画を視聴し、その後少人数制のグループに分かれ技術演習を行います。グループ毎に教員が指導に付き、安全安楽に配慮した正しい技術について個別指導を行います。学生は看護師、患者の双方の立場から看護技術について考察し、患者の安全、安楽、倫理的配慮について学びを深めます。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループ検討後、実践方法を発表し、クラス全体で看護援助についての学びを深めます。
----------	---

科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護技術とはどのようなものかを理解します。関連法規を把握し理解を深めます。	【事前課題】 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の薬物療法の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技について視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	【事前課題】 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
7	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の検査時の看護師の役割の項を読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
8	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の輸液療法の項を読み、出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
9	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮	【事前課題】	

		下注射を実施する。 対面授業（演習）。	演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】（1時間） 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
10	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】（1時間） 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
11	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
12	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
13	技術トレーニング①/ 実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 注射器と注射針の無菌的接続または薬物の吸い上げの手技を振り返ります。（1時間） 【事後課題】 配布資料及び教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。（1時間）
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
15	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
18	栄養障害の看護（栄養）	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読み出席してください。（30分） 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。（1時間）
19	体温維持の看護および 温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の電法の項を読み出席してください。（30分） 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。（1時間）
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン洗腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読み出席してください。（1時間） 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。（1時間）
21	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。（1時間）
22	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。（1時間） 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施

				における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
23	技術トレーニング2/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】皮下注射、筋肉内注射の手技を振り返ります。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)	
24	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
25	無菌操作(2)・創傷処置	滅菌物の取り扱い等を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)	
26	吸引・呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】教科書の酸素療法の項を読んだ上で出席すること。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
27	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ポンペの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
28	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ポンペの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
29	統合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)	
30	統合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)	
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	2	「新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎看護技術Ⅰ 第18版」	茂野香おる	医学書院
	2	「基礎看護技術Ⅱ 第18版」	任和子	医学書院
	3			
評価方法(基準)	筆記試験、実技試験及びレポートと授業参加度や授業態度により評価をします。 筆記試験(50%)、技術到達度チェック(10%)、課題レポートの提出状況と内容(20%)、統合トレーニング(10%)、授業態度(10%)。 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則的にすべての授業及び演習に出席していることとします。 尚、遠隔授業に切り替えざるを得ない場合は、評価方法を変更することがあります。			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術などが多く、患者への安全・安楽な技術を目指します。安全に技術を実施していくために、気を引き締め、事前事後学習を行い、学びを深めましょう。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2(神谷)、研究室1(佐久間)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村、舟木)、共同研究室3(今井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神谷 美紀子・今井 秀人・北村 敦子・佐久間 夕美子・舟木 友美・山居 輝美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学びます。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得します。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、吸引、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得します。 科目責任者は、看護師・助産師として約20年の臨床経験があり、専従の医療安全管理者として4年間医療安全業務に携わっていました。  SDGs-3, 5, 17
到達目標	診療に伴う看護技術について、その意義を理解し、手技1つ1つの根拠及び注意点を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面、安全安楽について述べるができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習します。 理解を深めるため、適宜資料を配布し説明します。必ず事前・事後学習を行い学びを深めてください。 援助場面をイメージできるように、動画や写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用します。技術の知識と実践のイメージを高めてください。 演習では、教員のデモンストレーションの実際または動画を視聴し、その後少人数制のグループに分かれ技術演習を行います。グループ毎に教員が指導に付き、安全安楽に配慮した正しい技術について個別指導を行います。学生は看護師、患者の双方の立場から看護技術について考察し、患者の安全、安楽、倫理的配慮について学びを深めます。 総合トレーニングでは、事例患者への援助方法をグループ検討後、実践方法を発表し、クラス全体で看護援助についての学びを深めます。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護技術とはどのようなものかを理解します。関連法規を把握し理解を深めます。	<b>【事前課題】</b> 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	<b>【事前課題】</b> 教科書の薬物療法の項を読み出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	<b>【事前課題】</b> 教科書の該当部分を読み出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)	
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。 対面授業(演習)。	<b>【事前課題】</b> 演習動画、ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技について視聴/読み、出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	<b>【事前課題】</b> 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。 対面授業(演習)。	<b>【事前課題】</b> 演習動画、演習動画、ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
7	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	<b>【事前課題】</b> 教科書の検査時の看護師の役割の項を読み、出席してください。(1時間) <b>【事後課題】</b> 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
8	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	<b>【事前課題】</b> 教科書の輸液療法の項を読み、出席してください。(30分) <b>【事後課題】</b> 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
9	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮	<b>【事前課題】</b>	

		下注射を実施する。 対面授業（演習）。	演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】(1時間) 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
10	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】(1時間) 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
11	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
12	筋肉内注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉内注射を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の筋肉内注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
13	技術トレーニング①/ 実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 注射器と注射針の無菌的接続または薬物の吸い上げの手技を振り返ります。(1時間) 【事後課題】 配布資料及び教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
15	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。 対面授業（演習）。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
18	栄養障害の看護（栄養）	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
19	体温維持の看護および 温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の電法の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン洗腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
21	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
22	導尿	膀胱留置バルカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 演習動画、ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施

				における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
23	技術トレーニング2/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】皮下注射、筋肉内注射の手技を振り返ります。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)	
24	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
25	無菌操作(2)・創傷処置	滅菌物の取り扱い等を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱い、創傷管理の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)	
26	吸引・呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】教科書の酸素療法の項を読んだ上で出席すること。(30分) 【事後課題】配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)	
27	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ポンペの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
28	吸引・酸素療法	吸引器・酸素ポンペの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】演習動画、ナーシングスキルや教科書の口鼻腔吸引・酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)	
29	統合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対するの援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)	
30	統合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対するの援助をグループで検討し実践発表を行う。	【事前課題】演習前に学習内容を別紙で配布しますので熟読してください。グループメンバーで分担し課題レポートの作成およびグループでの看護実践のプレゼン準備を行ってください。(1時間) 【事後課題】他グループの発表をとディスカッションにより、クラス全体で学びを深めます。(1時間)	
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	2	「新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎看護技術Ⅰ 第18版」	茂野香おる	医学書院
	2	「基礎看護技術Ⅱ 第18版」	任和子	医学書院
	3			
評価方法(基準)	筆記試験、実技試験及びレポートと授業参加度や授業態度により評価をします。 筆記試験(50%)、技術到達度チェック(10%)、課題レポートの提出状況と内容(20%)、統合トレーニング(10%)、授業態度(10%)。 筆記試験、実技試験の受験資格は、原則的にすべての授業及び演習に出席していることとします。 尚、遠隔授業に切り替えざるを得ない場合は、評価方法を変更することがあります。			
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術などが多く、患者への安全・安楽な技術を目指します。安全に技術を実施していくために、気を引き締め、事前事後学習を行い、学びを深めましょう。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室2(神谷)、研究室1(佐久間)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村、舟木)、共同研究室3(今井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。			

科目名	地域実習	科目名(英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 谷口 雄一, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1◎E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。従来から感染防止に注意の上で対面授業を行っています。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月14日(水)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 今年度、この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 <b>【前期】</b> 開講時間はいずれも6時間目です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。開講日は調整の関係で変更されることがあります。 第1回4月14日(水)「ガイダンス(授業概要の説明)」 第2回4月28日(水)「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回5月12日(水)「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回5月19日(水)「寝屋川市まちあるき(学外)」 第5回5月26日(水)「社会教育とは(1)」 第6回6月2日(水)「社会教育とは(2)」 第7回6月9日(水)「まちあるき報告会」 第8回6月3日~6月22日までのいずれかの日「実習先挨拶(学外)」 第9回7月7日(水)「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回「実習(学外)(夏季休暇中の5日間)」 ※実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。状況により実習できない場合もあることをお含みおきください。 <b>【後期】</b> 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせいたします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう!																
担当者の研究室等	朝田研究室 1号館7階 谷口研究室 11号館11階(後期は7号館4階) 吉田研究室 11号館11階(後期は7号館3階)																
備考																	



科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎R科:A◎A科:A◎M科:A1○E科:B△C科:II◎L科:DP2◎D科:DP1◎S科:DP1◎J科:DP1◎W科:DP1◎,DP7◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1, L科:LT01366a1~LT01370a1, D科・S科:IT01371a1~IT01375a1, P科:YT01423a2~YT01427a2, J科:JT01374a~JT01378a1, W科:WT01352a1~WT01356a1, N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。</li> <li>英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。</li> </ul> <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。</li> <li>年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。</li> </ul>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。( )内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬)</li> <li>事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月)</li> <li>現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上中旬(2月中下旬~3月下旬)</li> <li>事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬)</li> </ul> <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまるとはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																		
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的關係を形成できる。</li> <li>2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。</li> <li>3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。</li> <li>4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。</li> <li>5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。</li> <li>6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として1グループ5～6人編成とする。</li> <li>2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。</li> <li>5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。</li> <li>6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。</li> <li>7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。</li> <li>8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。</li> </ol> <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院、市立ひらかた病院</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：手術を受ける患者を受け持ち、看護過程に沿った看護計画・実践・評価を行う。</p> <p>実習方法や実習内容：具体的な内容は、成人看護学実習 I のオリエンテーションで説明する。</p> <p>事前・事後学習課題：実習前のオリエンテーションや実習中に担当教員より説明する。</p>																		
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、成人看護学援助論 I・III																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて適宜紹介する																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習期間出席した上で、実習内容 (実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変わるので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を發揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																		
担当者の研究室等備考	竹下 (研究室 30)																		

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b>  臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。  本科目は担当教員の実務経験に基づき実践的教育を行う。</p> <p><b>【目的】</b>  慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向け対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。</li> <li>自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>原則として臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>実習期間・病棟実習時間  期間...3週間  病棟実習時間...原則として9時～16時(うち1時間を休憩とする)</li> <li>実習施設  独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター  関西電力病院  住友病院</li> <li>その他  課題に対するフィードバックは実習中の面談、および実習終了後に行います。</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本科目では臨地実習での看護実践を通して慢性疾患看護の基礎的能力を培う。具体的な方法は実習要綱を参照し、実習オリエンテーションで説明する。事前学習はオリエンテーション等で説明する。</p>																
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ、成人病態看護論、疾病・治療Ⅰ～Ⅳ等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																
担当者の研究室等	研究室29 森谷																
備考																	

科目名	小児看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田、池田、亀田、中山は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的に現実的な内容を教授する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。</li> <li>2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。</li> <li>4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。</li> <li>5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ4～5人編成とし、小児病棟や保育所、学内等において2週間の実習を行う。</li> <li>2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。</li> <li>3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。</li> <li>4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。</li> <li>5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。</li> <li>6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。</li> </ol> <p><b>【留意点】</b> 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。</li> </ol> <p><b>【実習計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。</li> <li>2) 病院実習 受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。</li> </ol> <p><b>【事後の計画】</b> 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確する。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する。																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田共同研究室5、中山共同研究室3																
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、保育所																

科目名	母性看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	井田 歩美, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 但馬 まり子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。</li> <li>2. 周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。</li> <li>3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。</li> <li>4. 母性看護における自己の看護観を育むことができる。</li> <li>5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。</li> <li>5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。</li> <li>6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。</li> <li>7. 日々、学生主体のカンファレンス(一日の振り返り、疑問点等の意見交換)を行い、学びを共有する。</li> <li>8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。</li> <li>9. 最終週の水曜日前後には臨床側(病棟師長、指導者)に参加してもらい反省会を行う。</li> <li>10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。</li> </ol> <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をする。また、新生児は抵抗力がないため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論</td> <td>森恵美他著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院	2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学概論	森恵美他著	医学書院														
2	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論	森恵美他著	医学書院														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol.10 産科</td> <td>井上裕美他監修</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R 著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他著</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R 著	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他著	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気が見える vol.10 産科	井上裕美他監修	メディックメディア														
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R 著	医学書院														
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他著	メディカ出版														
評価方法(基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。																
学生へのメッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親(パートナー)、新生児からも学べることも多い実習になるでしょう。																
担当者の研究室等	泉川(研究室15)、井田(研究室12)、西頭(研究室14)、名草(研究室13)、但馬(研究室20)、飯田、永田(共同研究室5)																
備考	実習場所 市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、JCHO大阪病院、八尾市立病院、済生会野江病院等																

科目名	精神看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子・山本 智津子・吉永 愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論Ⅵでの学習をもとに、精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。</li> <li>・受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。</li> <li>・精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として少人数(2～5人)グループを編成し、担当教員の指導を受ける。</li> <li>2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>4. 実習施設のオリエンテーションを受け、施設の機能や看護職をはじめとして専門職の役割を理解する。</li> <li>5. カンファレンスを行い、互いの学びを共有し、次の機会に活かす。</li> </ol>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																			
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、疾病・治療論Ⅵ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護</td> <td>渡邊博幸</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>専門医がやさしく語るはじめての精神医学</td> <td>渡辺雅幸</td> <td>中山書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社	3	専門医がやさしく語るはじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社																
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社																
3	専門医がやさしく語るはじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店																
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	授業で学んだ知識と技術を臨床で生かしてください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本)、共同研究室2(吉永)																		
備考	<p><b>【実習場所】</b> ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター、就労継続支援施設</p>																		

科目名	在宅看護学実習	科目名(英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 富永 真己, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p>&lt;授業概要&gt; 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p>&lt;実習目的&gt; 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の役割と方法を述べることができる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。</li> <li>4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。</li> <li>5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <p>訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。</li> <li>2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。</li> <li>3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。</li> <li>4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実践を見学/体験をする。</li> <li>5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</li> </ol>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	実習要項を参照する。詳細は、実習オリエンテーションで説明する。																		
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱを基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																		
学生へのメッセージ	2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。																		
担当者の研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第2 2研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																		
備考	体調管理に留意すること。																		



科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 青野 美里, 足立 安正, 飯田 恵子, 池田 友美, 泉川 孝子, 井田 歩美, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 今井 秀人, 小川 宣子, 神谷 美紀子, 亀田 直子, 北村 敦子, 小堀 栄子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 富永 真己, 中山 祐一, 長沢 美和子, 名草 みどり, 西頭 知子, 舟木 友美, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 村瀬 由貴, 森谷 利香, 安田 香, 山居 輝美, 山本 智津子, 山本 十三代
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN4070a0		

授業概要・目的	「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究のプロセス(研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表)を実施する。本研究にかかわる看護教員は全員が3年以上の臨床経験を有しており、臨床実践やその基礎となる課題をテーマに研究指導を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。</li> <li>2. 研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。</li> <li>4. テーマに沿った研究への取り組みができる。</li> <li>5. 研究成果を論文にすることができる。</li> <li>6. 研究成果を発表できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(teams、ポータル、掲示)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の指示を受け研究をすすめる。</li> <li>・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。</li> <li>・研究計画書を作成する。</li> <li>・研究計画書に沿って研究を実施する。</li> <li>・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。</li> <li>・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。</li> <li>・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。</li> <li>・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">*事前事後課題としては、テーマに沿って文献検討、結果の分析、論文作成を事前事後で行い、その内容に対して指導を受ける。</p>																		
関連科目	看護研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	担当教員と連絡を取り合い、自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰの後半とⅡは、原則として同じ領域の教員が担当する。																		

科目名	統合看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 青野 美里, 足立 安正, 飯田 恵子, 池田 友美, 泉川 孝子, 井田 歩美, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 今井 秀人, 小川 宣子, 神谷 美紀子, 亀田 直子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 富永 真己, 中山 祐一, 長沢 美和子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子, 舟木 友美, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 村瀬 由貴, 森谷 利香, 安田 香, 山居 輝美, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉永 愛香
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN4072a0		

授業概要・目的	<p>【授業の概要】 自らが関心のある看護専門領域(対象領域;基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、臨地実習を行う。</p> <p>【実習目的】 自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。 実習を担当する全教員が看護職として3年以上の臨床および実践経験を有している。それらの経験を活かし、具体的で実践的な実習指導を行う。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護実践できる。</li> <li>3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。</li> <li>4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。</li> <li>5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。</li> <li>6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 臨地での実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーション(内容・方法)を受ける。</li> <li>2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう。事例に基づきアセスメント、計画立案や実施、評価を行い看護を振り返る。</li> <li>4. チーム医療、看護倫理の視点から自らの看護を振り返り、グループで討議する。</li> <li>3. 実習最終日は、学内において領域別に目標の達成の成果、学びを深める。</li> </ol> <p>【留意事項】 統合実習要綱を熟知し、授業に臨む。 本学で定めた感染予防対策を厳守すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業内容・態度・記録をルーブリック指標等を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等備考	全ての担当教員																

科目名	助産学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	井田 歩美、飯田 恵子、泉川 孝子、但馬 まり子、永田 阿子、名草 みどり、西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN3081a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業的アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p> <p>実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師として6～10年間勤務した経験から、助産診断及び助産技術に関する実践的な教育を行います。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子とその家族のニーズに応じた援助ができる。</li> <li>2. 対象者の意思決定や価値観を尊重し、尊厳と人権を擁護する意識を持ち、行動できる。</li> <li>3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。</li> <li>4. 助産実践の向上のため、常に主体的に学習する態度を養う。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	※詳細は、助産学実習要綱参照																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 泉川(研究室15)、井田(研究室12)、西頭(研究室14)、但馬(研究室20)、名草(研究室13)、飯田、永田(共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 1) 病院：市立ひらかた、大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、近畿大学附属病院、JCHO 大和郡山病院、藤本病院、ベルフラワーククリニック、八尾市立病院</li> <li>2) 助産所：はるか助産院、ゆう助産院、橋本助産院</li> </ol> <p>2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う。</p>																		

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	佐久間 夕美子、今井 秀人、神谷 美紀子、北村 敦子、舟木 友美、山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎、DP4◎、DP5○、DP6◎、DP7◎、DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2032a0		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院において看護師としての実務経験をもち、それらの経験をふまえた実践的な指導を行う。  [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	病院実習および学内実習を行う。 原則として学生配置は1グループ4~6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 9月上旬  2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。  3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○病院実習：対象者とのコミュニケーションから、健康状態、療養生活とその思いについて知る。 看護師またはその他専門職者が実施するケアを見学し、ケアの実際と対象者の反応を知る。  4. 学内実習他 ○疾患をもつ患者の思いについて考え、討議する。 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。  ※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容を変更することもある。																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護学生として初めての实習です。看護学生としての心構えや態度をしっかりと学び、体調を整えて実習に臨みましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)、研究室2 (神谷)、研究室3 (山居)、共同研究室1 (北村、舟木)、共同研究室3 (今井)																
備考	実習病院：星ヶ丘医療センター																

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	佐久間 夕美子、今井 秀人、神谷 美紀子、北村 敦子、舟木 友美、山居 輝美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2033a0		

授業概要・目的	<p>[実習目的] 看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p> <p>[概要] 病院で療養生活を送る対象者を受け持ち、既習の知識・看護技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。 具体的には、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い、全体像を把握する。情報収集の枠組みでは、ヘンダーソンの14の項目で情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出する。対象者の日常生活の援助に焦点をあて、必要な援助を明確にしたうえで、看護計画を立案してケアを実施する。実施したケアについて考察を行う。また、日々立案した日常生活上のケアの計画について実践・振り返り・修正を行う。これらの実践過程を通して、看護職者として不可欠な自己の看護観、倫理感について考えを深め、ふさわしい態度を身に付ける。科目責任者および担当者は大学病院及び総合病院において看護師としての実務経験を持ち、それらの経験をふまえた実践的な指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。 (1) 対象者とコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。 (2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活等を把握するために必要な情報を、記録やフィジカルイグザミネーション、問診やインタビュー、看護の場面への参加を通して収集することができる。</li> <li>2) 対象者について、気づいたことに着目して情報を集め、日常生活上のケアの計画を立案することができる。</li> <li>3) 立案した日々のケアの計画を、教員、指導者の指導のもと、実施することができる。</li> <li>4) 実施した日々のケアの計画について考察を行うことができる。</li> <li>5) 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の状態を把握することができる。</li> <li>6) 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。</li> <li>7) 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 (1) 対象者の尊厳と権利を尊重し、プライバシーの保護を行うことができる。 (2) 自ら学ぶ態度で情報を求め、注意事項を守り、積極的に実習することができる。 (3) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行うことができる。 (4) グループのリーダーまたはメンバーとしての役割を果たし、協力しあうことができる。 (5) 看護師・担当教員からの助言を適切に受け止め、実習に生かすことができる。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員および臨地実習指導者の指導を受ける。</li> <li>2. 実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。</li> <li>5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。</li> <li>6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者の全体像を把握し日々の中で必要な看護を立案し実践・評価する。</li> <li>7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。</li> <li>8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。</li> <li>9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。</li> <li>10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。</li> <li>11. 感染状況に応じて、ICTツールを活用した遠隔実習や学内実習も適宜取り入れる。</li> </ol>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。</li> <li>2. 病院実習 1月～3月に、以下の内容で2週間の実習を行う。 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報をヘンダーソンの14の項目に沿って整理・分析し、対象者の看護問題を抽出する。 4) 抽出した看護問題から患者に必要な日常生活援助を導き出す。 5) 得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。 6) 日々の看護目標を達成するためのケアの計画を立案する。 7) 対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した看護計画および日々のケアの計画を、教員・臨地実習指導者の指導の下で実施する。 9) 看護計画および実施したケアについて、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。 17) 看護職に必要な態度について看護職者の倫理綱領などに照らし合わせて自己の考えをまとめる。</li> </ol> <p>※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容および授業方法を変更することもある。</p>			
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。          記録は最終的に提出された記録内容の評価だけではなく、日々の記録の記載状況等も評価の対象とする。          原則、実習期間は全日休まず実習に参加していることとする。          ※原則上記を予定しているが、感染状況により評価方法が変更となることもある。</p>			
学生への メッセージ	<p>初めて患者さんを受け持つ病院実習です。看護者として疾患をもつ対象者への関わりを通して、病態をふくめた個性やその思い、必要な支援は何かについて考え、看護を実践できるようになりましょう。この実習で学んだこと、感じたことは、専門職者として大切な基盤の部分になると思います。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、研究室3(山居)、共同研究室1(北村、舟木)、共同研究室3(今井)			
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院、関西電力病院			

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2044a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 地域で暮らすさまざまな健康レベルにある高齢者との関わりを通して、理解を深める。</p> <p><b>【目的】</b> 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の身体的特徴を理解できる。</li> <li>2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。</li> <li>3. 高齢者の地域での生活状況を理解できる。</li> <li>4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。</li> <li>5. 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションで詳細を指示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、高齢者の特徴を事前に学習する。</li> </ol> <p><b>【実習計画】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>1 日目</td> <td>学内</td> <td>学内オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2 日目</td> <td>地域</td> <td>地域と的高齢者とのかかわり</td> </tr> <tr> <td>3 日目</td> <td>地域</td> <td>地域と的高齢者とのかかわり</td> </tr> <tr> <td>4 日目</td> <td>学内</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>5 日目</td> <td>学内</td> <td>グループワーク・発表・個人面談</td> </tr> </table> <p>*状況によって日程や内容が変更になる可能性がある</p> <p><b>【事後の計画】</b> 学習の振り返りを通じて、自己の看護観、高齢者観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>			1 日目	学内	学内オリエンテーション	2 日目	地域	地域と的高齢者とのかかわり	3 日目	地域	地域と的高齢者とのかかわり	4 日目	学内	グループワーク	5 日目	学内	グループワーク・発表・個人面談	
1 日目	学内	学内オリエンテーション																	
2 日目	地域	地域と的高齢者とのかかわり																	
3 日目	地域	地域と的高齢者とのかかわり																	
4 日目	学内	グループワーク																	
5 日目	学内	グループワーク・発表・個人面談																	
関連科目	老年看護学概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価します。																		
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。																		
担当者の研究室等	松田 (7号館3階 研究室6) 小川 (7号館3階 研究室10) 村瀬 (7号館3階 研究室4) 田中 (7号館3階 共同研究室2)																		
備考																			

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング	NDN2045a0		

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。</p> <p><b>【目的】</b> 施設で生活する高齢者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体・心理および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。</li> <li>2. 高齢者の個別性に応じた日常生活援助が実施できる。</li> <li>3. 介護保険施設の特徴を踏まえ、看護師の役割について理解できる。</li> <li>4. 看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を掲示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。</li> <li>2) 事前の情報をもとに、介護老人保健施設、高齢者の特徴を事前に学習する。</li> </ol> <p><b>【実習計画】</b></p> <p>1日目 実習施設 (デイケア、デイサービス) 2日目 実習施設 (フロア) 3日目 学内 VR認知症体験 4日目 学内 グループワーク 5日目 学内 グループワーク・発表・個人面談</p> <p>*状況によって日程、内容が変更になります。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 認知症高齢者等についての学習を追加する</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰで学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	松田 (7号館3階 研究室6) 小川 (7号館3階 研究室10) 村瀬 (7号館3階 研究室4) 田中 (7号館3階 共同研究室2)																
備考																	